

柏崎刈羽原子力発電所における津波評価について

【補足説明資料 2/2】

平成 29年 4月 18日

東京電力ホールディングス株式会社

目次（補足説明資料 1/2）

1. 全体概要に関する補足	1. 1 既往評価（中越沖地震後の耐震安全性評価）の概要	4
	1. 2 防潮堤，貯留堰の構造	12
2. 文献調査に関する補足	2. 1 最新の潮位データの整理	21
3. 地震による津波に関する補足	3. 1 地震に伴う地殻変動の考慮	23
	3. 2 地殻変動量算定結果	29
	3. 3 波源設定に関する補足	32
	3. 4 日本海東縁部の地震による津波に関する補足	46
	3. 5 地震による防波堤損傷を考慮した評価	50
	3. 6 空間格子間隔の妥当性について	57
4. 地震以外の要因に関する津波に関する補足	4. 1 海底地すべりに関する文献調査	60
	4. 2 海底地すべりに関する海上音波探査記録の参照	66
	4. 3 海底地すべり地形の設定の検討	84
	4. 4 海底地すべりシミュレーションにおける伝播状況	88
	4. 5 陸上地すべりによる津波の影響検討	125
	4. 6 陸上地すべりによる津波に関する補足	132
	4. 7 陸上地すべりシミュレーションにおける伝播状況	143
	4. 8 陸上地すべりシミュレーション手法に関する補足	170
	4. 9 佐渡島の地すべり地形における現地調査結果	174

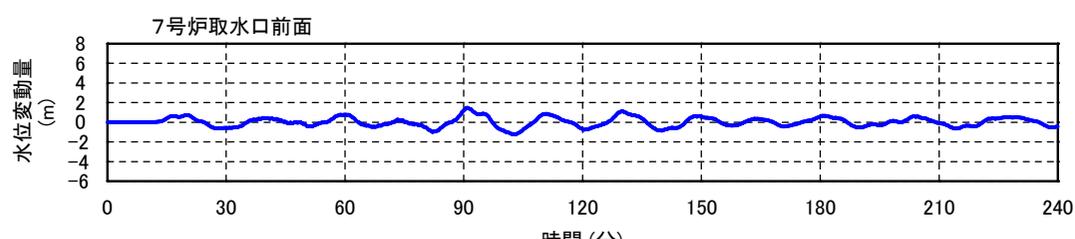
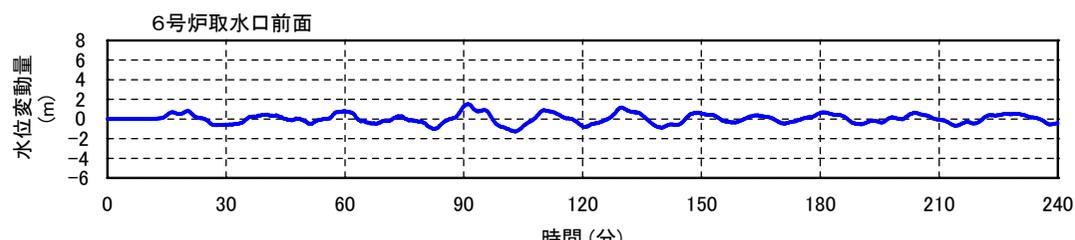
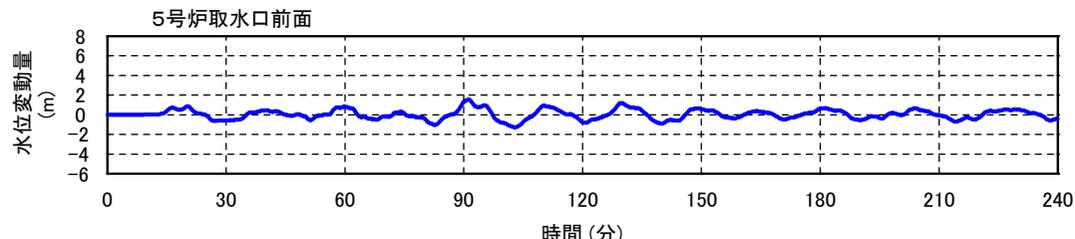
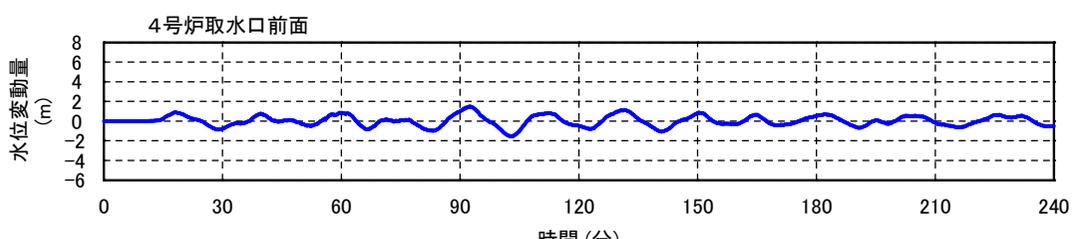
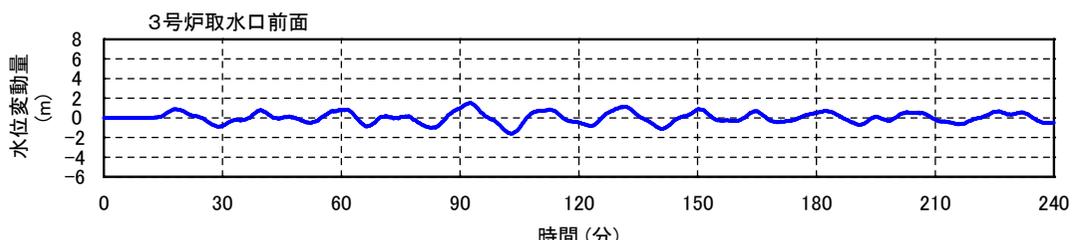
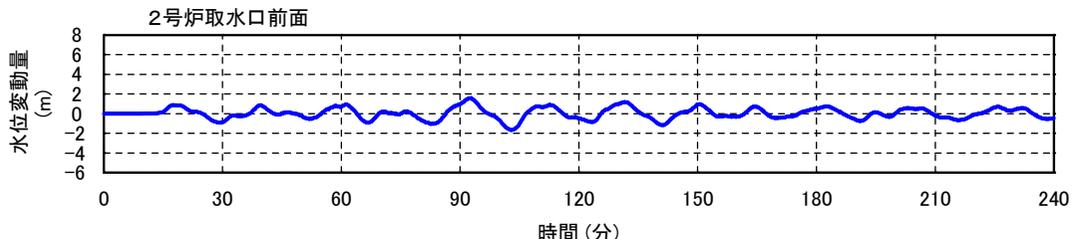
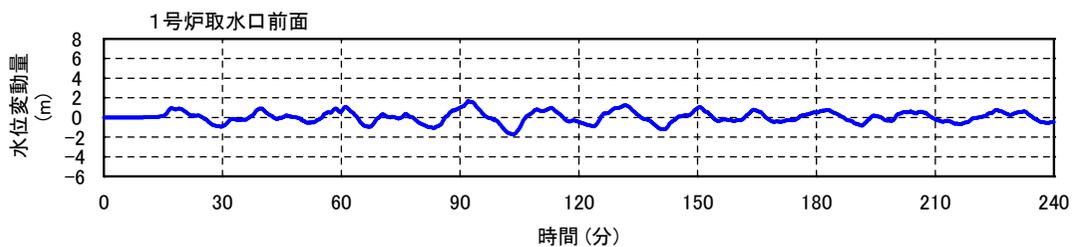
目次（補足説明資料 2/2）

5. 地震による津波と海底地すべり による津波の組合せに関する補足	5. 1 数値シミュレーション結果の時刻歴波形（資料集）	182
	5. 2 組合せ時の時刻の検討について	220
6. 津波の伝播特性について	6. 1 津波の伝播特性について	223
7. 津波堆積物に関する補足	7. 1 津波堆積物調査（資料集）	229
	7. 2 津波堆積物調査に関する補足	260
8. 行政機関による津波評価に関する補足	8. 1 行政機関による津波評価（資料集）	265
9. 津波による海底地形変化に関する補足	9. 1 高橋ほか（1999）の手法における 飽和浮遊砂濃度の影響評価について	271
	9. 2 港湾内の砂堆積に関する取水への影響について	276
	9. 3 堆積侵食分布図（資料集）	278
	9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）	283
	9. 5 砂移動評価における最大堆積分布図	300
10. 基準津波による安全性評価	10. 1 取水路水位変動評価に関する補足	303
11. 超過確率の参照	11. 1 想定D断層について	311
12. 荒浜側防潮堤の損傷を考慮した場合 の津波評価	12. 1 検討概要	314
	12. 2 荒浜側防潮堤の損傷を考慮したことによる 基準津波評価への影響について	316
	12. 3 まとめ（基準津波の設定）	357

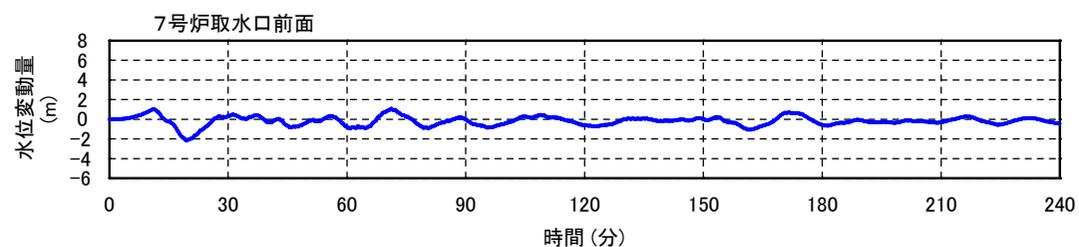
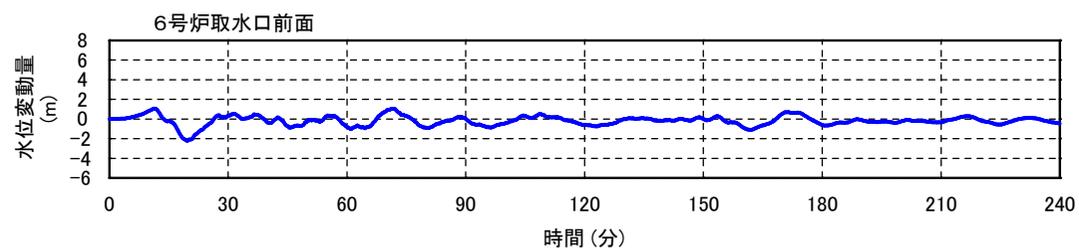
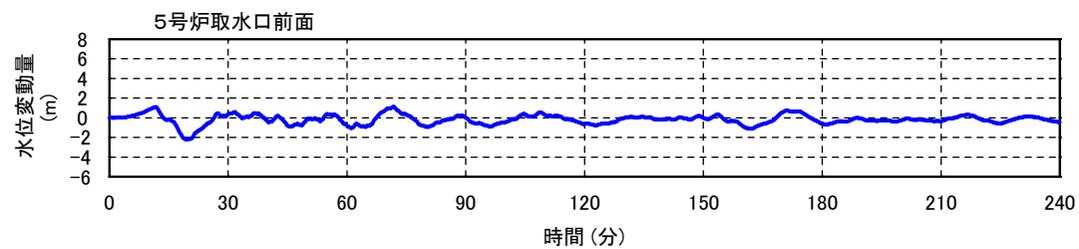
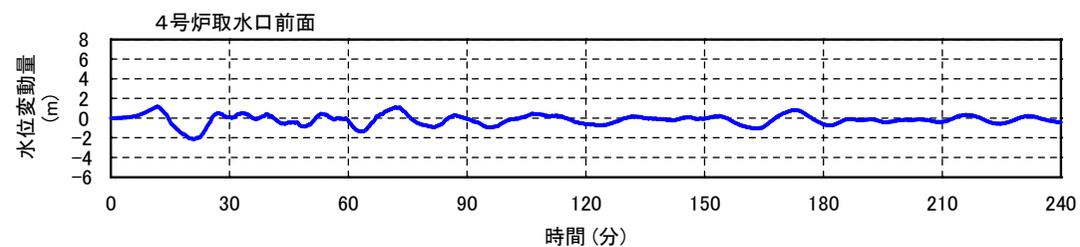
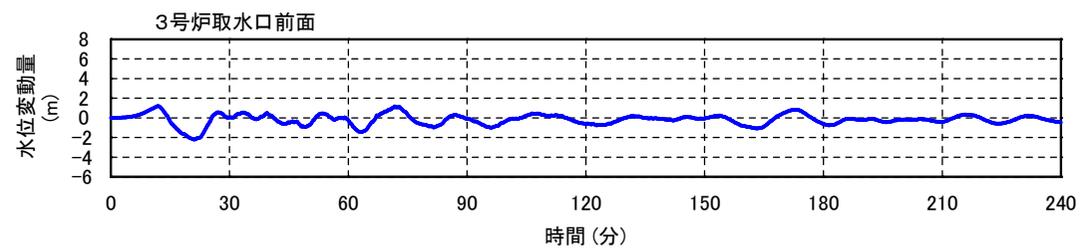
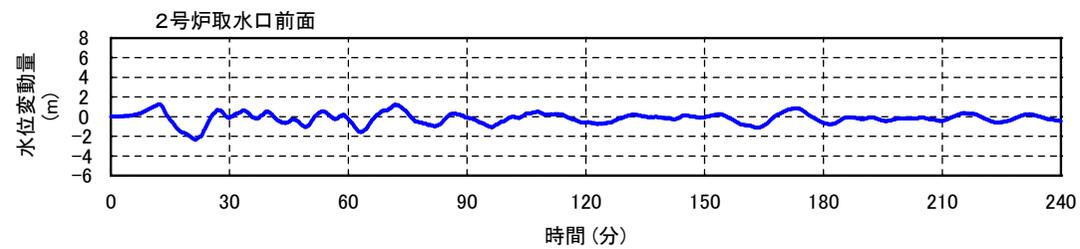
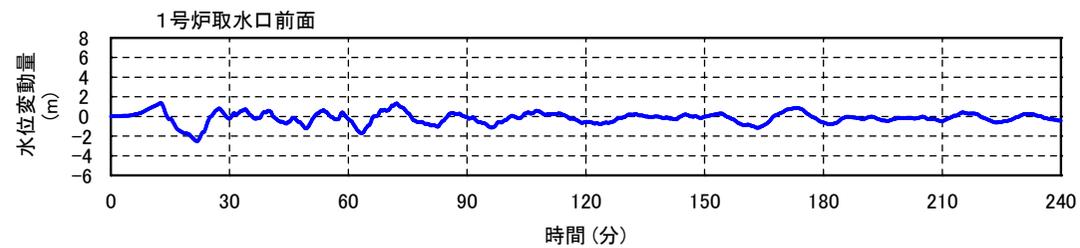
5. 1 数値シミュレーション結果の時刻歴波形（資料集）

計算開始潮位：平均潮位T.M.S.L.+0.26m

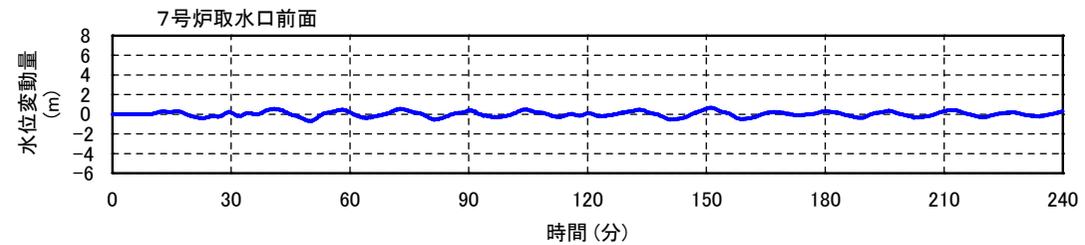
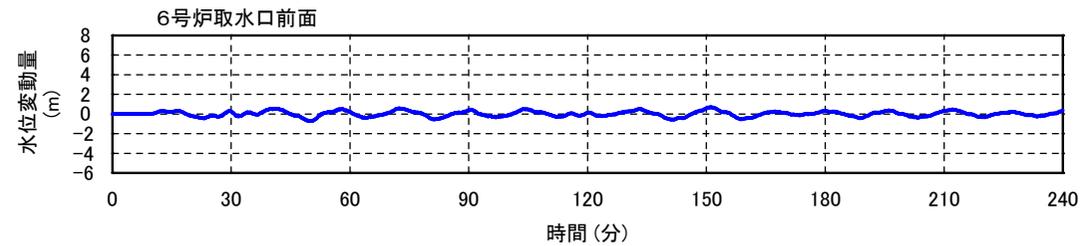
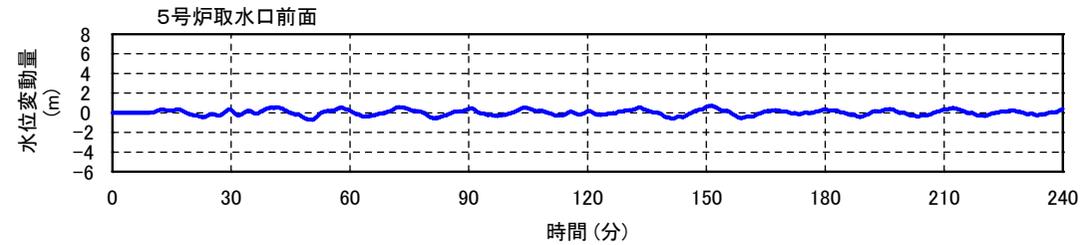
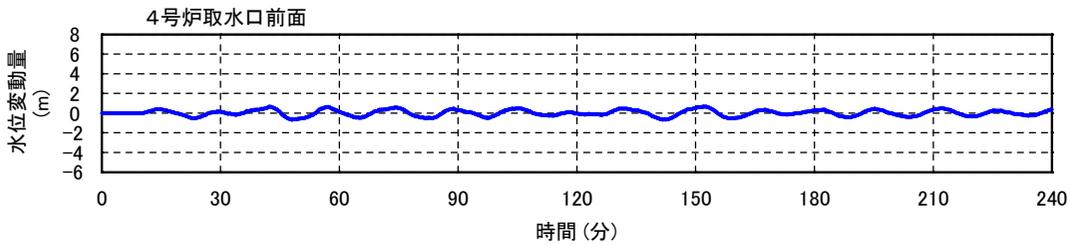
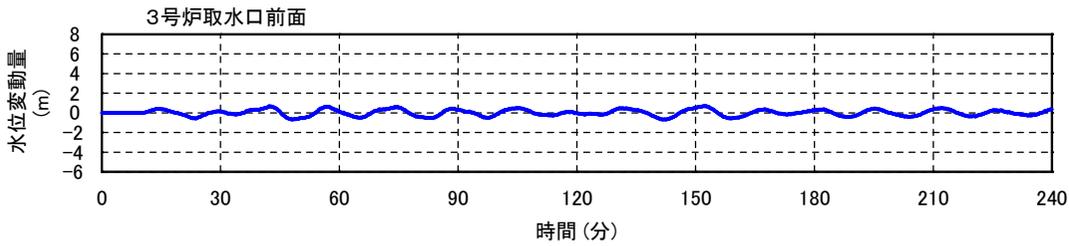
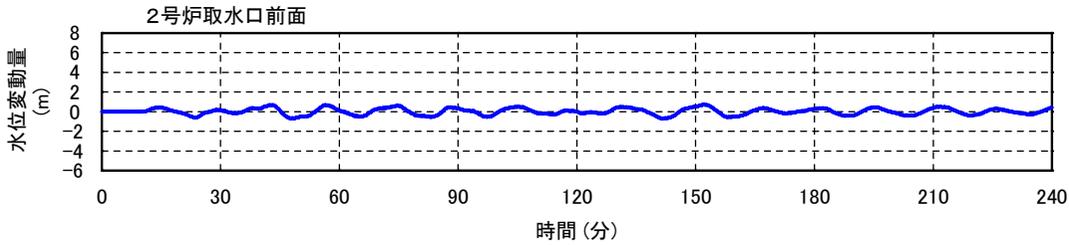
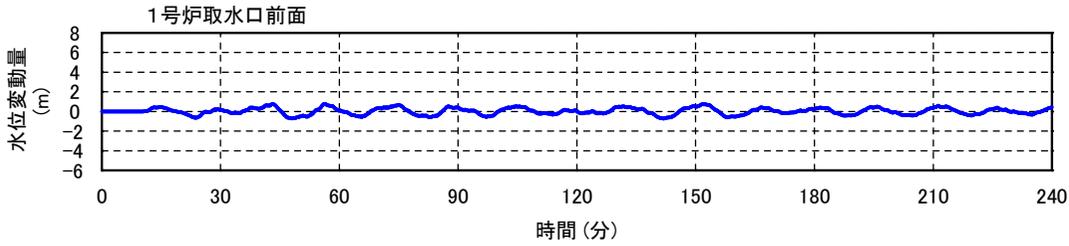
5. 1 F-D断層～高田沖断層（土木学会手法）



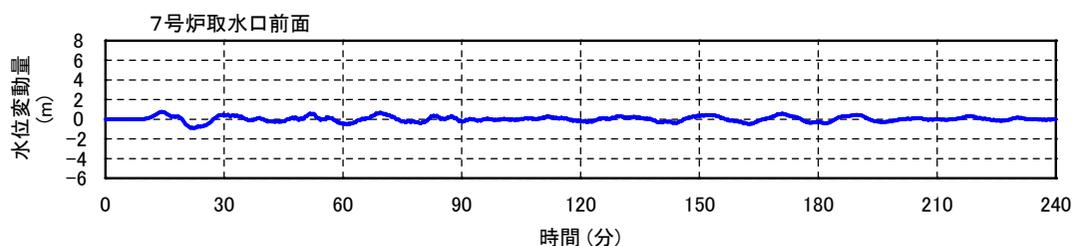
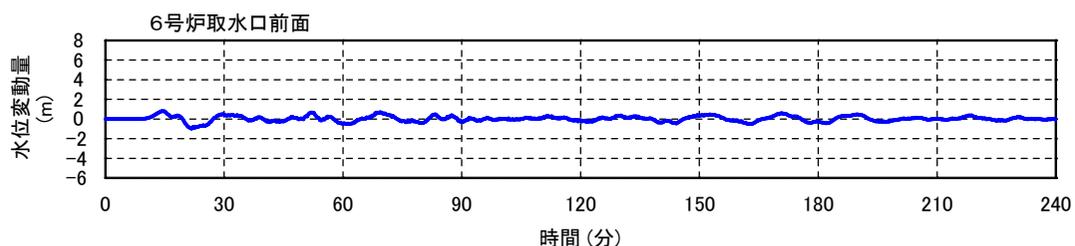
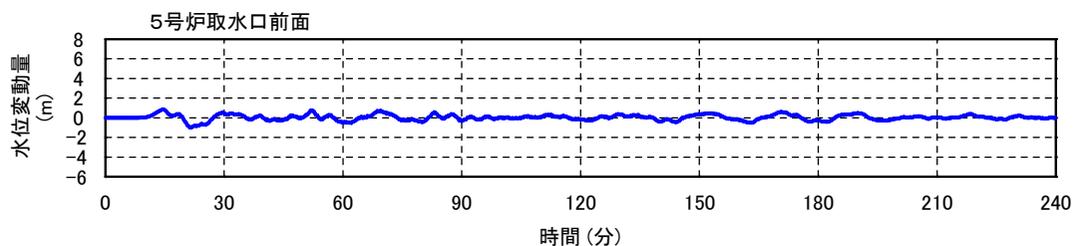
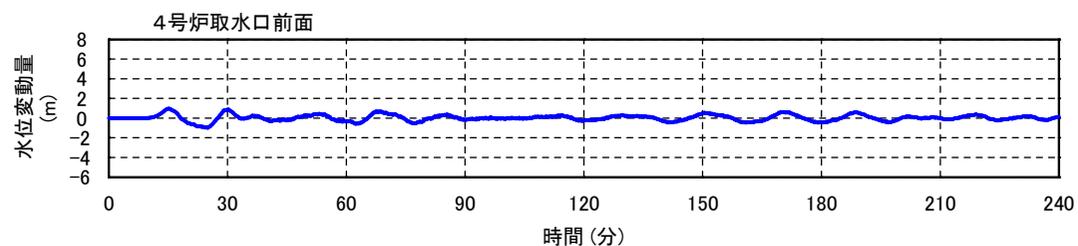
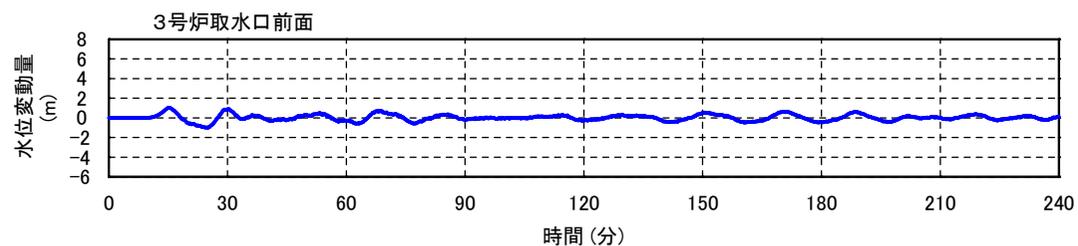
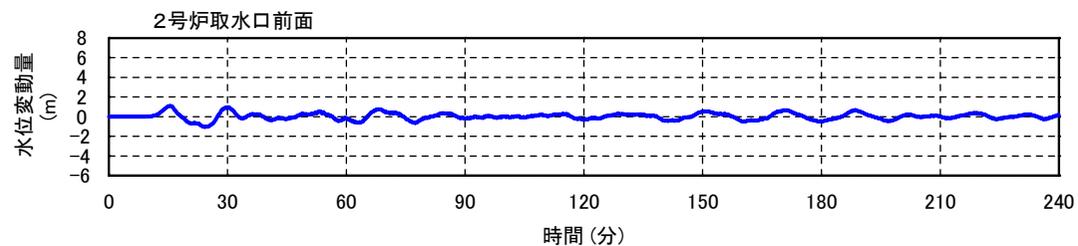
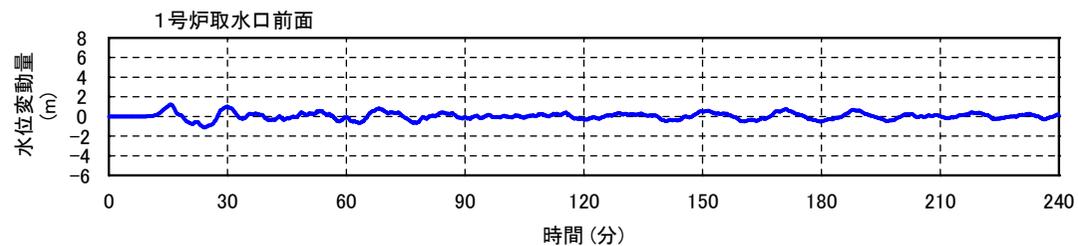
5. 1 F-B断層（土木学会手法）



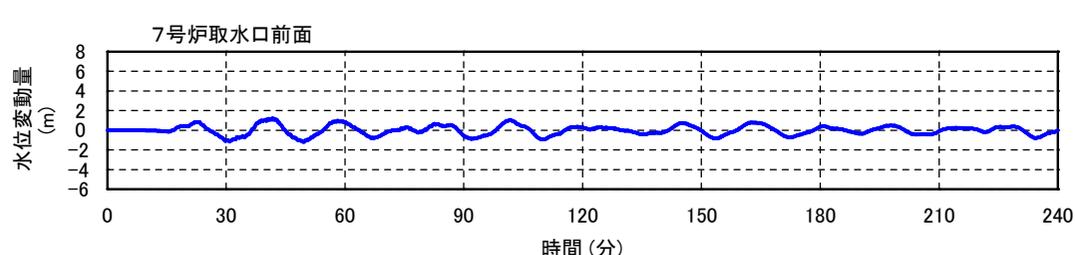
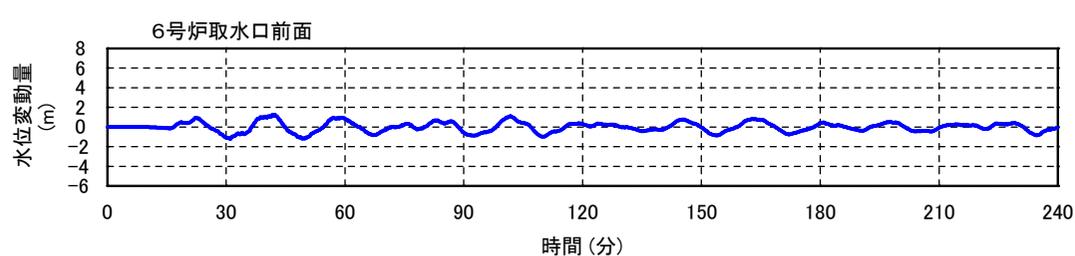
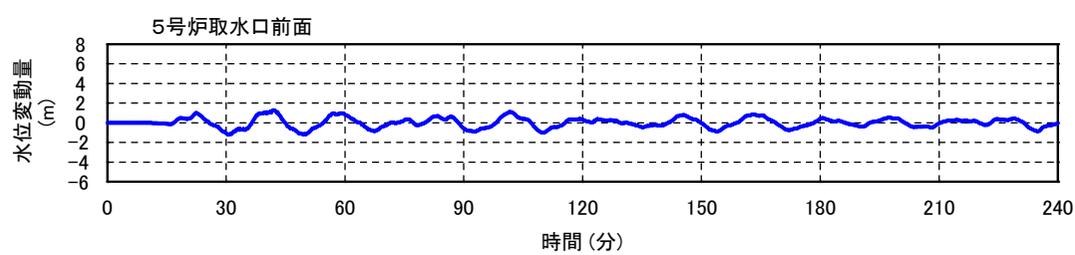
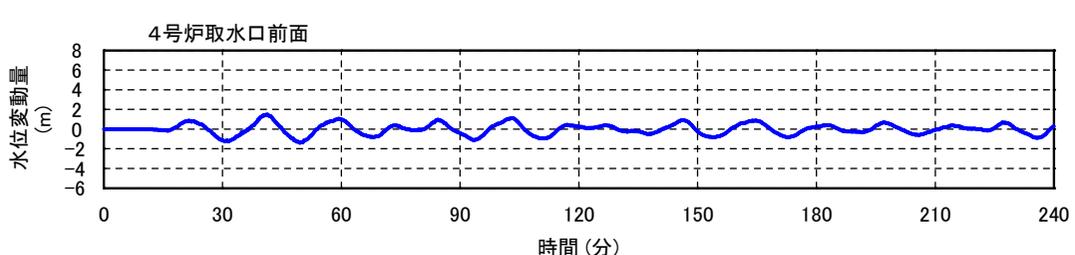
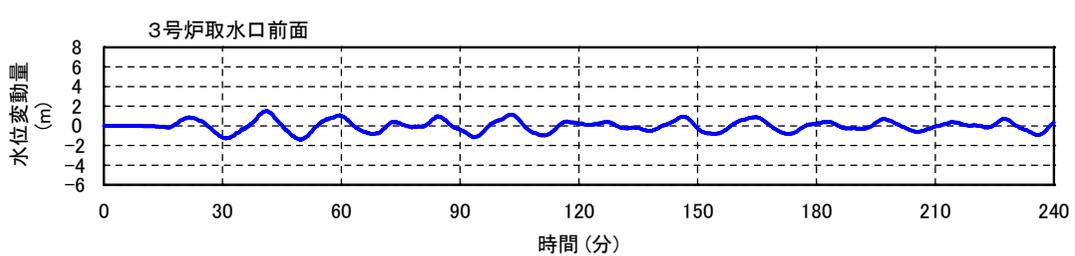
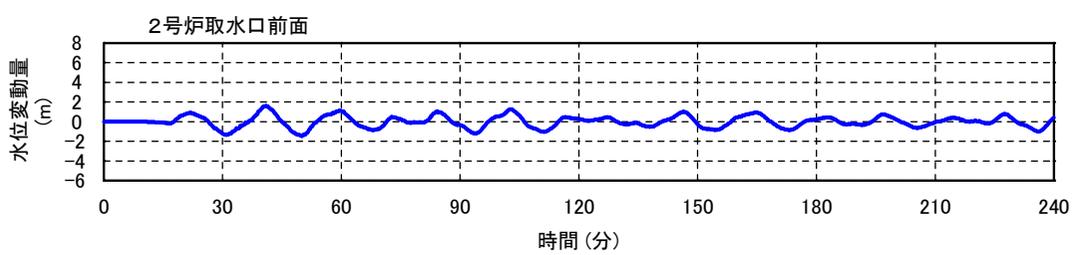
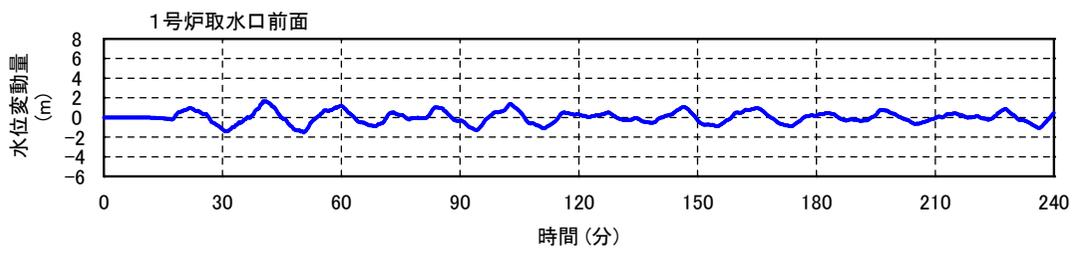
5. 1 米山沖断層（土木学会手法）



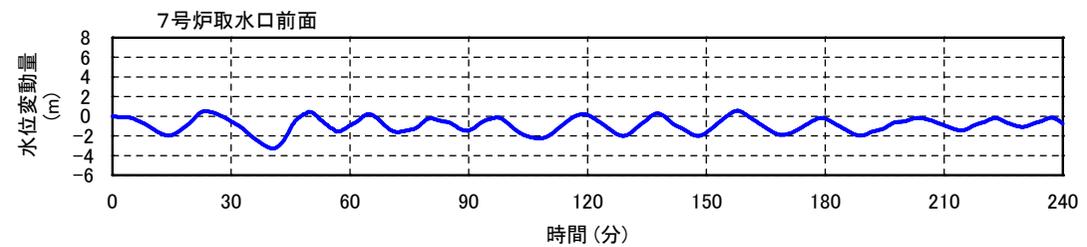
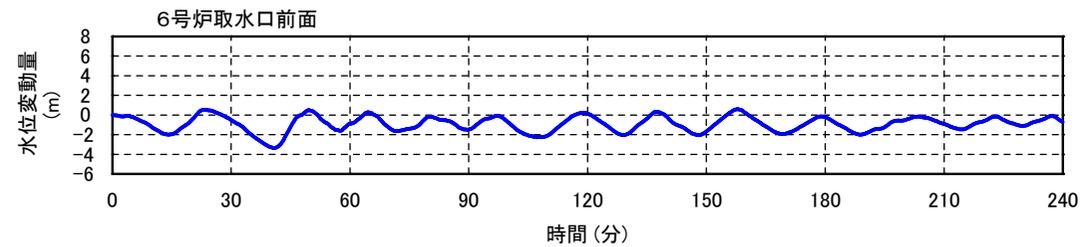
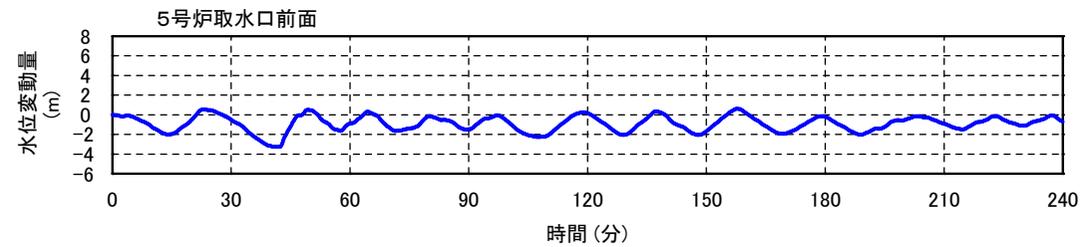
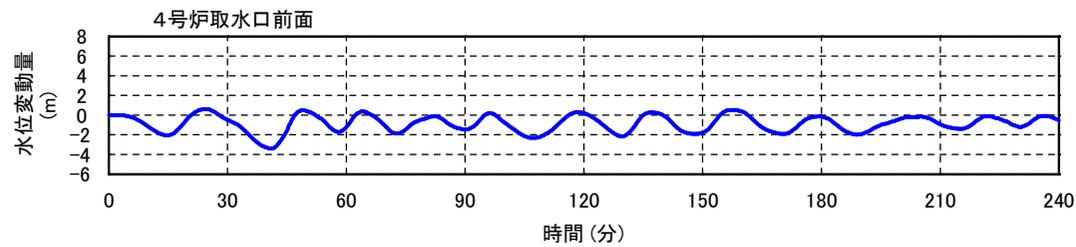
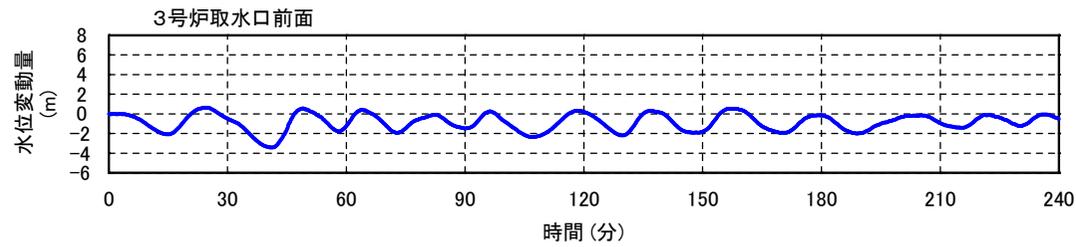
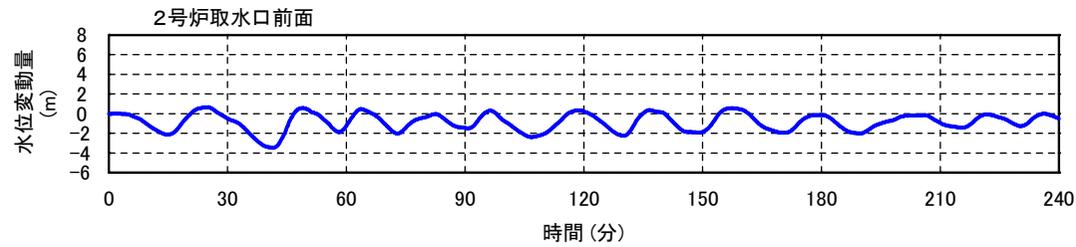
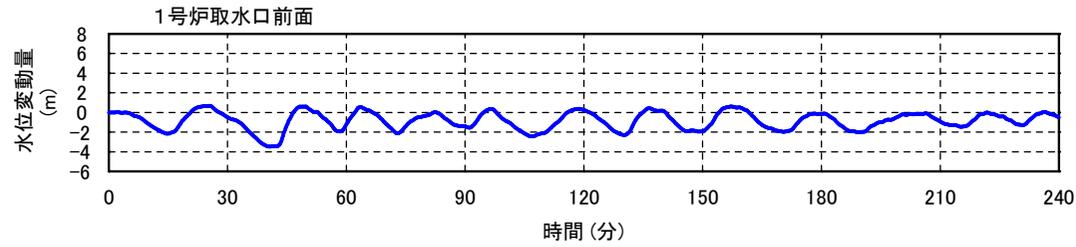
5. 1 佐渡島南方断層（土木学会手法）



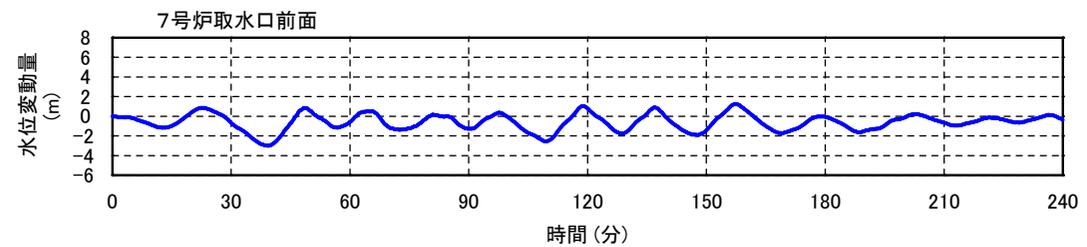
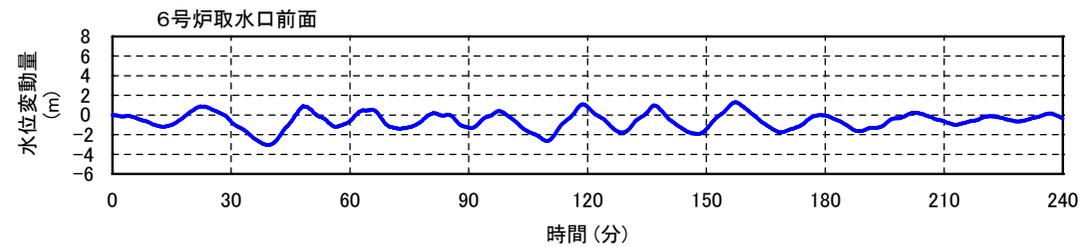
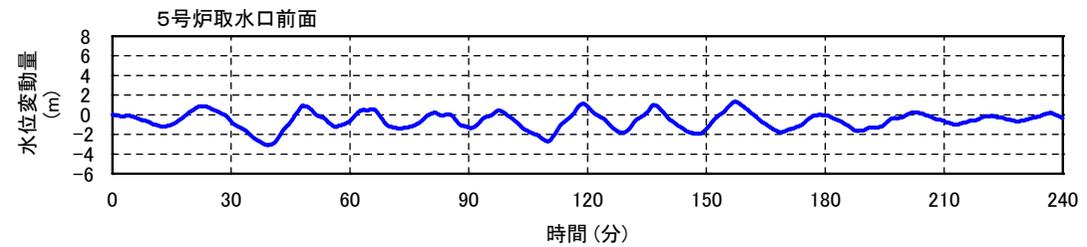
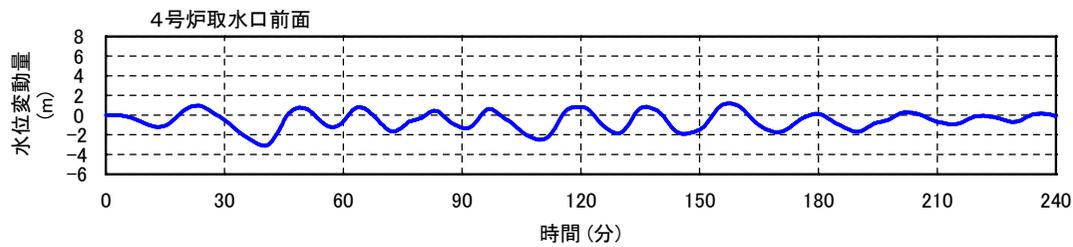
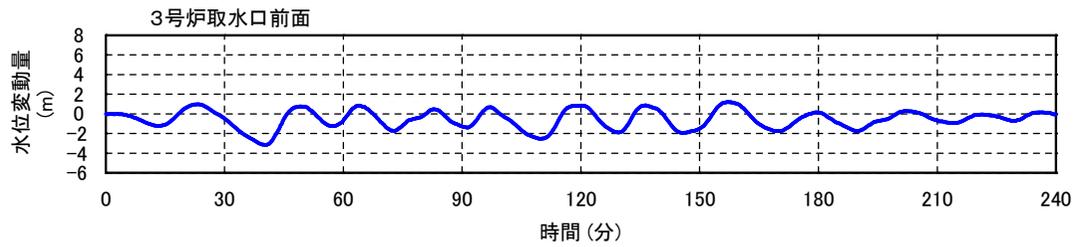
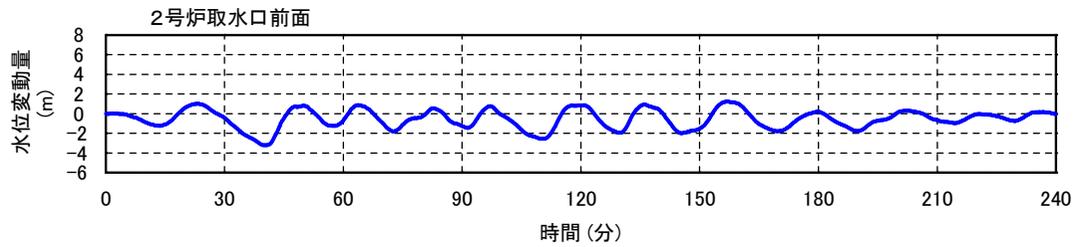
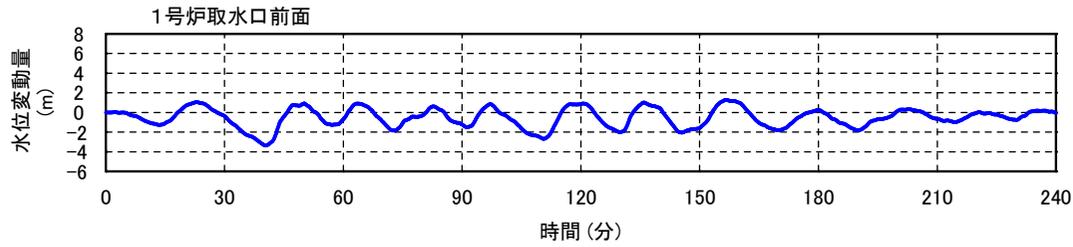
5. 1 佐渡島棚東縁断層（土木学会手法）



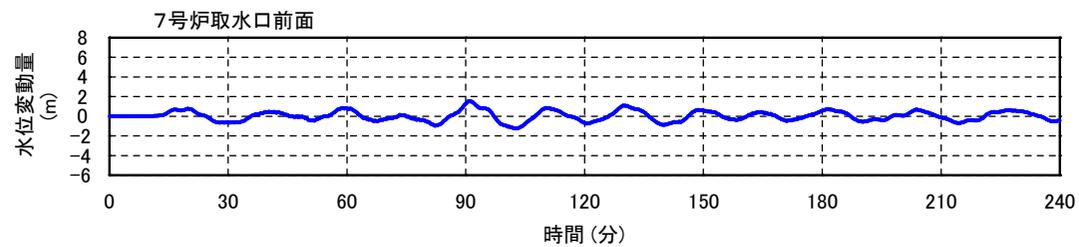
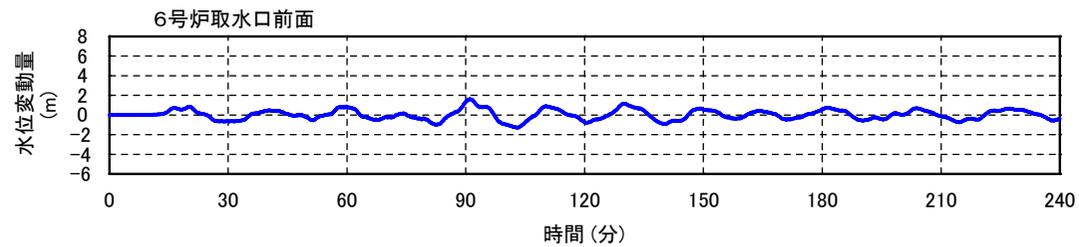
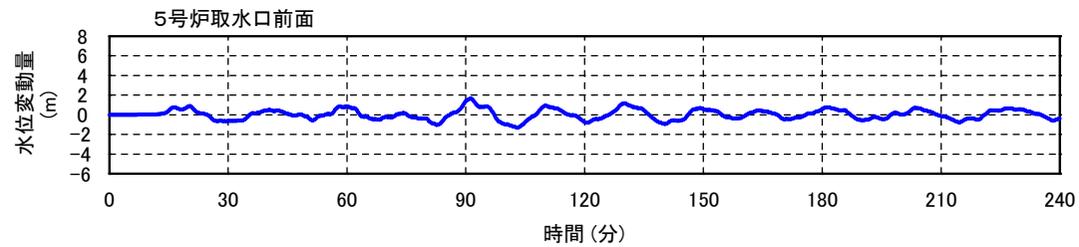
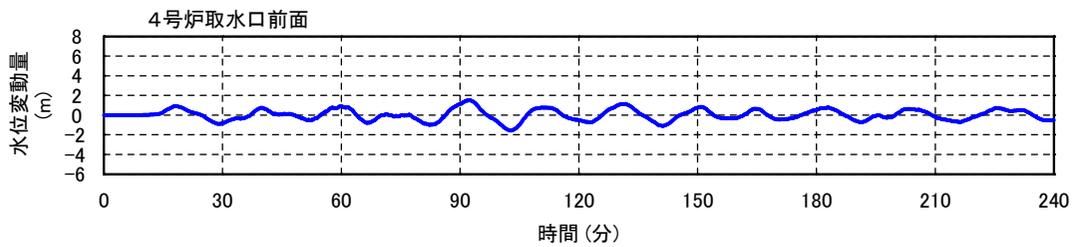
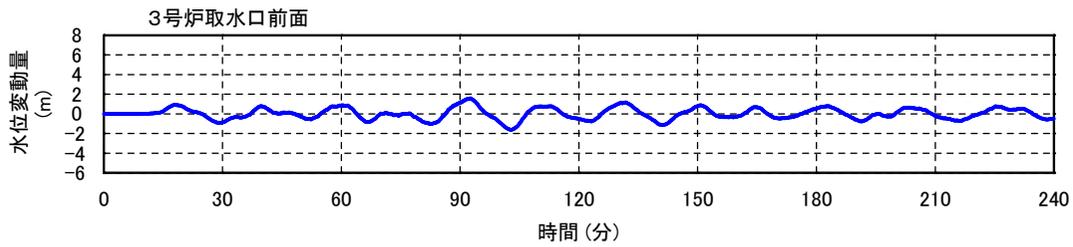
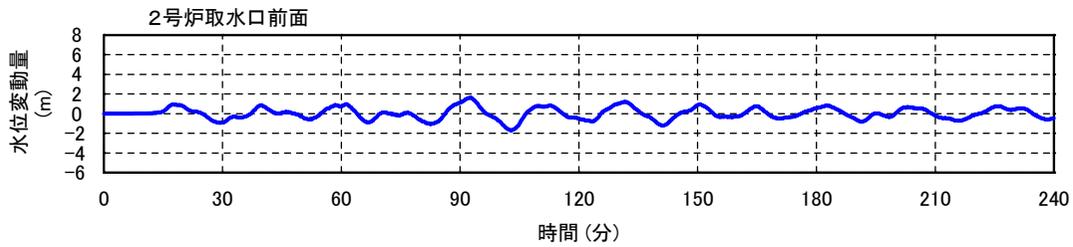
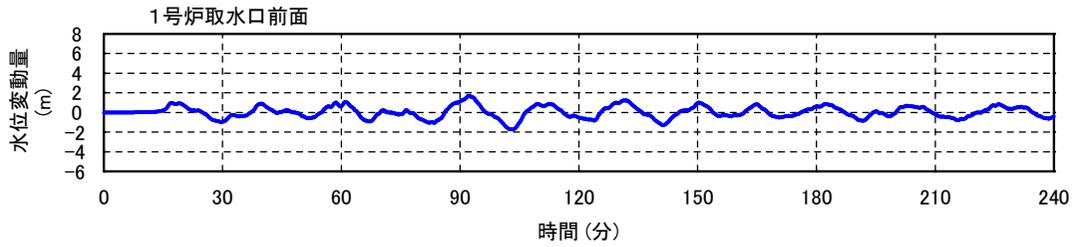
5. 1 長岡平野西縁断層帯($\delta = 35^\circ$) (土木学会手法)



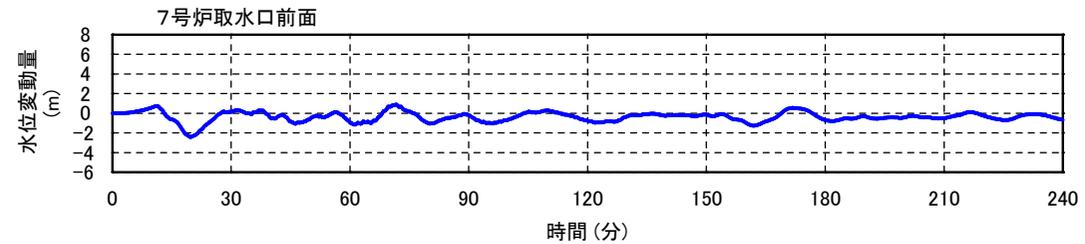
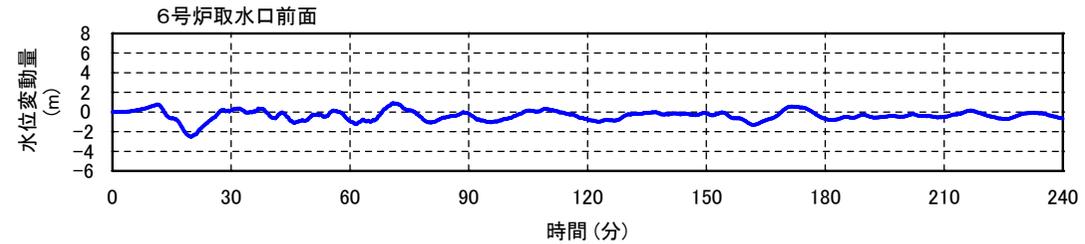
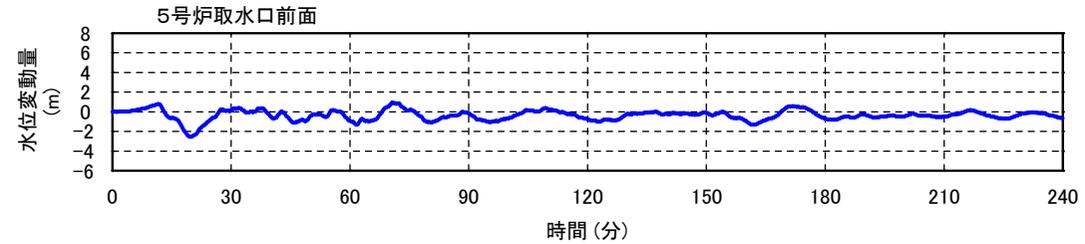
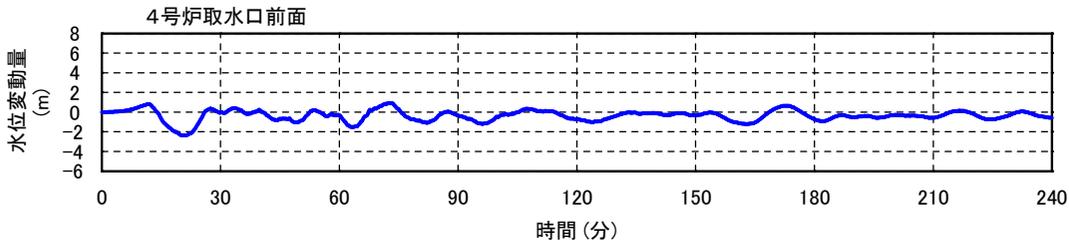
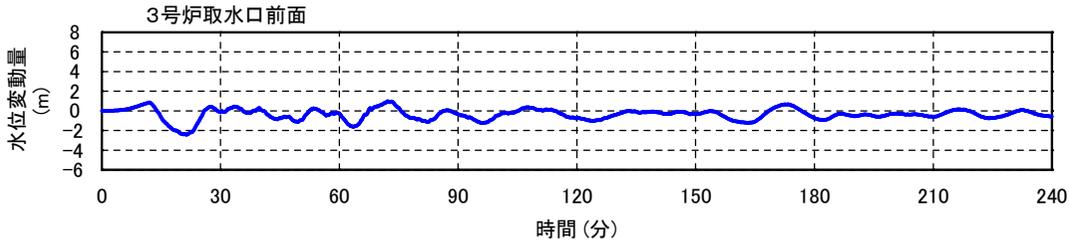
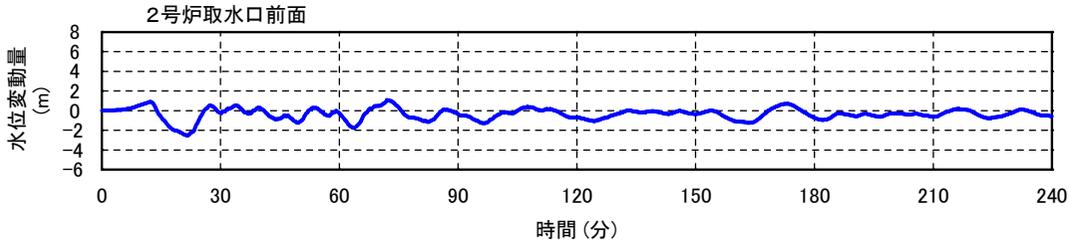
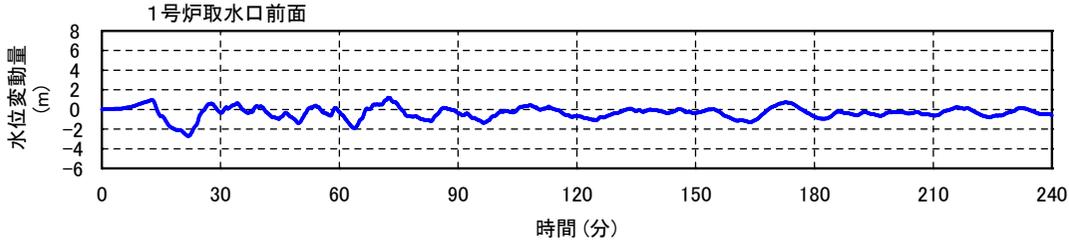
5. 1 長岡平野西縁断層帯($\delta = 50^\circ$) (土木学会手法)



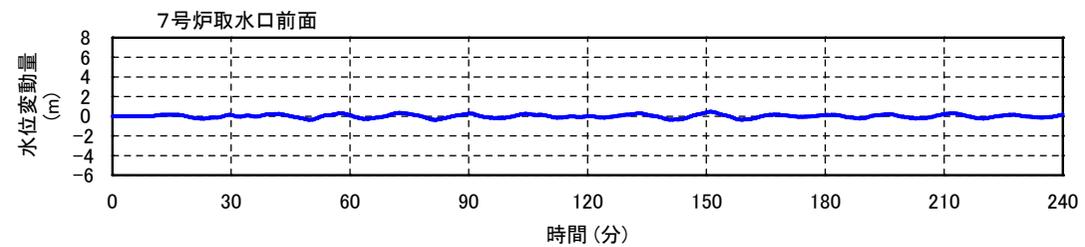
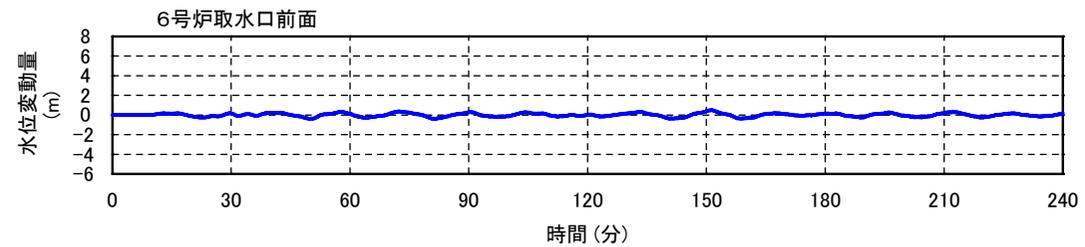
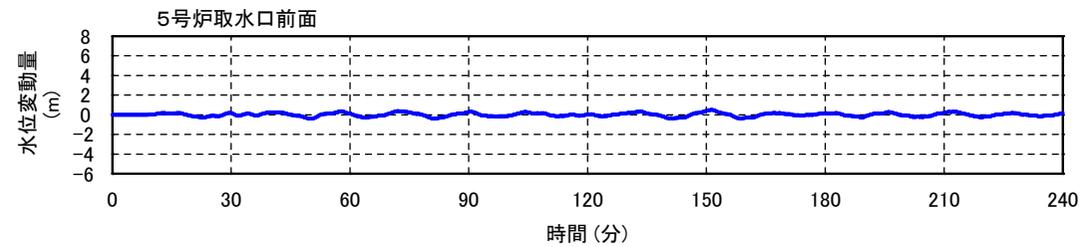
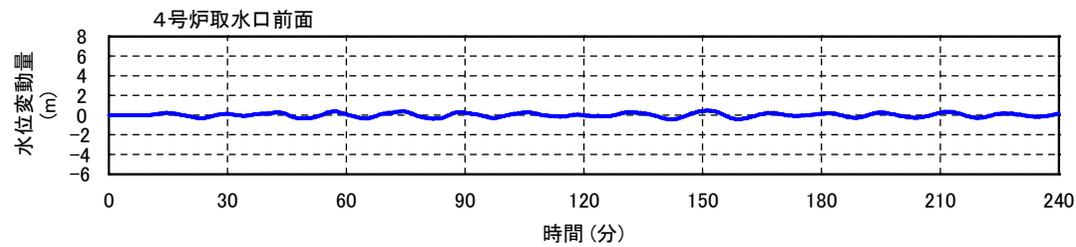
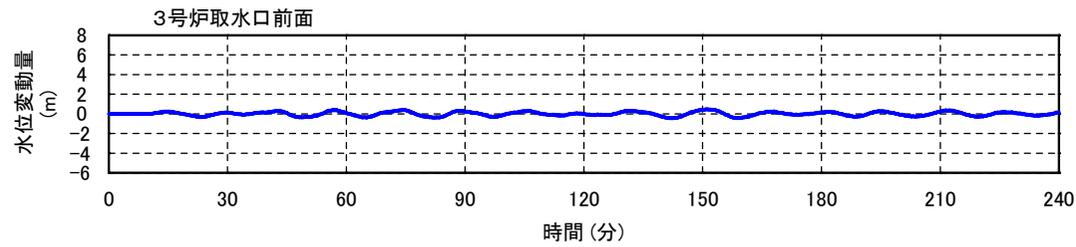
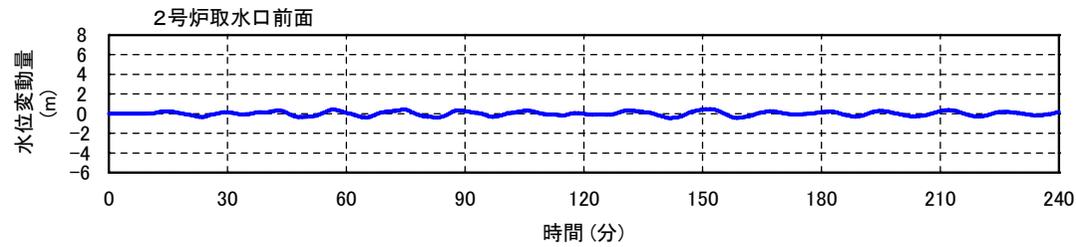
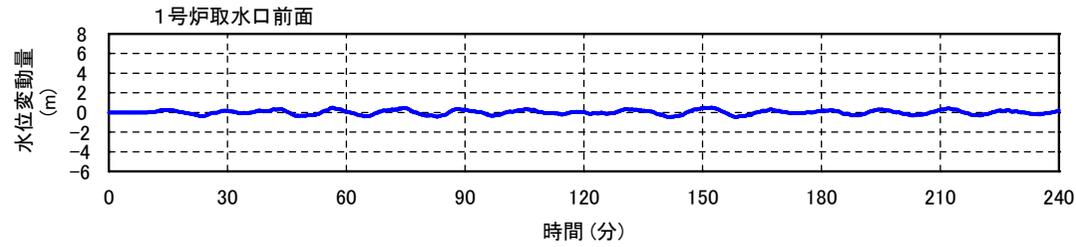
5. 1 F-D断層～高田沖断層（強震動予測レシピ）



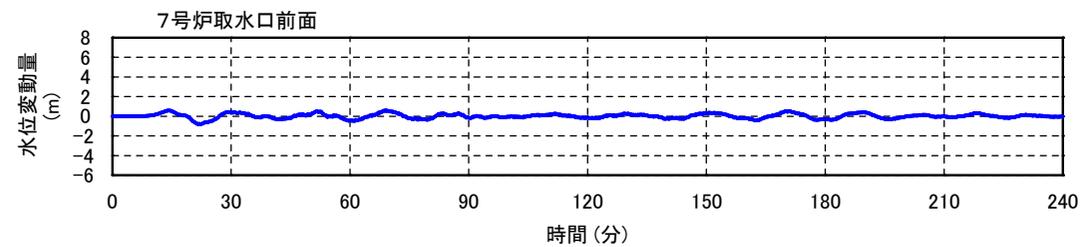
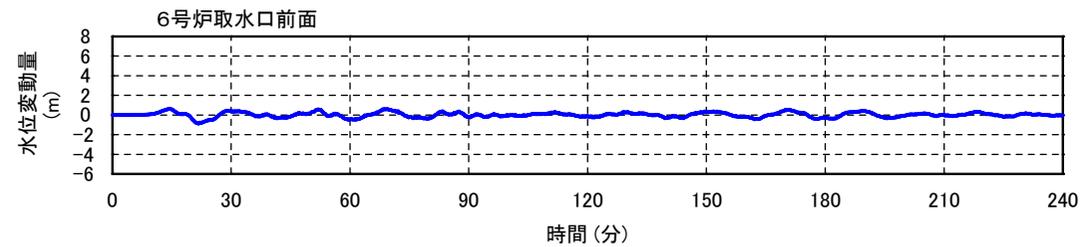
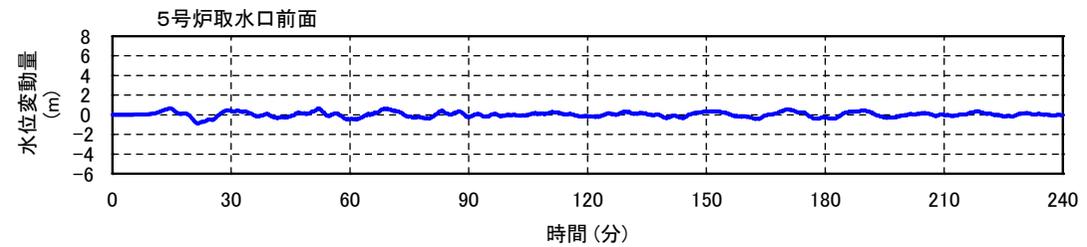
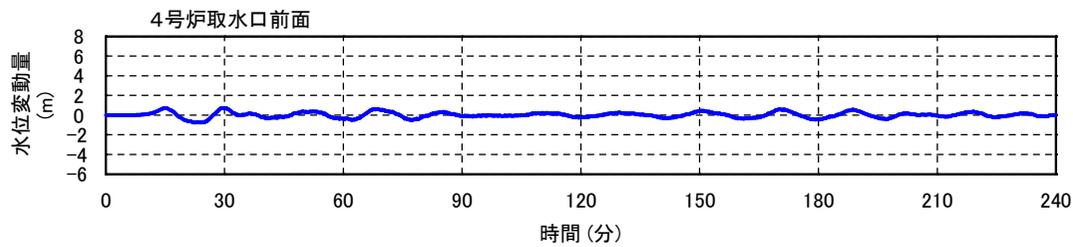
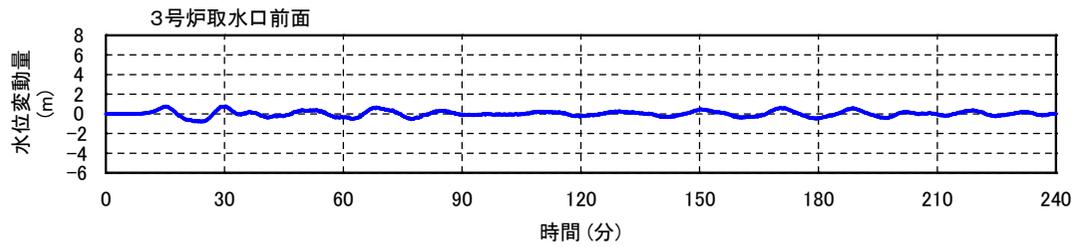
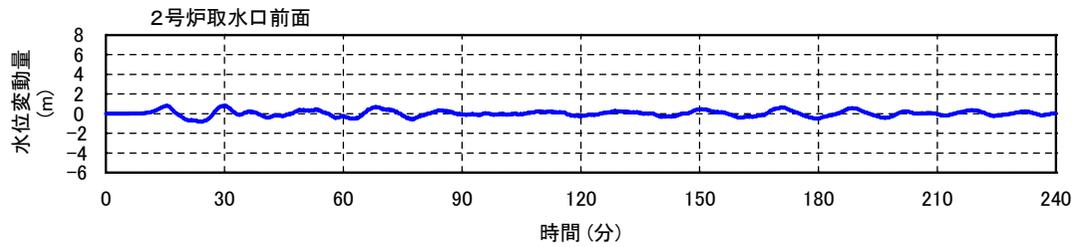
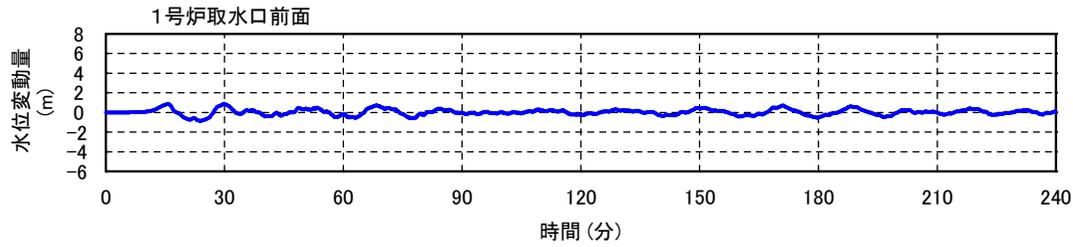
5. 1 F-B断層（強震動予測レシピ）



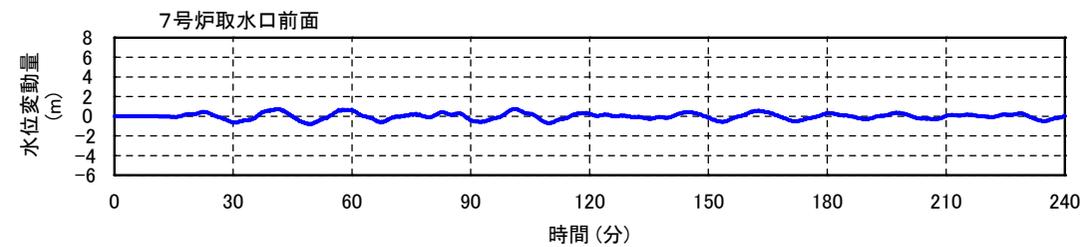
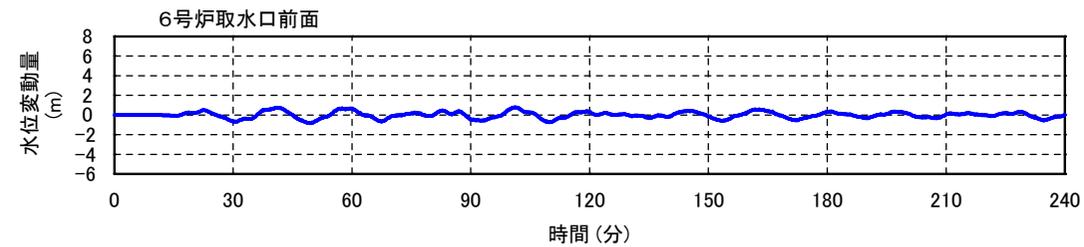
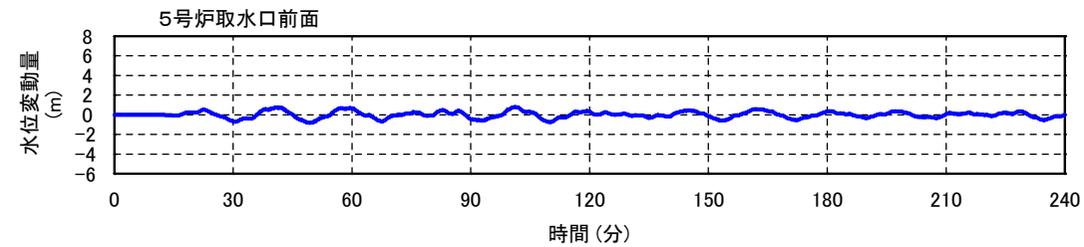
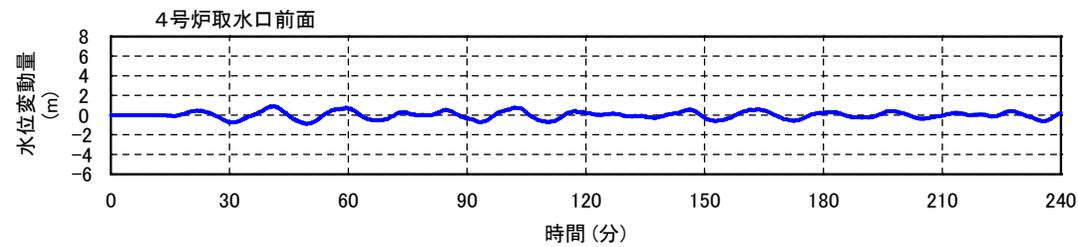
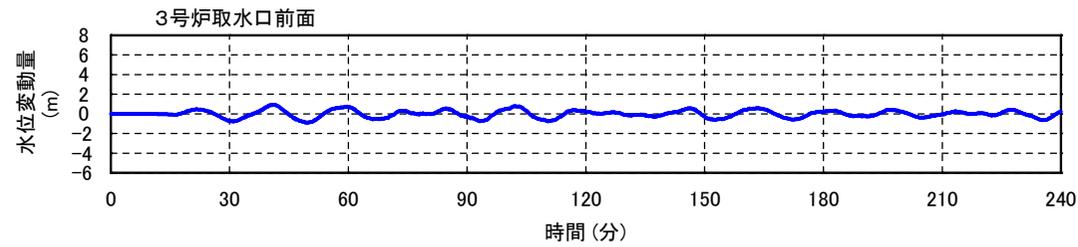
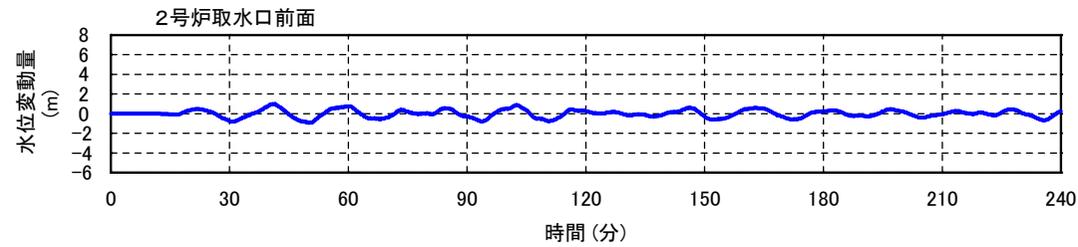
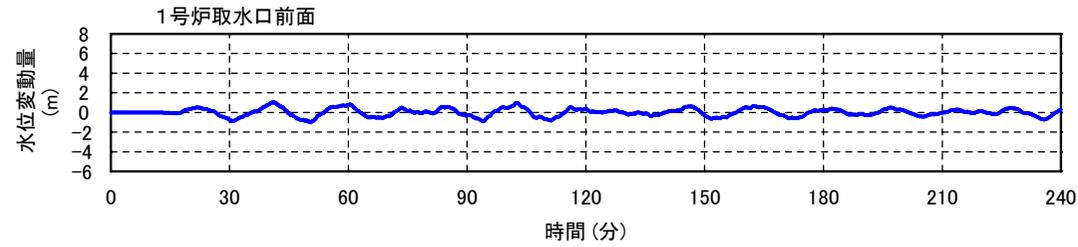
5. 1 米山沖断層（強震動予測レシピ）



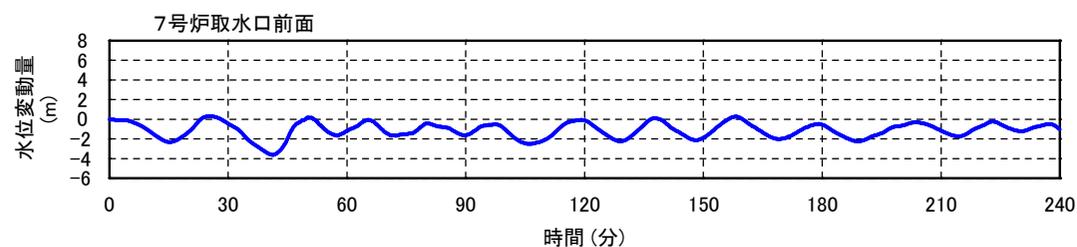
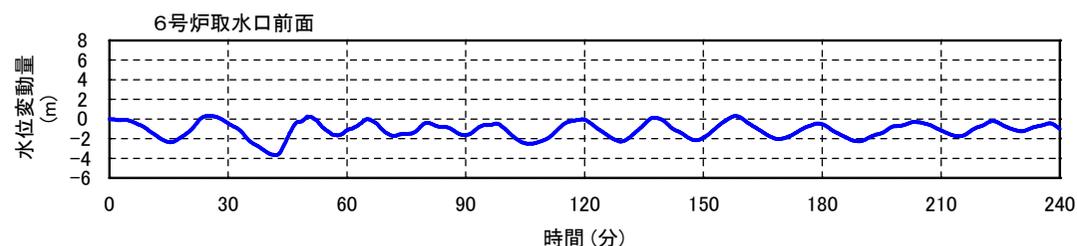
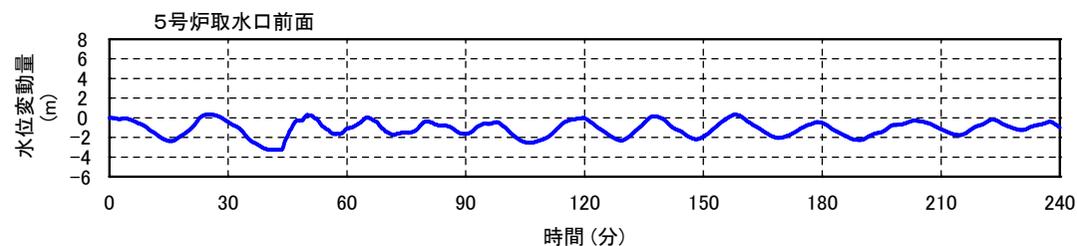
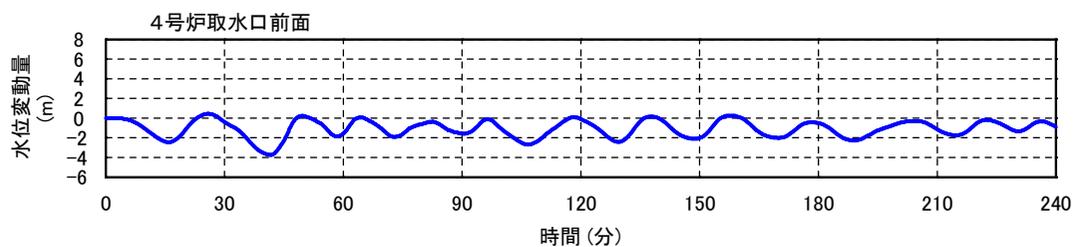
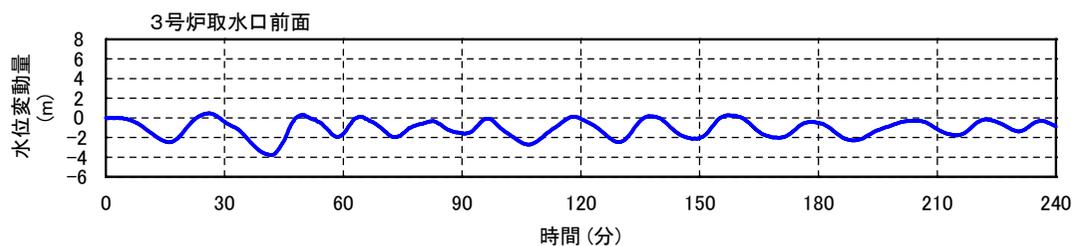
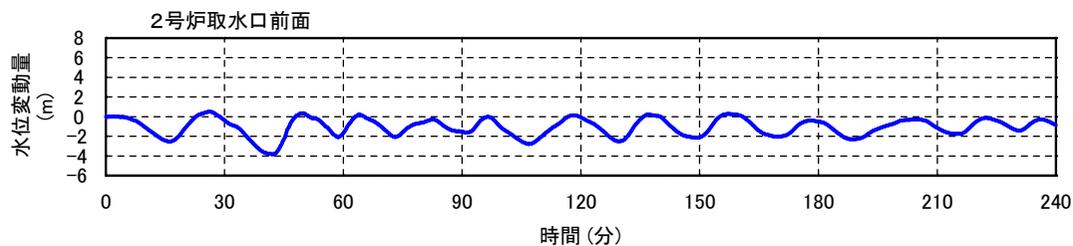
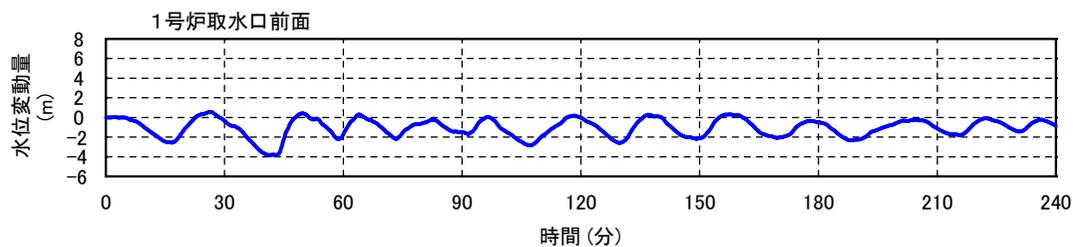
5. 1 佐渡島南方断層（強震動予測レシピ）



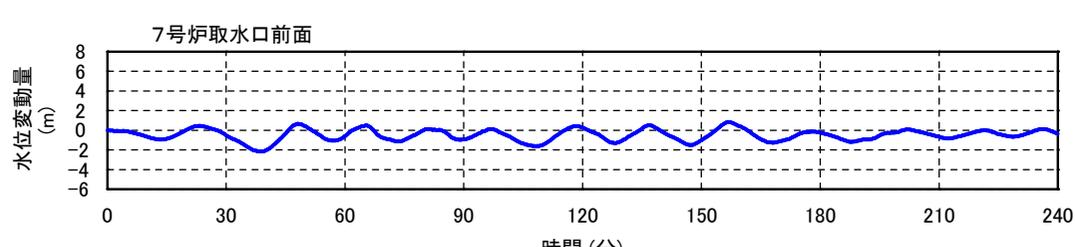
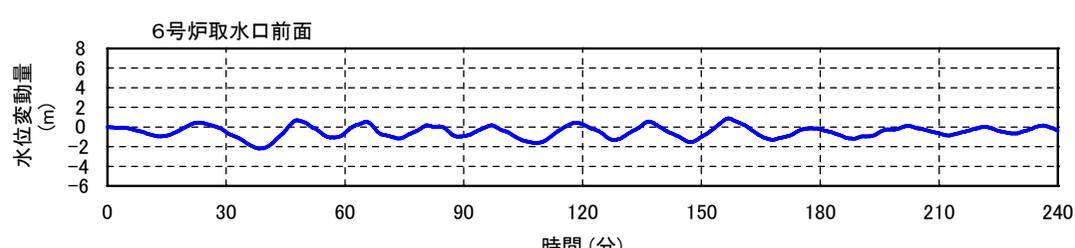
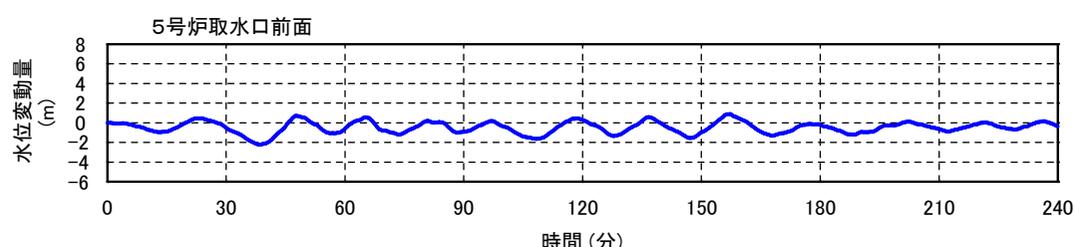
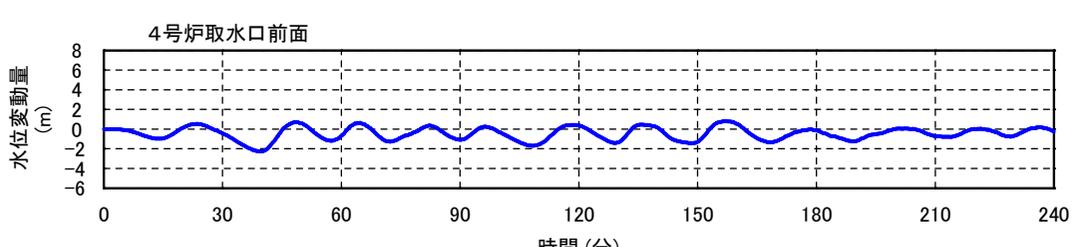
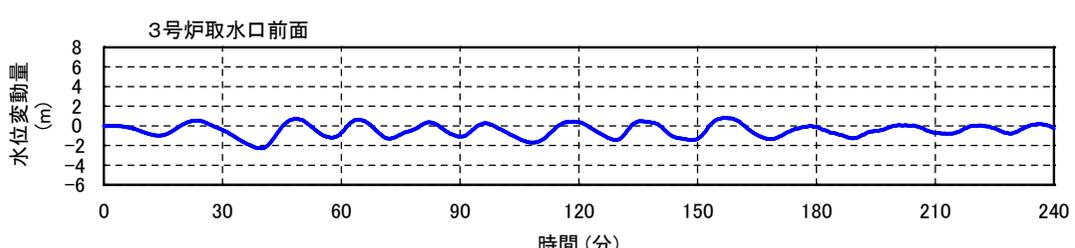
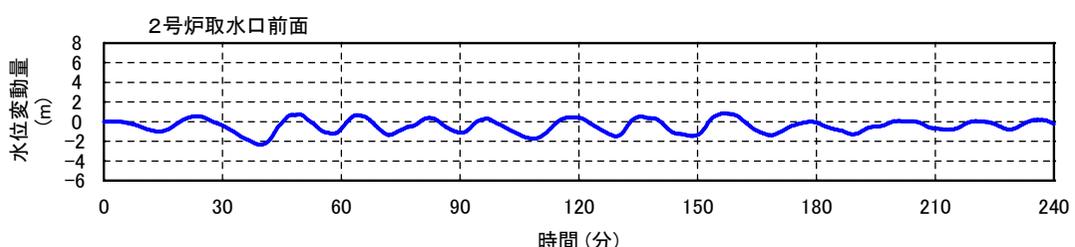
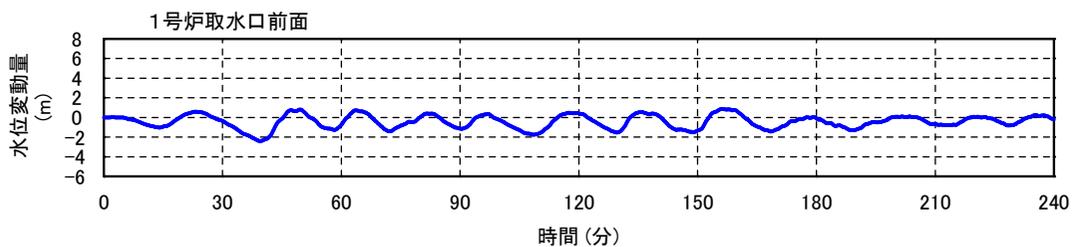
5. 1 佐渡島棚東縁断層（強震動予測レシピ）



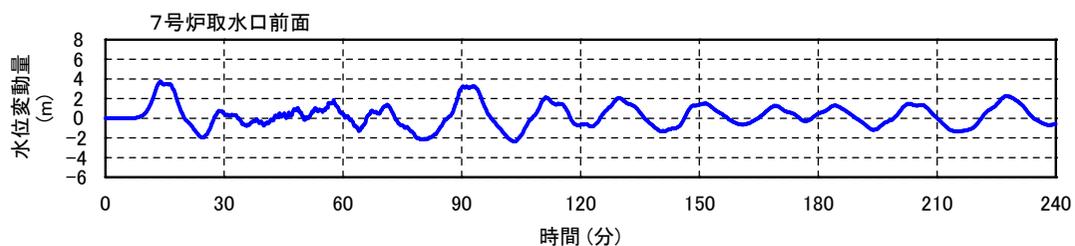
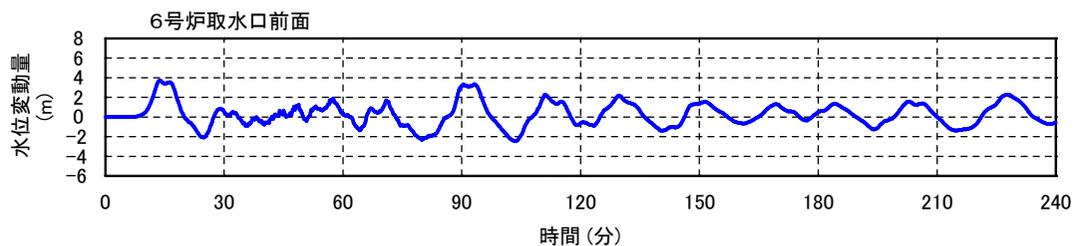
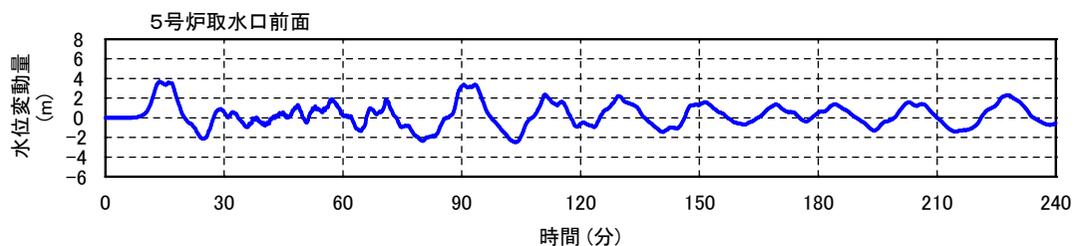
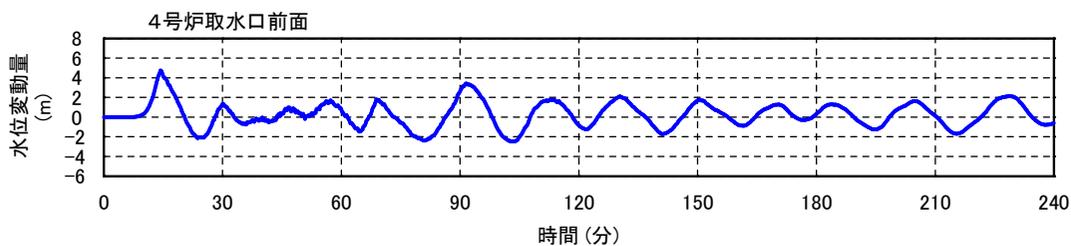
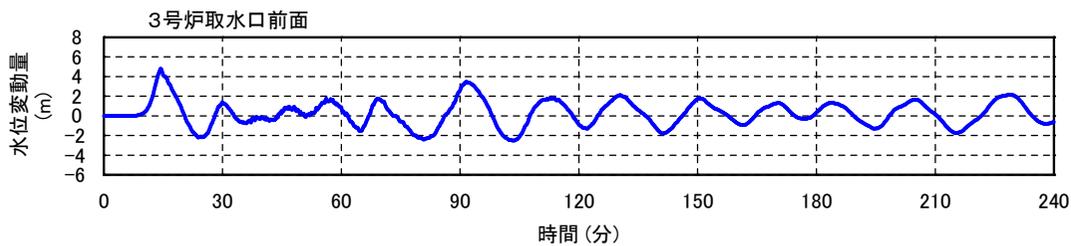
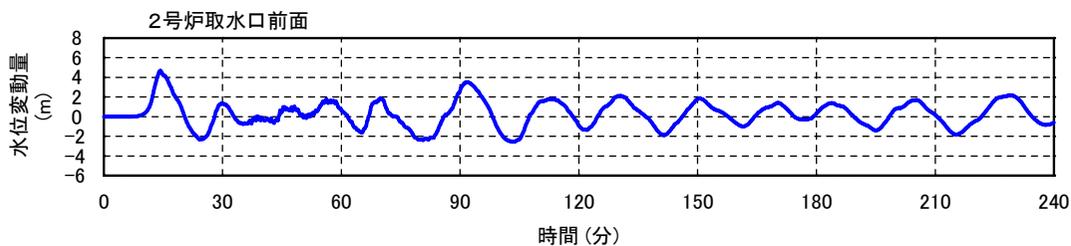
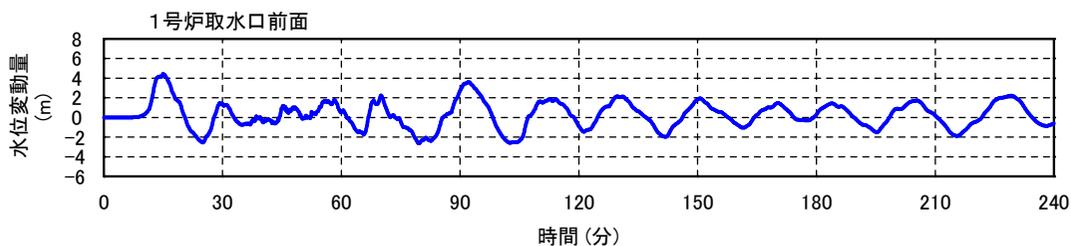
5. 1 長岡平野西縁断層帯($\delta = 35^\circ$) (強震動予測レシビ)



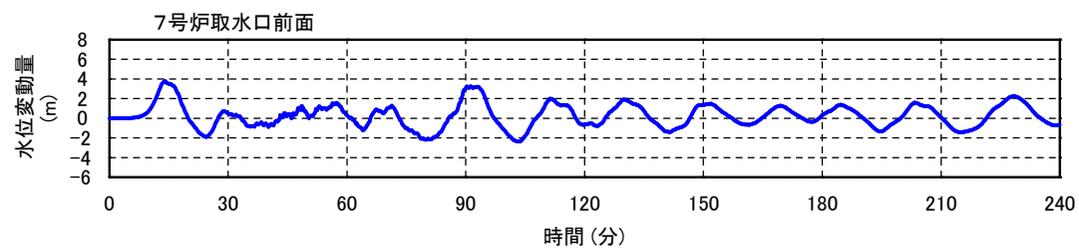
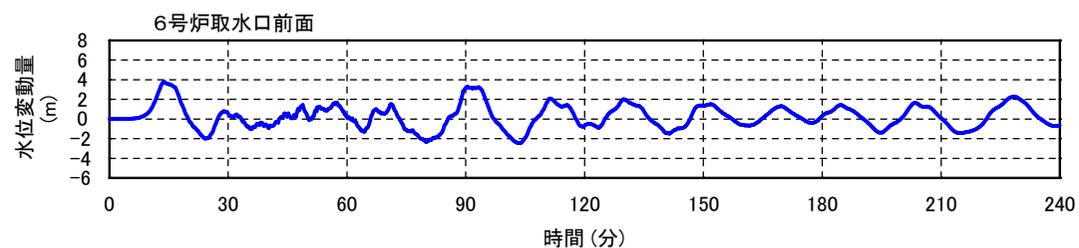
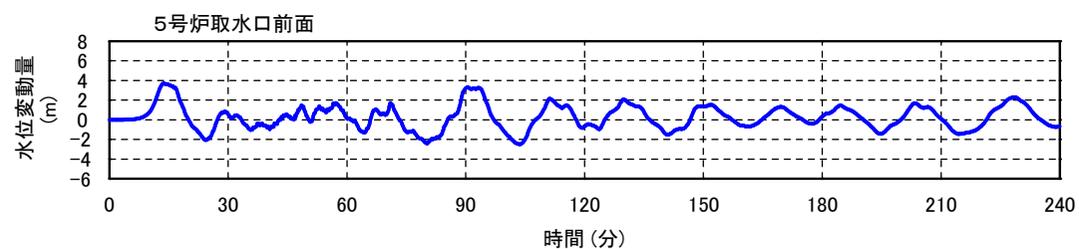
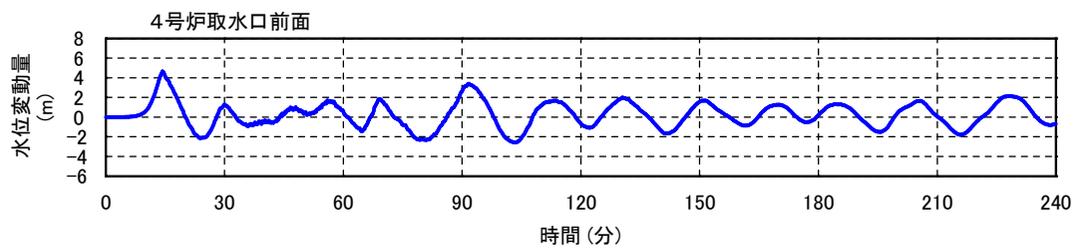
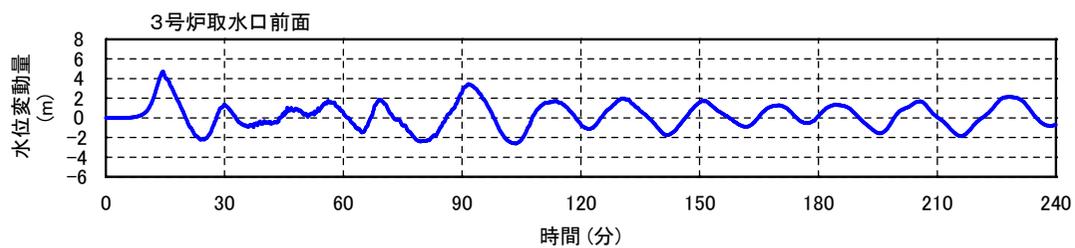
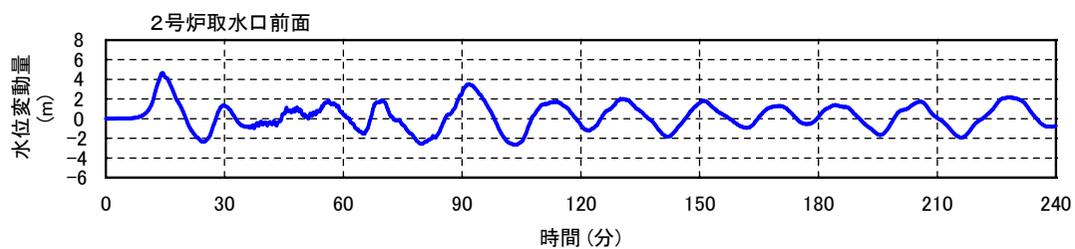
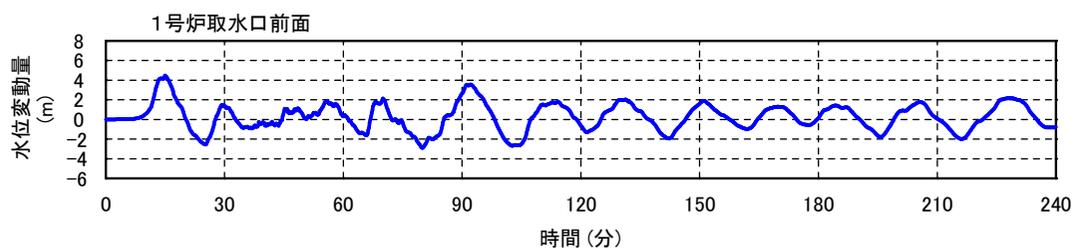
5. 1 長岡平野西縁断層帯($\delta = 50^\circ$) (強震動予測レシビ)



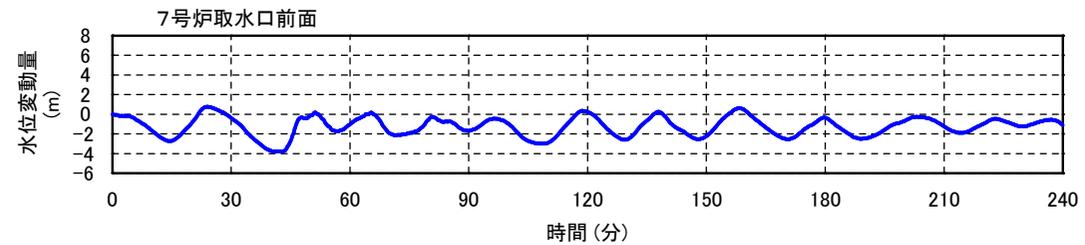
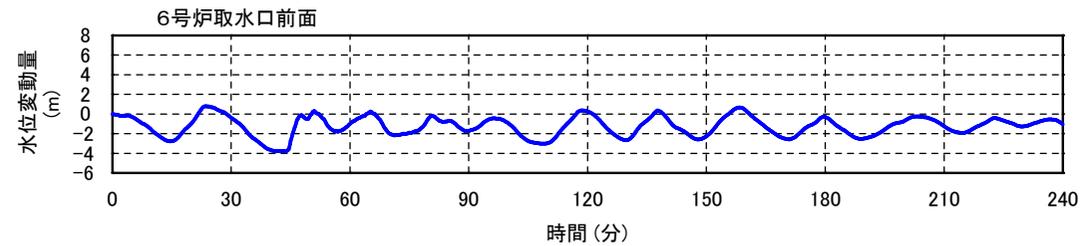
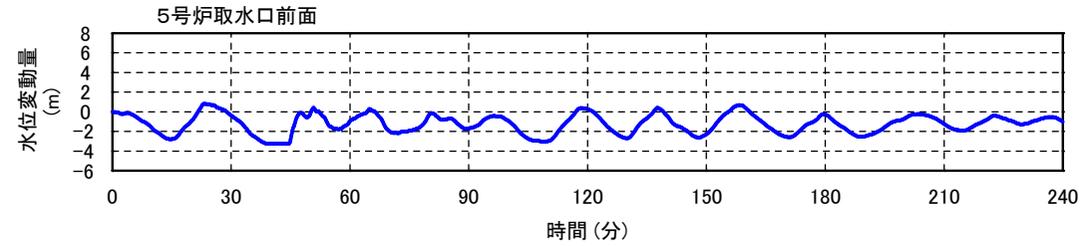
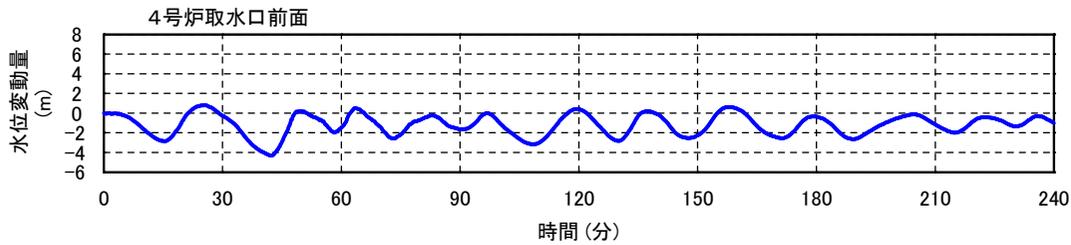
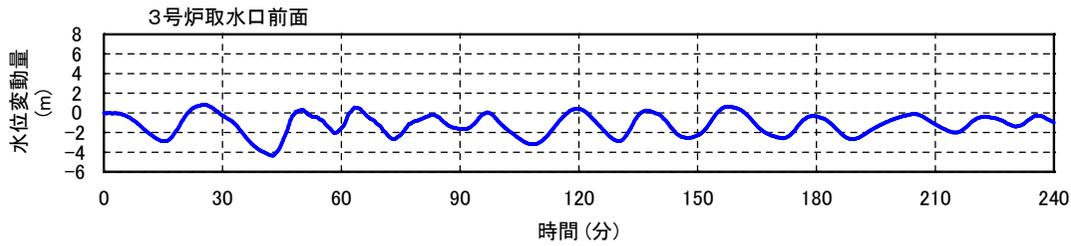
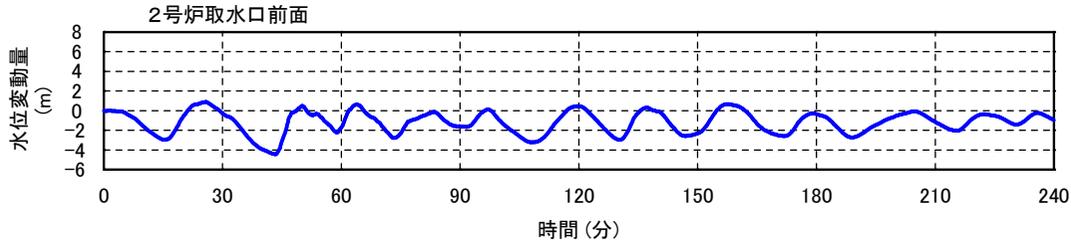
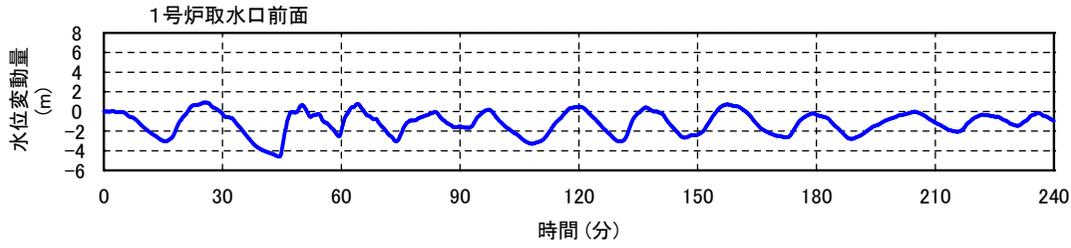
5. 1 5断層連動モデル（土木学会手法）



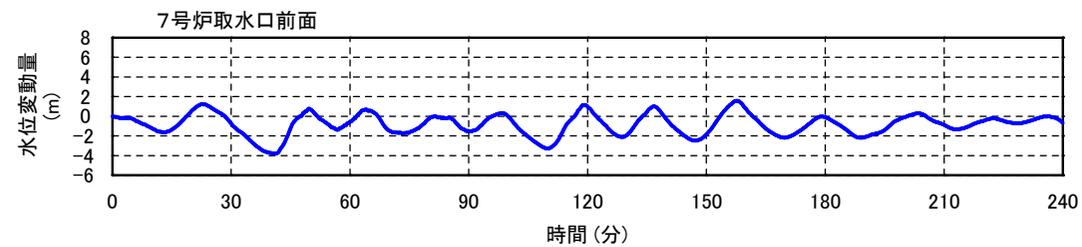
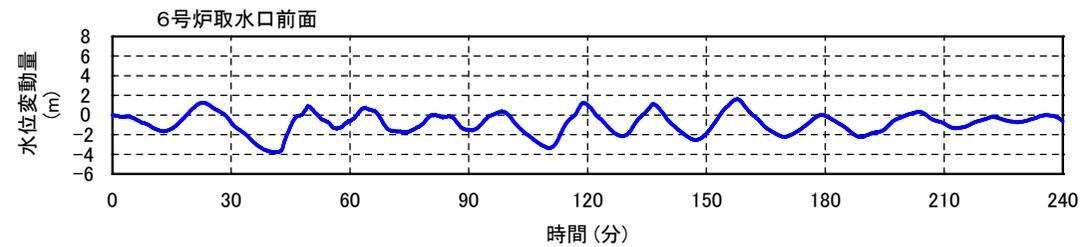
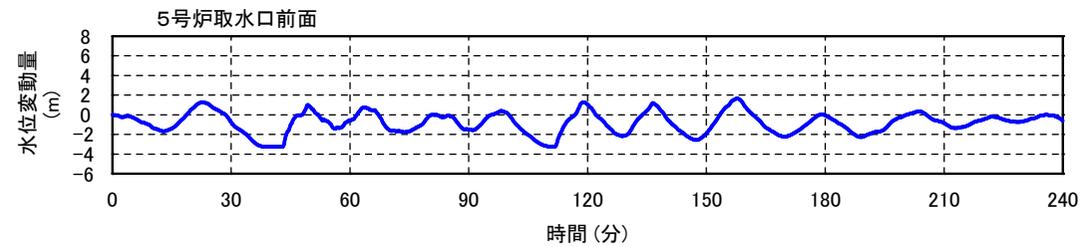
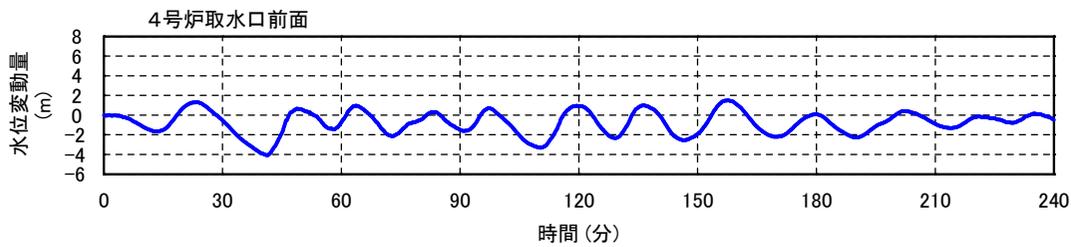
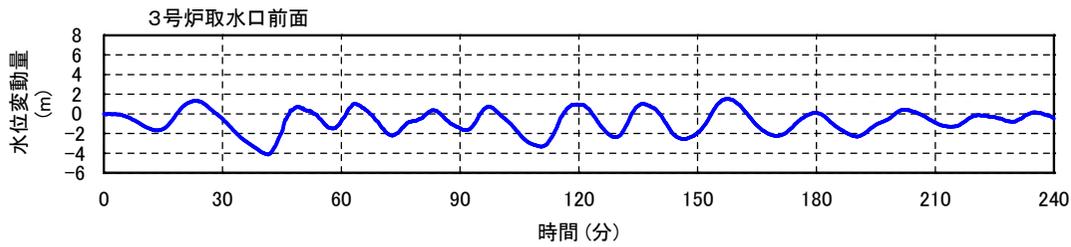
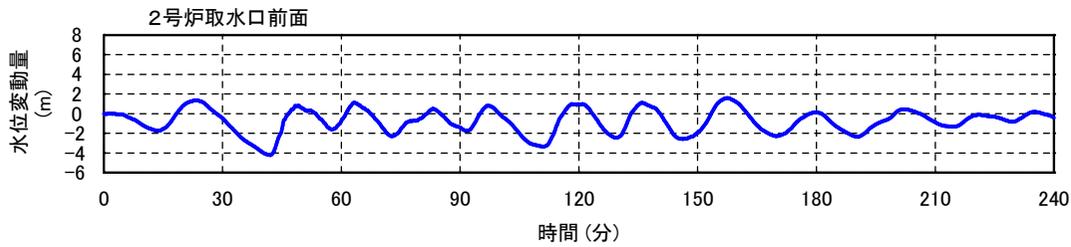
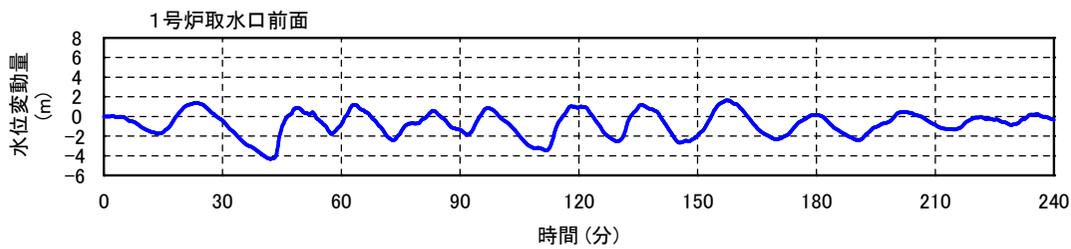
5. 1 5断層連動モデル（強震動予測レシピ）



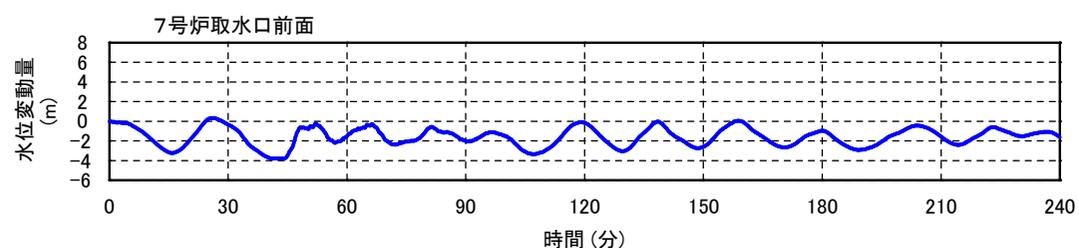
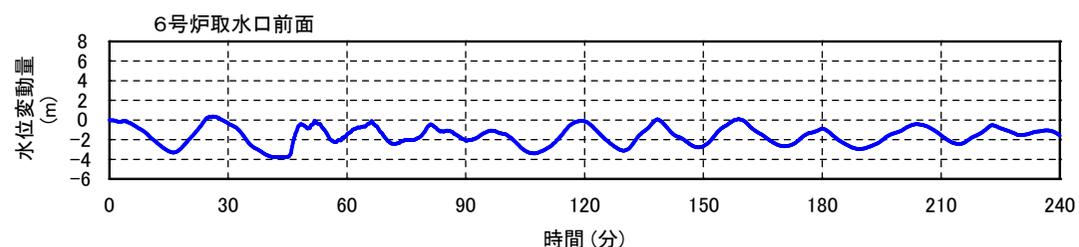
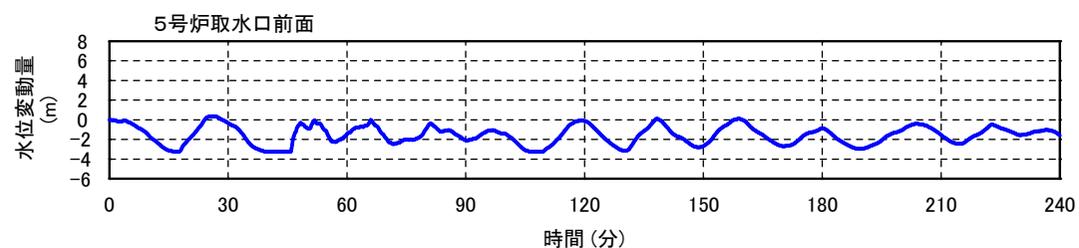
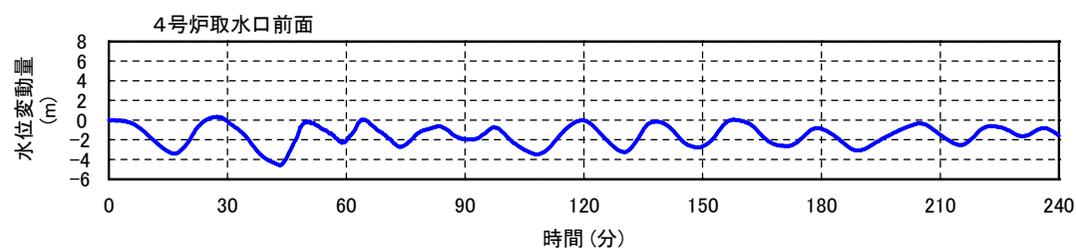
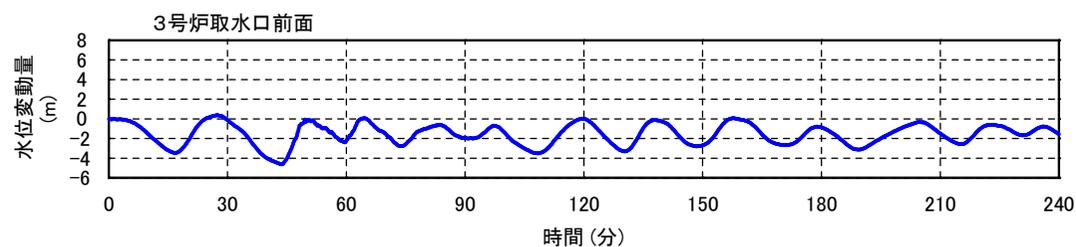
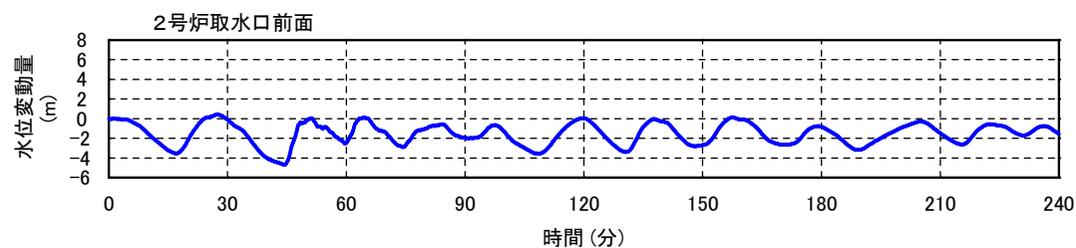
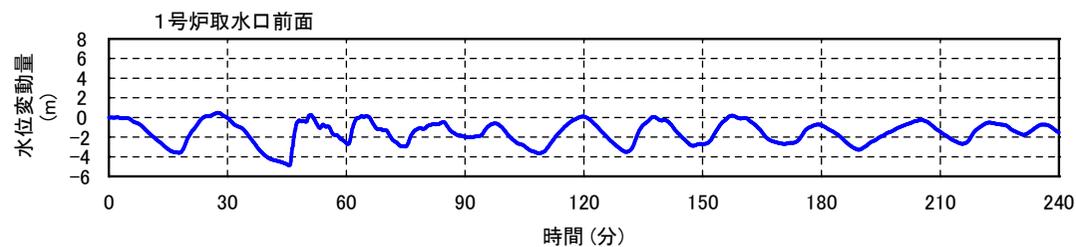
5. 1 長岡十日町連動モデル($\delta = 35^\circ$) (土木学会手法)



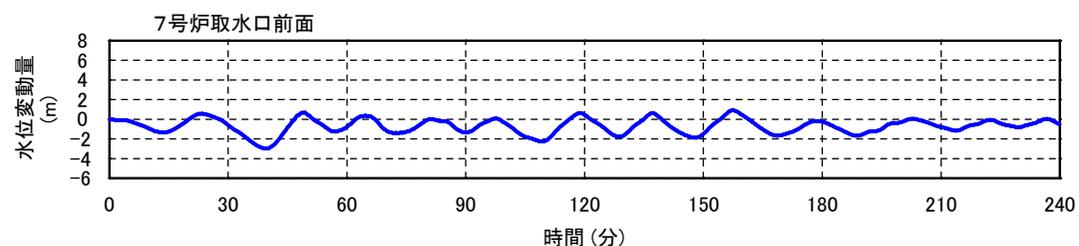
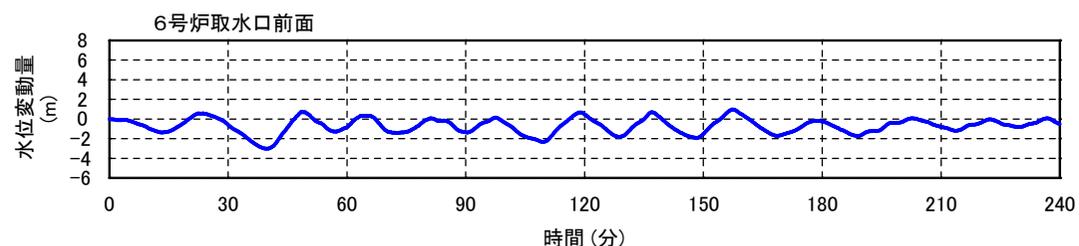
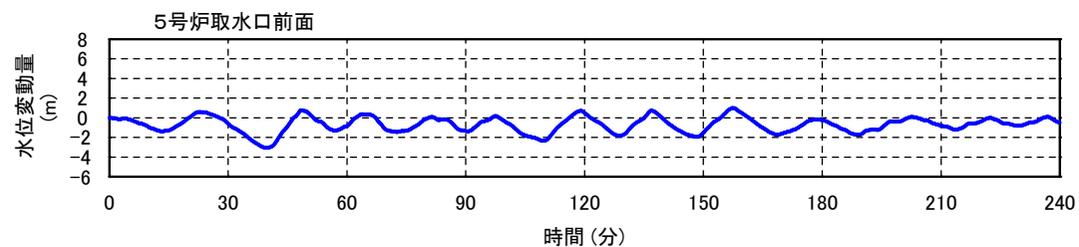
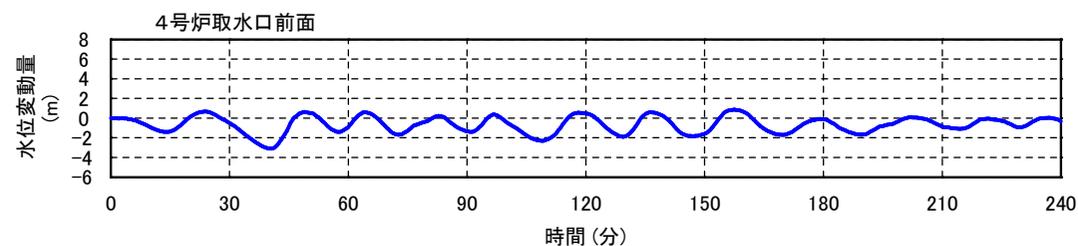
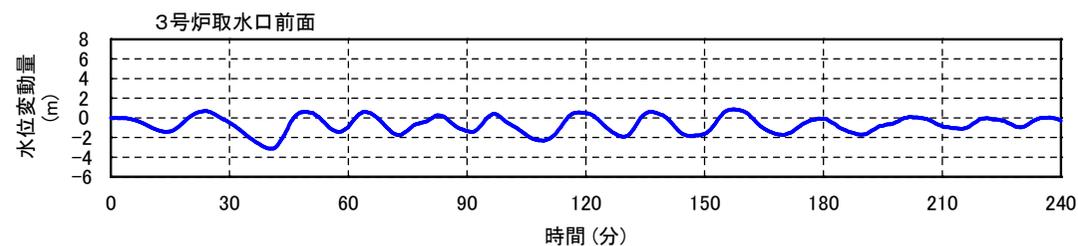
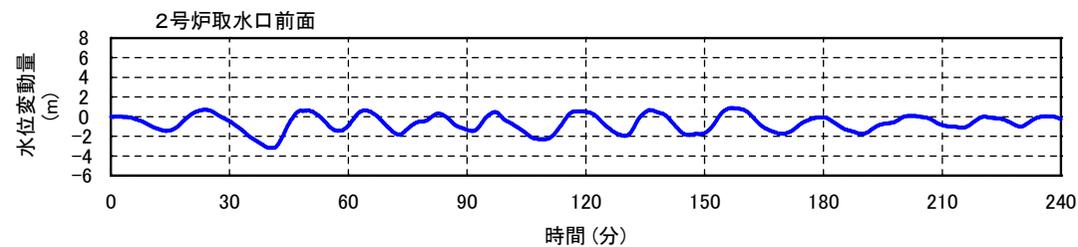
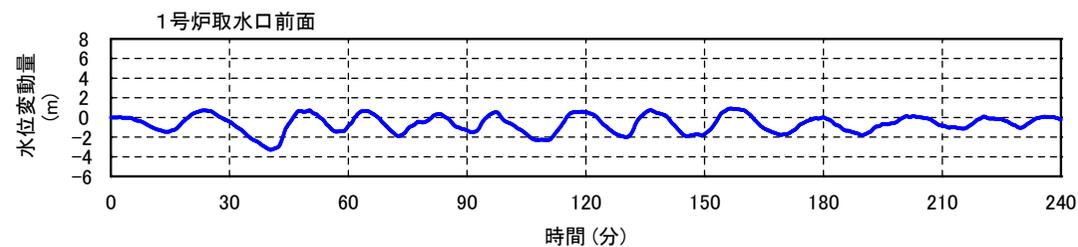
5. 1 長岡十日町連動モデル($\delta = 50^\circ$) (土木学会手法)



5. 1 長岡十日町連動モデル($\delta = 35^\circ$) (強震動予測レシピ)

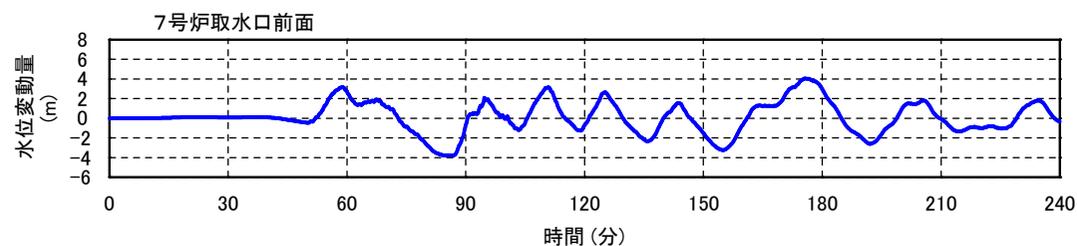
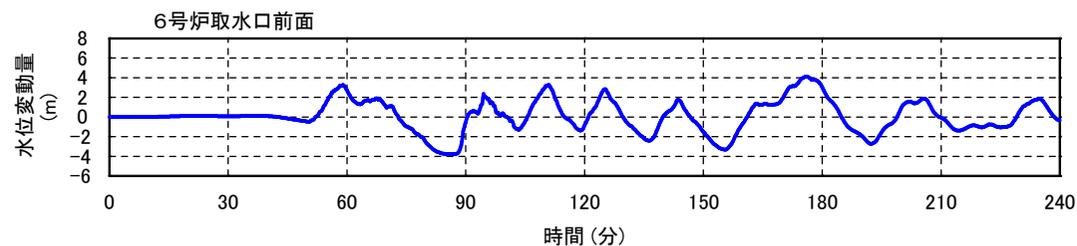
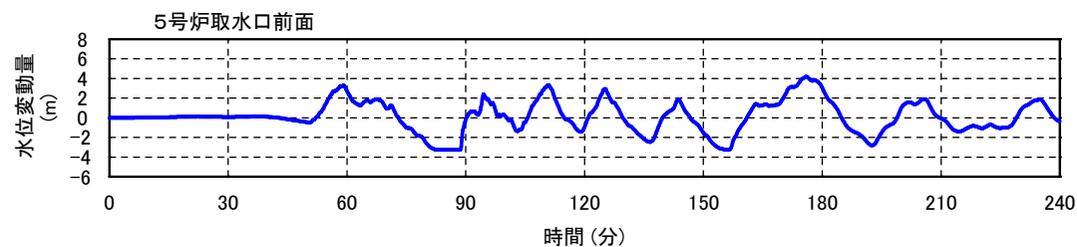
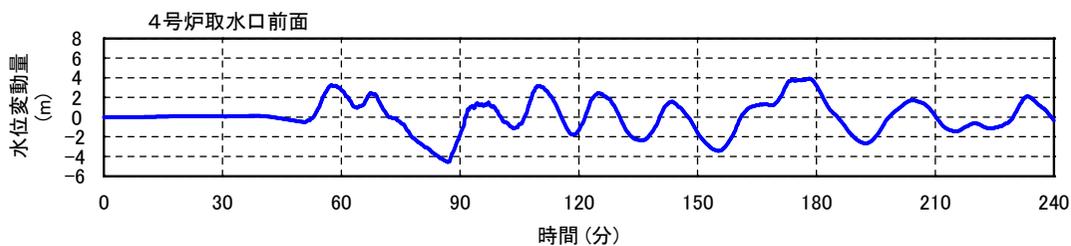
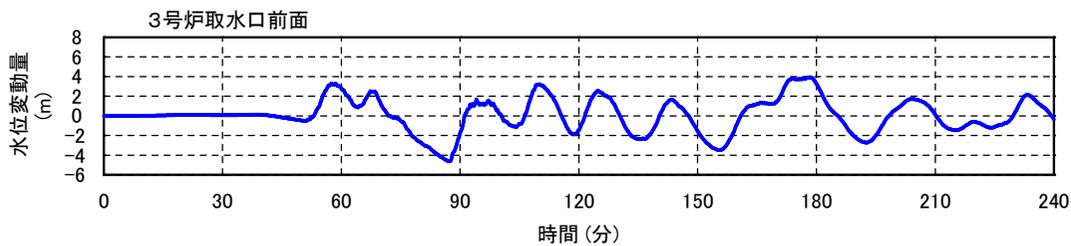
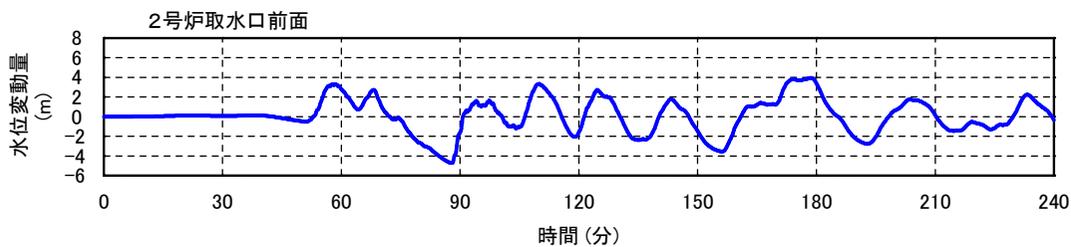
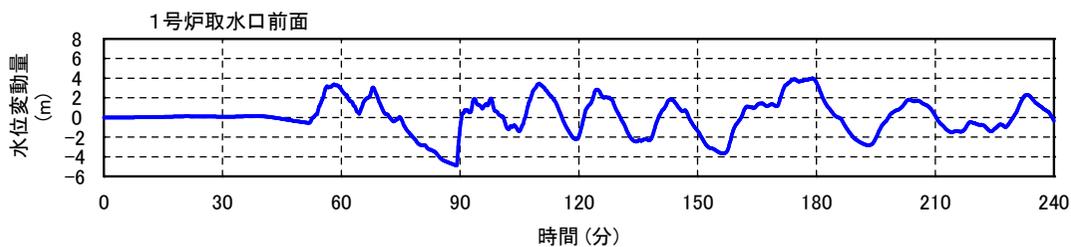


5. 1 長岡十日町連動モデル($\delta = 50^\circ$) (強震動予測レシピ)



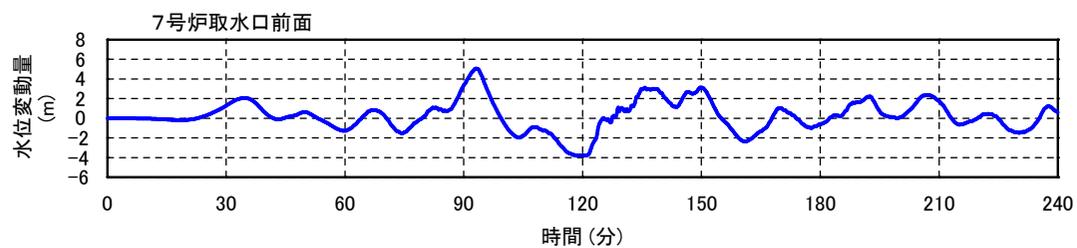
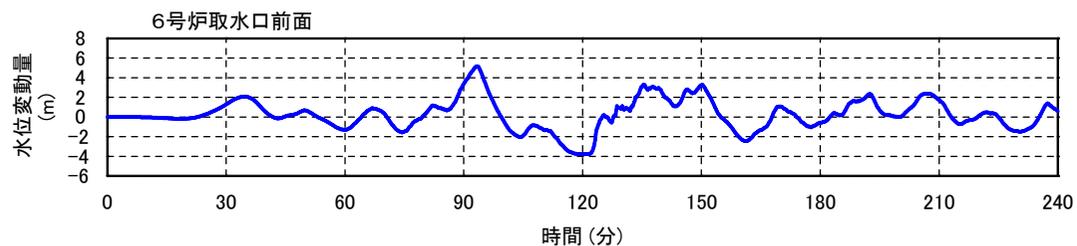
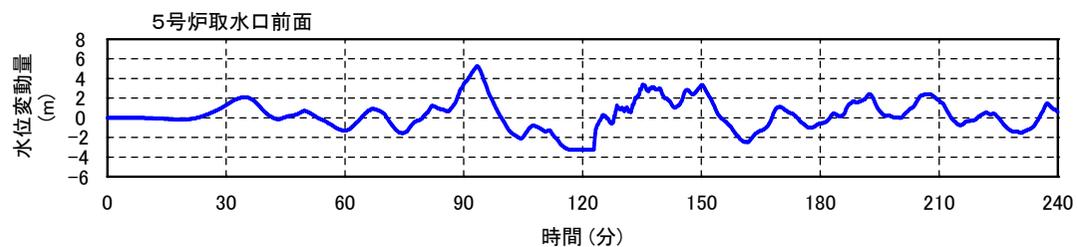
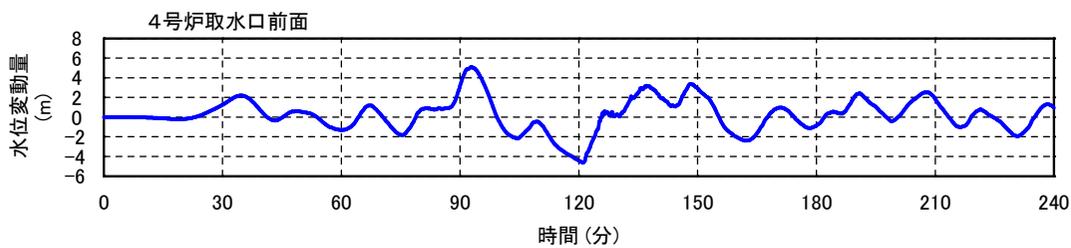
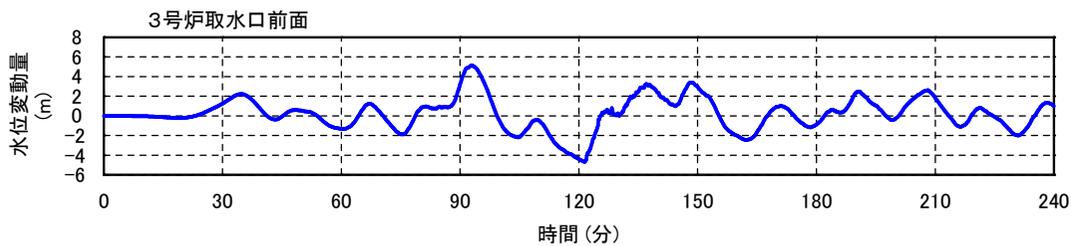
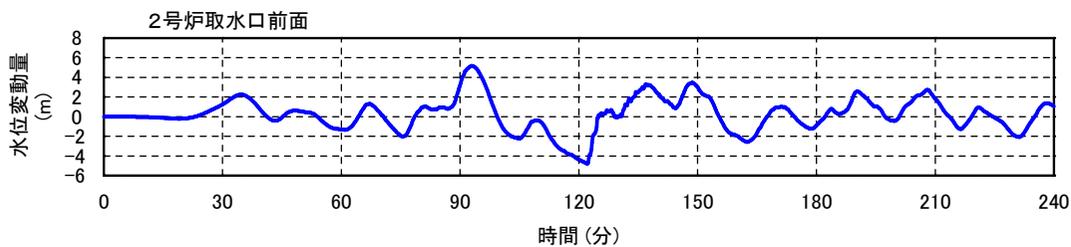
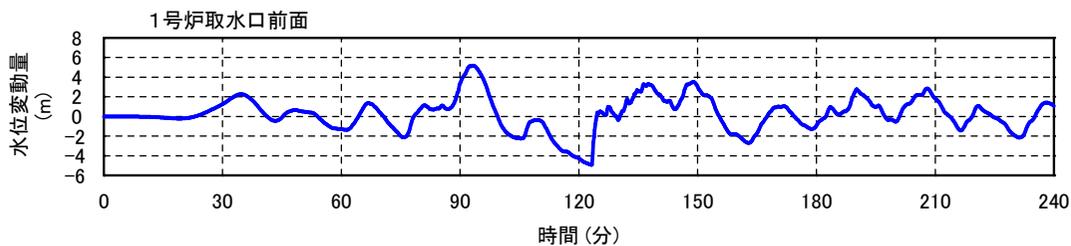
5. 1 日本海東縁部（1領域モデル：土木学会手法水位下降側最大ケース）

水位下降側最大ケース（断層幅21km, Mw8.2）

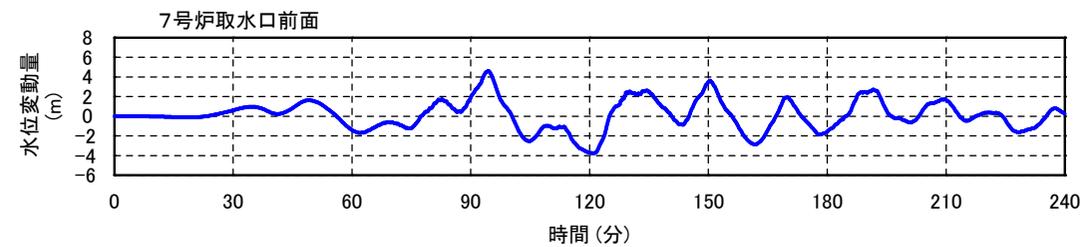
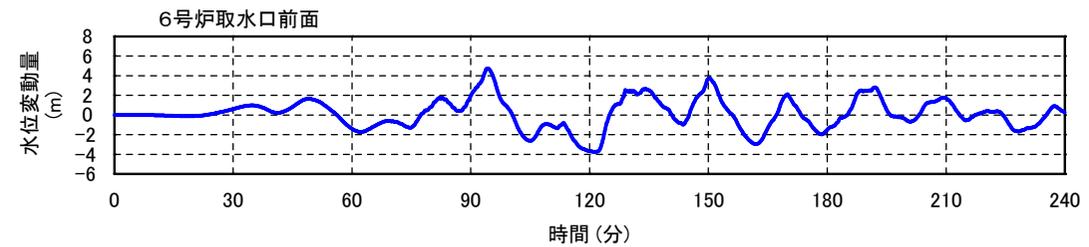
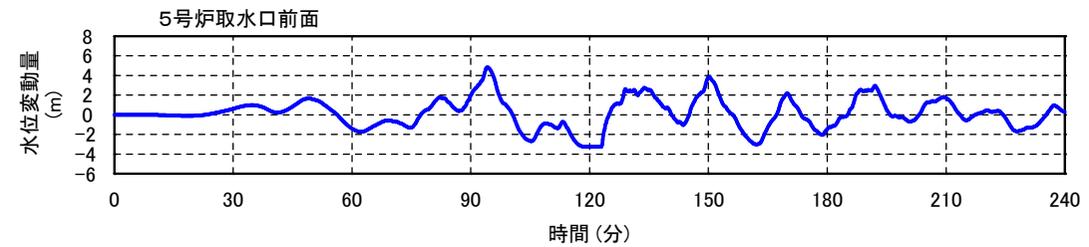
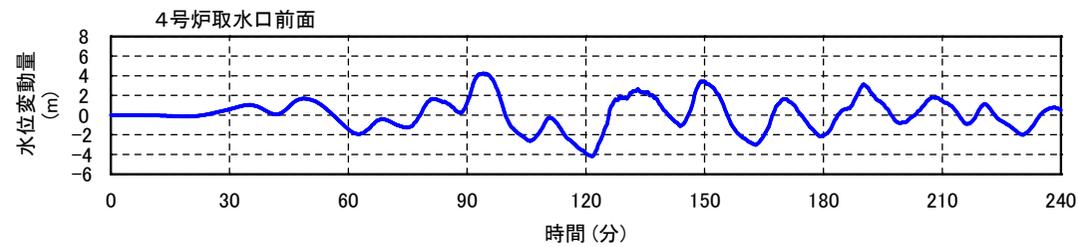
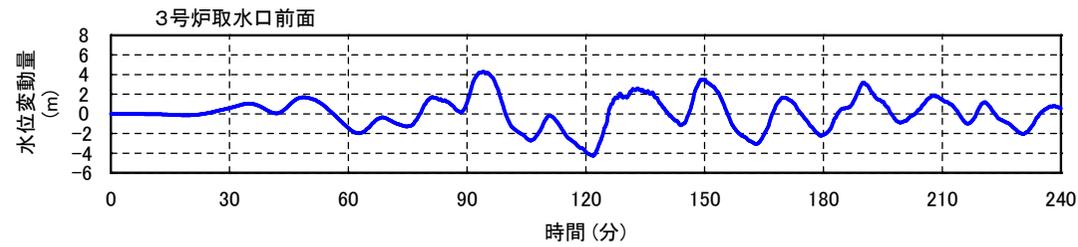
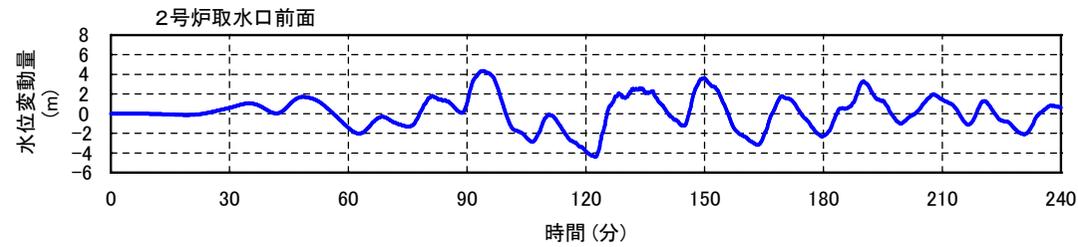
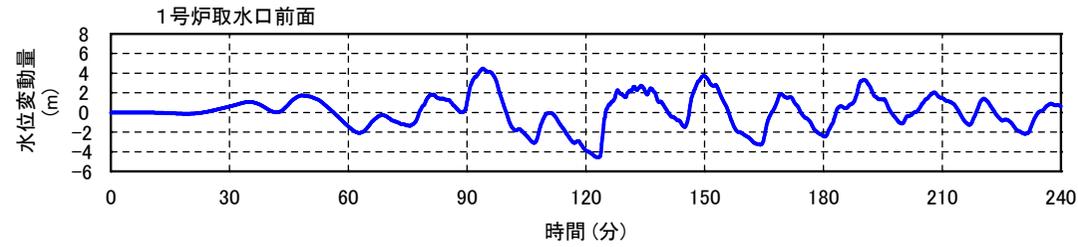


5. 1 日本海東縁部（1領域モデル：強震動予測レシピア最大ケース）

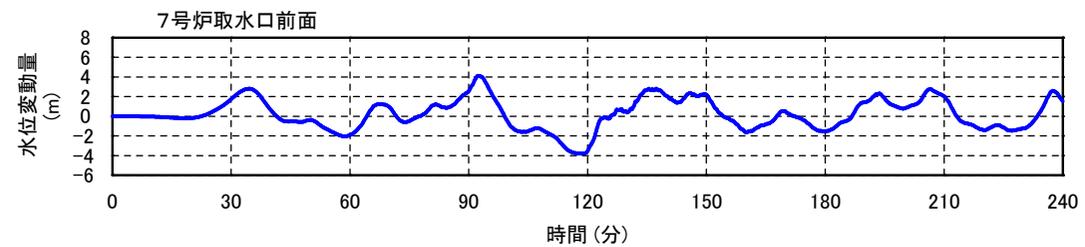
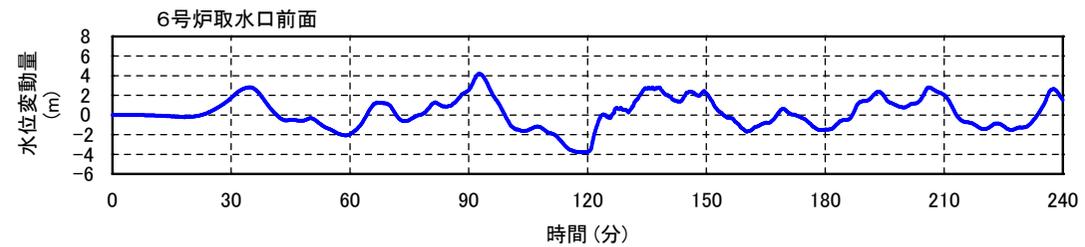
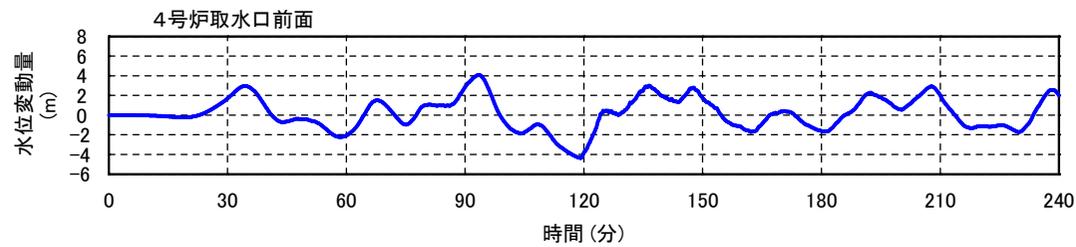
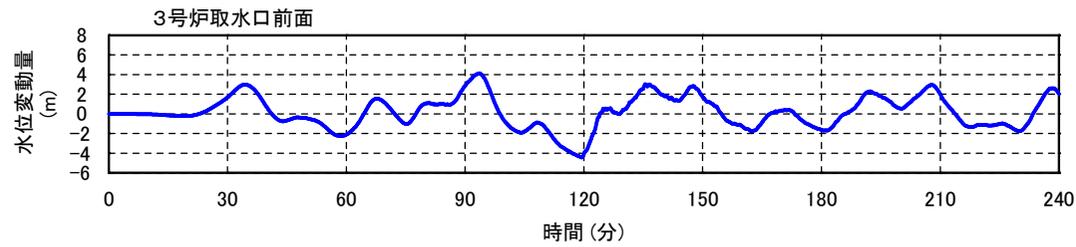
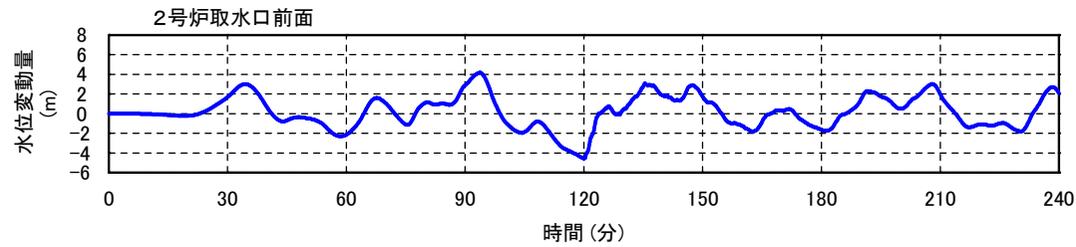
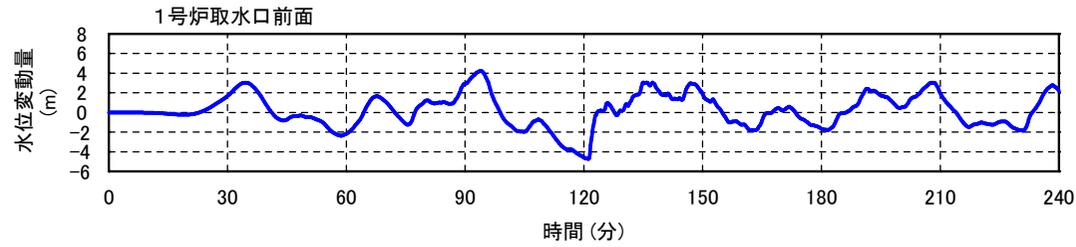
水位上昇側・下降側最大ケース（Mw8.4）



5. 1 日本海東縁部（1領域アスペリティモデル：水位上昇側最大ケース）

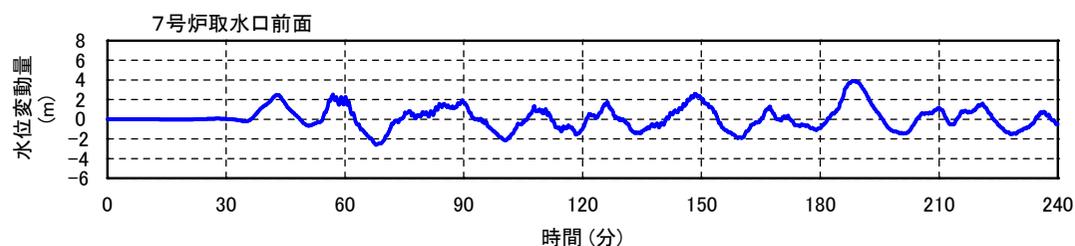
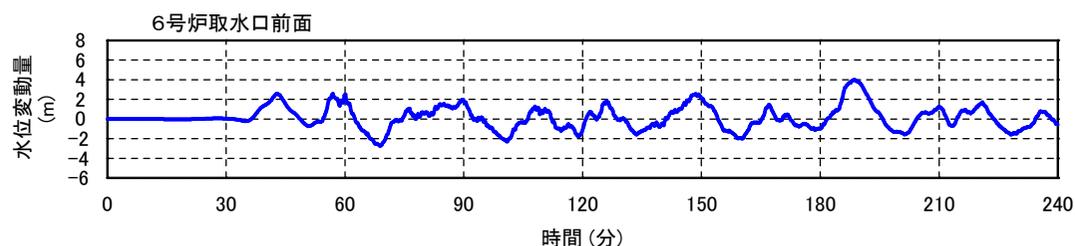
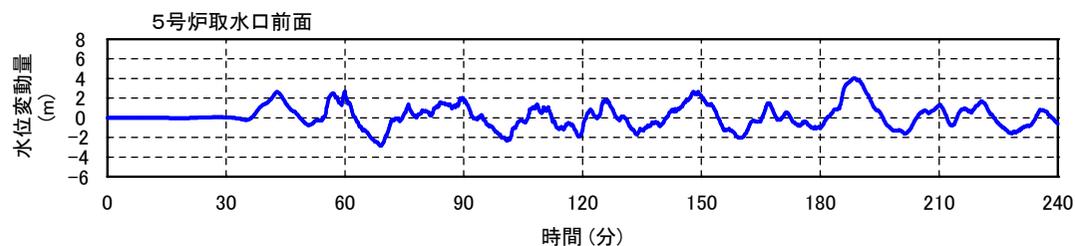
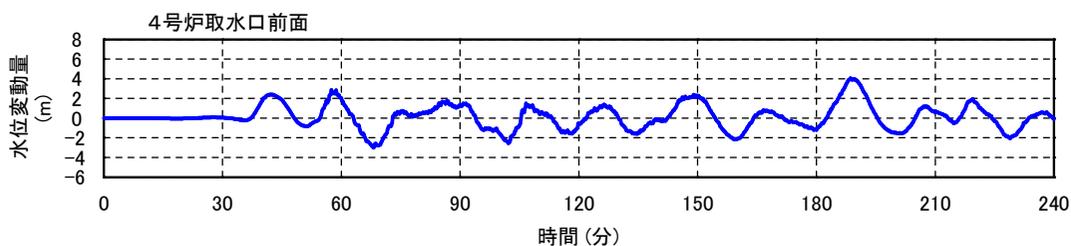
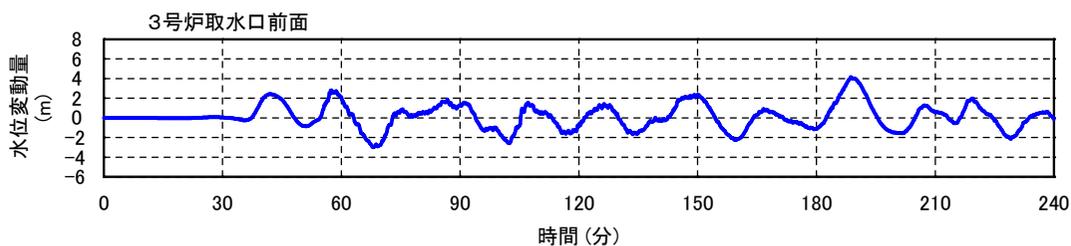
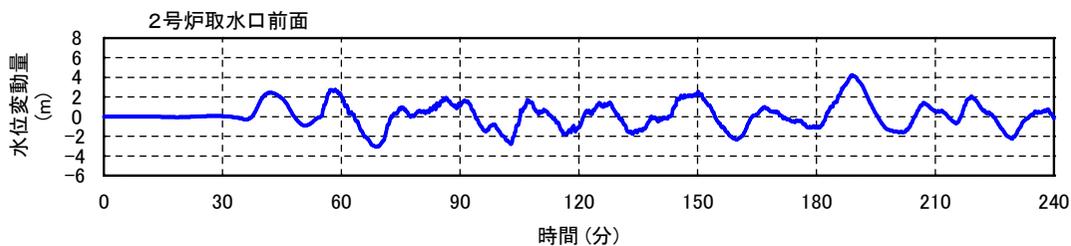
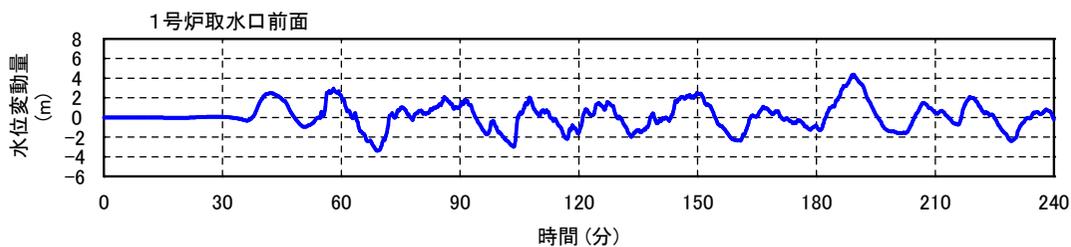


5. 1 日本海東縁部 (1領域アスペリティモデル：水位下降側最大ケース)



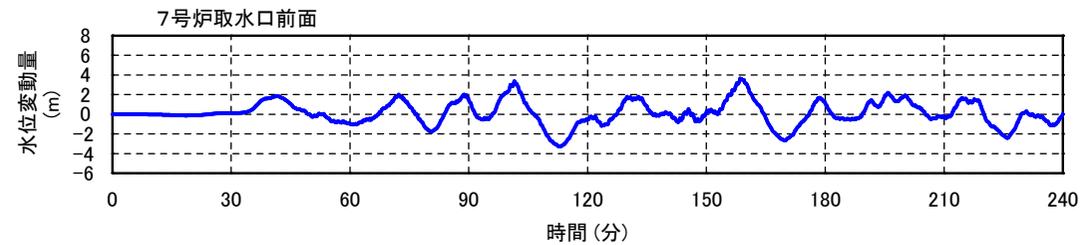
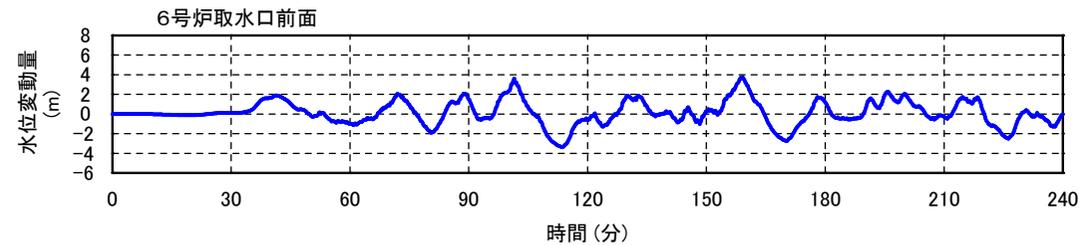
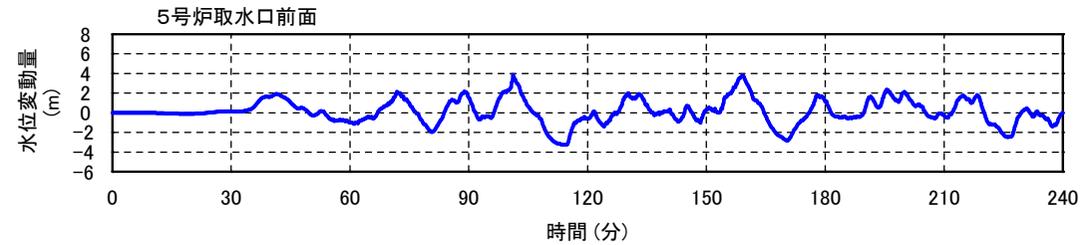
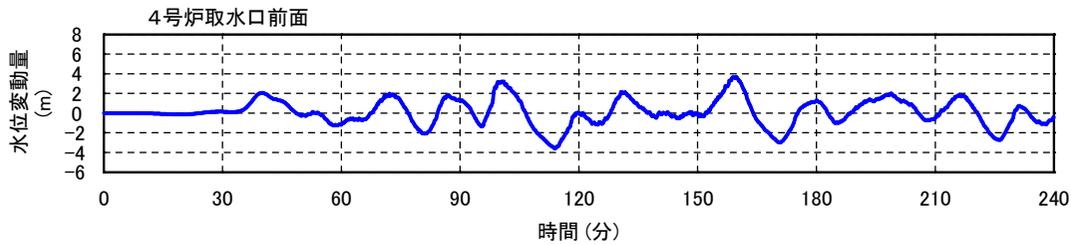
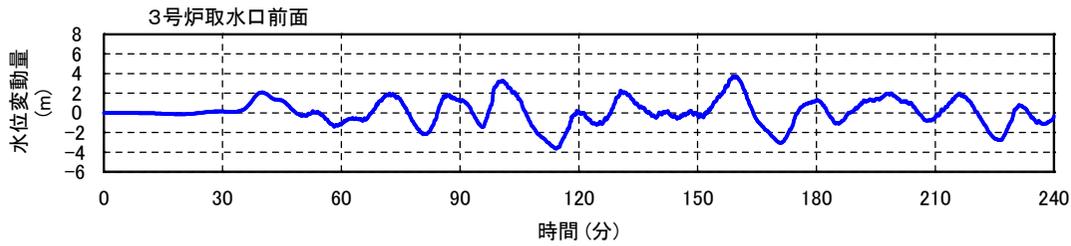
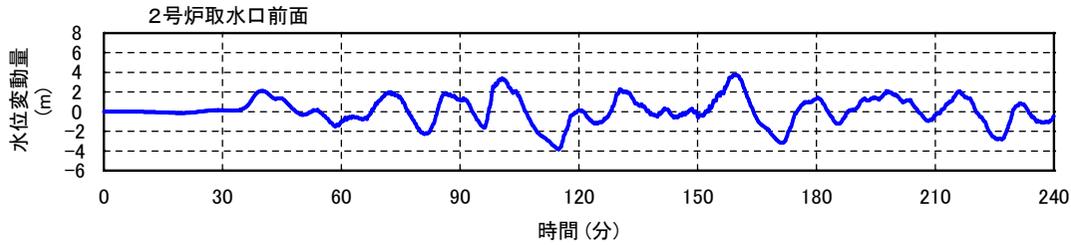
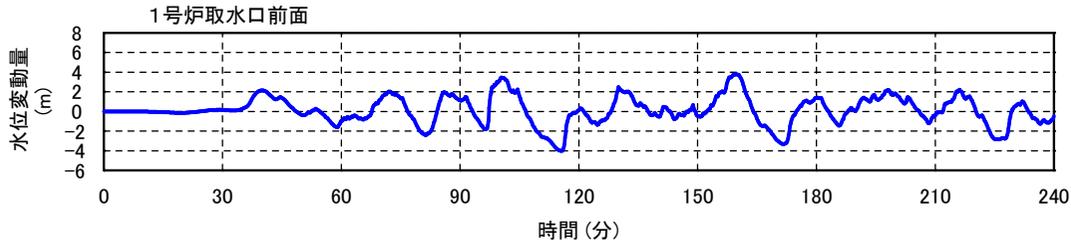
5. 1 日本海東縁部（2領域モデル：土木学会手法水位上昇側最大ケース）

水位上昇側最大ケース（断層幅17km, Mw8.4）



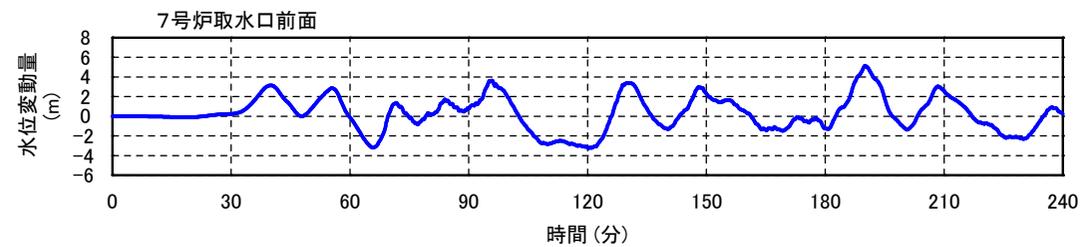
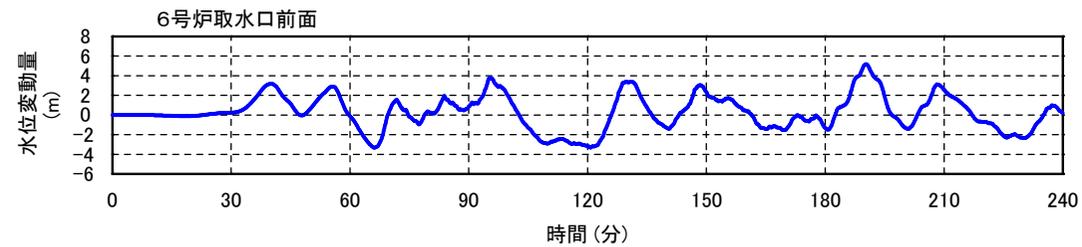
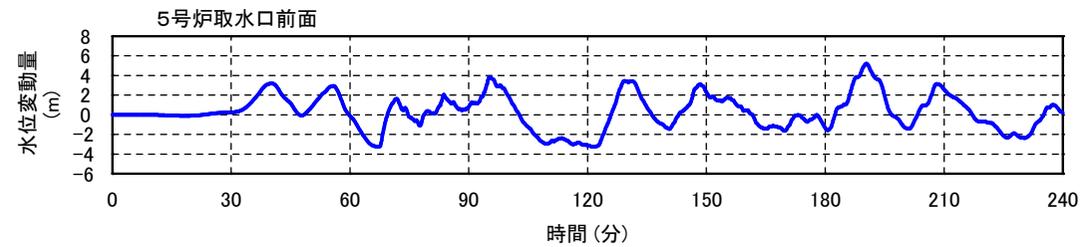
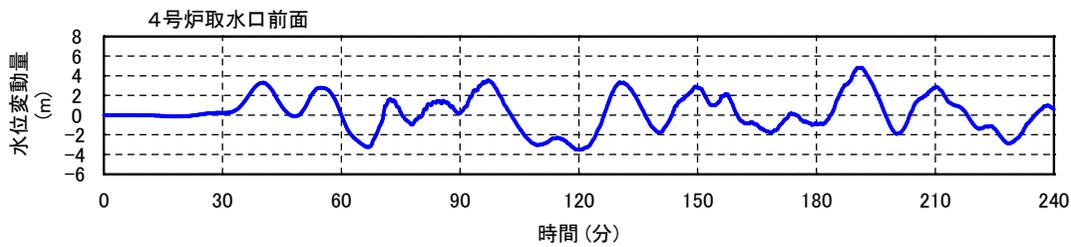
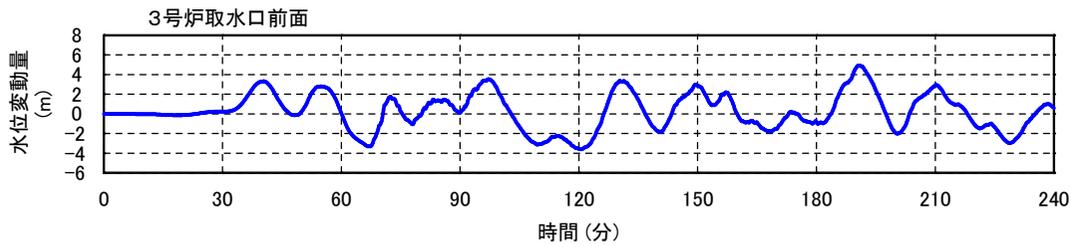
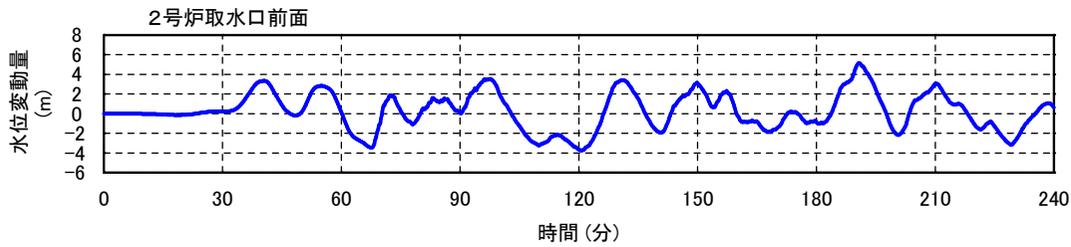
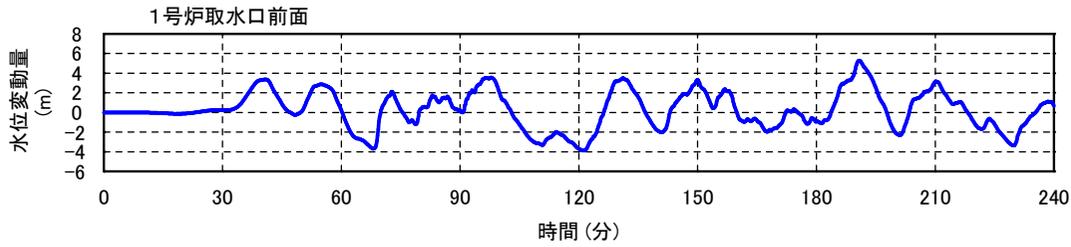
5. 1 日本海東縁部（2領域モデル：土木学会手法水位下降最大ケース）

水位下降側最大ケース（断層幅17km, Mw8.4）



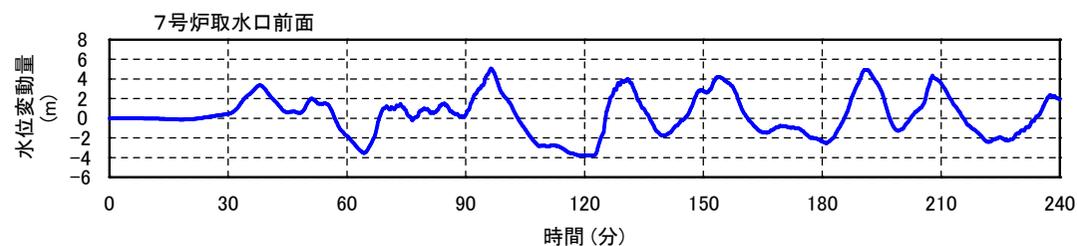
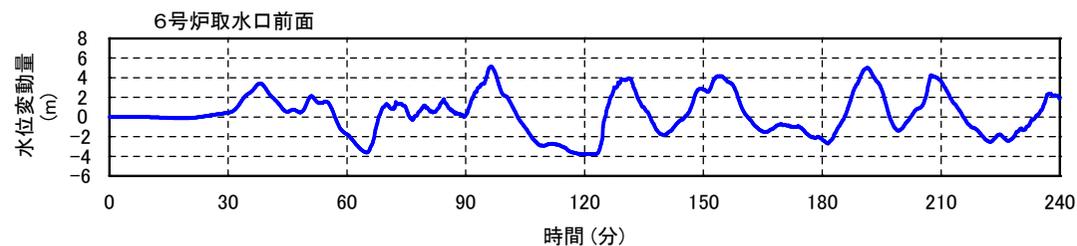
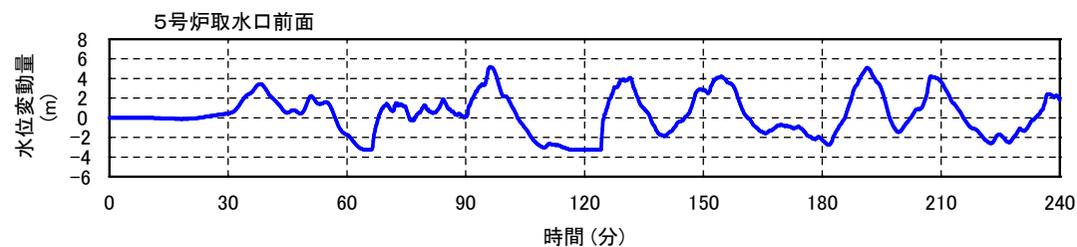
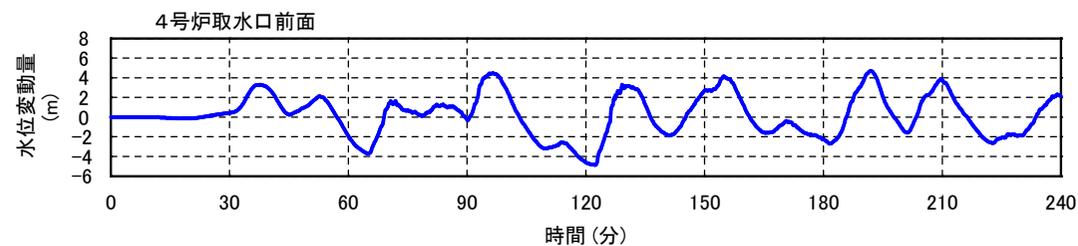
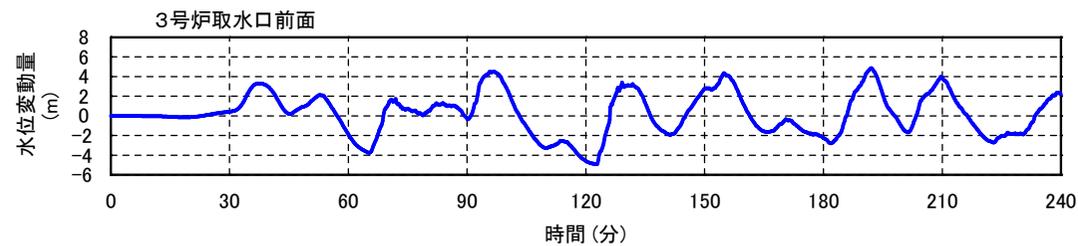
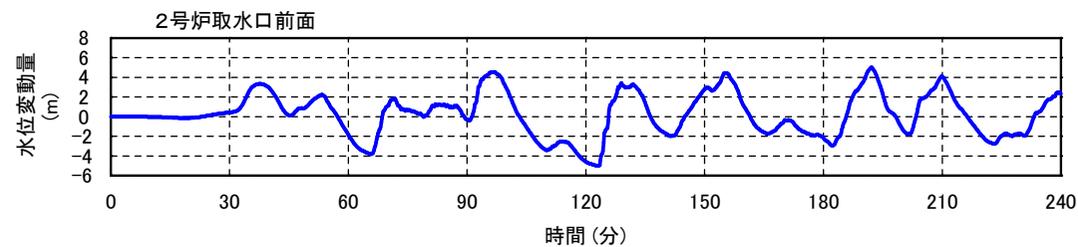
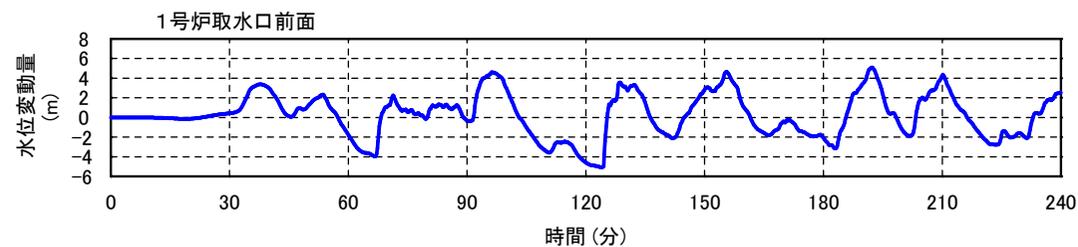
5. 1 日本海東縁部（2領域モデル：強震動予測レシピア水位上昇側最大ケース）

水位上昇側最大ケース（Mw8.6）

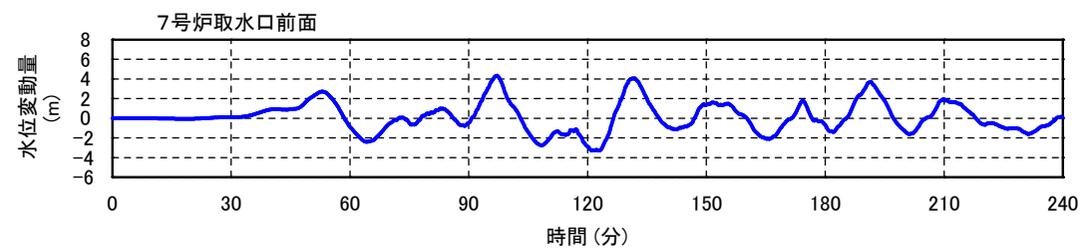
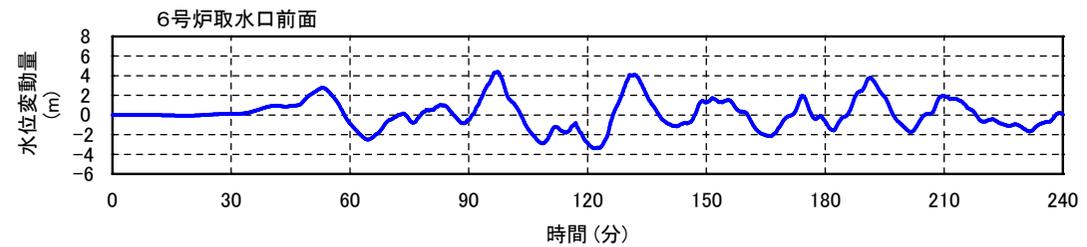
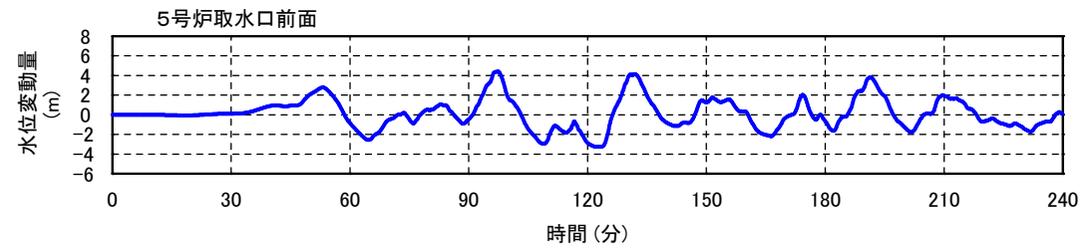
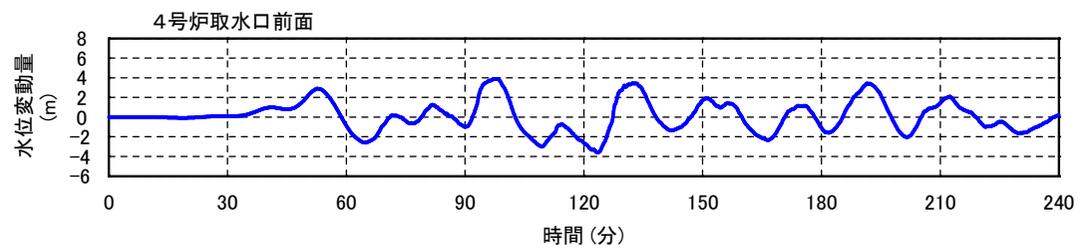
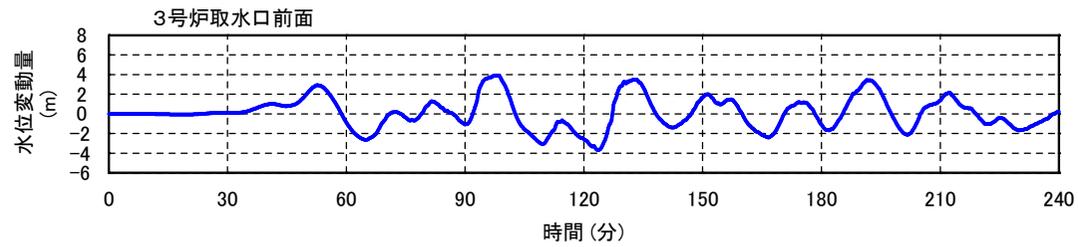
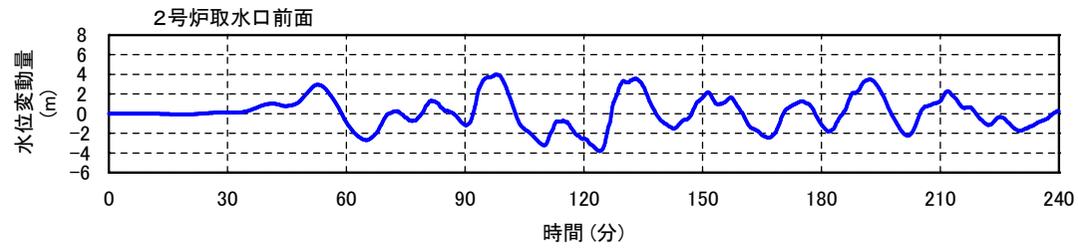
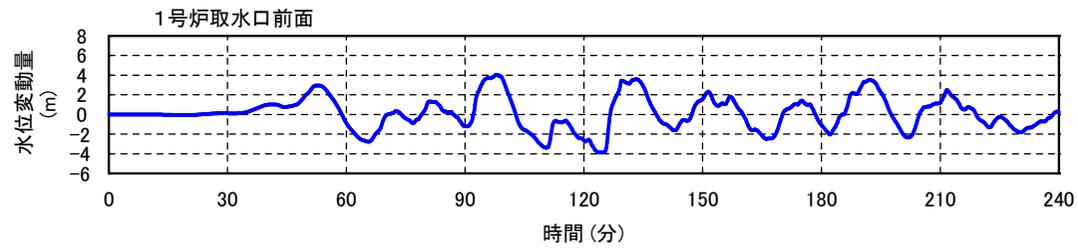


5. 1 日本海東縁部（2領域モデル：強震動予測レシピ水位下降側最大ケース）

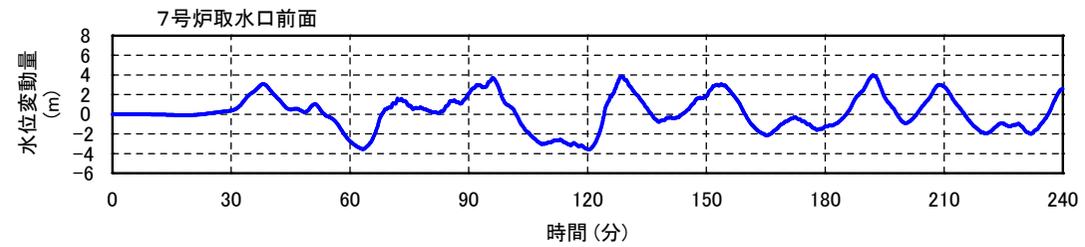
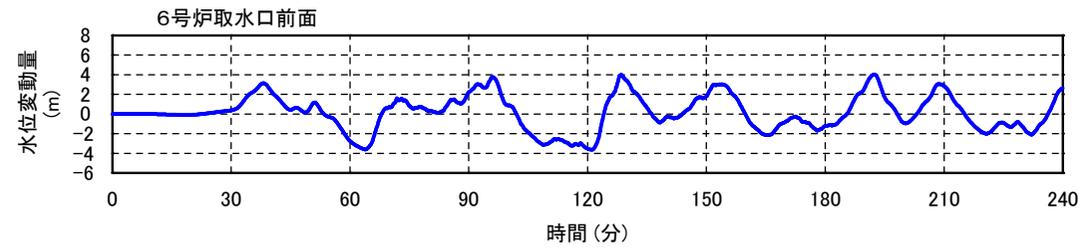
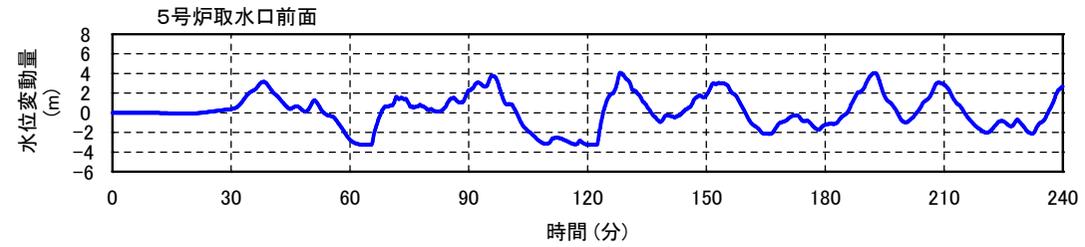
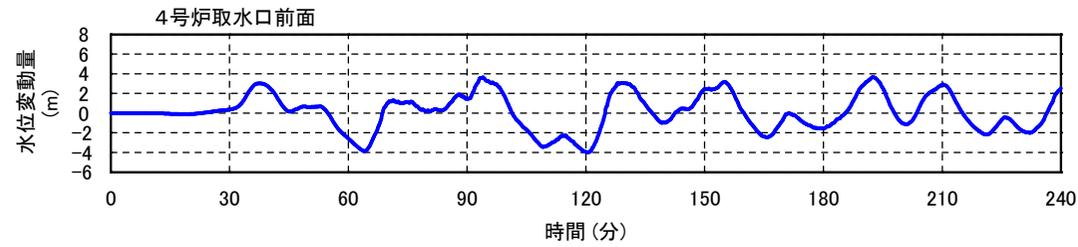
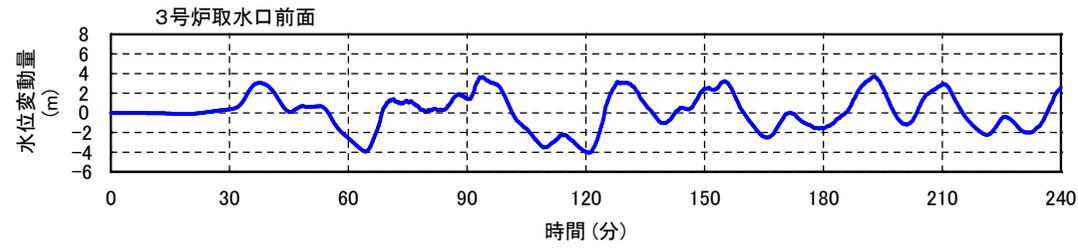
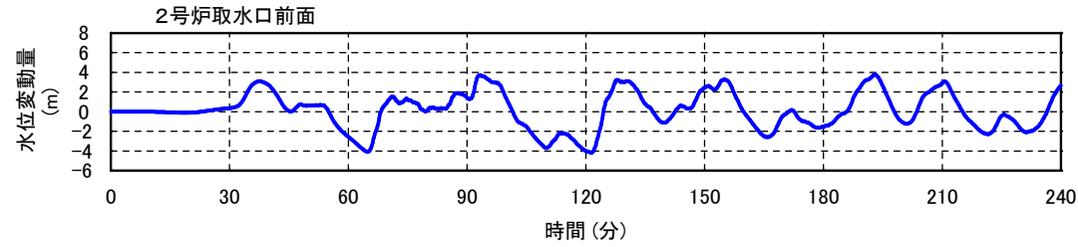
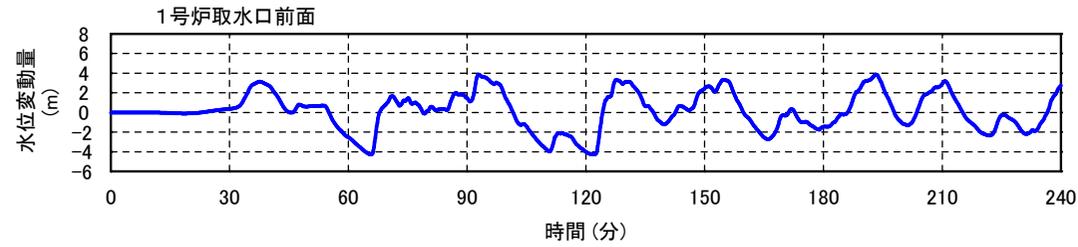
水位下降側最大ケース（Mw8.6）



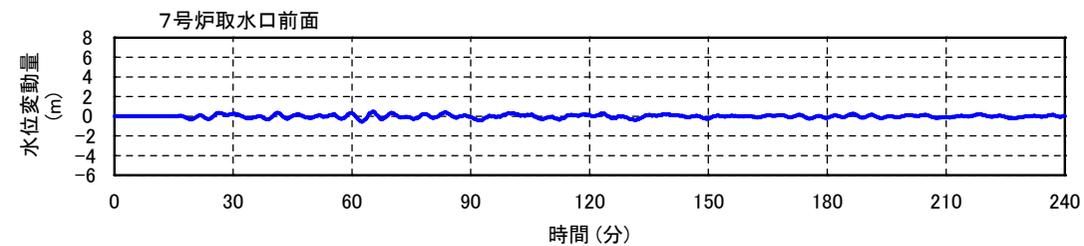
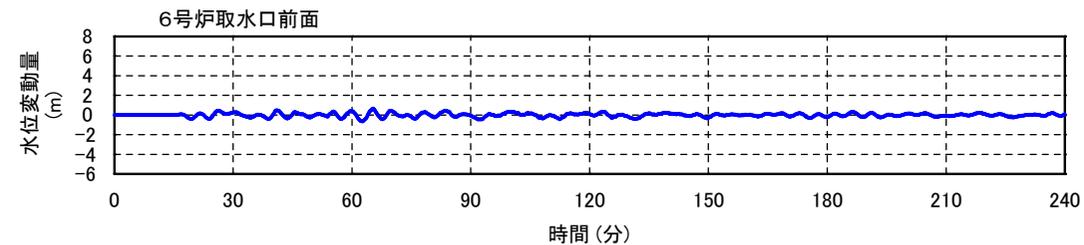
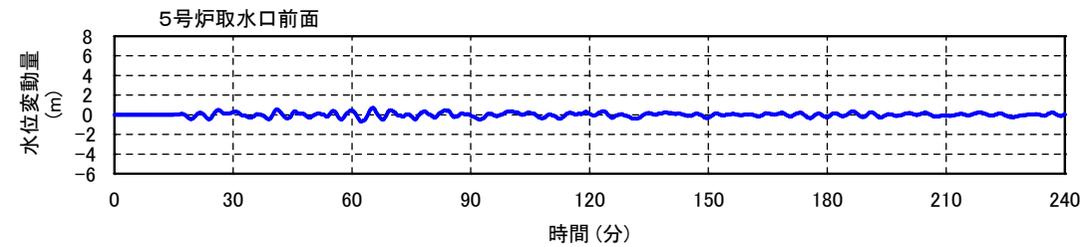
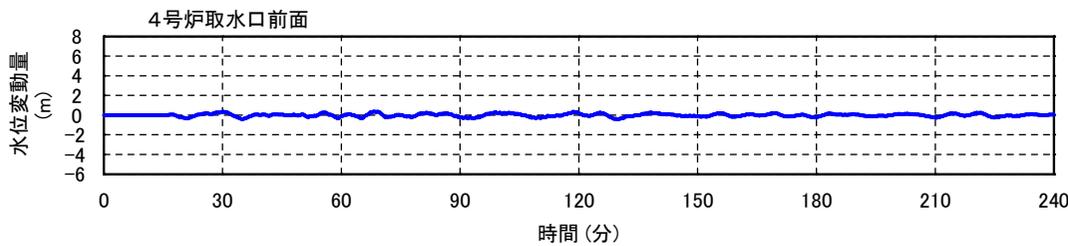
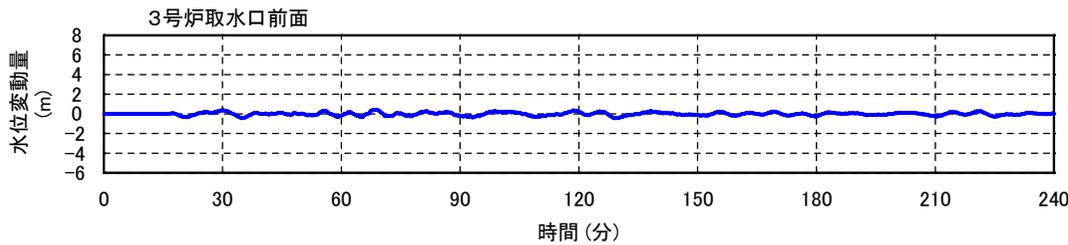
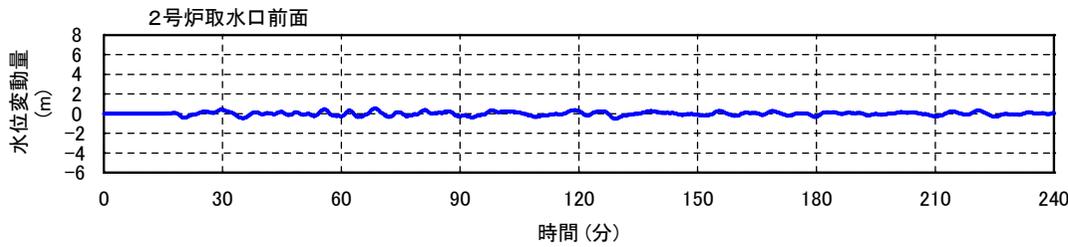
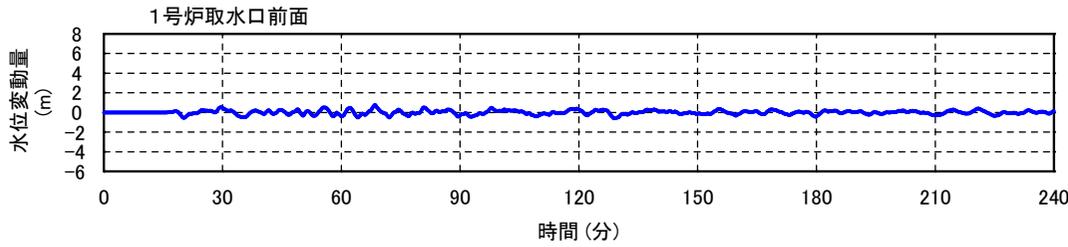
5. 1 日本海東縁部（2領域アスペリティモデル：水位上昇側最大ケース）



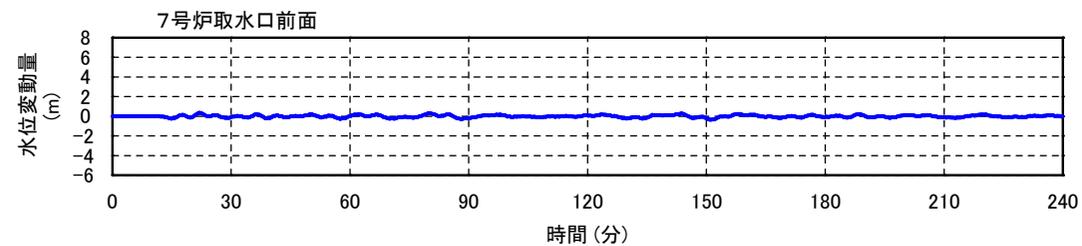
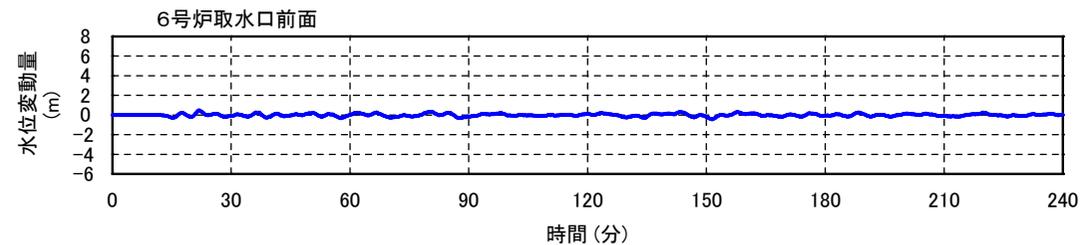
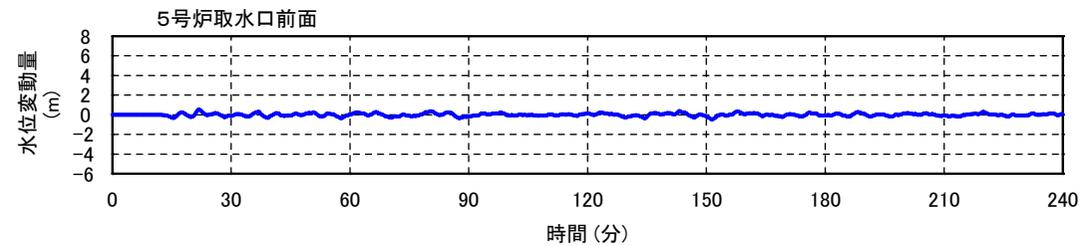
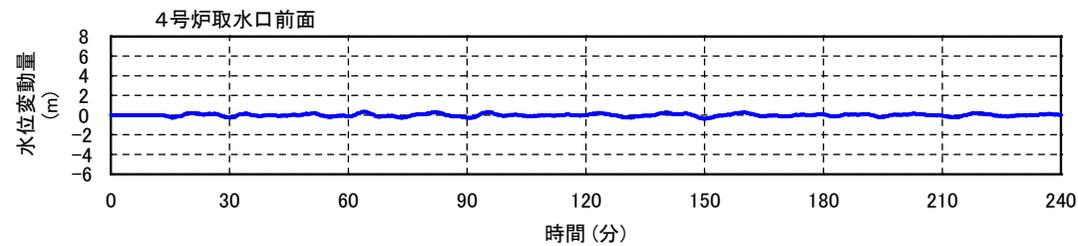
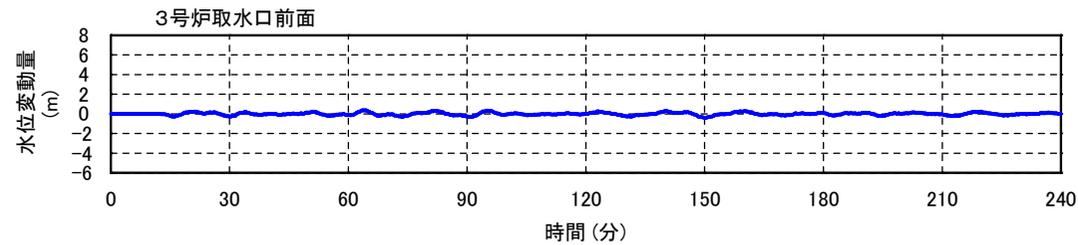
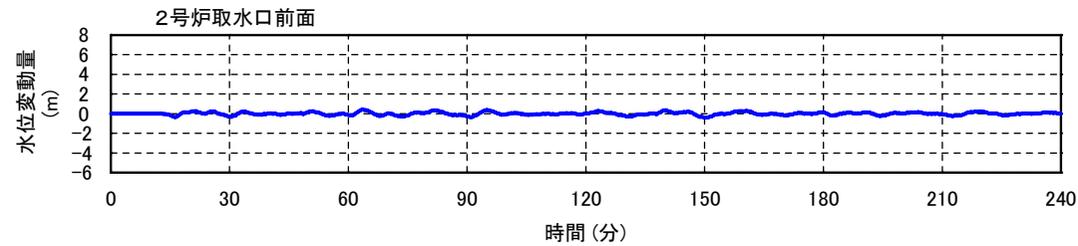
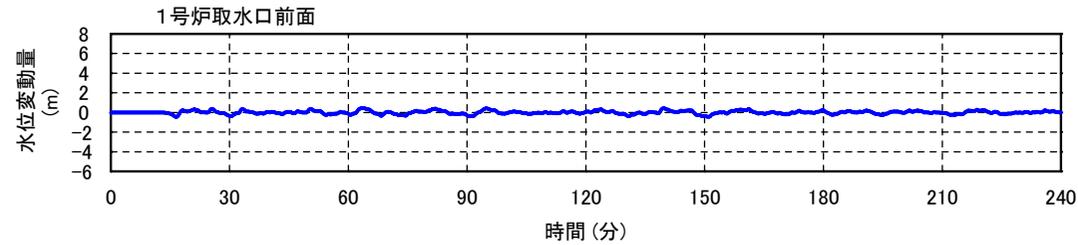
5. 1 日本海東縁部（2領域アスペリティモデル：水位下降側最大ケース）



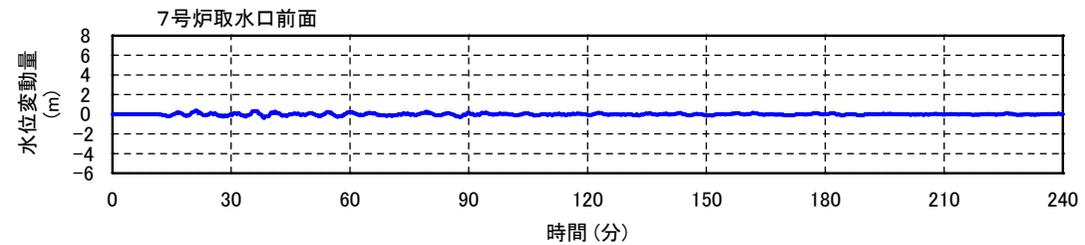
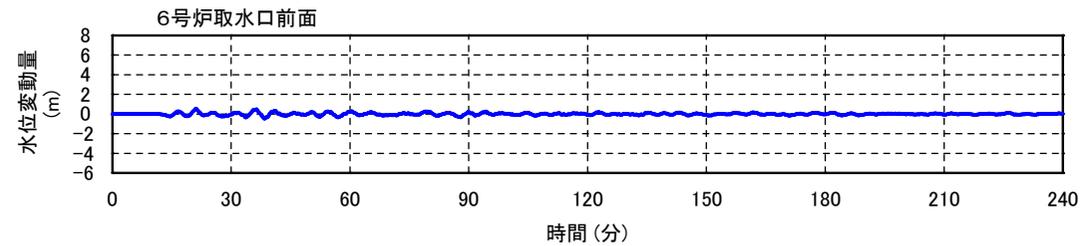
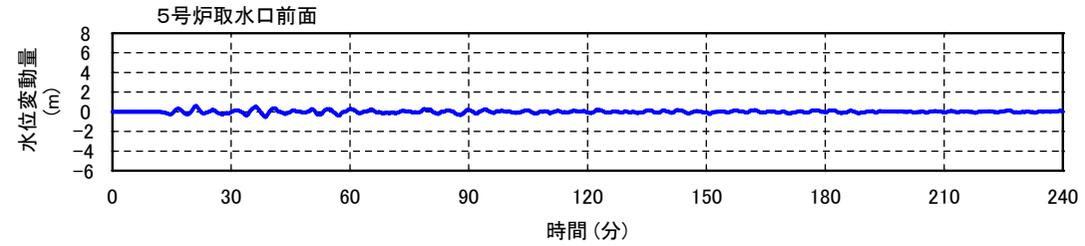
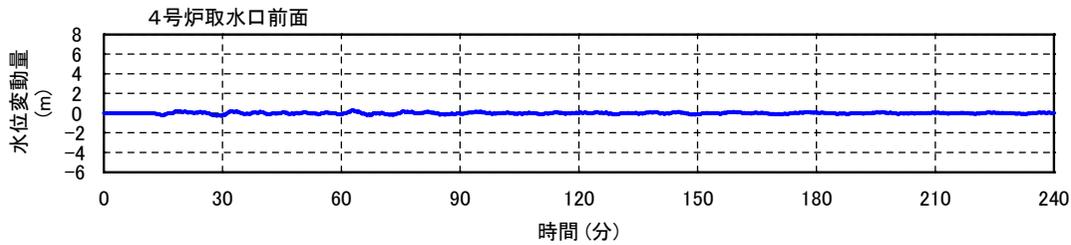
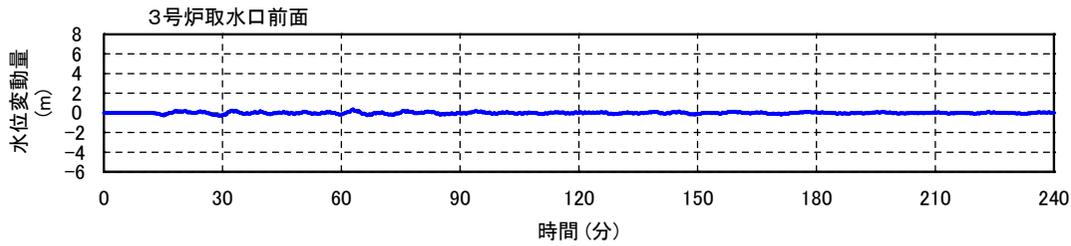
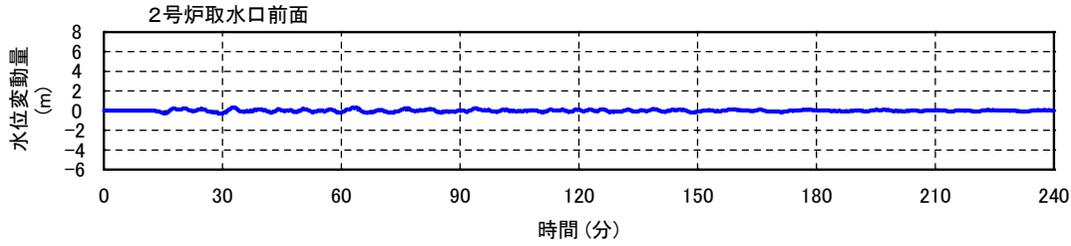
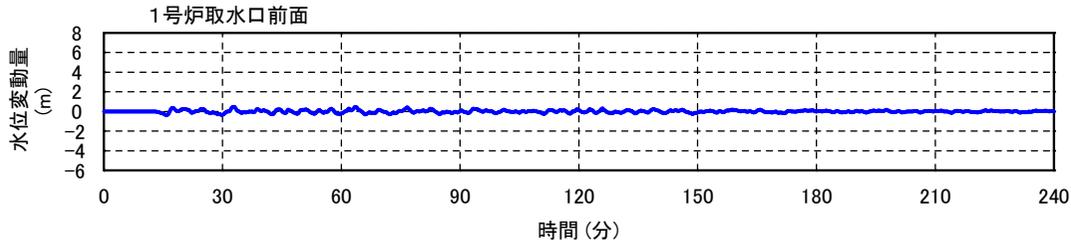
5. 1 海底地すべりによる津波（Wattsの予測式に基づく手法：LS-1）



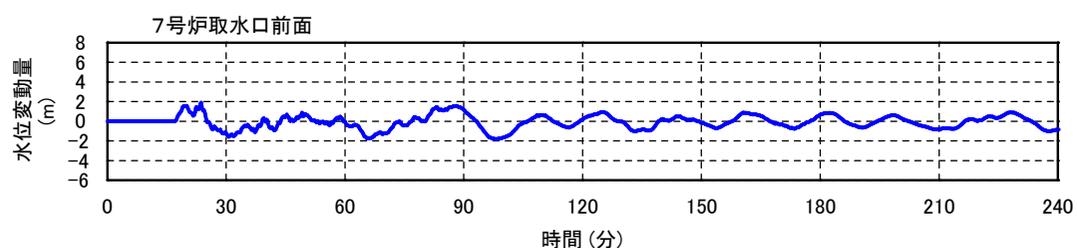
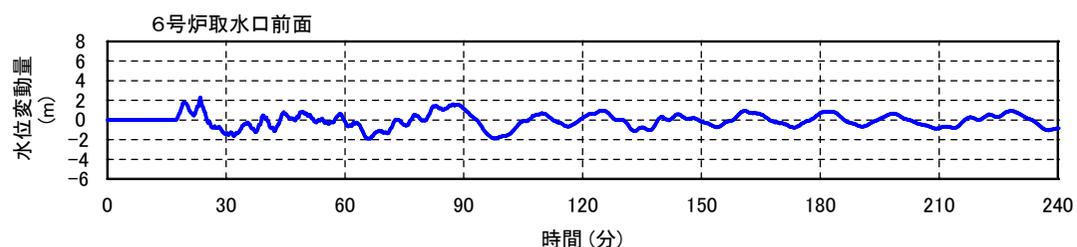
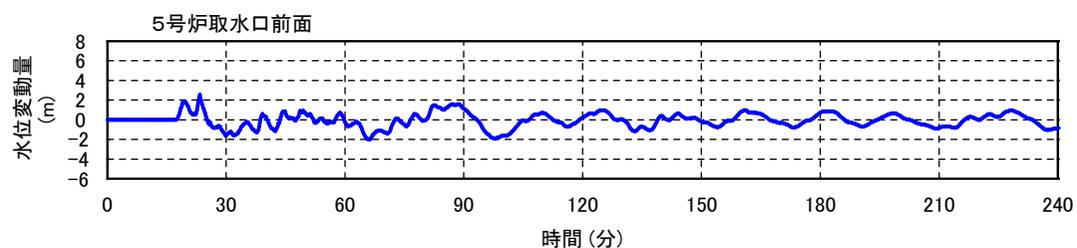
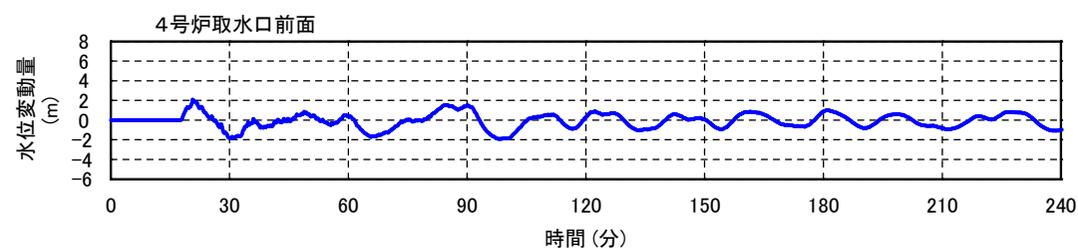
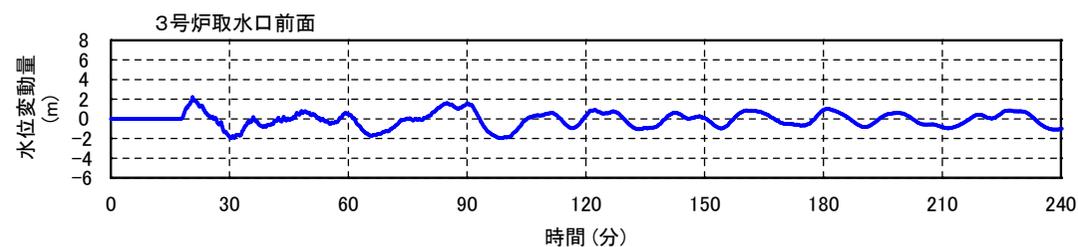
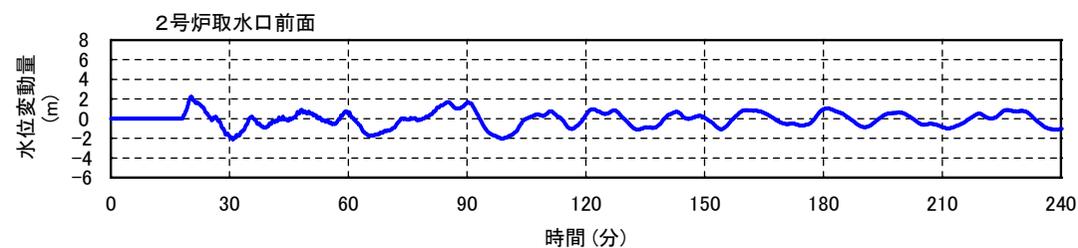
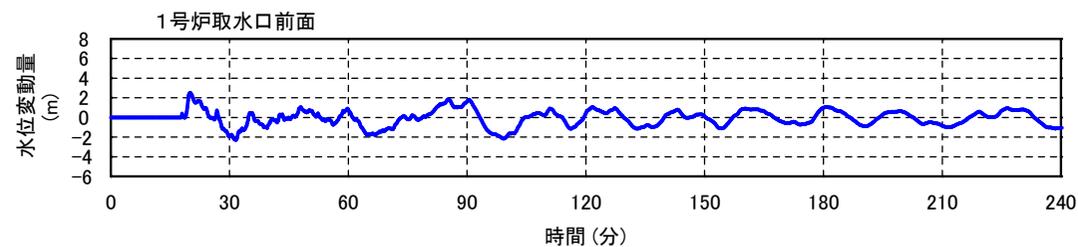
5. 1 海底地すべりによる津波 (Wattsの予測式に基づく手法：LS-2)



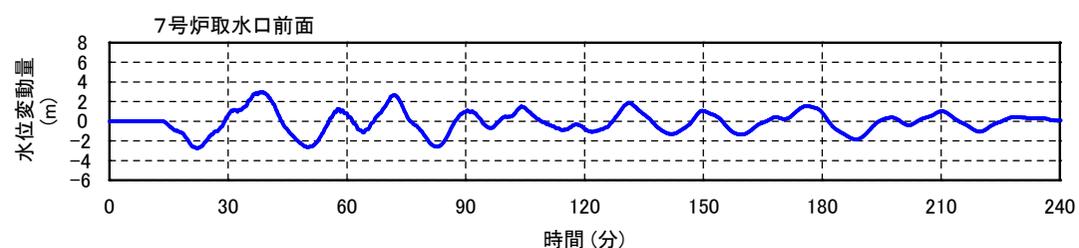
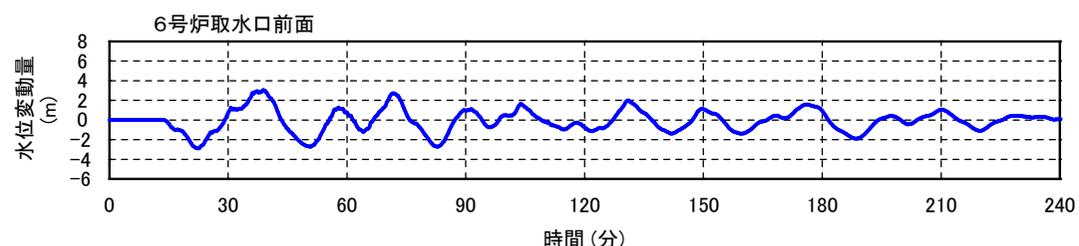
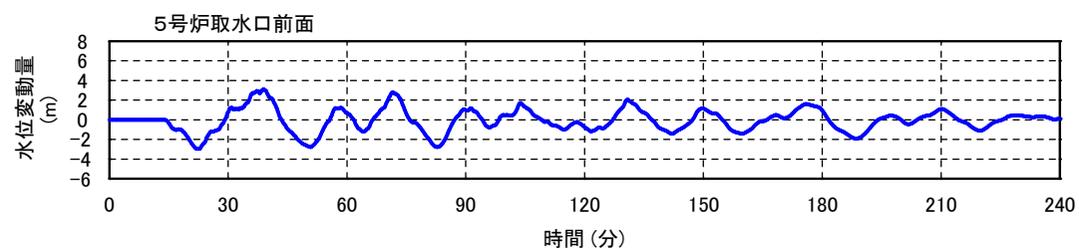
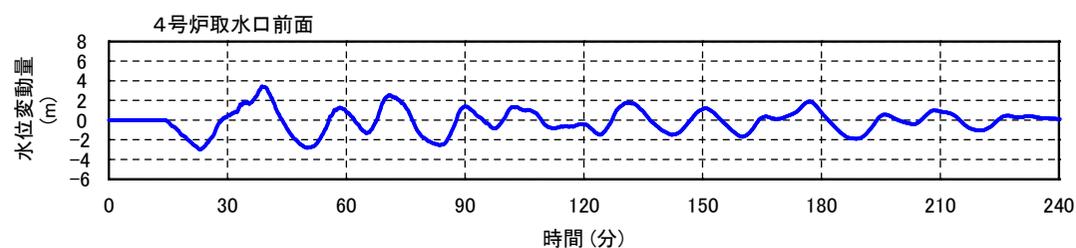
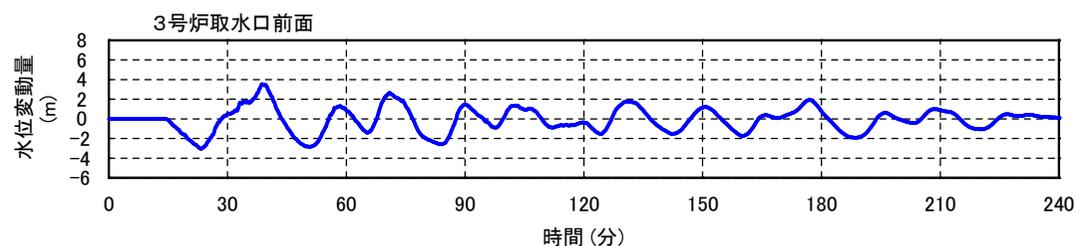
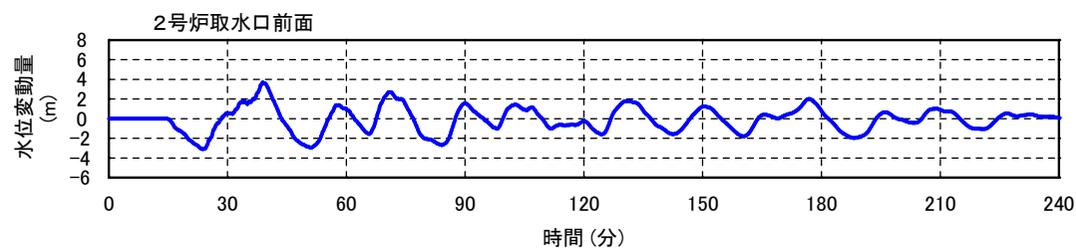
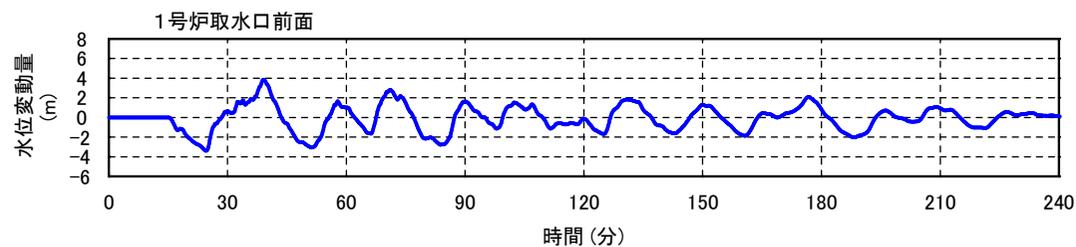
5. 1 海底地すべりによる津波 (Wattsの予測式に基づく手法 : L S-3)



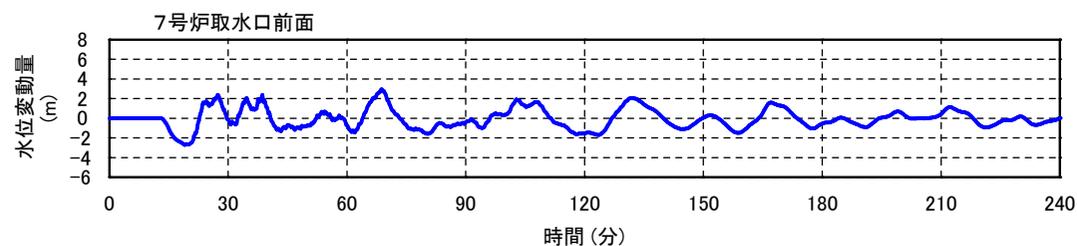
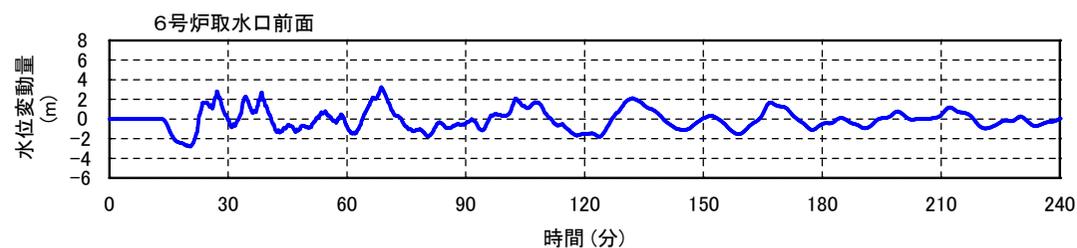
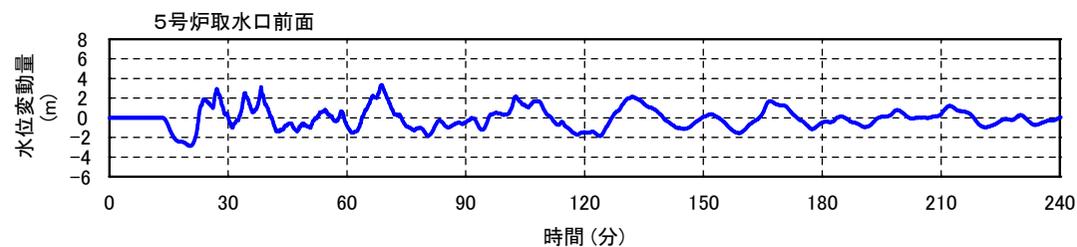
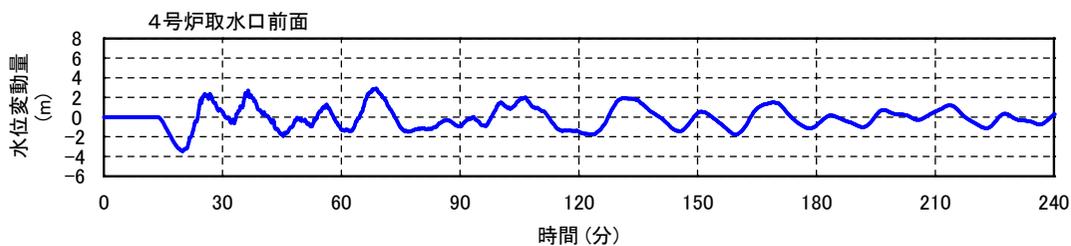
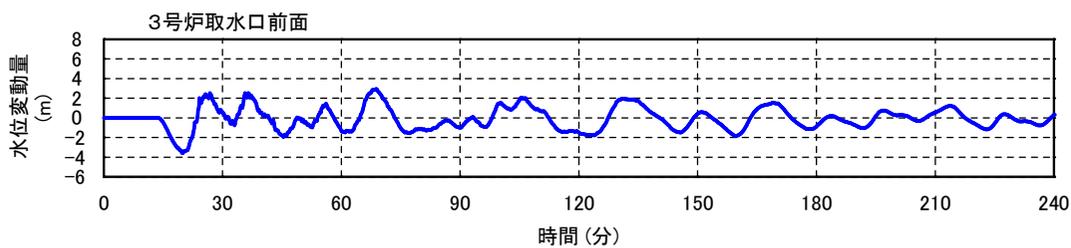
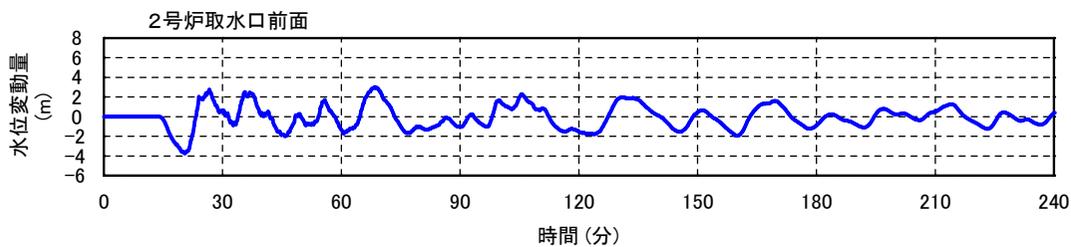
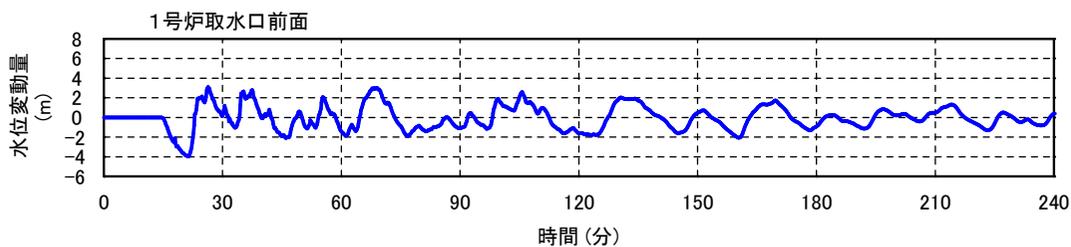
5. 1 海底地すべりによる津波（二層流モデルに基づく手法：LS-1）



5. 1 海底地すべりによる津波（二層流モデルに基づく手法：LS-2）

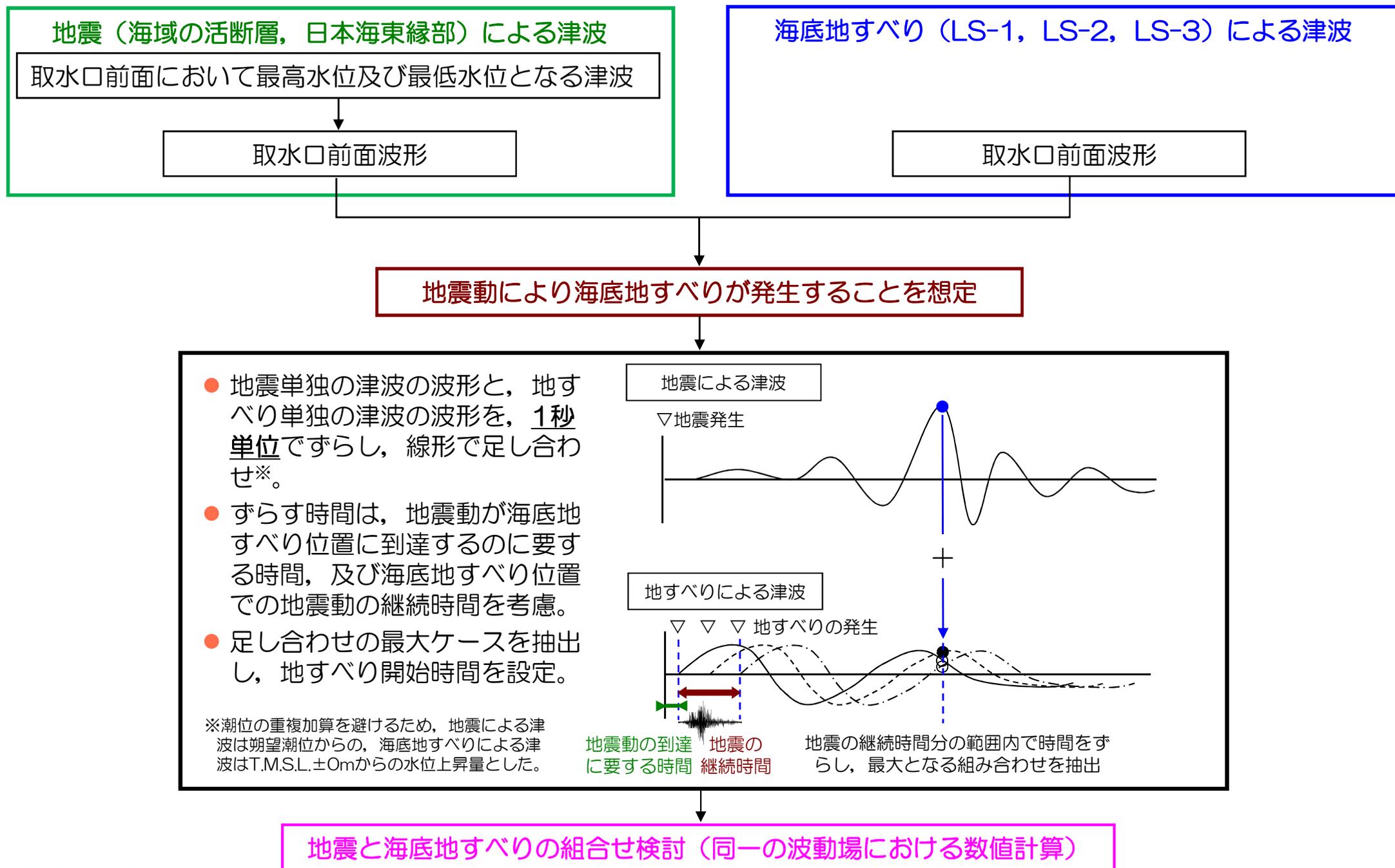


5. 1 海底地すべりによる津波（二層流モデルに基づく手法：LS-3）



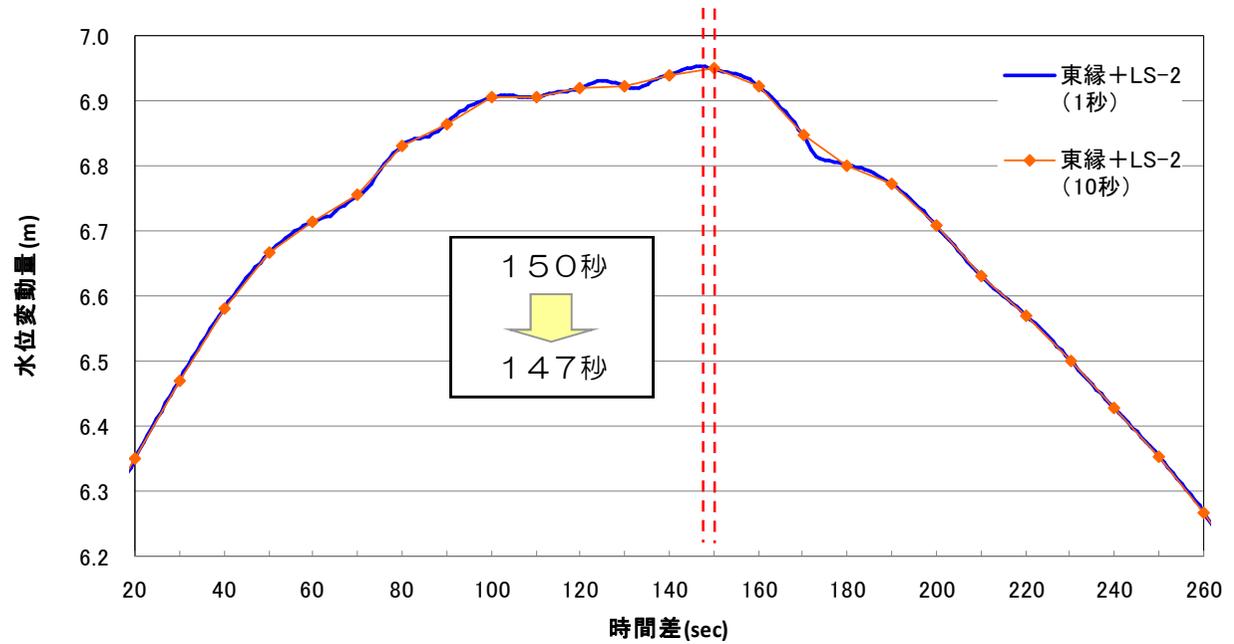
5. 2 組合せ時の時刻の検討について

5. 2 地震による津波と海底地すべりによる津波の組合せ検討



5. 2 地震による津波と海底地すべりによる津波の組合せ検討

- 足し合わせ時のずらす時間を細かくしたことによる影響を、日本海東縁部とLS-2の海底地すべりによる津波の組合せケースにより確認。
- ずらす時間を1秒とした場合、最高水位を示す時間差が150秒から147秒に変化した が、最高水位に有意な変化が生じないことを確認。
- その他のケースについても確認し、すべてのケースにおいて最高水位に有意な変化が生じないことを確認。



最高水位を示す時間差と最高水位変動量
日本海東縁部（1領域モデル）

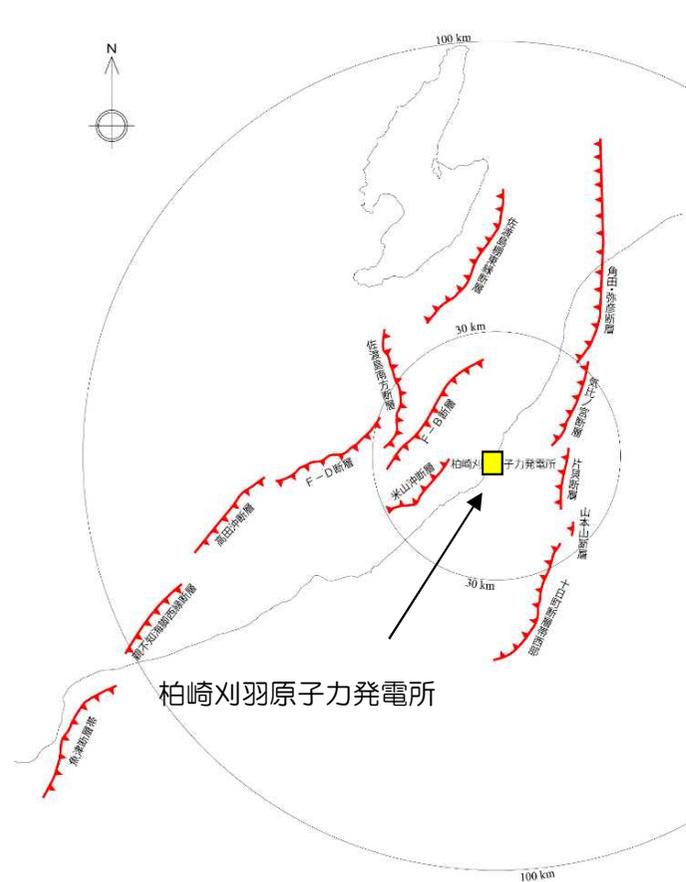
各地点の最高水位及び最低水位（足し合わせ時のずらす時間10秒，1秒の比較）

水位	地震	地すべり	時間差	最大時刻	水位 T. M. S. L. (m)								
					取水口前面							遡上域	
					1号炉	2号炉	3号炉	4号炉	5号炉	6号炉	7号炉	荒浜側	大湊側
上昇側	海域の活断層 (5断層連動モデル)	LS-2	1秒	114秒	+5.2	+5.1	+5.0	+4.9	+4.4	+4.4	+4.5	+8.5	+6.9
			10秒	110秒	+5.2	+5.1	+5.0	+4.9	+4.4	+4.4	+4.5	+8.5	+6.9
	日本海東縁 (1領域モデル)		1秒	147秒	+5.5	+5.5	+5.4	+5.3	+5.6	+5.6	+5.5	+7.3	+5.9
			10秒	150秒	+5.5	+5.5	+5.4	+5.3	+5.6	+5.6	+5.5	+7.3	+5.9
下降側	海域の活断層 (長岡十日町連動モデル)	LS-3	1秒	47秒	-4.8	-4.8	-4.7	-4.6	-4.5	-4.5	-4.5	+3.4	+2.1
			10秒	50秒	-4.8	-4.8	-4.7	-4.6	-4.5	-4.5	-4.5	+3.4	+2.1

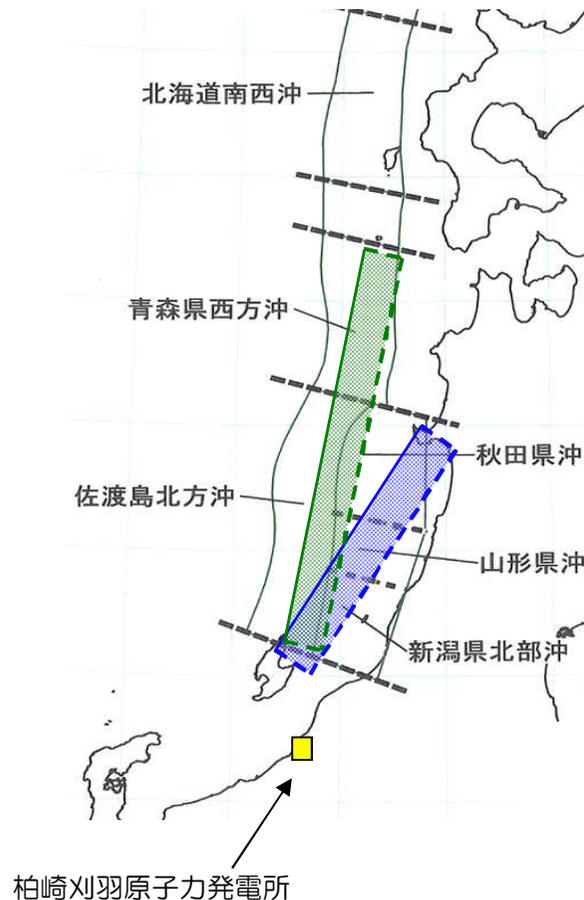
6. 1 津波の伝播特性について

6. 1 津波の伝播特性について

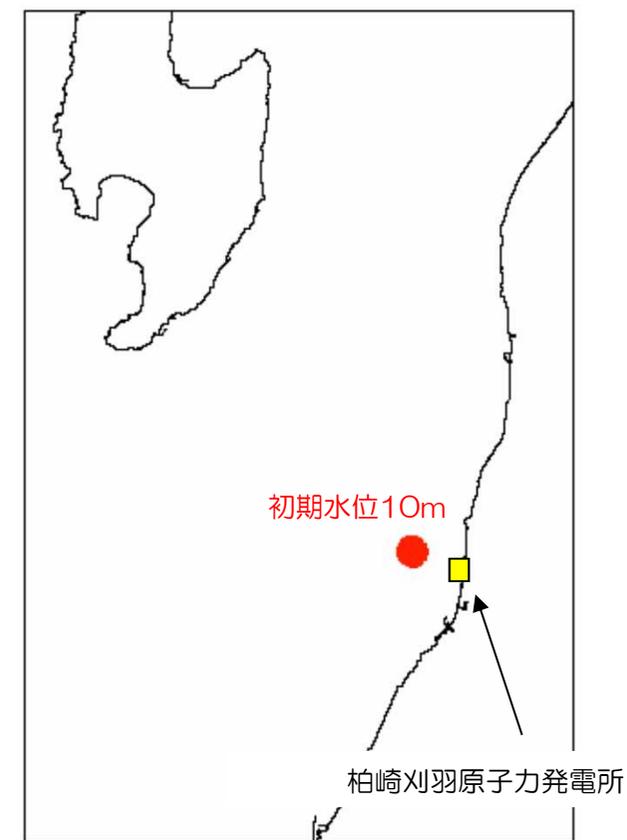
- 敷地前面海域（基準津波策定位置）を中心に半径2kmの範囲に一律に10mの初期水位を与え，津波計算を実施した。



敷地周辺海域の活断層分布図

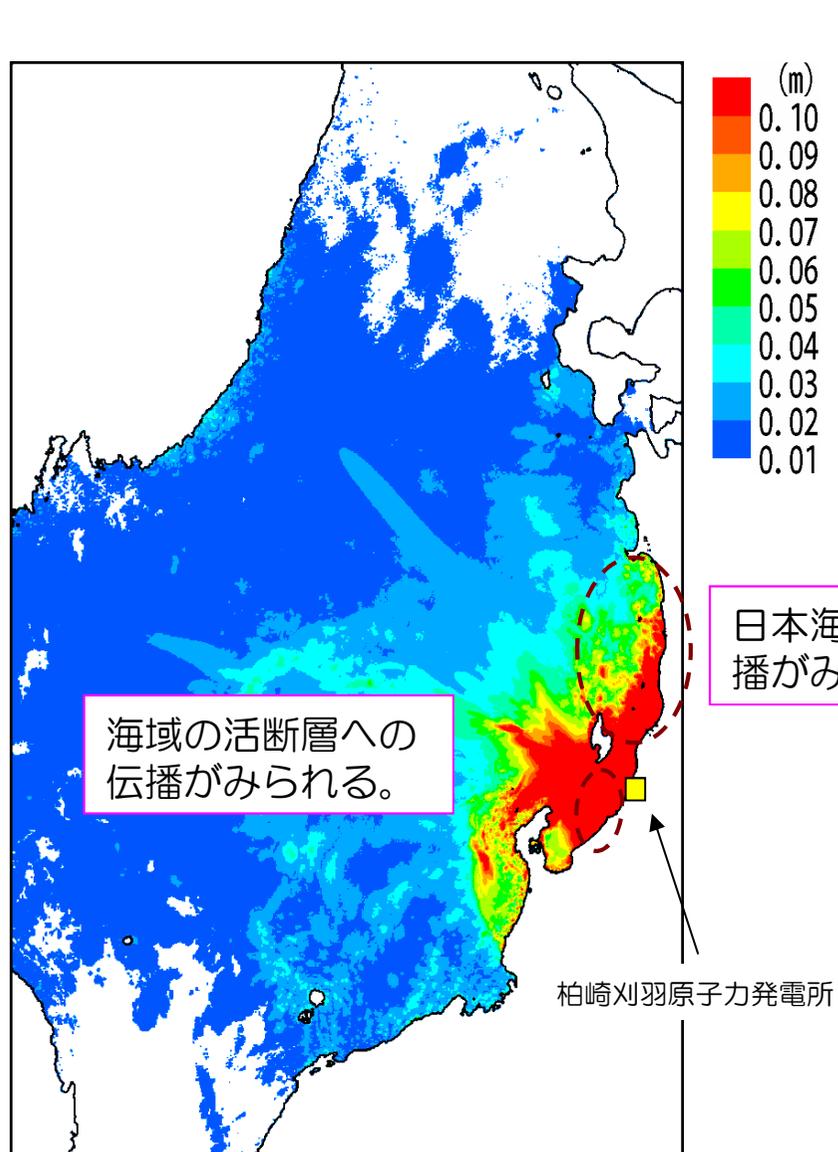


日本海東縁部の想定波源図

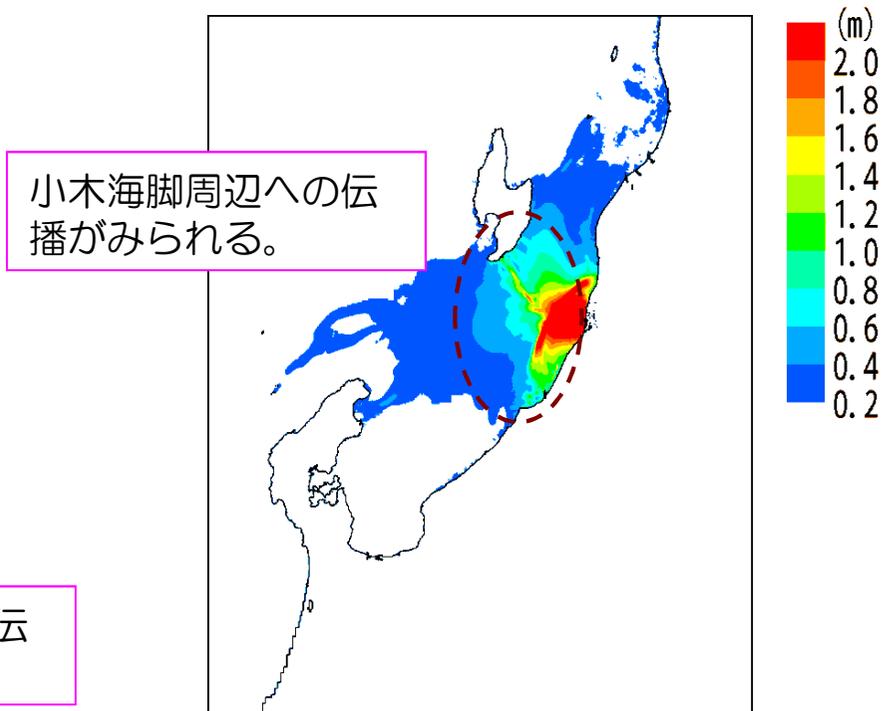


初期水位分布

6. 1 津波の伝播特性について（最大水位上昇量分布）



最大水位上昇量分布（広域）



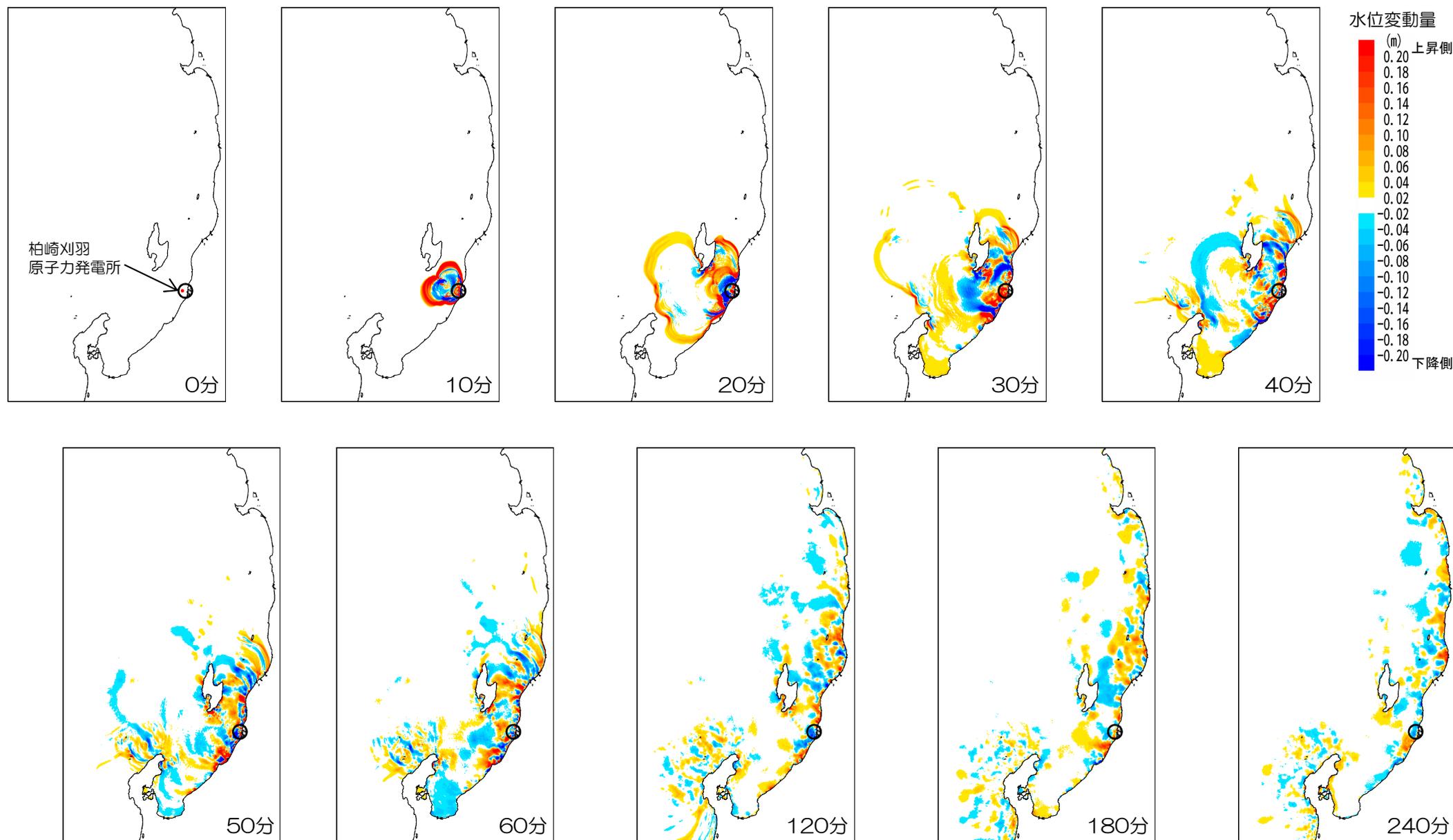
最大水位上昇量分布
（発電所周辺拡大）

- 日本海東縁部および海域の活断層の分布領域への伝播が確認され、当該領域からの津波を基準津波、入力津波としたことと整合的である。

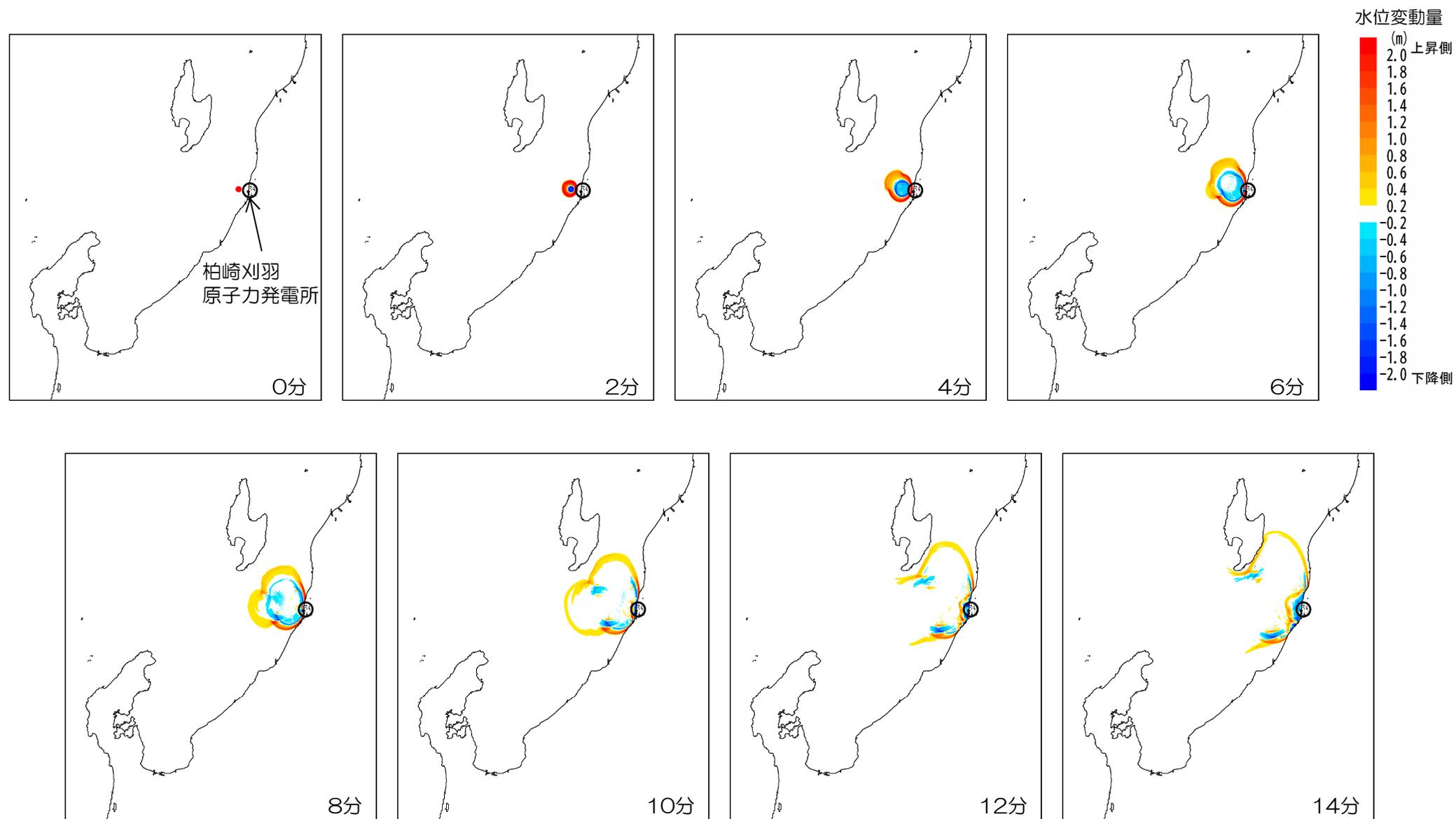
※水深による津波振幅への影響を軽減するため、「グリーンの法則」を用いて補正

波源位置水深（ $h_0=100\text{m}$ ）、沖合地点の水深を h として、最大水位上昇量を $(h_0/h)^{1/4}$ で除することで水位を補正

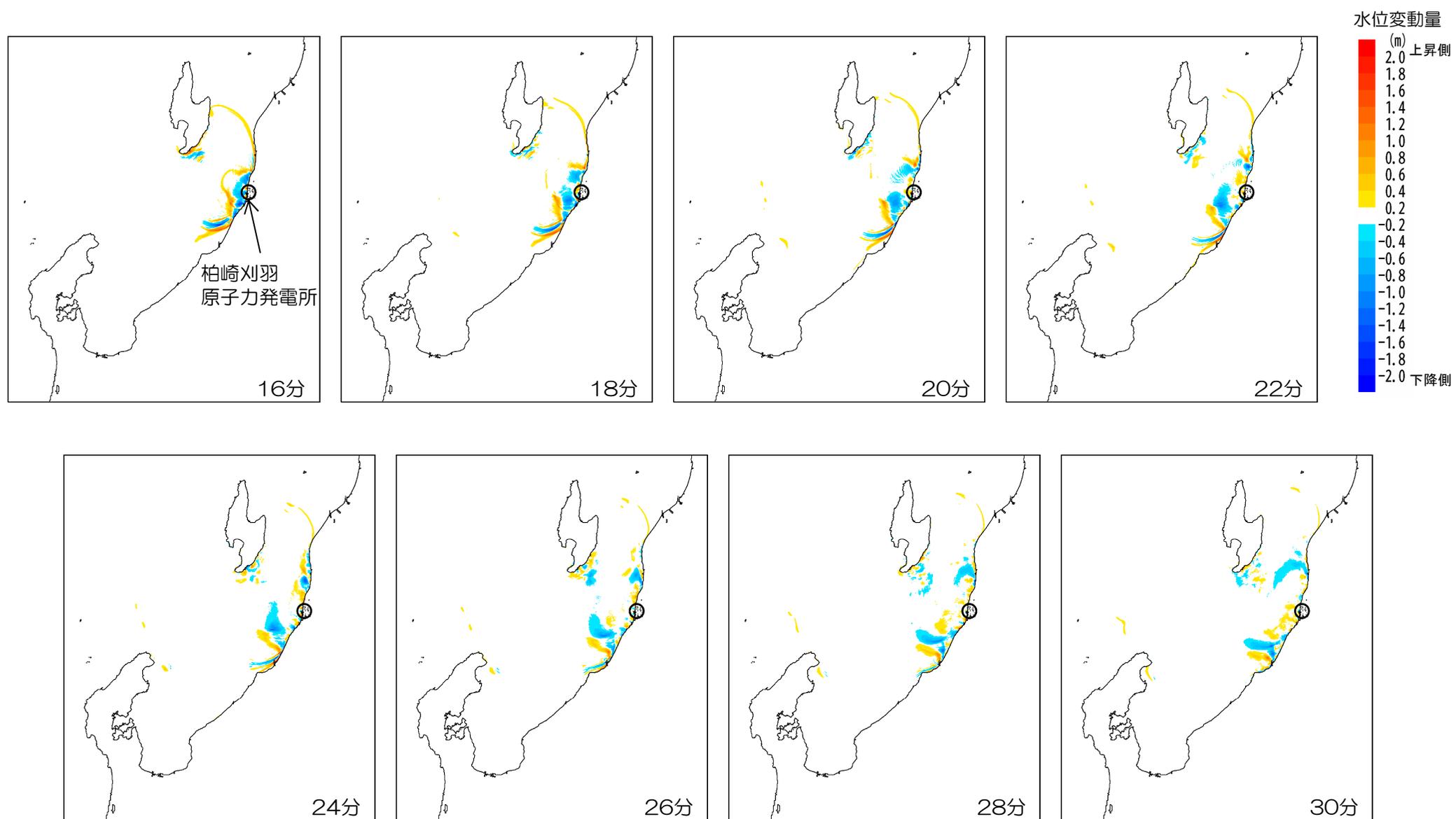
6. 1 津波の伝播特性について（伝播状況：広域）



6. 1 津波の伝播特性について（伝播状況：発電所周辺）



6. 1 津波の伝播特性について（伝播状況：発電所周辺）

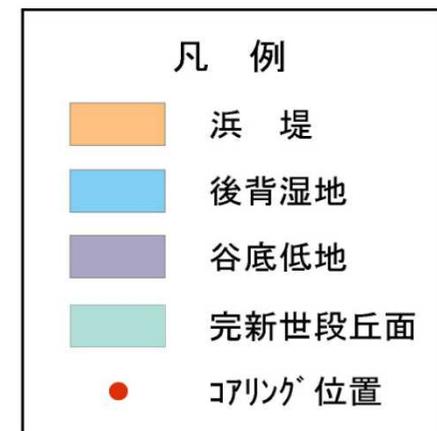
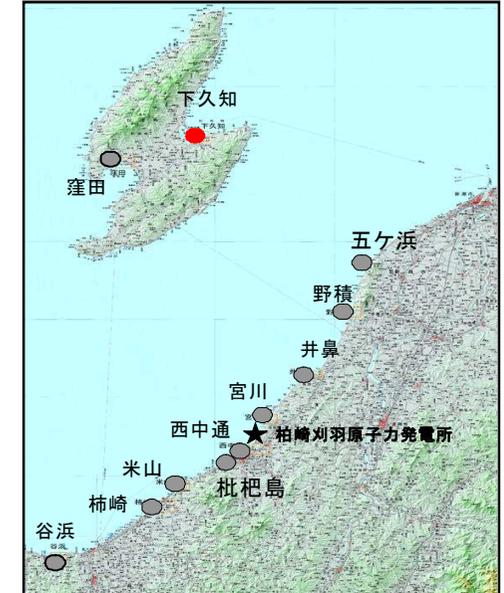
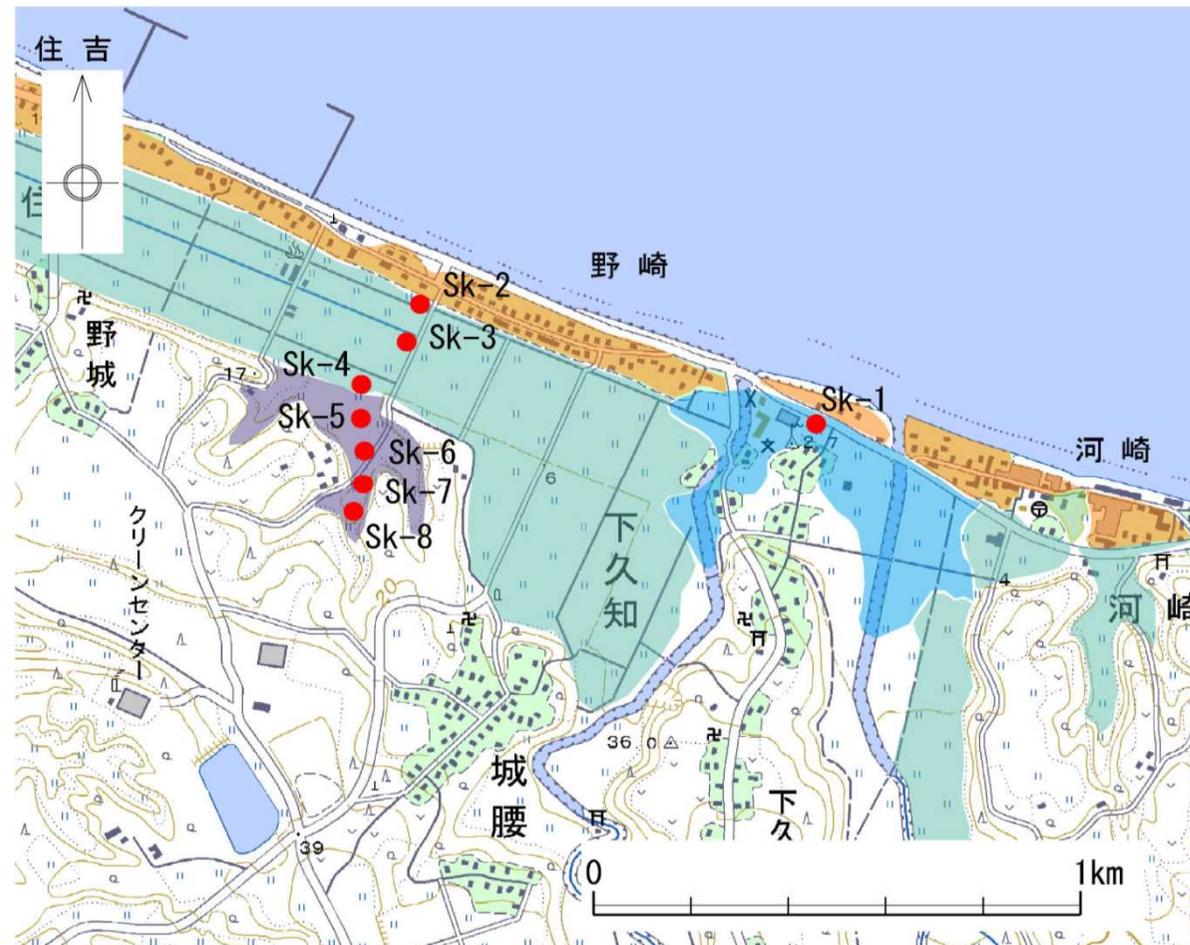


7. 1 津波堆積物調査（資料集）

7. 1 (1) 津波堆積物調査地点の選定 【佐渡市：下久知】

選定理由

- 浜堤の背後に低地（後背湿地，段丘，谷底低地）が存在し，泥炭層や腐植質泥層などが分布することが期待され，津波堆積物が残存する可能性がある。
- 近傍の加茂湖における既存調査において，津波堆積物の可能性が指摘されている。



下久知地点の調査位置図

7. 1 (1) 津波堆積物調査地点の選定 【佐渡市：窪田】

選定理由

- 浜堤の背後に低地（完新世段丘）が存在し、泥炭層や腐植質泥層が分布することが期待され、津波堆積物が残存する可能性がある。

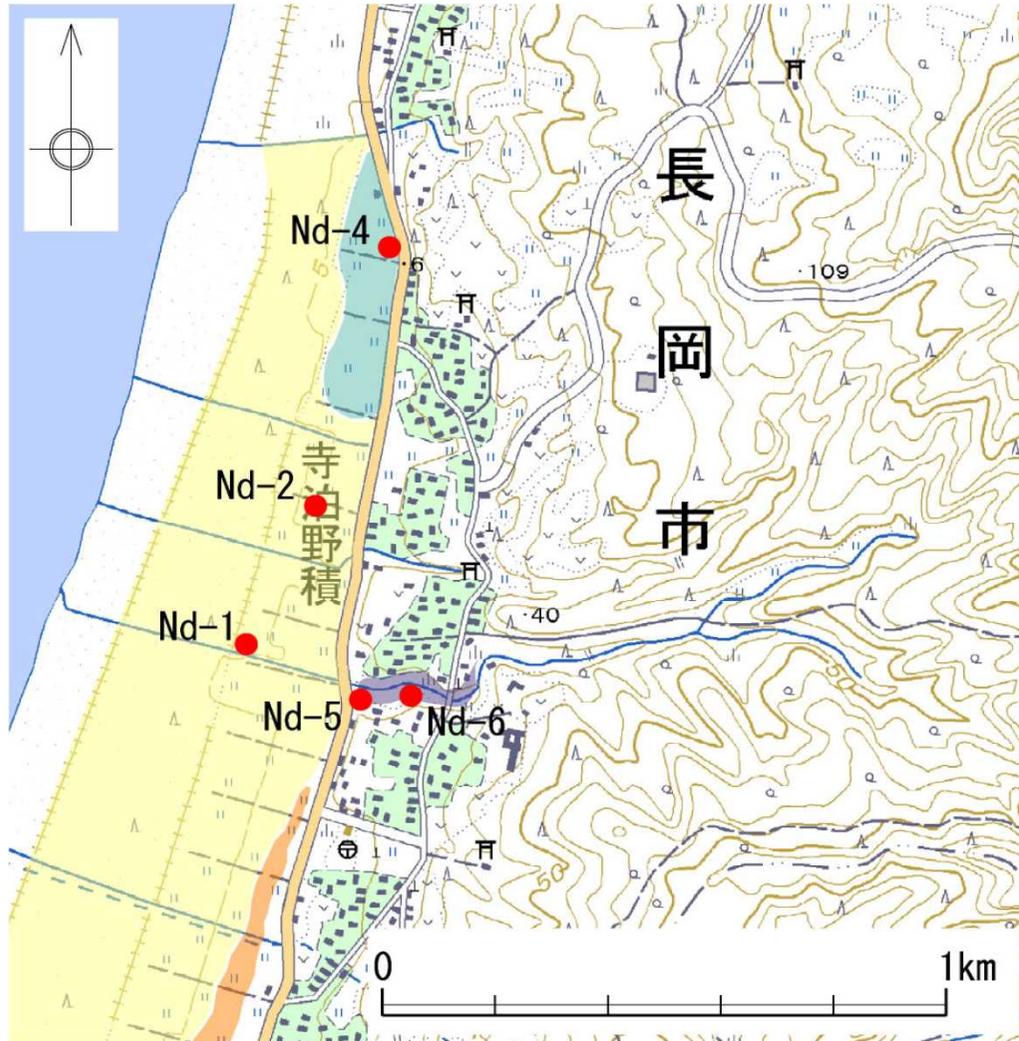


窪田地点の調査位置図

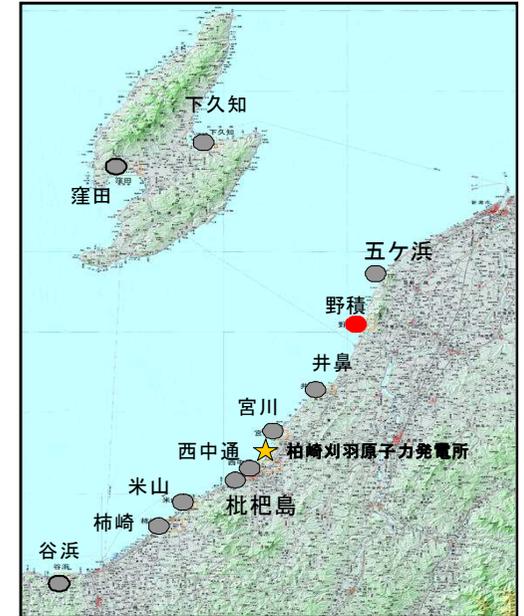
7. 1 (1) 津波堆積物調査地点の選定 【長岡市：野積】

選定理由

- 砂丘の背後に低地（完新世段丘，谷底低地）が存在しており，泥炭層や腐植質泥層が分布することが期待され，津波堆積物が残存する可能性がある。



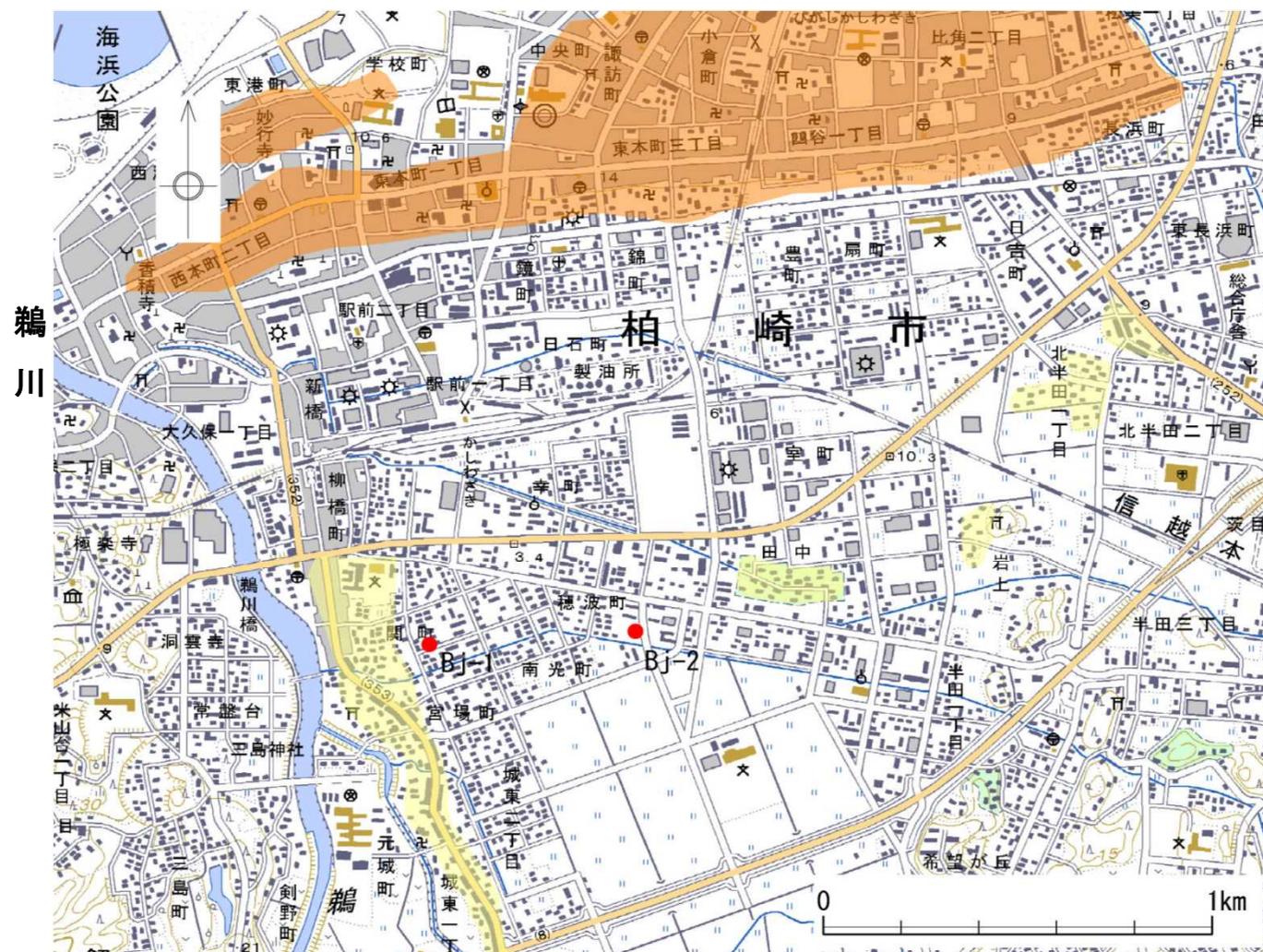
野積地点の調査位置図



7. 1 (1) 津波堆積物調査地点の選定 【柏崎市：枇杷島】

選定理由

- 鵜川の自然堤防の背後に低地（沖積低地）が存在し、泥炭層や腐植質泥層が分布することが期待され、鵜川を遡上した津波による津波堆積物が残存する可能性がある。



枇杷島地点の調査位置図

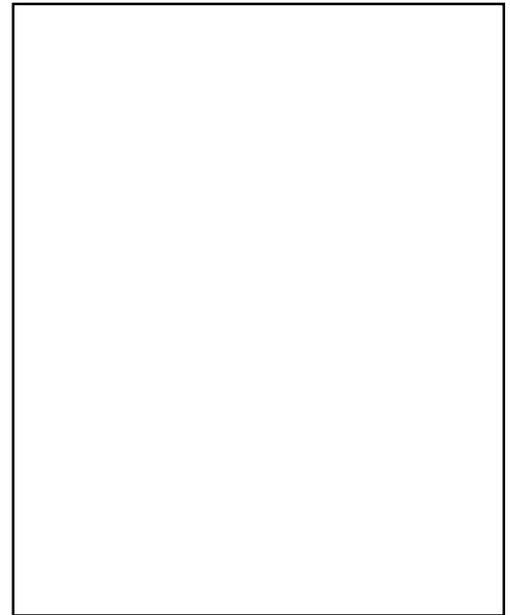
7. 1 (1) 津波堆積物調査地点の選定 【上越市：谷浜】

選定理由

- 海岸付近に段丘面が分布しており，段丘面に遡上した津波による津波堆積物が残存する可能性がある。



谷浜地点の調査位置図

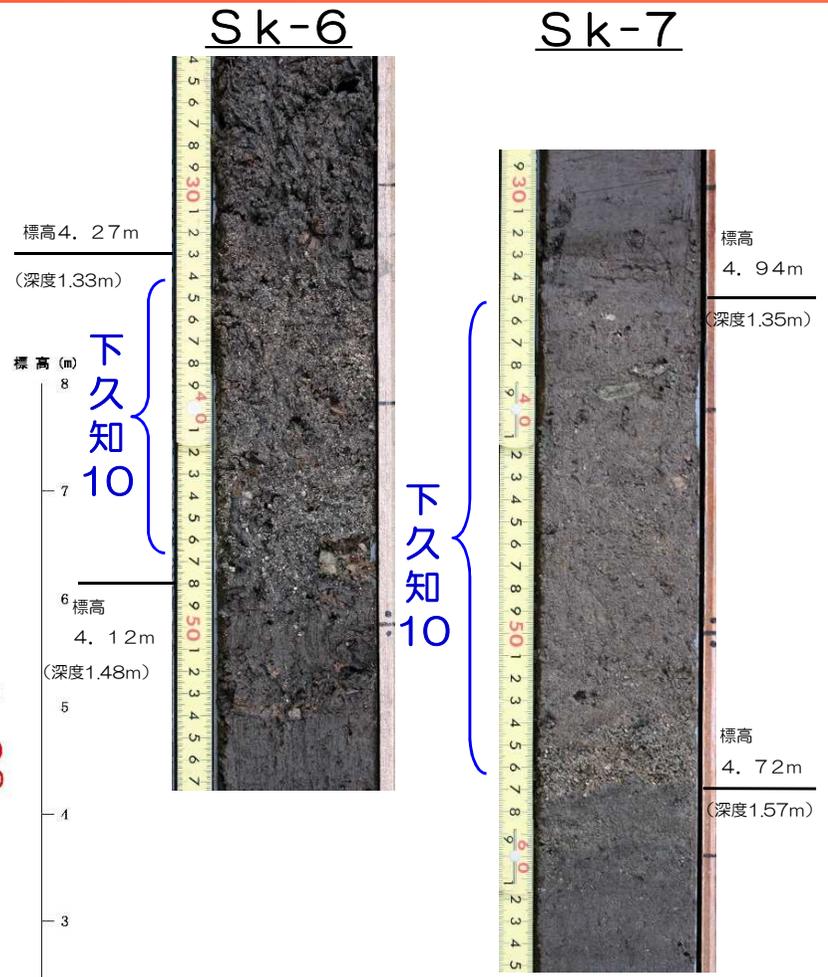
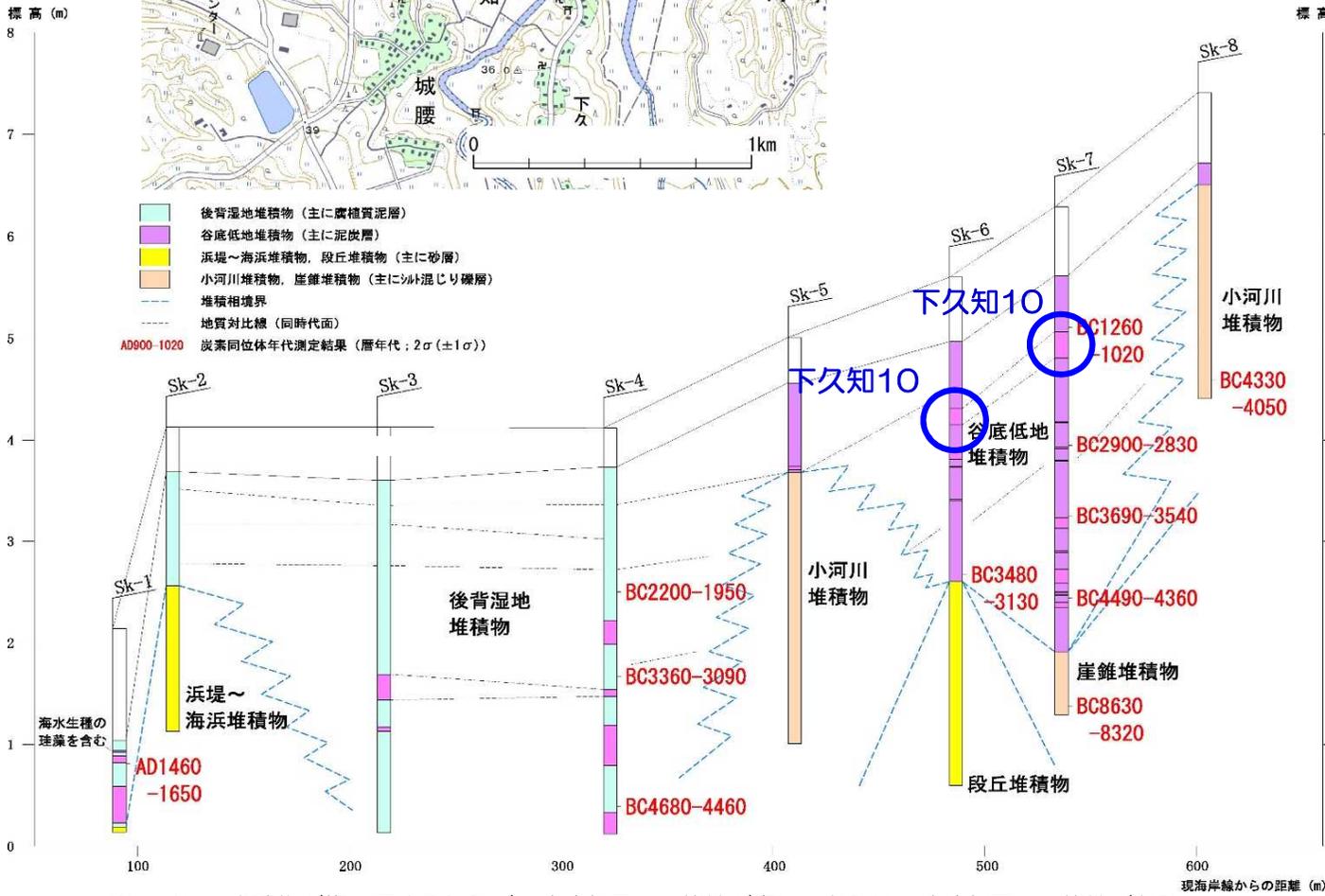


凡例	
	完新世段丘(低)
	完新世段丘(高)
	コアリング位置

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【下久知地点③】



- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号



【評価】
 層相は下面境界が明瞭あるいは漸移的で、淘汰が不良であることから津波以外の要因の可能性が高いと評価。(珪藻分析並びに粒度・粒子組成分析から判断材料は得られなかった。)

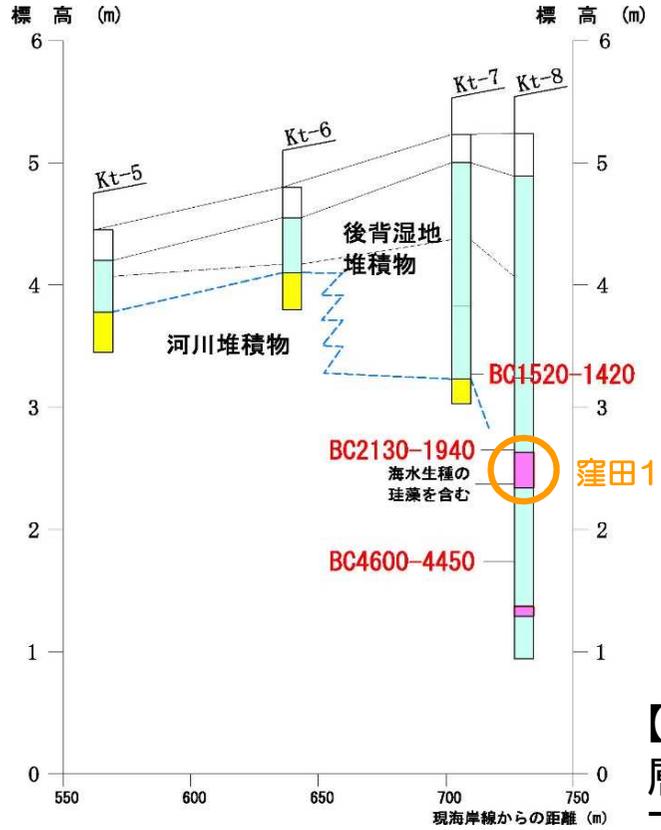
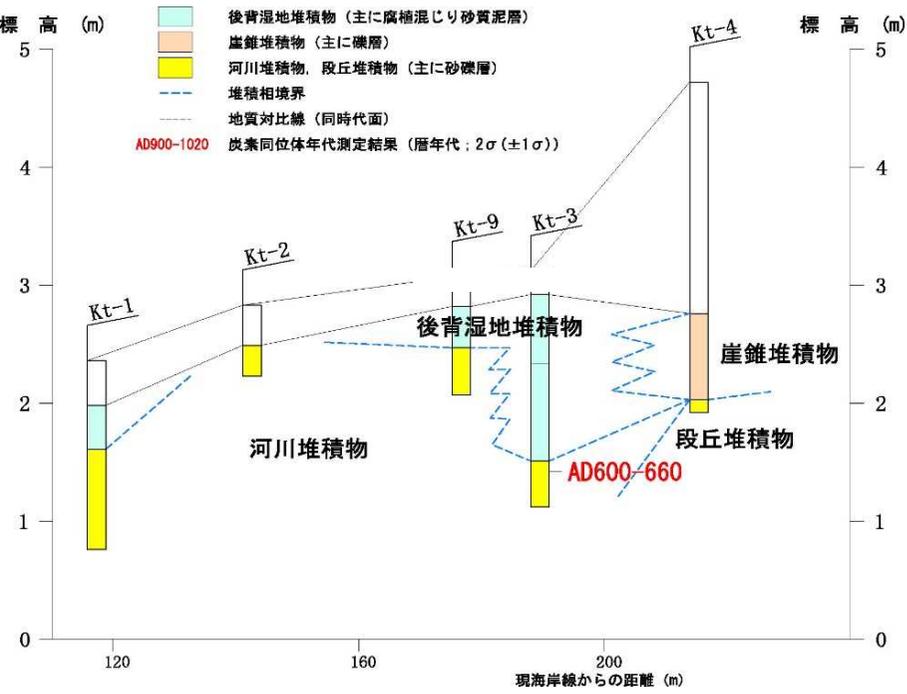
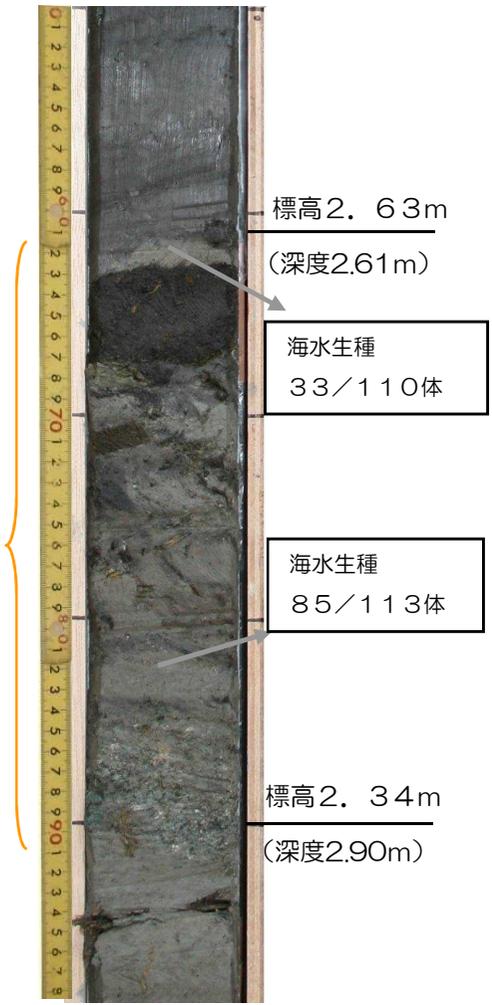
※イベント堆積物が複数認められるが、津波起因の可能性が高い、あるいは津波起因の可能性があると評価されたイベント堆積物より標高の低いイベント堆積物の堆積要因の検討は実施していない。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【窪田地点】



- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号

Kt-8のコア写真

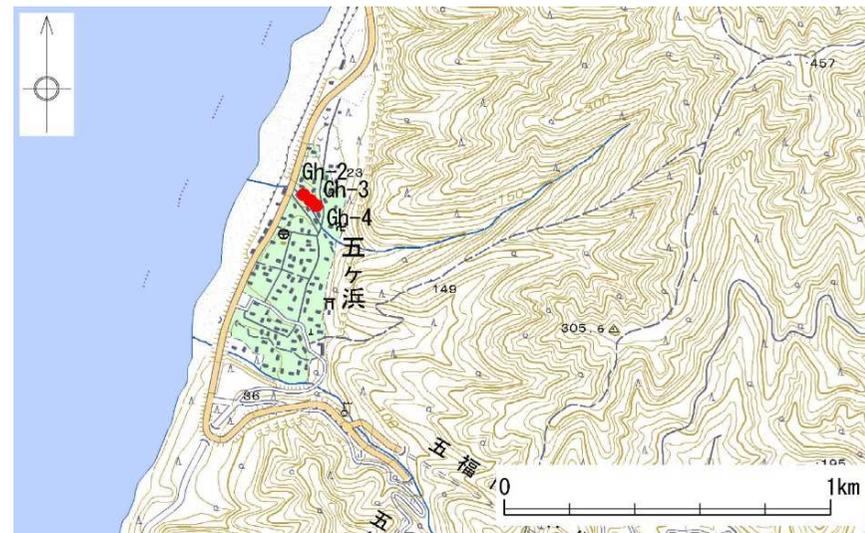
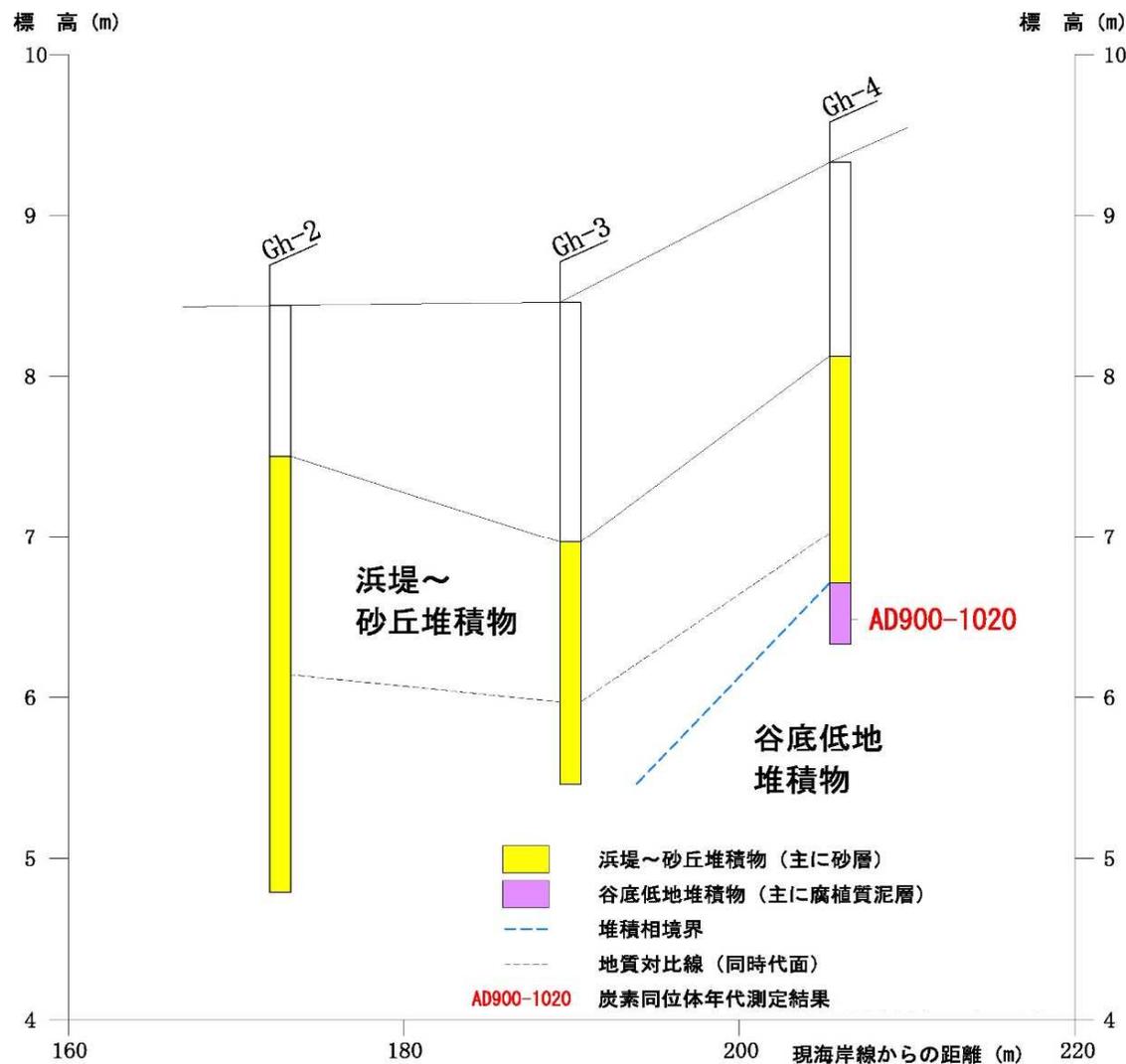


窪田1

【評価】
 層相は淘汰が不良であるものの、
 下面境界が明瞭であり、海水生種
 の珪藻が認められることから、津波
 起因の可能性があると評価。

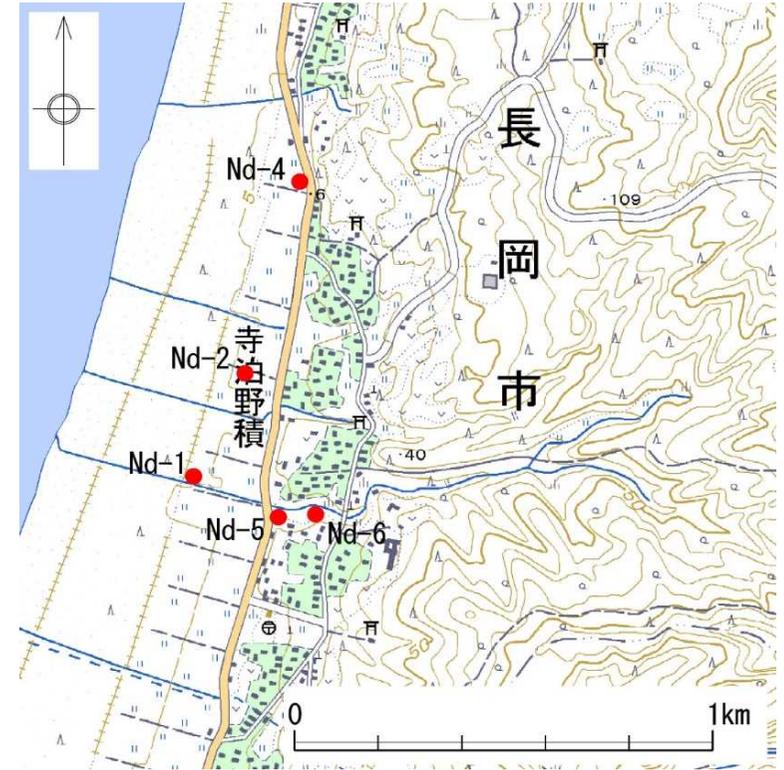
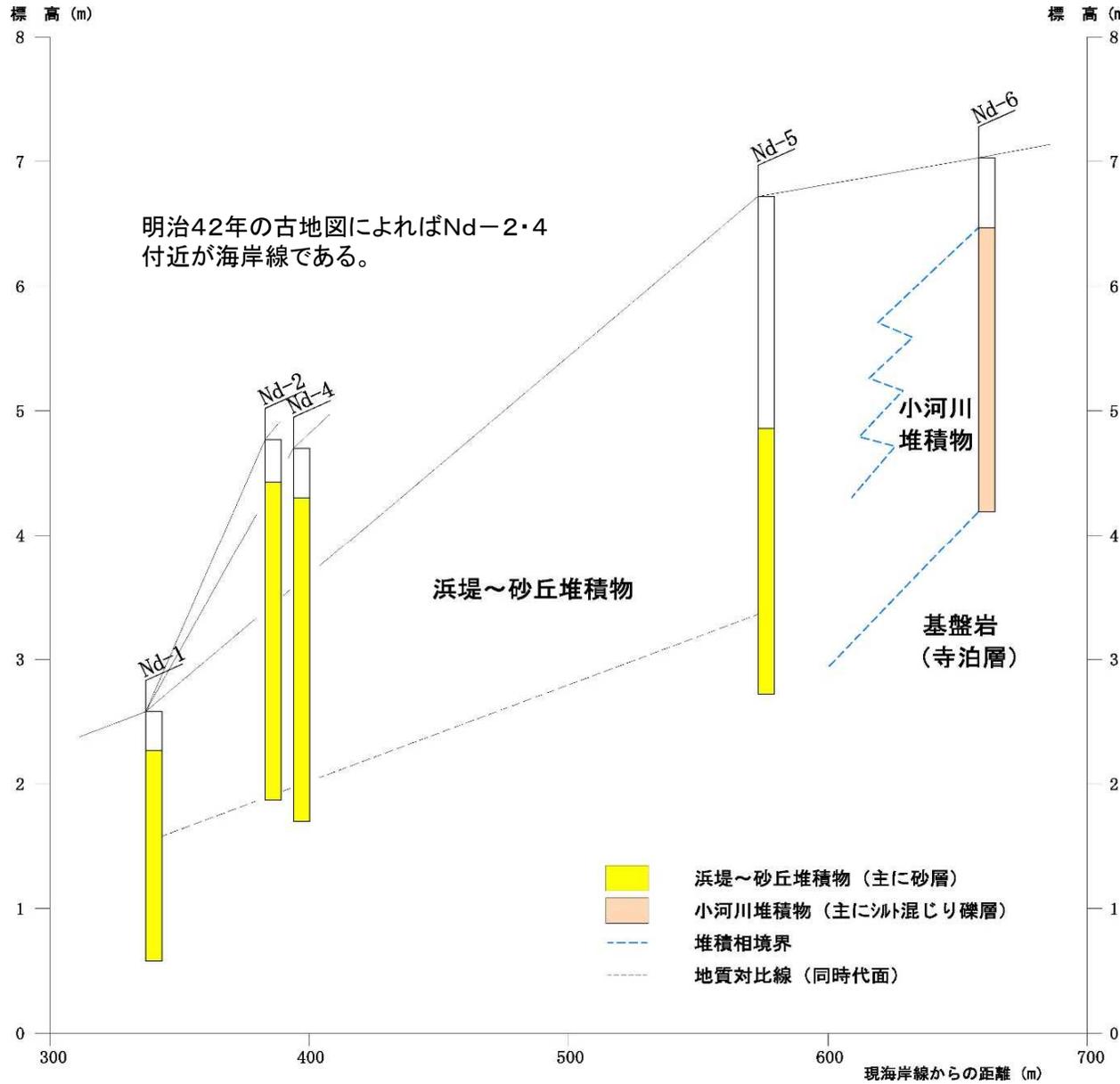
※イベント堆積物が複数認められるが、津波起因の可能性が高い、あるいは津波起因の可能性があり、と評価されたイベント堆積物より標高の低いイベント堆積物の堆積要因の検討は実施していない。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【五ヶ浜地点】



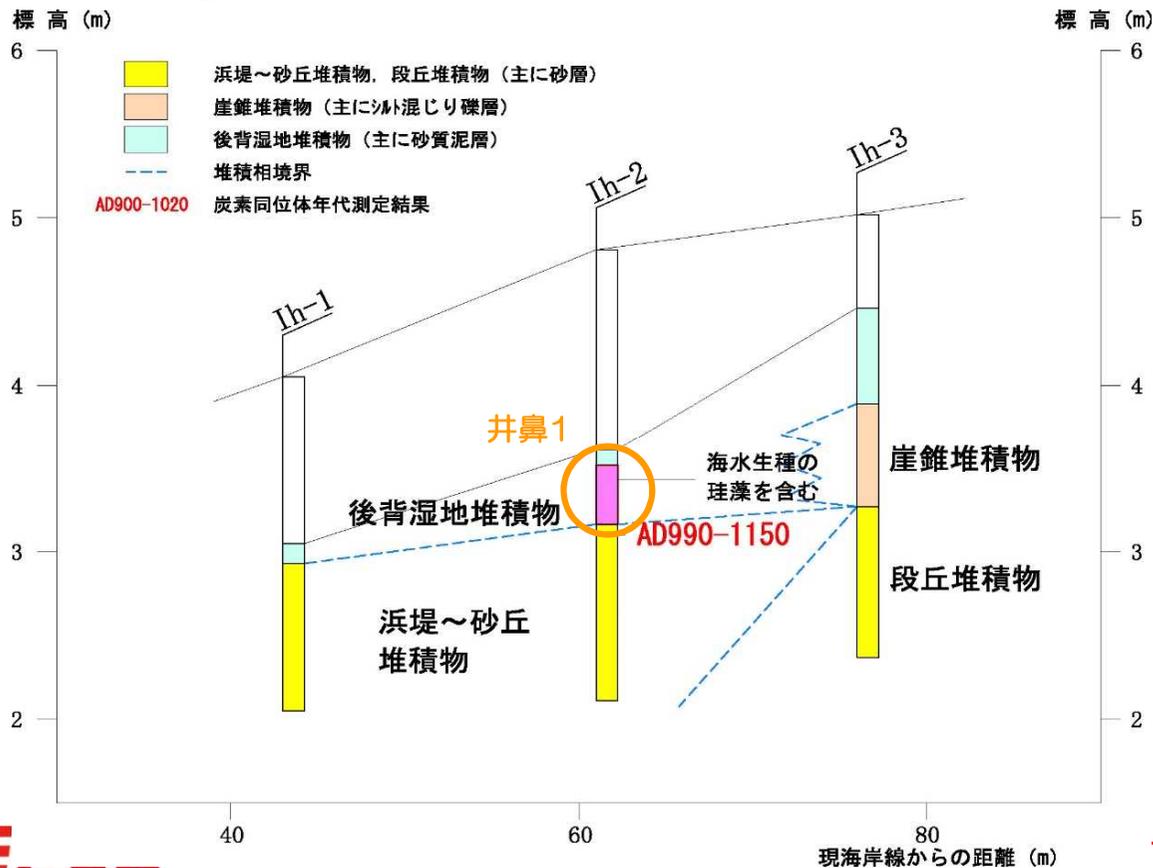
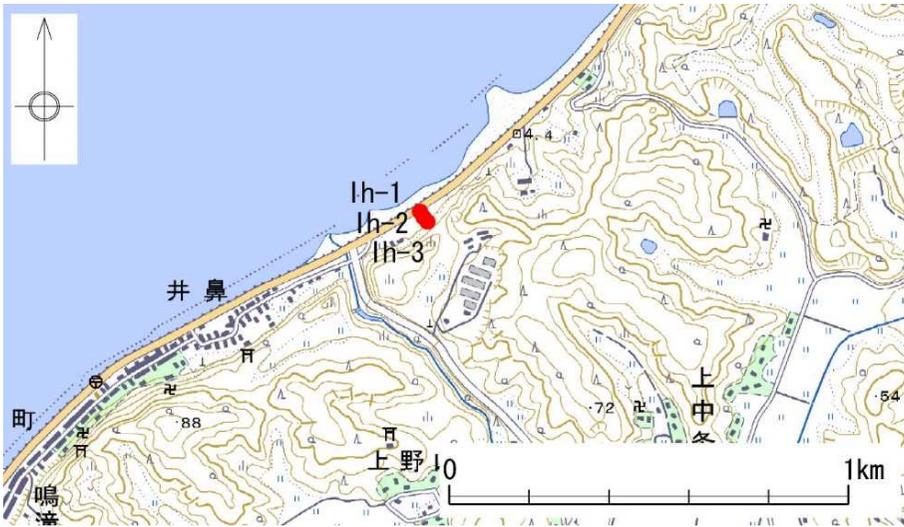
評価に適する堆積物が存在しない。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【野積地点】



評価に適する堆積物が存在しない。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【井鼻地点】



- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号

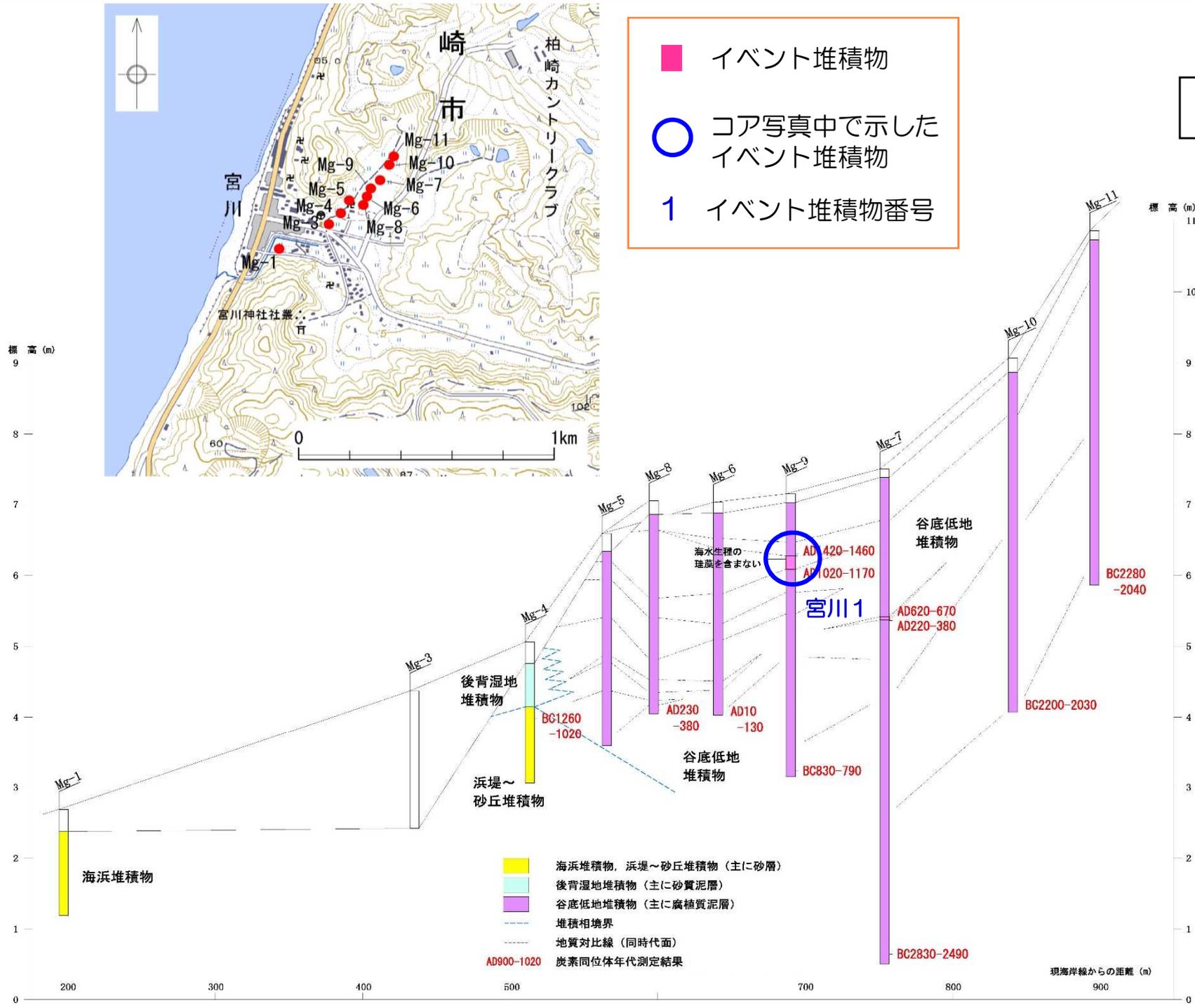
井鼻1

lh-2のコア写真

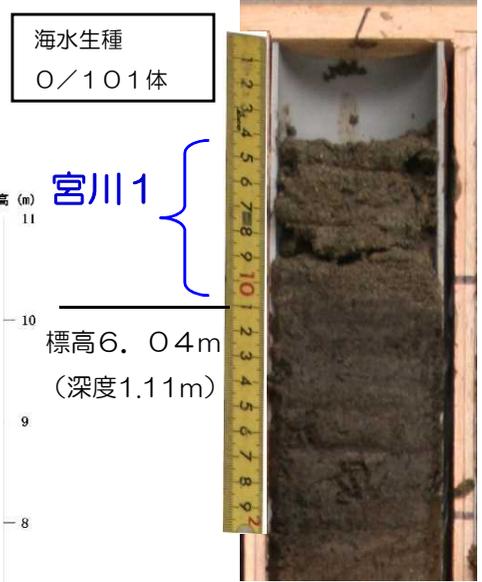


【評価】
 層相は、下面境界がやや不明瞭であるものの、砂層の中にシルト塊が取り込まれている。粒度・粒子組成は海浜砂にやや類似している。また、海水生種の珪藻が認められることから、津波起因の可能性があると評価。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【宮川地点①】

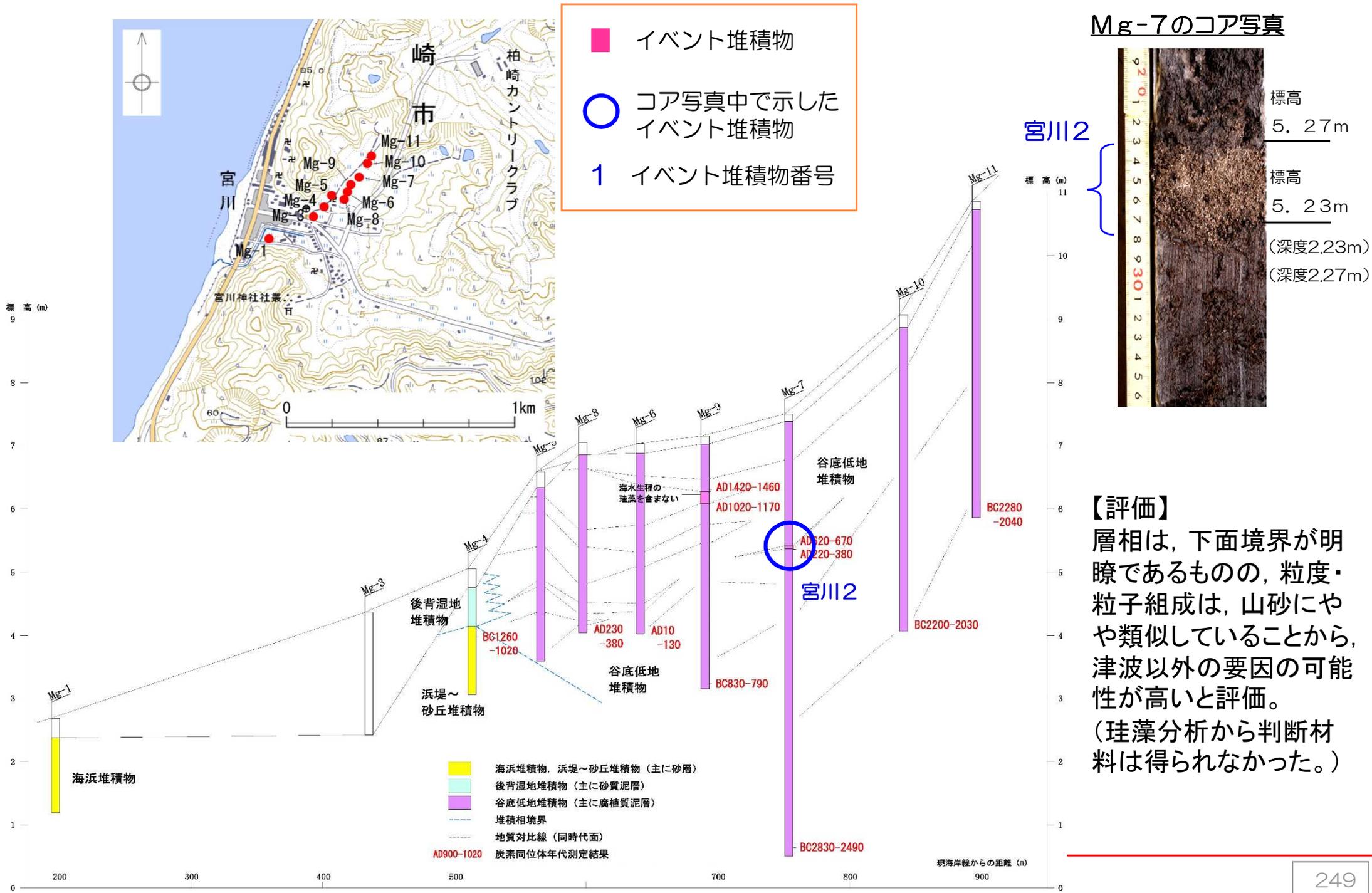


Mg-9のコア写真

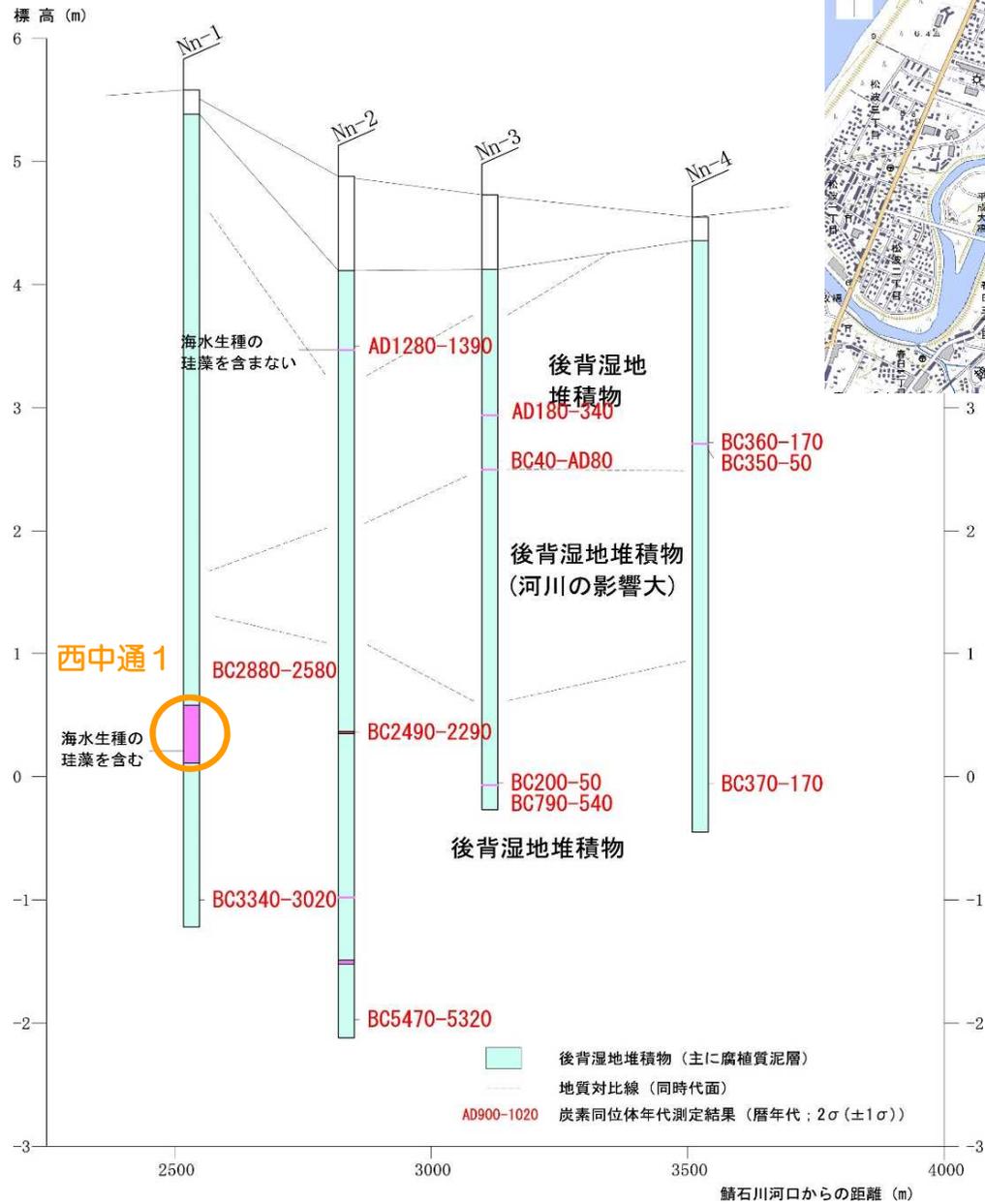


【評価】
層相は、下面境界が明瞭であり、粒度・粒子組成は海浜砂にやや類似しているものの、海水生種の珪藻が認められないことから、津波以外の要因の可能性が高いと評価。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【宮川地点②】



7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【西中通地点①】

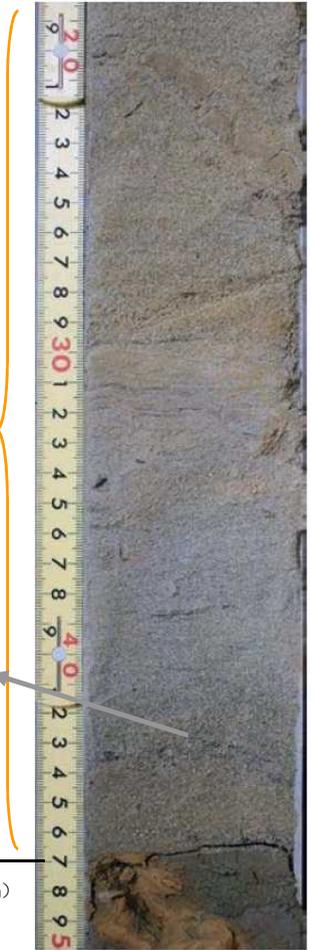


- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号

海水生種
11/24体

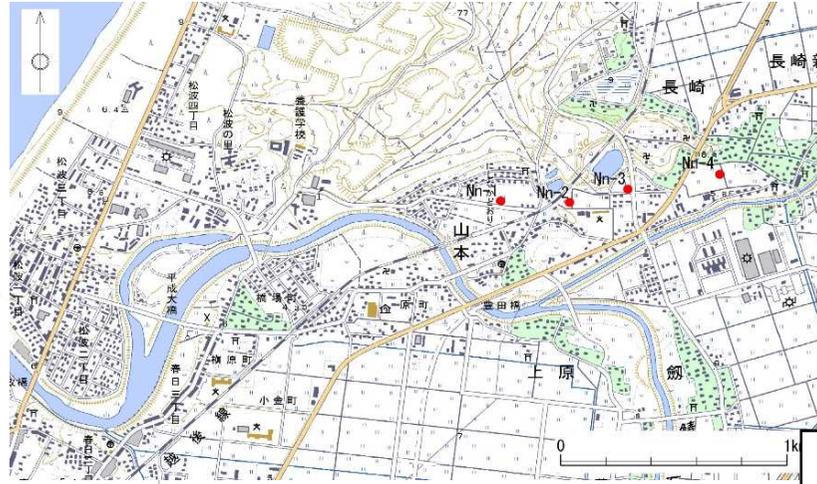
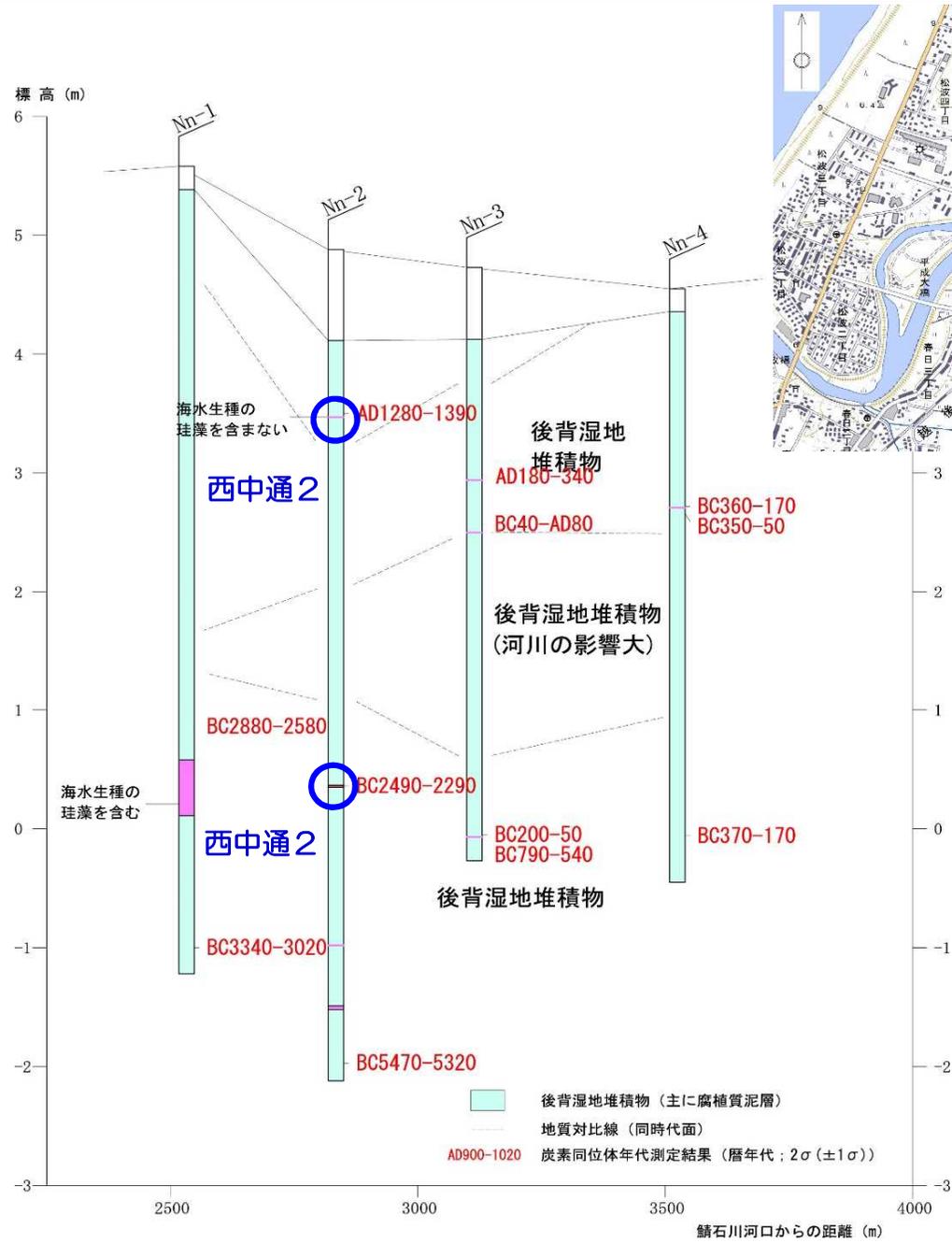
標高
0.11m
(深度5.47m)

Nn-1のコア写真



【評価】
層相は、砂層の中にシルト塊が取り込まれており、上方細粒化していること、下面境界が明瞭であり、また、珪藻の総産出数が少ないものの少量ながら海水生種の珪藻が認められたことから、津波起因の可能性があると評価。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【西中通地点②】



Nn-2のコア写真

西中通2

標高
3.31m
(深度1.57m)

海水生種
0/209体



■ イベント堆積物

○ コア写真中で示したイベント堆積物

1 イベント堆積物番号

西中通2

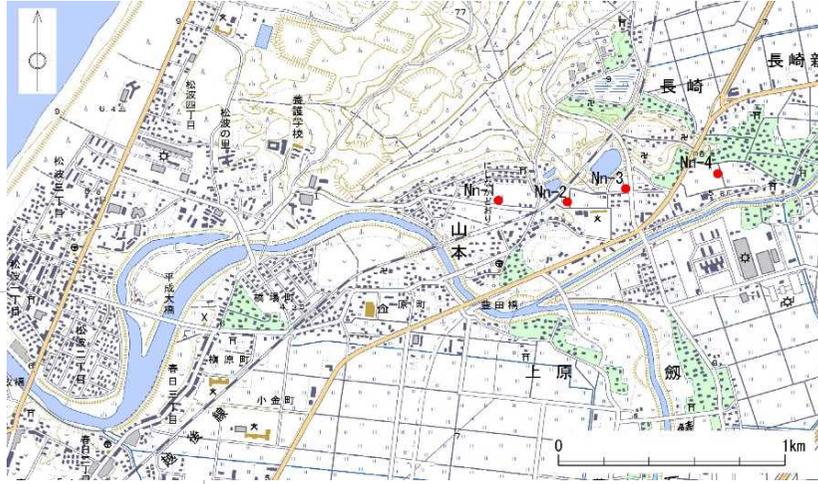
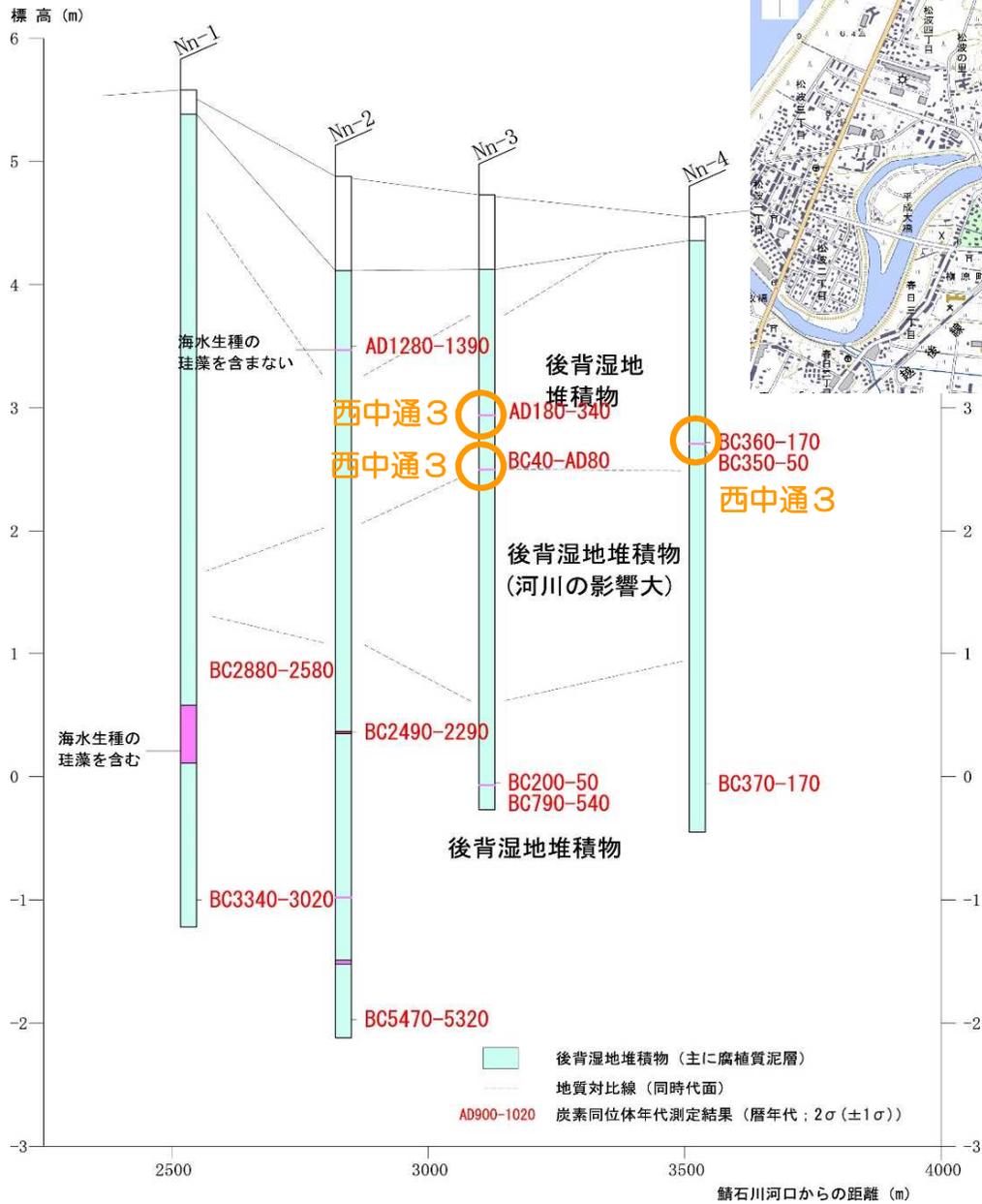
標高
0.19m
(深度4.69m)



海水生種
2/116体

【評価】
粘土薄層であるため、層相は不明であるが、泥炭層に明瞭に挟在する。海水生種の珪藻がほとんど認められないことから、津波以外の要因の可能性が高いと評価。

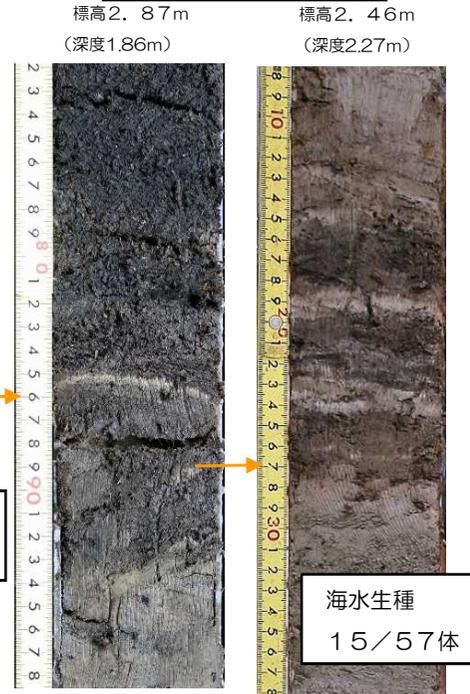
7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【西中通地点③】



- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号

海水生種
29/139体

Nn-3のコア写真



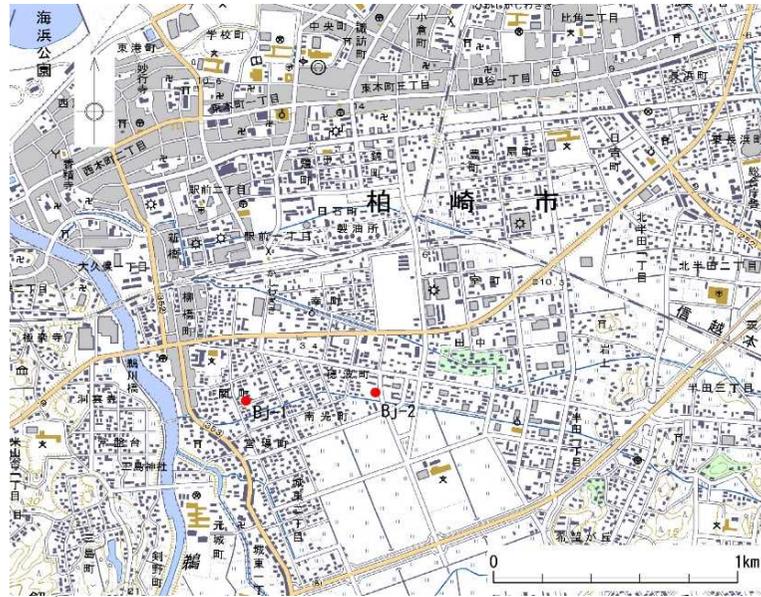
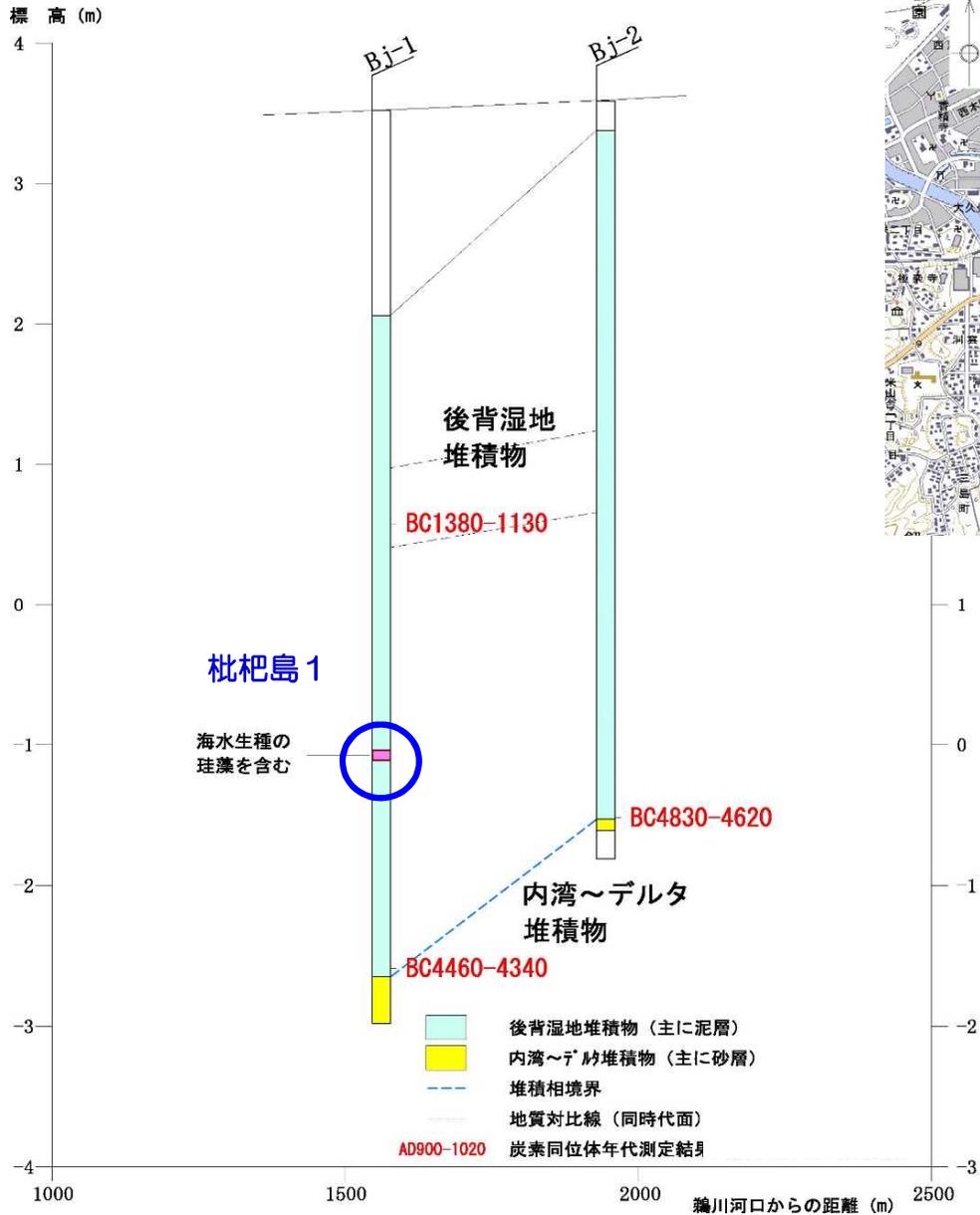
西中通3

Nn-4のコア写真

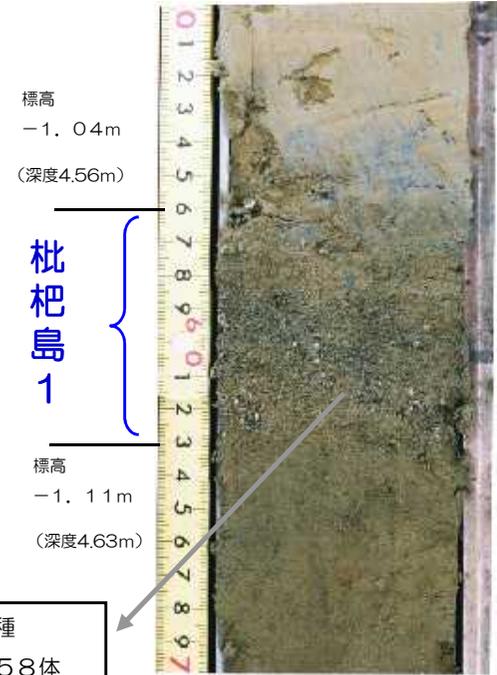


【評価】
粘土薄層であるため、層相は不明であるが、泥炭層に明瞭に挟在する。海水生種の珪藻が認められることから、津波起因の可能性があると評価。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【枇杷島地点】



Bj-1のコア写真



- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号

海水生種
44/58体

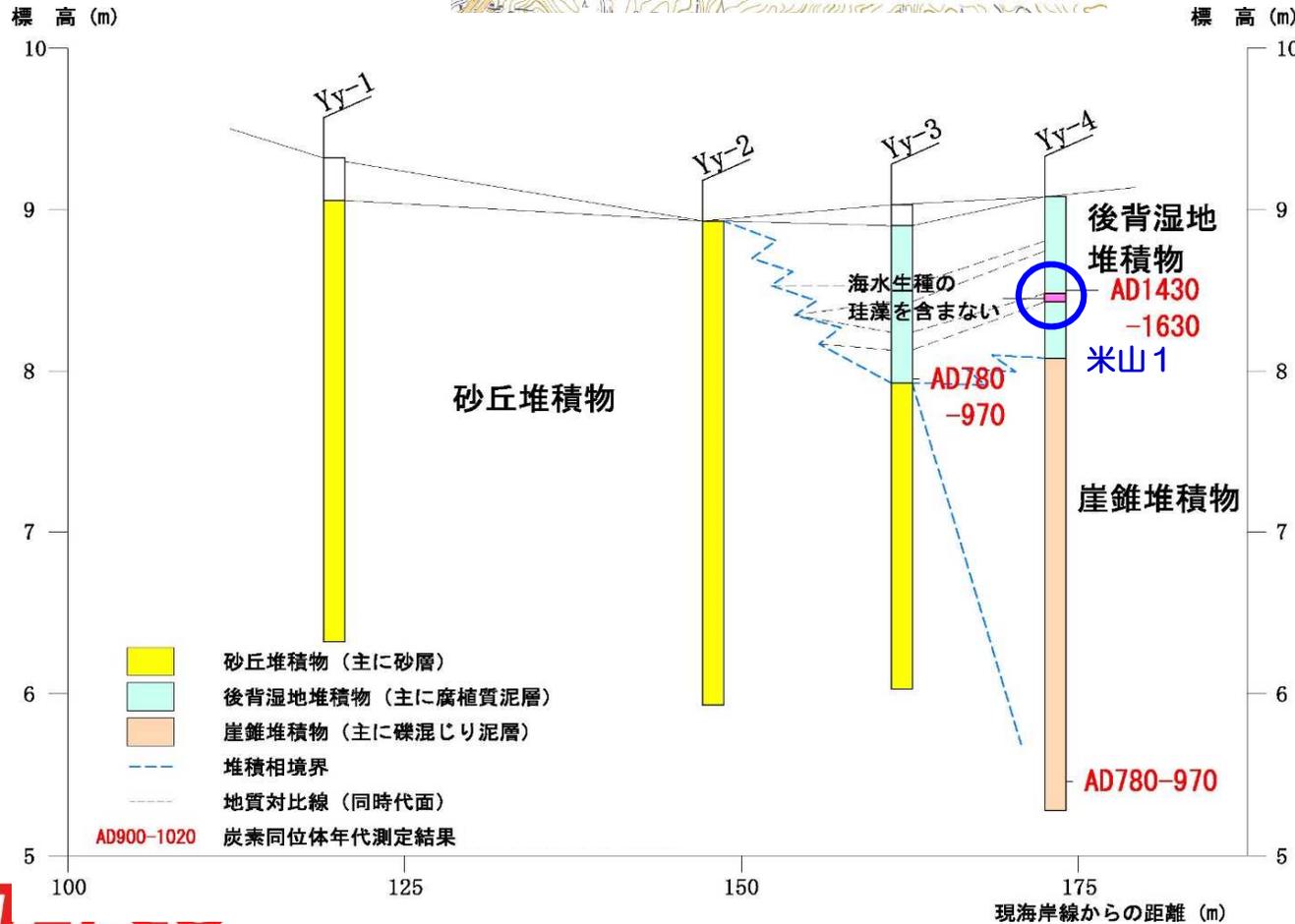
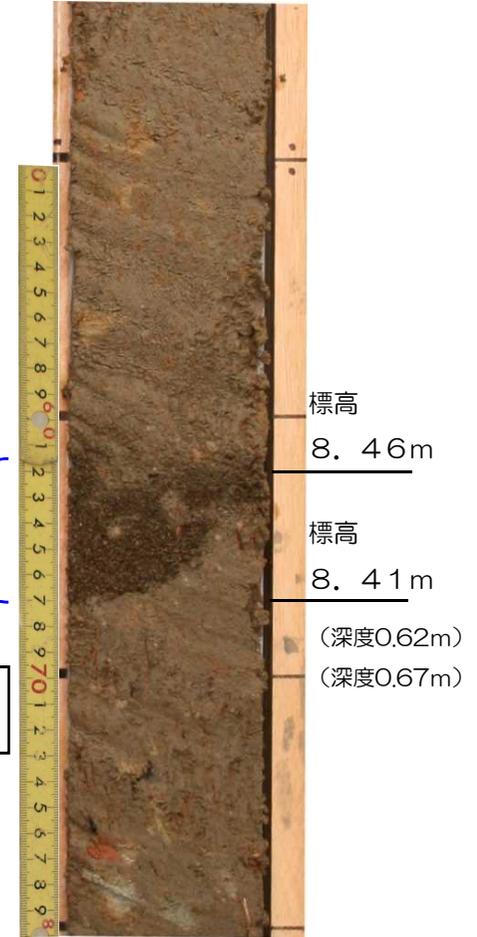
【評価】
海水生種の珪藻が認められるものの、層相は下面境界が不明瞭、淘汰不良であることから津波以外の要因の可能性が高いと評価。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【米山地点】



- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号

Yy-4のコア写真

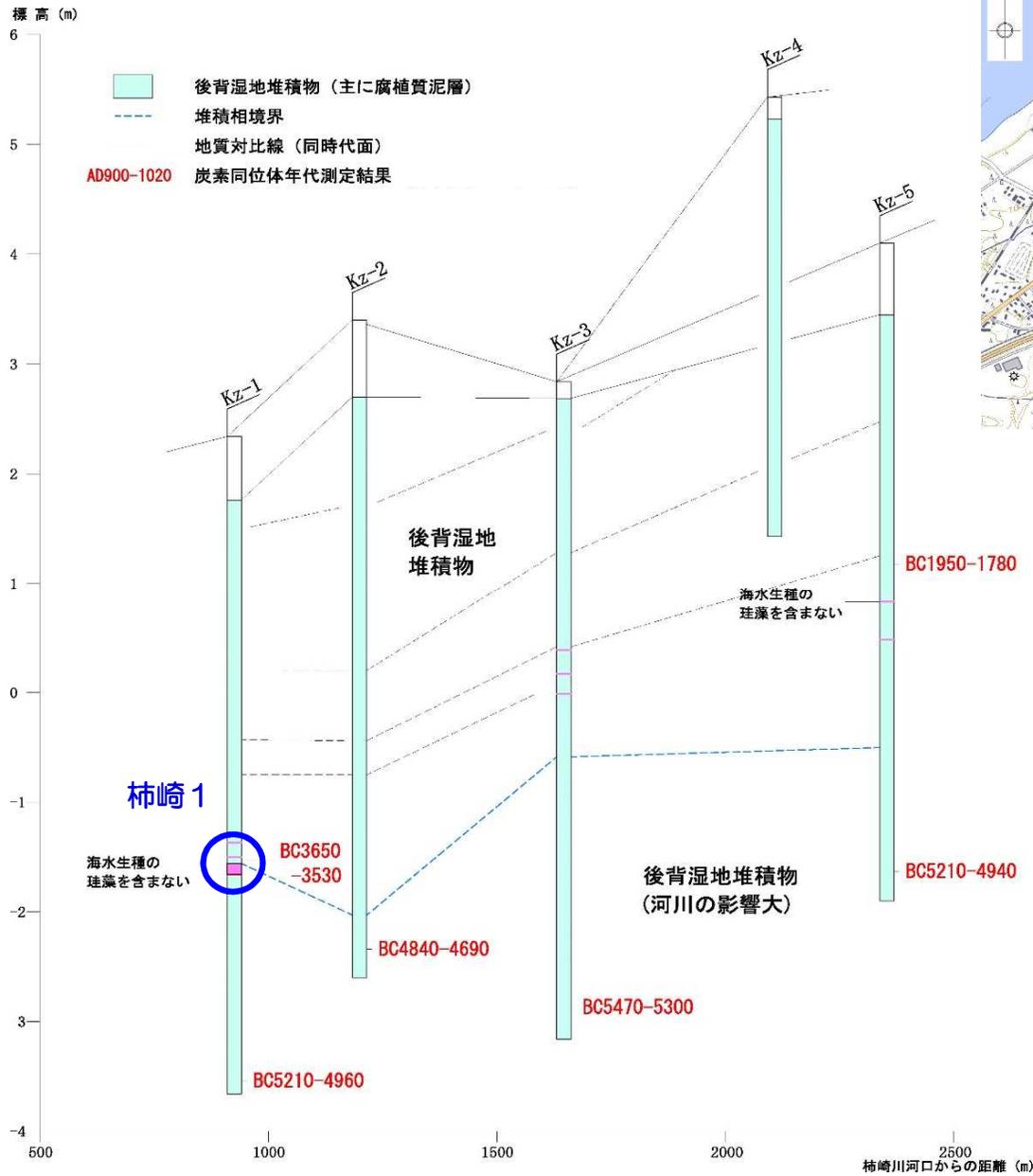


海水生種
1/203体

【評価】

層相は下面境界が明瞭で、シルト塊を含むものの、海水生種の珪藻がほとんど認められないことから、津波以外の要因の可能性が高いと評価。

7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【柿崎地点①】



- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1 イベント堆積物番号

柿崎2

Kz-1のコア写真

標高 -1.50m (深度3.84m)

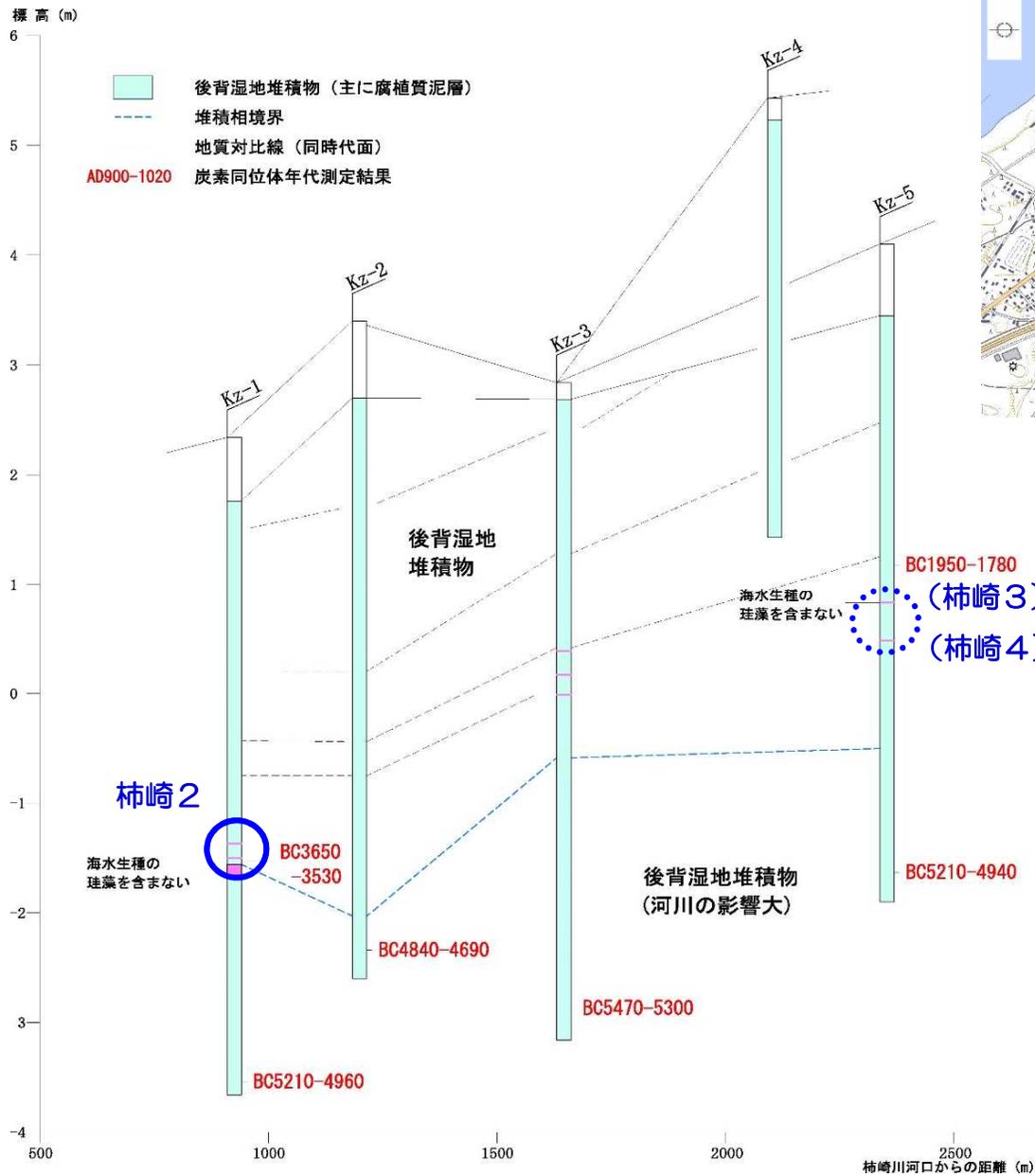
標高 -1.56m

標高 -1.66m (深度3.90m) (深度4.00m)

海水生種 0/38体

【評価】
 層相は腐植土塊を含むものの、下面境界がやや不明瞭であり、また、海水生種の珪藻が認められないことから、津波以外の要因の可能性が高いと評価。

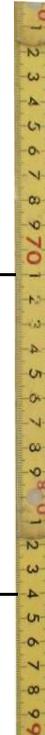
7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【柿崎地点②】



Kz-1のコア写真

柿崎2
標高
-1.37m
(深度3.71m)

柿崎2
標高
-1.50m
(深度3.84m)

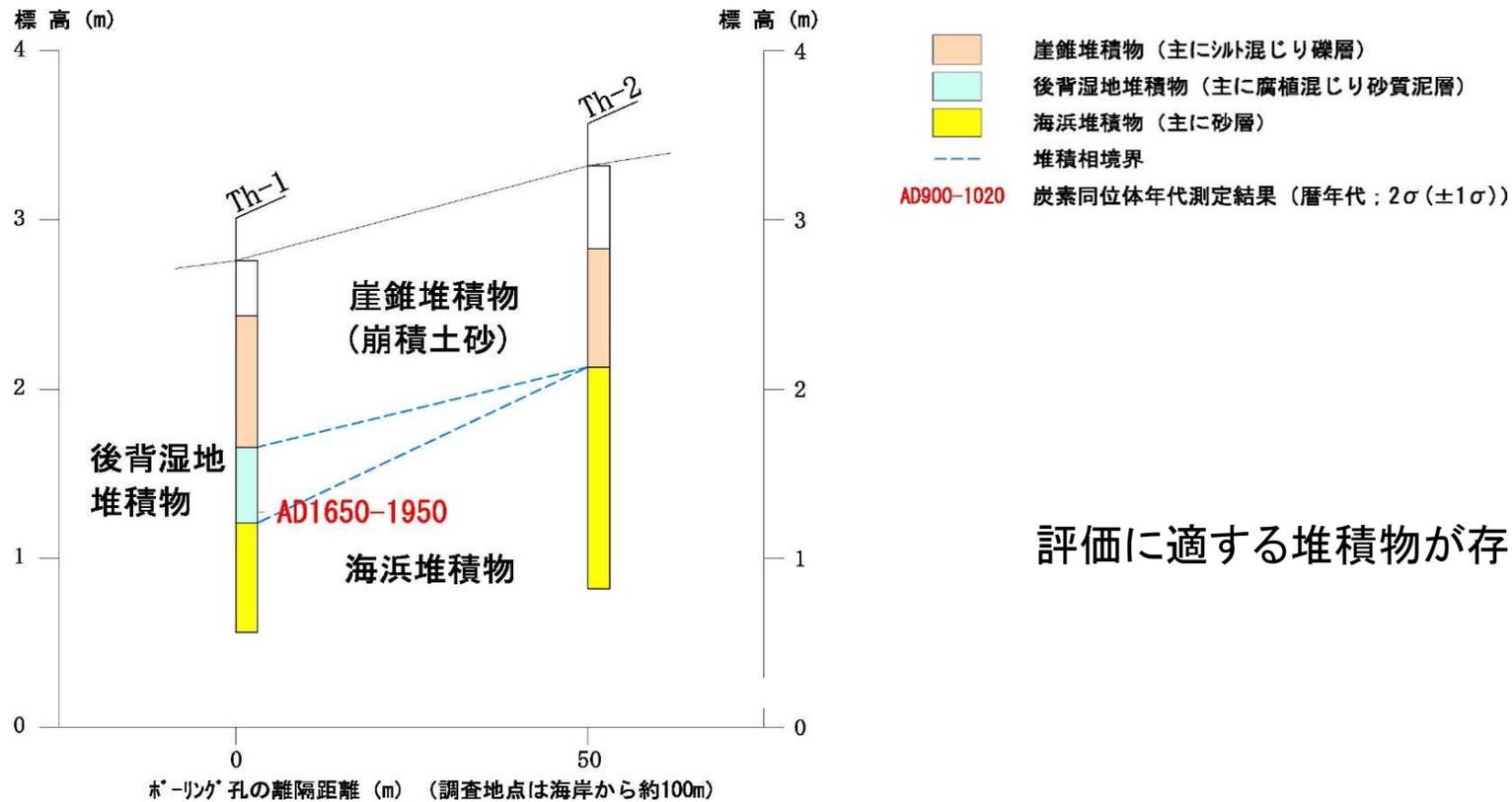
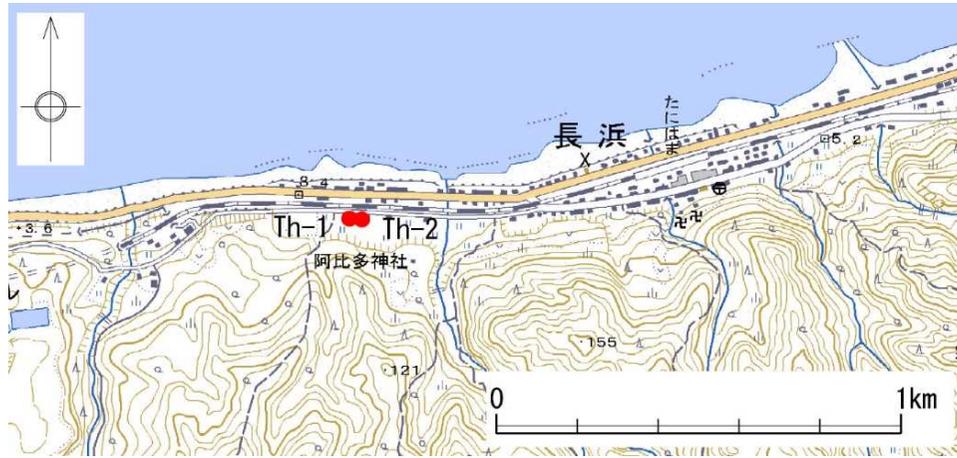


- イベント堆積物
- コア写真中で示したイベント堆積物
- 1** イベント堆積物番号

【評価】

層相はイベント堆積物が薄層であるため不明であるが、ほぼ同時代に堆積したと考えられる層相の類似した薄層(Kz-5の柿崎3, 4)において海水生種の珪藻が認められないことから、津波以外の要因の可能性が高いと評価。

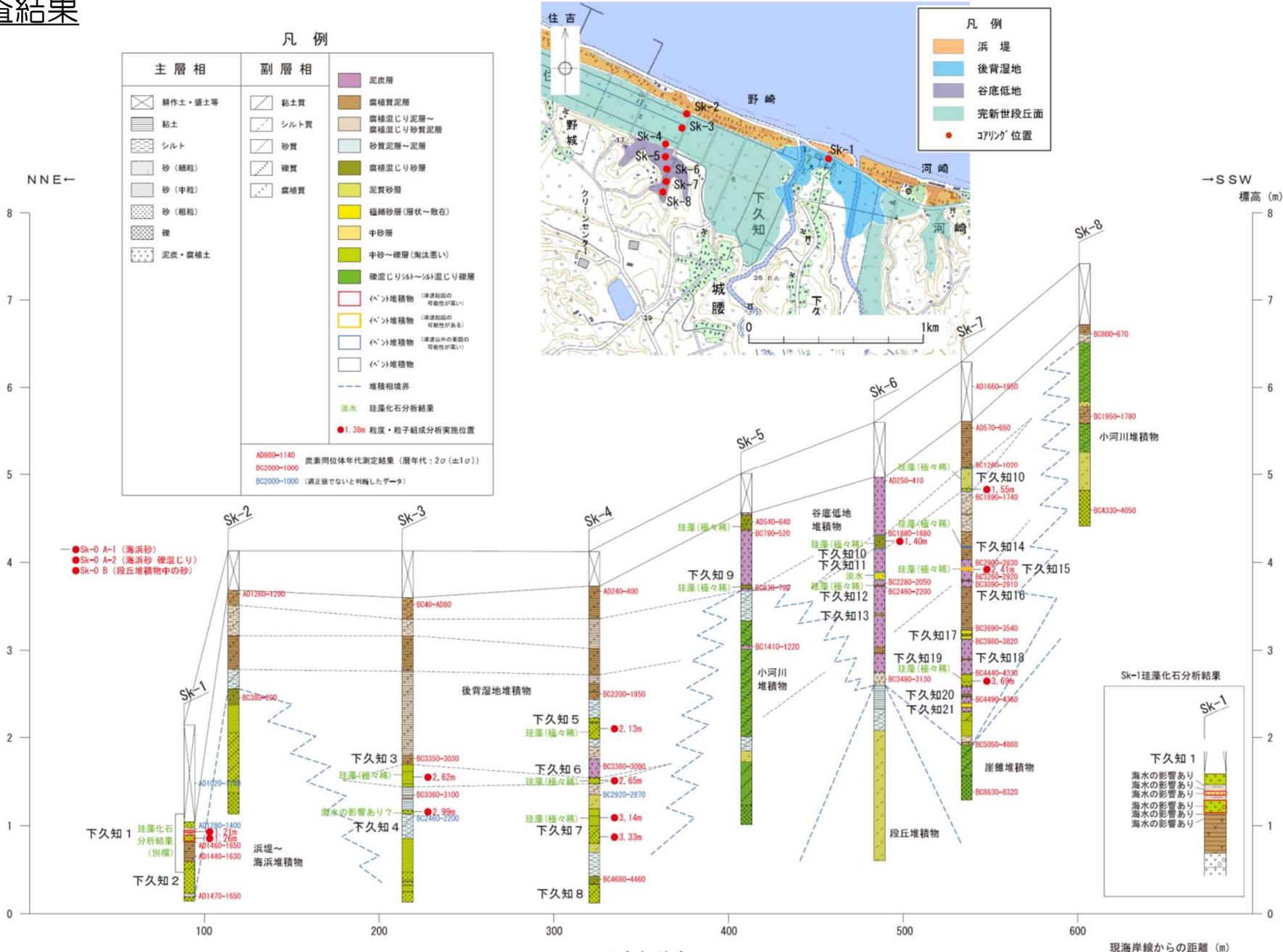
7. 1 (2) 津波堆積物調査結果 【谷浜地点】



評価に適する堆積物が存在しない。

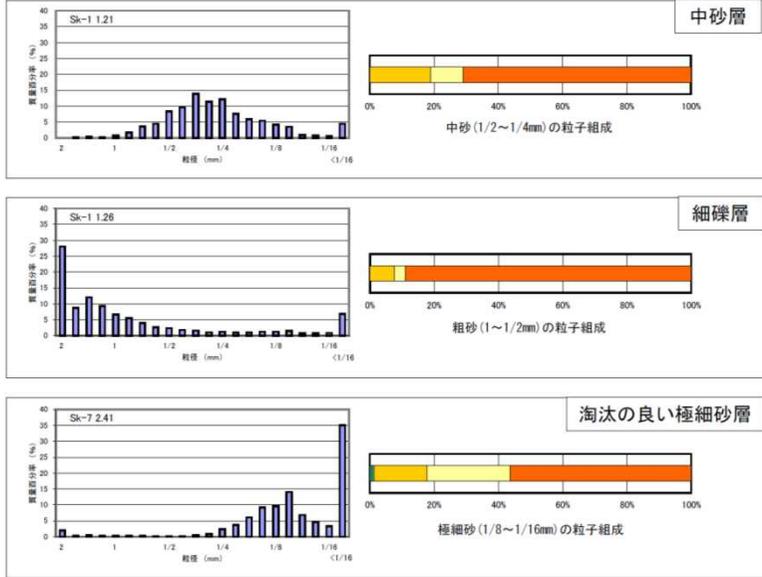
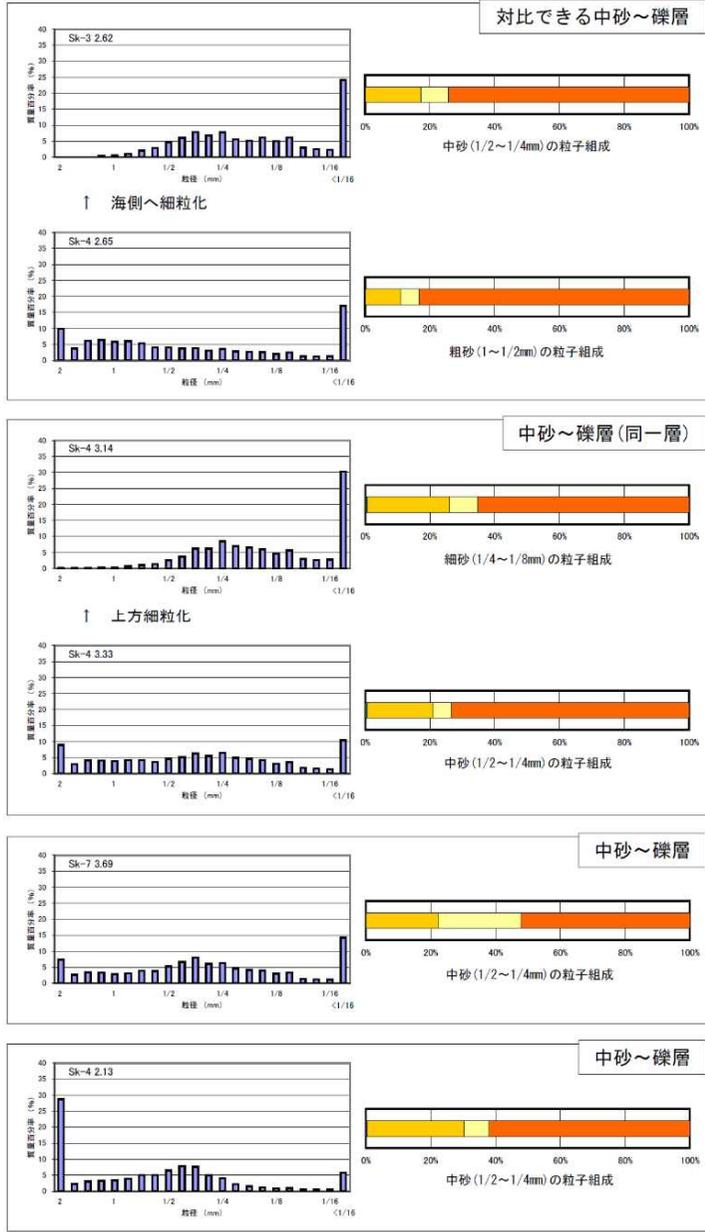
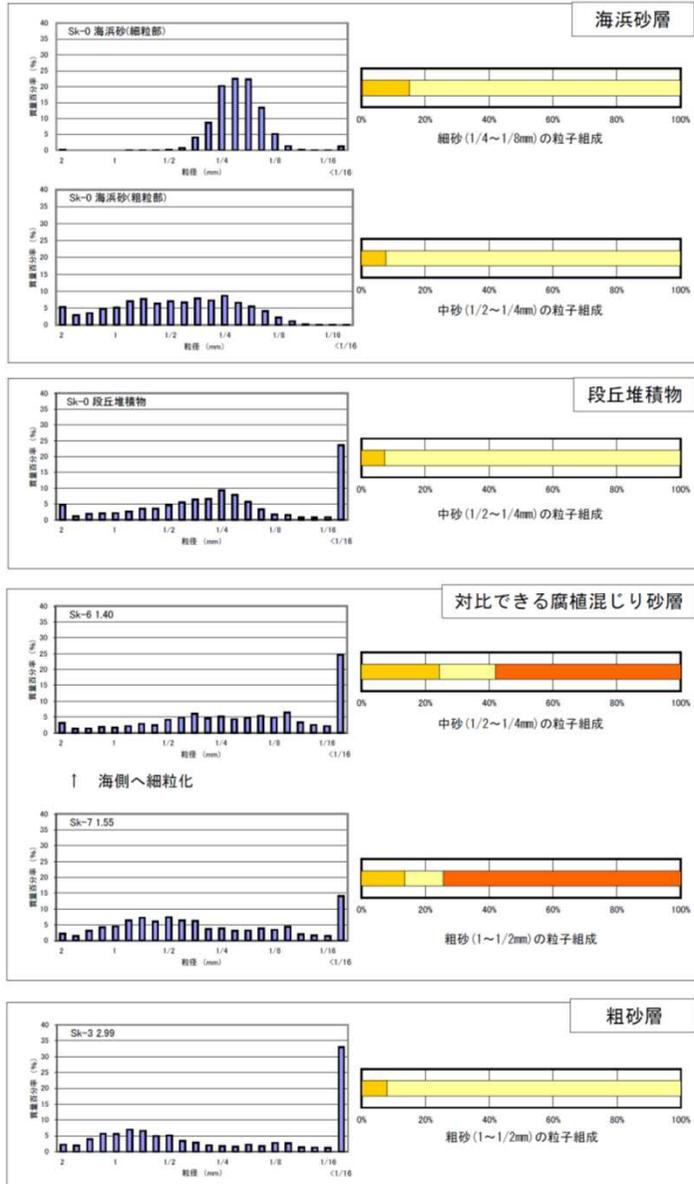
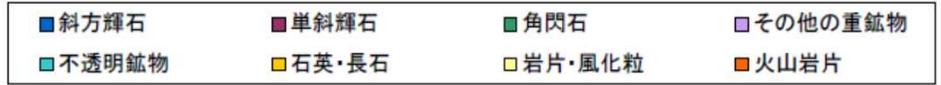
7. 1 (3) 津波堆積物調査結果の詳細 【下久知地点】

■ 地質調査結果



7. 1 (3) 津波堆積物調査結果の詳細 【下久知地点】

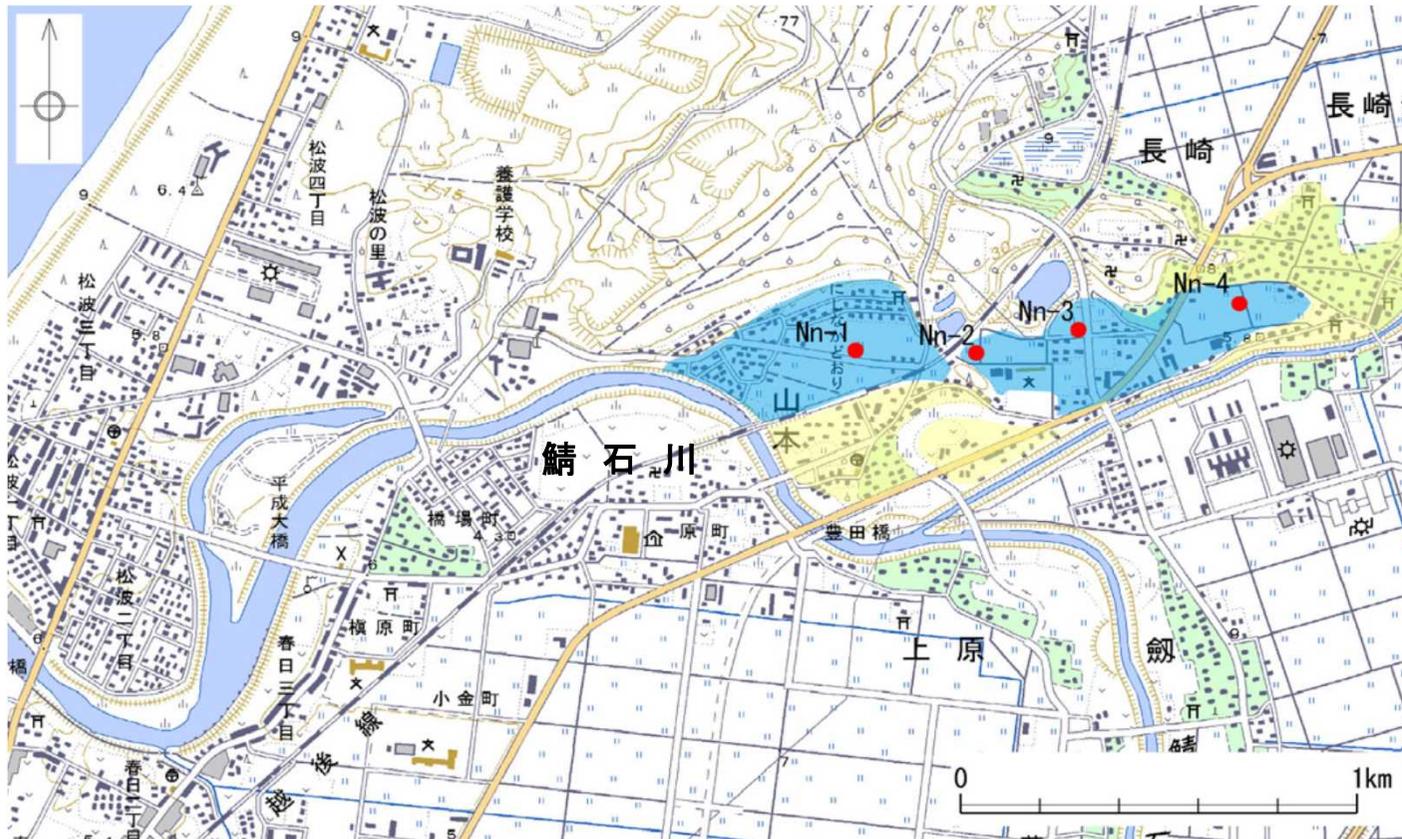
■ 粒度，粒子組成分析結果



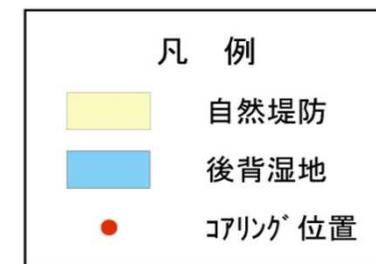
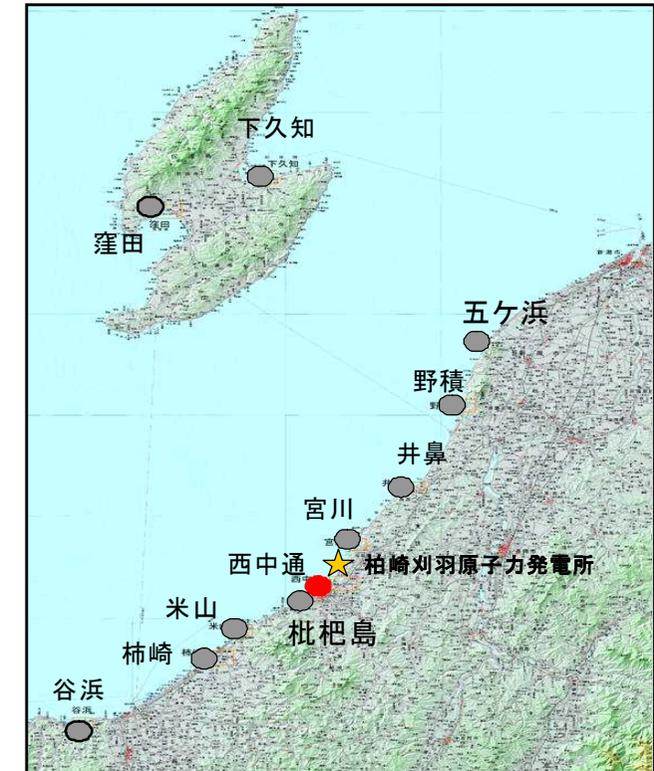
7. 2 津波堆積物調査に関する補足

7. 2 (1) 津波堆積物調査と想定津波の比較 【柏崎市：西中通】

- 柏崎市西中通地点における津波堆積物調査は、ボーリング調査を4箇所（Nn-1～Nn-4）実施しており、うち3箇所において津波起因の可能性のあるイベント堆積物を確認した。
- 西中通地点については、津波海岸線から内陸に入り込んでいるため、浸水範囲に関する検討を実施した。



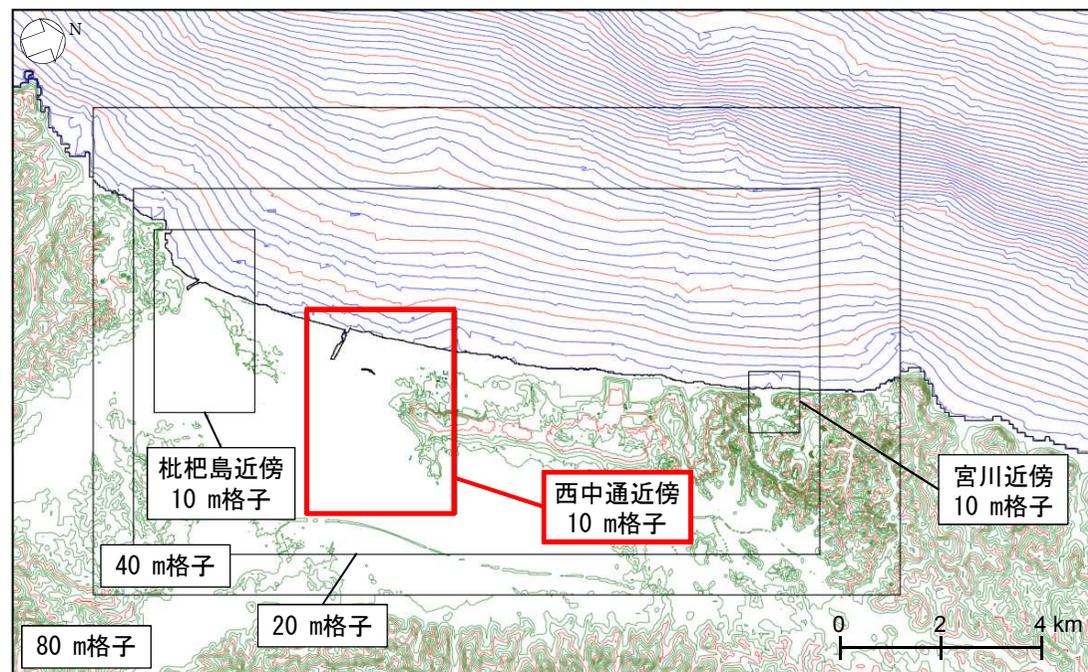
西中通地点の調査位置図



■ 主な計算条件

- 調査地点周辺は、10mまで細分化
- 波源モデルは、日本海東縁部（1領域モデル）
- 平均潮位に加えて堆積物の深度を考慮
- 地形データにおいて人工物等を除去

解析領域	間宮海峡から島根県前面海域付近までの日本海
メッシュ構成	沖合1,440m→720m→沿岸域240m→ 調査地点周辺80m→40m→20m→10mへ 順次細分化
基礎方程式	非線形長波理論
計算スキーム	スタガード格子，リーブ・フロッグ法
初期変位量	Mansinha and Smylie(1971)の方法
境界条件	沖側：自由透過（後藤・小川(1982)） 陸側：調査地点周辺（80 m～10 m）は 小谷ほか(1998)の陸上遡上条件，それ以外 （240m以上）は完全反射
越流条件	越波境界（防波堤）：本間公式(1940) 越流境界（護岸）：相田公式(1977)
海底摩擦係数	マンニングの粗度係数 $n=0.03 \text{ m}^{-1/3}\text{s}$
水平渦動粘性係数	考慮していない
計算時間間隔	0.25秒
計算時間	津波発生後360分間（6時間）



西中通周辺の格子分割図
（等深線間隔2m，等高線間隔10m）

7. 2 (1) 津波堆積物調査と想定津波の比較

【柏崎市：西中通】

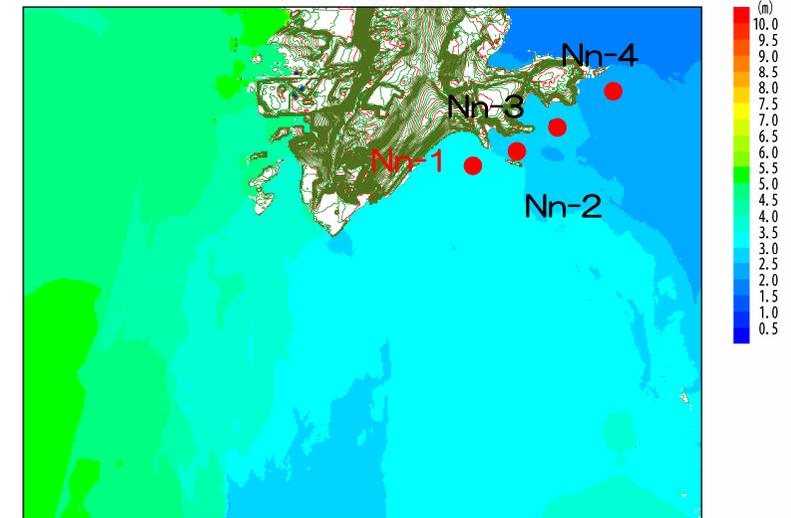
■Nn-1孔について

- 津波起因の可能性があると評価した堆積物の深度は5.47mである。
- イベント堆積物が確認された深度を当時（約5,000年前）の地表面として考え、潮位に堆積物深度を加えて計算した。
(平均潮位0.24+5.47m)

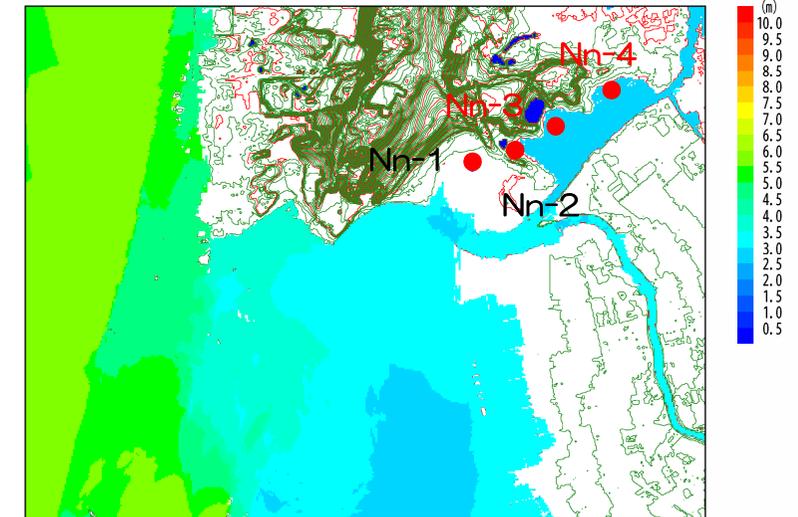
※Nn-2孔については津波起因ではないと評価

■Nn-3, 4孔について

- 津波起因の可能性があると評価した堆積物の深度は1.86mである。
- イベント堆積物が確認された深度を当時（約2,000年前）の地表面として考え、潮位に堆積物深度を加えて計算した。
(平均潮位0.24+1.86m)



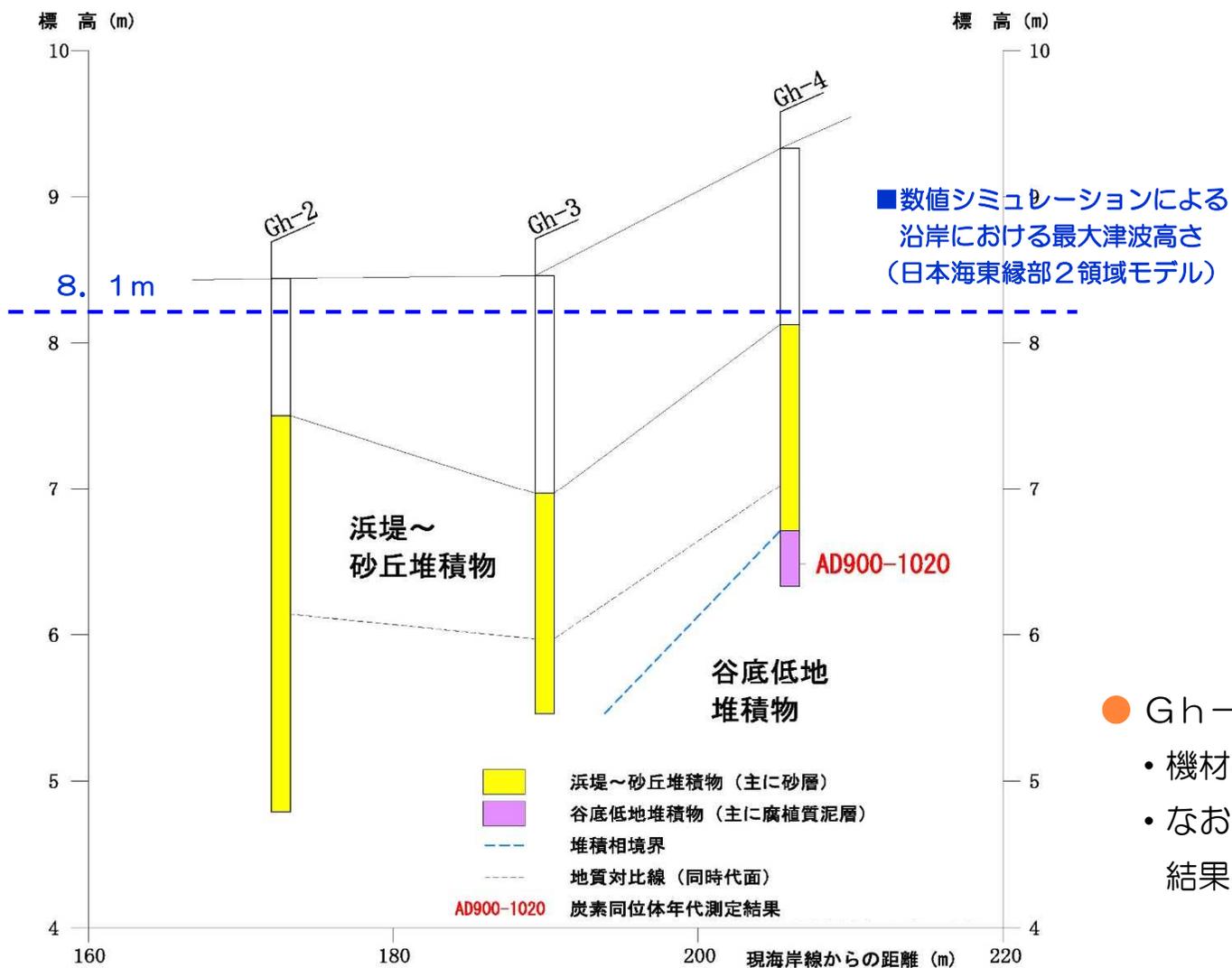
最大水位上昇量分布図



最大水位上昇量分布図

調査地点Nn-1～Nn-4の全てにおいて、浸水することを確認

7. 2 (2) 津波堆積物調査結果 【五ヶ浜地点について】



- Gh-4の掘削深度について
 - ・機材の掘削限界まで試料を採取。
 - ・なお、当該地点における津波シミュレーション結果は8.1mである。

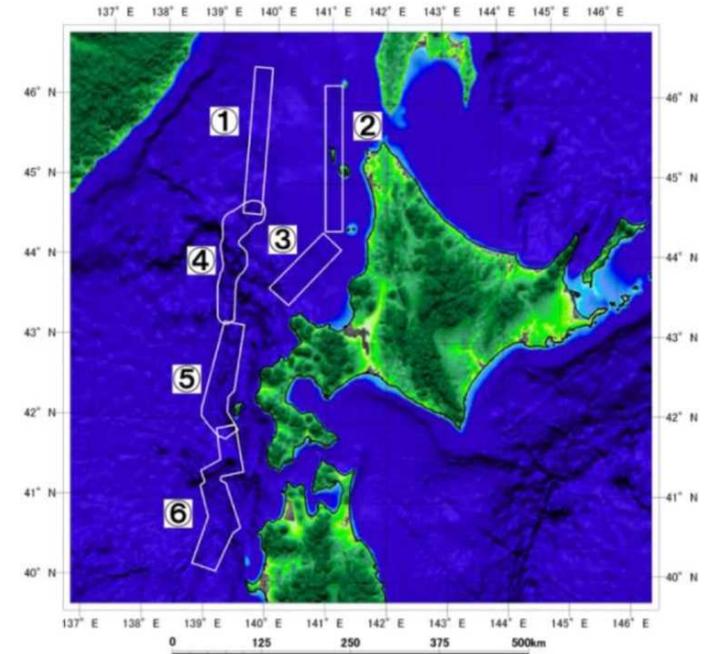
8. 1 行政機関による津波評価（資料集）

8. 1 地方自治体の例①（北海道，青森県）

■北海道（2013）

- 地震調査研究推進本部（2003）等を活用して最大M7.8の地震を想定。

地震モデル	位置づけ
①北海道北西沖の地震（沖側）	地震空白域で今後発生する危険性のあるモデル
②北海道北西沖の地震（沿岸側）	地震空白域で今後発生する危険性のあるモデル
③留萌沖の地震	地震空白域で今後発生する危険性のあるモデル
④神威岬沖の地震	既往の地震津波を再現するモデルおよび地震空白域で今後発生する危険性のあるモデル
⑤北海道南西沖地震	既往の地震津波を再現するモデル
⑥青森県西方沖の地震	既往の地震津波を再現するモデルおよび地震空白域で今後発生する危険性のあるモデル

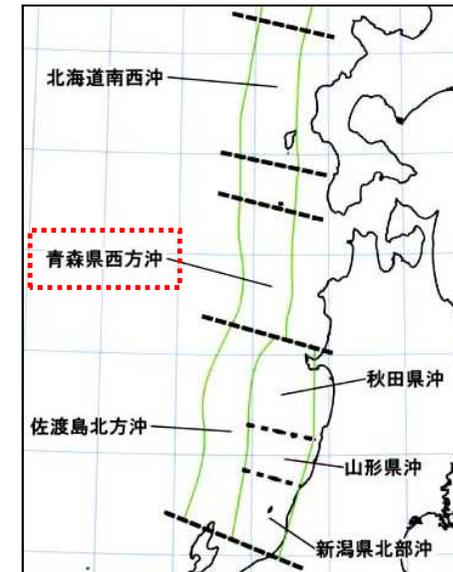


■青森県（2015）

- 地震調査研究推進本部（2003）が示す青森県西方沖にMw7.9の地震を想定。



■青森県想定
青森県西方沖
Mw=7.9



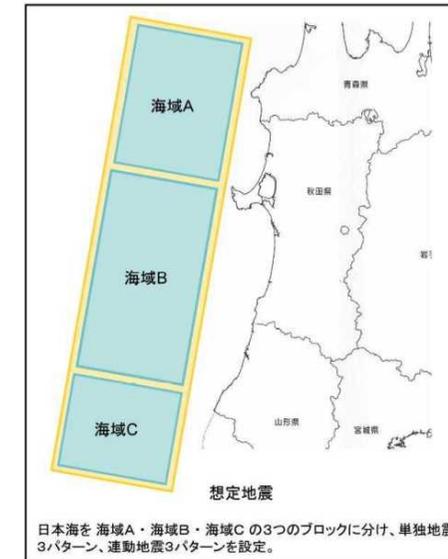
地震調査研究推進本部（2003）を編集

8. 1 地方自治体の例②（秋田県，山形県）

■秋田県（2013）

- 単独地震として3領域を設定した上で、さらに連動地震として3領域の同時破壊を想定した断層長さ350km、Mw8.7の地震を想定。

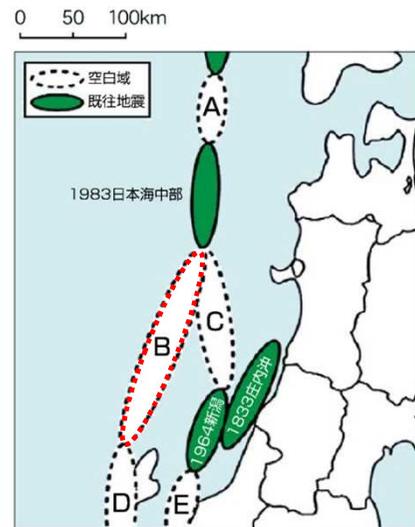
区分	ID	震源、想定地震	関連震源	想定した地震規模		傾斜角		すべり角 λ (°)	断層モデル 上端深さ Hs (km)	断層 モデル長さ Lmodel (km)	断層 モデル幅 Wmodel (km)	断層 モデル面積 Smodel (km ²)	断層モデル 下端深さ Hd (km)	地震モーメント M ₀ (Nm)	モーメント マグニチュード Mw	平均 すべり量 Dmodel (m)	備考
				断層長さL (km)	マグニチュードMj	δ (°)	λ (°)										
単独地震	1	海域A	日本海中部	130	7.9	東傾斜	35	90	0	130	50	6,500	29	6.85E+20	7.82	3.0	
	2	海域B	佐渡島北方沖、秋田県沖、山形県沖	140	7.9	東傾斜	35	90	0	140	54	7,560	31	8.59E+20	7.89	3.2	小断層を2km×2kmでモデル化
	3	海域C	新潟県北部沖、山形県沖	80	7.5	西傾斜	55	90	0	80	32	2,560	26	1.69E+20	7.42	1.9	
連動地震	4	海域A+海域B	新潟県北部沖、山形県沖	270	8.5	東傾斜	20	90	0	270	105	28,350	36	6.24E+21	8.46	6.3	
	5	海域B+海域C	佐渡島北方沖、秋田県沖、山形県沖	220	8.3	東傾斜	20	90	0	220	85	18,700	29	3.34E+21	8.28	5.1	小断層を5km×5kmでモデル化
	6	海域A+海域B+海域C	新潟県北部沖、山形県沖	350	8.7	東傾斜	20	90	0	350	135	47,250	46	1.34E+22	8.69	8.1	



注) 海域Cの単独地震については、津波シミュレーションの概略計算で秋田県への影響が比較的小さいと想定されたため、最終的な詳細計算は省略した。

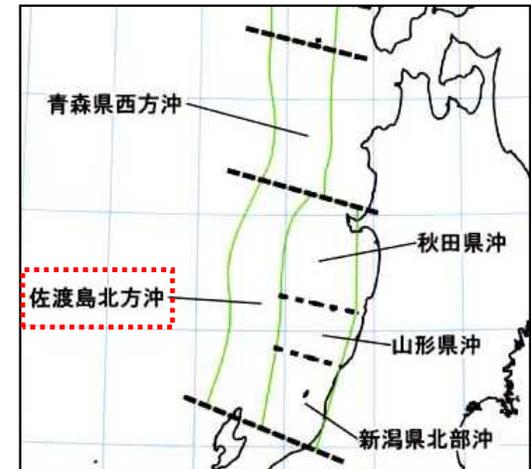
■山形県（2012）

- 地震調査研究推進本部（2003）が示す佐渡島北方沖の空白域にマグニチュード8.5の地震を想定。



■山形県想定
佐渡島北方沖
マグニチュード8.5

【想定震源域及び想定地震規模】	
想定震源域	想定地震規模
「長期評価佐渡島北方沖」の空白域（左図「B」）	マグニチュード8.5
「長期評価秋田県沖」の空白域（左図「C」）	マグニチュード8.0

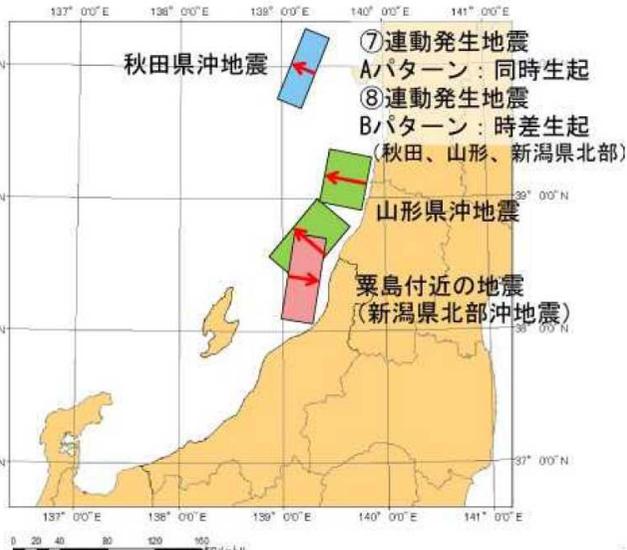
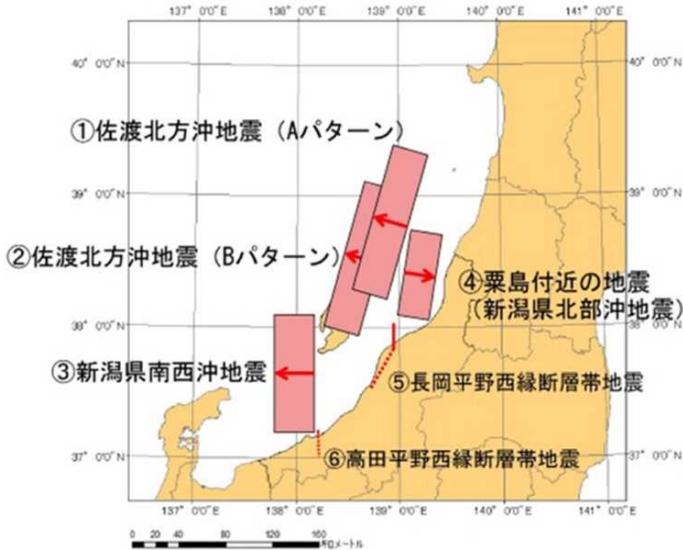


地震調査研究推進本部（2003）を編集

8. 1 地方自治体の例③（新潟県，富山県）

■新潟県（2014）

- 地質調査研究推進本部（2003）を参照し，佐渡島北方沖地震として最大Mw7.80を設定。さらに，3連動地震としてMw8.09の地震を想定。



【想定6地震】

- ①佐渡北方沖地震（Aパターン）（Mw7.80）
- ②佐渡北方沖地震（Bパターン）（Mw7.80）
- ③新潟県南西沖地震【想定域D】（Mw7.75）
- ④粟島付近の地震（新潟県北部沖地震）（Mw7.56）
- ⑤長岡平野西縁断層帯地震（Mw7.63）
- ⑥高田平野西縁断層帯地震（Mw7.10）

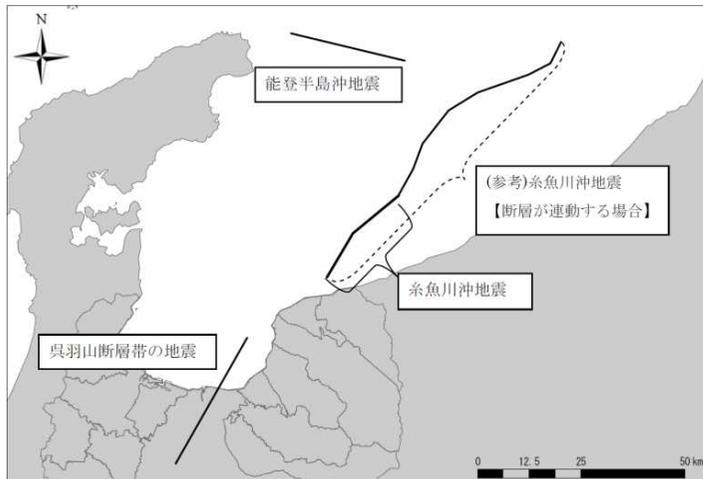
【参考2地震】

- ⑦3連動地震同時発生（Mw8.09）
- ⑧3連動地震時間差発生（Mw8.09）

※3連動地震（秋田県沖，山形県沖，粟島付近）

■富山県（2012）

- 海域の活断層による津波のみ想定しており，日本海東縁部の地震による津波は想定していない。



名称	規模 (M)	原点	走向 (度)	傾斜角 (度)	滑り角 (度)	断層上端 深さ (km)	長さ (km)	幅 (km)	滑り量 (m)
糸羽山断層帯の地震	7.4	北緯 36.872° 東経 137.343°	210	45	90	0.1	35	22	2.9m (実測値)
糸魚川沖地震	7.2	北緯 37.002° 東経 137.556°	約 41 度 (平均走向)	30	90	0.1	28	44	2.2m (標準算式)
能登半島沖地震	7.2	北緯 37.531° 東経 137.463°	約 103 度 (平均走向)	30	90	0.1	28	44	2.2m (標準算式)
(参考) 糸魚川沖地震 【断層が連動する場合】	8.0	北緯 37.002° 東経 137.556°	約 58 度 (平均走向)	30	90	0.1	84	44	6.6m (標準算式)
(参考) 糸羽山断層帯 の地震 【滑り量標準算式】	7.4	北緯 36.872° 東経 137.343°	210	45	90	0.1	35	22	1.4m (標準算式)

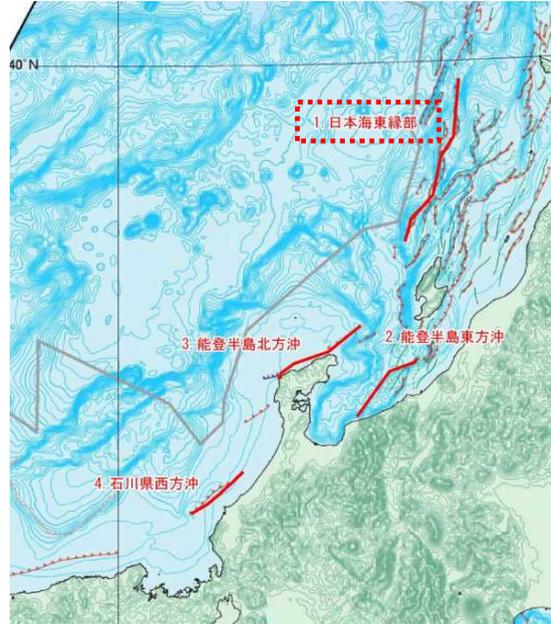
注 1：滑り量の「標準算式」は，地震調査研究推進本部等で使用されている方法で，地震のモーメント（規模）と断層面積から求めるものである。

注 2：糸羽山断層帯の滑り量の「実測値」は，平成 7、8 年度に実施した富山県の活断層調査結果より設定した。

8. 1 地方自治体の例④（石川県，福井県）

■石川県（2012）

- 徳山ほか「日本周辺海域の第四紀地質構造図」（2001）が示す活断層を基に，Mw7.99の地震を想定。

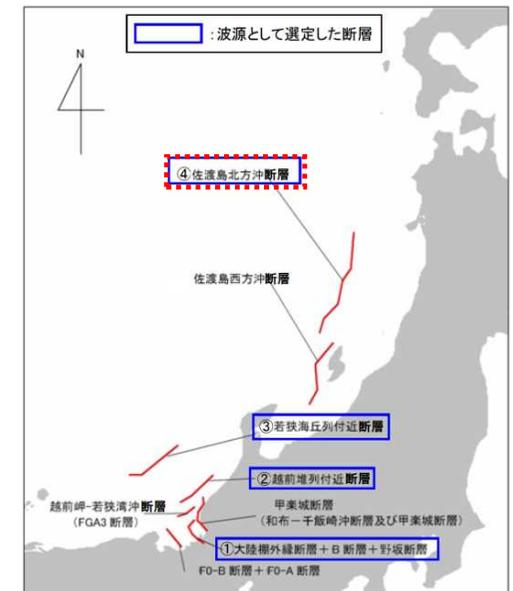


断層名		1 日本海東縁部	2 能登半島 東方沖	3 能登半島 北方沖	4 石川県西方沖
想定 マグニチュード	Mw	7.99	7.58	7.66	7.44
気象庁 マグニチュード	Mj	8.54	8.03	8.13	7.85
気象庁 マグニチュード	Mj	8.54	8.02	8.13	7.85
断層長 (km)	L	167	82	95	65
幅 (km)	W	17.32	17.32	17.32	17.32
地震モーメント (N・m)	Mo	1.22E+21	2.95E+20	3.89E+20	1.82E+20
すべり量 (m)	D	12.01	5.94	6.76	4.62
上縁深さ (km)	d	0	0	0	0
傾斜角	δ	60	60	60	60
すべり角	λ	90	90	90	90

■福井県（2012）

- 徳山ほか「日本周辺海域の第四紀地質構造図」（2001）が示す活断層等を参考に，Mw7.99の地震を想定。

選定波源	マグニチュード Mw	地震により隆起する地盤	
		すべり量	長さ、幅
①野坂,B 及び大陸棚外縁断層	7.28	3.73m	長さ 49 km 幅 17.32 km
②越前堆列付近断層	7.44	4.62m	長さ 65 km 幅 17.32 km
③若狭海丘列付近断層	7.63	6.43m	長さ 90 km 幅 17.32 km
④佐渡島北方沖断層	7.99	12.01m	長さ 167 km 幅 17.32 km



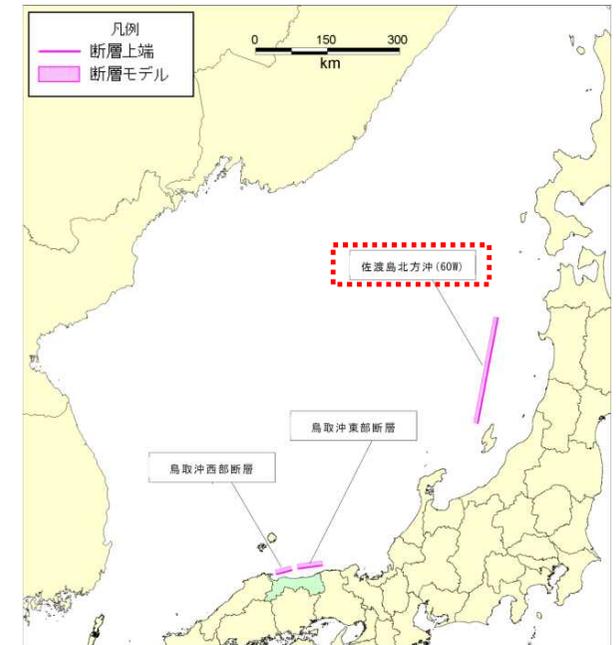
8. 1 地方自治体の例⑤（鳥取県，島根県）

■鳥取県（2012）

- 地震調査研究推進本部（2003）を参照し，佐渡島北方沖の領域に最大Mw8.16の地震を想定。

断層パラメータ

想定断層	Mw	緯度 (度)	経度 (度)	深さ (km)	走向 (度)	傾斜 (度)	すべり角 (度)	長さ(運動) (km)	幅 (km)	すべり量 (m)	
鳥取沖東部断層（北上がり）	7.30	35.75	134.46	0	262	90	40	51.0	15.00	4.24	
鳥取沖東部断層（南上がり）	7.30	35.69	133.89	0	82	90	40	51.0	15.00	4.24	
鳥取沖西部断層（北上がり）	7.05	35.65	133.75	0	255	90	40	33.0	15.00	2.74	
鳥取沖西部断層（南上がり）	7.05	35.58	133.39	0	75	90	40	33.0	15.00	2.74	
隠岐東方断層	7.38	36.55	134.03	0	78	60	90	58.2	17.32	4.19	
隠岐北西方の断層	7.77	36.40	132.67	0	11	60	90	31.0	17.32	8.23	
		36.68	132.74	0	334	60	90	35.9 (114)	17.32	8.23	
		36.97	132.57	0	4	60	90	46.8	17.32	8.23	
佐渡島北方沖（パターン1）	E（東落ち）	7.85	38.95	138.41	0	20	45	90	131.1	21.21	7.71
	W（西落ち）	7.85	38.95	138.41	0	20	60	90	131.1	17.32	9.44
佐渡島北方沖（パターン2）	E（東落ち）	8.16	38.36	138.15	0	12.9	45	90	222.2	21.21	13.06
	W（西落ち）	8.16	38.36	138.15	0	12.9	60	90	222.2	17.32	16.00
佐渡島北方沖（パターン2）	E（東落ち）	8.16	40.31	138.73	0	193.3	45	90	222.2	21.21	13.06
	W（西落ち）	8.16	40.31	138.73	0	193.3	60	90	222.2	17.32	16.00



■島根県（2012）

- 地震調査研究推進本部（2003）を参照し，佐渡島北方沖の領域に最大Mw8.01の地震を想定。

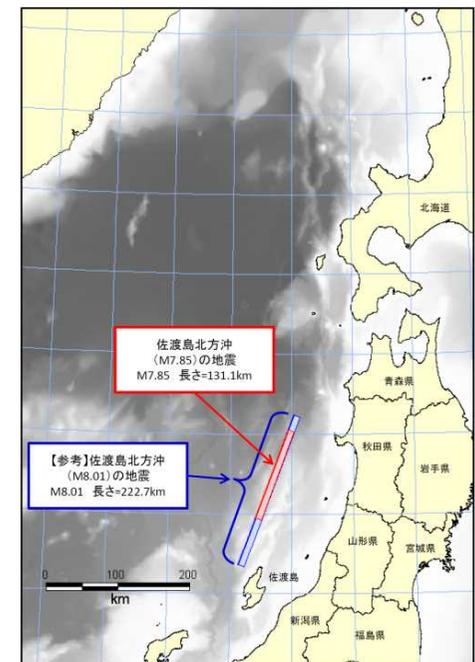
想定断層	M _j	M _w ※4	緯度 (度)	経度 (度)	深さ (km)	走向 (度)	傾斜 (度)	すべり角 (度)	長さ (km)	幅 (km)	すべり量 (m)
佐渡島北方沖の地震※2	7.85	7.85	38.9498	138.4131	0.0	20	60	90	131.1	17.3	9.4
【参考】佐渡島北方沖の地震（M8.01）※3	8.01	8.01	38.3584	138.1383	0.0	20	60	90	222.7	17.3	9.5
出雲市沖合の地震（断層北傾斜）	7.5	6.9	35.5879	132.8784	3.0	267	45	90	38.4	17.0	3.2※1
出雲市沖合の地震（断層南傾斜）	7.5	6.9	35.5690	132.4544	3.0	87	45	90	38.4	17.0	3.2※1
浜田市沖合の地震	7.3	6.8	35.1888	132.2491	3.0	232	45	90	27.0	17.0	2.4※1
隠岐北西沖の地震	7.4	6.9	36.9606	132.5336	3.0	154	45	-90	36.0	17.0	2.8※1

※1：すべり量は、Mから松田式により算出（logD=0.6M-4.0）

※2：中国電力想定モデル（2008）¹⁾に基づき設定

※3：佐渡北方沖の最大規模の地震として設定

※4：津波震源としてのM_w（武村式M_w=0.78*M_j+1.08により算出）



9. 1 高橋ほか（1999）の手法における
飽和浮遊砂濃度の影響評価について

9. 1 飽和浮遊砂濃度の影響評価について

■ 論文整理に基づく高橋ほか（1999）における浮遊砂濃度上限値に関する評価

- 高橋ほか（1999）の浮遊砂濃度上限値について、砂移動評価に関する論文を整理した。
- 上限値5%の検証結果から、浮遊砂濃度上限値5%は過大評価になると考えられる。
- 上限値1%の検証結果から、浮遊砂濃度上限値1%は妥当な設定値であると考えられる。
- 以上より、高橋ほか（1999）の浮遊砂濃度上限値は1%を基本とし、3%としたケースを影響評価として実施した。

高橋ほか（1999）の検証事例

実規模検証	文献	計算使用砂粒径	計算格子間隔	浮遊砂濃度上限	浮遊砂濃度上限に関する評価
気仙沼湾 (1960年 チリ地震津波)	玉田ほか (2009)	0.001~ 1mm	25m, 5m	1%, 5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算格子間隔が5mの場合、浮遊砂濃度上限5%では実績値より侵食深を過大に評価
八戸港 (1960年 チリ地震津波)	藤田ほか (2010)	0.26mm	10.3m	1%, 2%, 5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浮遊砂濃度上限5%は過大に評価 ・ 浮遊砂濃度上限1~2%の場合の再現性が良好
宮古港 (2011年東北地方 太平洋沖地震津波)	近藤ほか (2012)	0.08mm	10m	1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂移動の全体的な傾向は良く一致 ・ 防波堤堤頭部の最大洗掘深や断面地形も定量的に概ね良い一致
気仙沼湾 (2011年東北地方 太平洋沖地震津波)	森下ほか (2014)	0.3mm	10m	1% $C_{sat} = \alpha \times \sqrt{U^2 \times V^2}$	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂移動評価に影響を及ぼす因子として、無次元掃流力、流砂量式係数、飽和浮遊砂濃度の3つを抽出 ・ 上記の3つの因子を同時に変えたモデルにより、再現性が向上する可能性を示唆 ・ 飽和浮遊砂濃度については、摩擦速度の関数とすることで再現性向上につながることを示唆

C_{sat} : 飽和浮遊砂濃度 U, V : 断面平均流速成分 α : 係数 (0.01)

9. 1 飽和浮遊砂濃度の影響評価について

- 高橋ほか（1999）の手法における飽和浮遊砂濃度が評価結果に及ぼす影響確認として、飽和浮遊砂濃度の上限値を3%にしたケースについて影響評価を実施した。
- 取水口前面における砂の堆積厚さの最大は、3号炉取水口前面の約2.8m。
- 6, 7号炉取水口前面の最大値は、7号炉取水口前面の約1.2mであり、取水路の高さ5m程度に対して十分小さく、取水口が閉塞するおそれはないことを確認した。

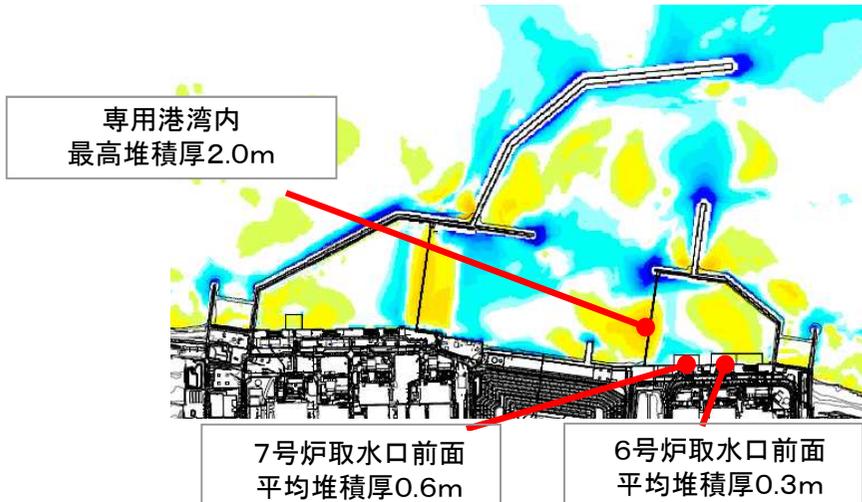
数値シミュレーション結果

水位	地震	手法	取水口前面堆積厚さ (m)						
			1号炉	2号炉	3号炉	4号炉	5号炉	6号炉	7号炉
上昇側	日本海東縁部 (2領域モデル) + LS-2	高橋ほか 1%	0.5	0.9	1.2	1.1	0.4	0.3	0.6
		高橋ほか 3%	1.7	2.6	2.8	2.6	0.8	0.6	1.2
下降側	日本海東縁部 (2領域モデル)	高橋ほか 1%	0.2	0.7	1.0	0.8	0.2	0.2	0.4
		高橋ほか 3%	1.1	2.1	2.3	2.1	0.9	0.7	1.0

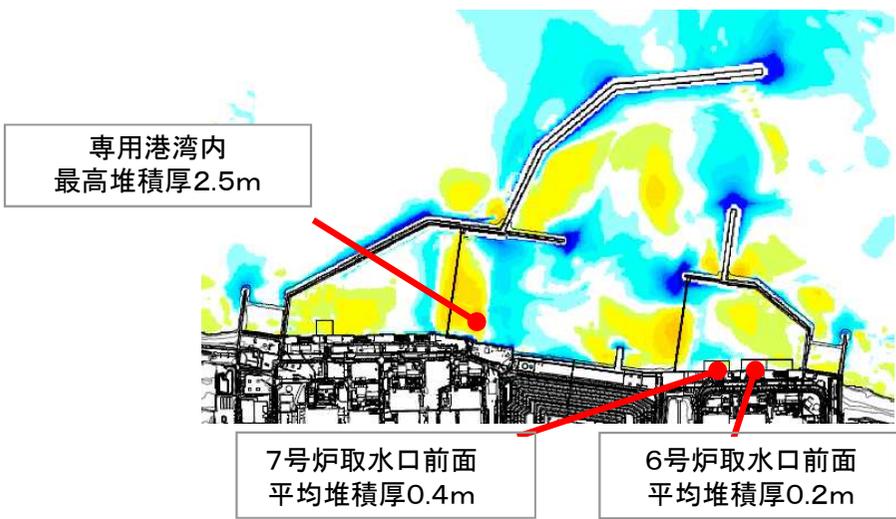
9. 1 飽和浮遊砂濃度の影響評価について

■ 高橋ほか（1999）の手法による堆積侵食分布（最終地形）

浮遊砂上限濃度 1%

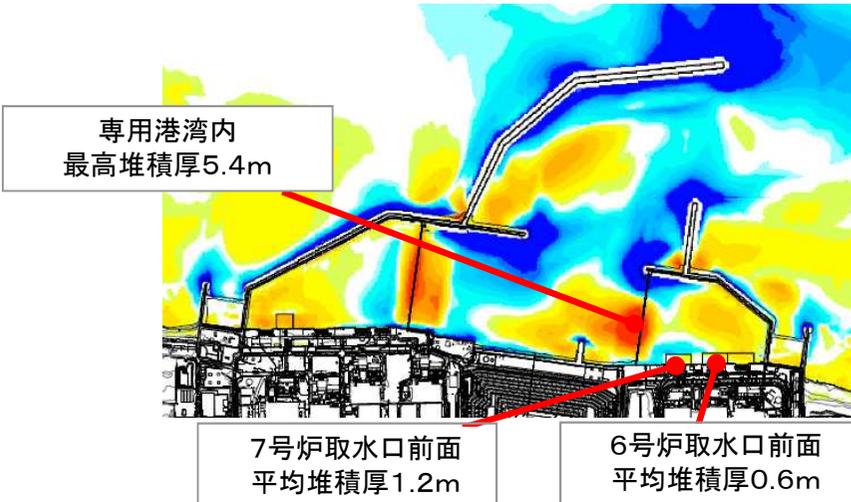


水位上昇側・日本海東縁部

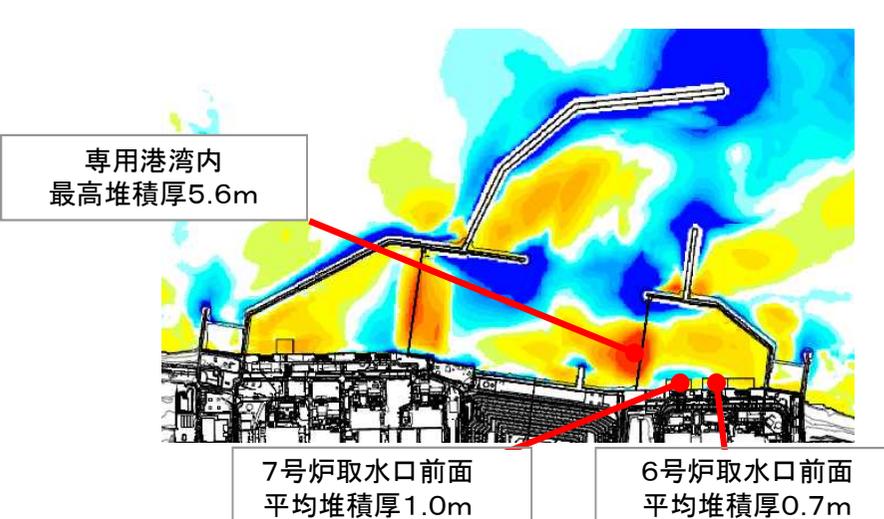


水位下降側・日本海東縁部

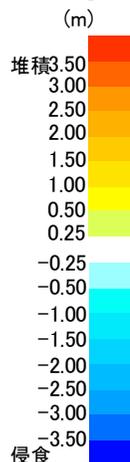
浮遊砂上限濃度 3%



水位上昇側・日本海東縁部



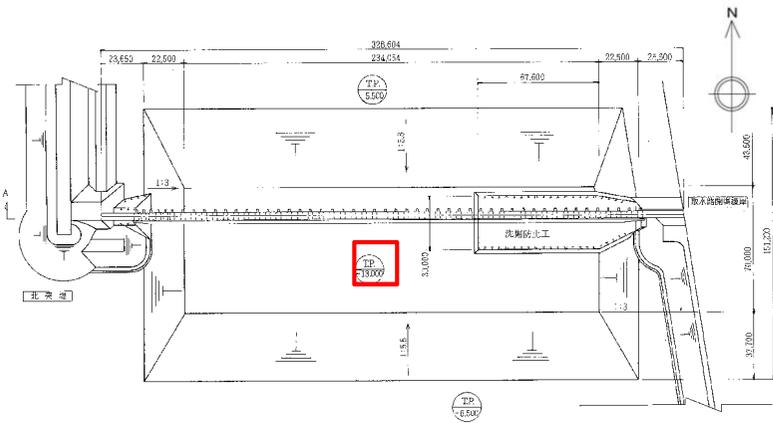
水位下降側・日本海東縁部



9. 2 港湾内の砂堆積に関する取水への影響について

9. 2 港湾内の砂堆積に関する取水への影響について

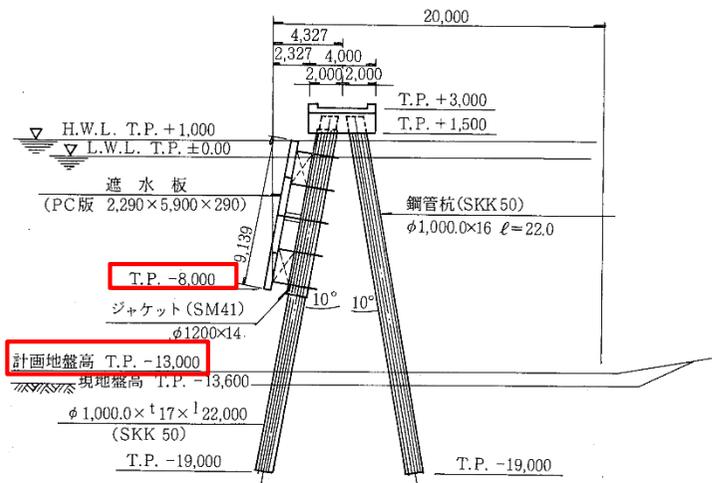
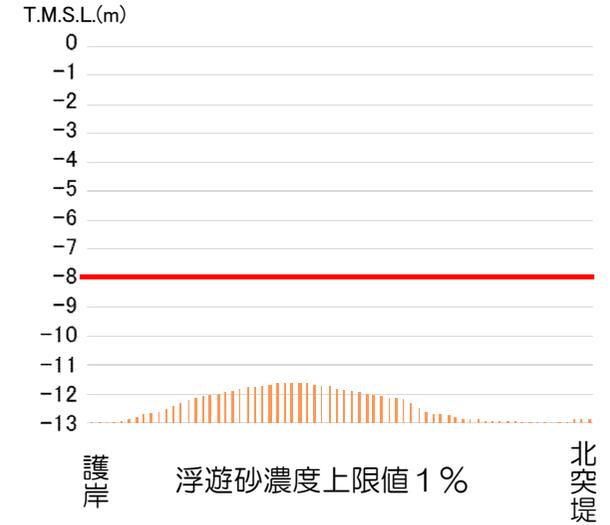
- 港湾内において、堆積厚さが2.0mとなっている箇所での取水への影響を確認した。
- 当該箇所は凹地形（海底面T.P.-13.0m）となっており、浮遊砂濃度上限値1%のケースで堆積厚さ2.0m、3%のケースで5.6mとなっているものの、通水断面は確保されており、取水への影響は少ないことを確認した。



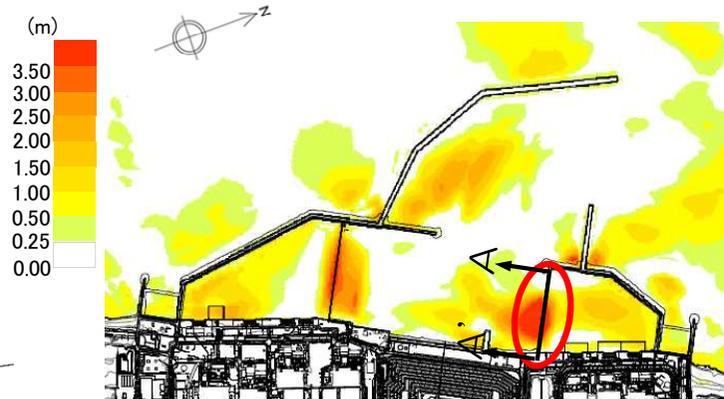
平面図



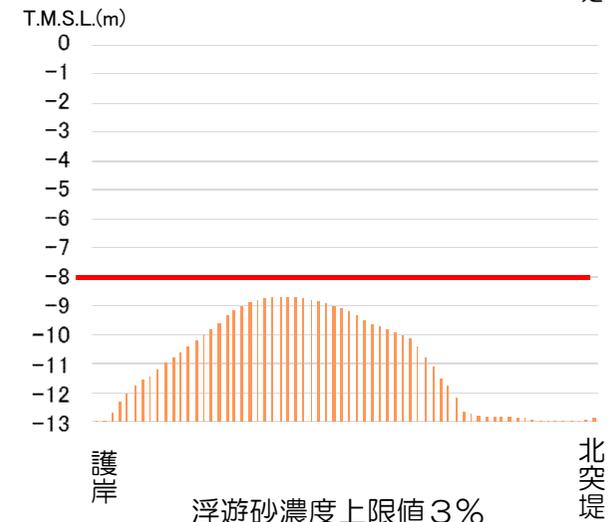
浮遊砂濃度上限値1%



断面図



浮遊砂濃度上限値3%



最大堆積分布図（水位下降側・日本海東縁部）

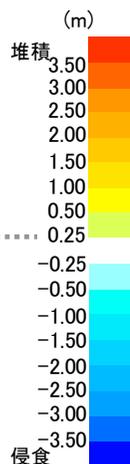
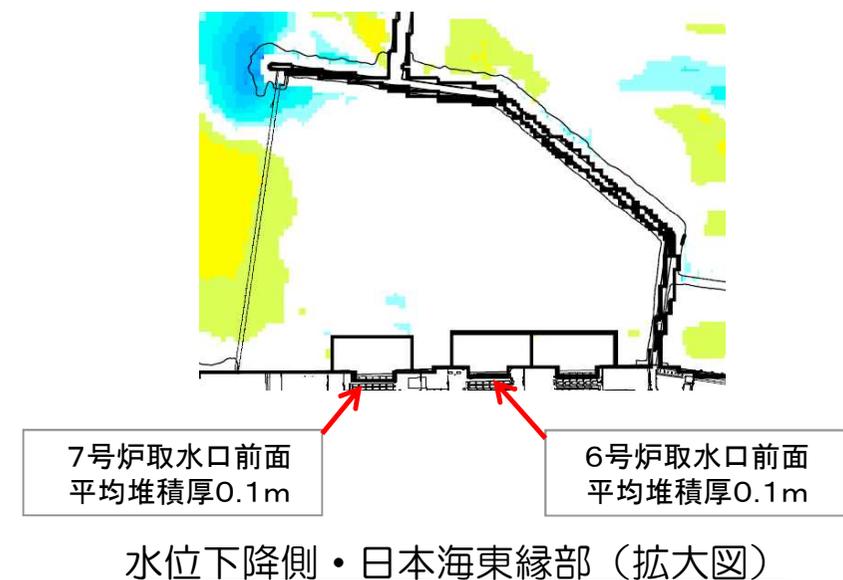
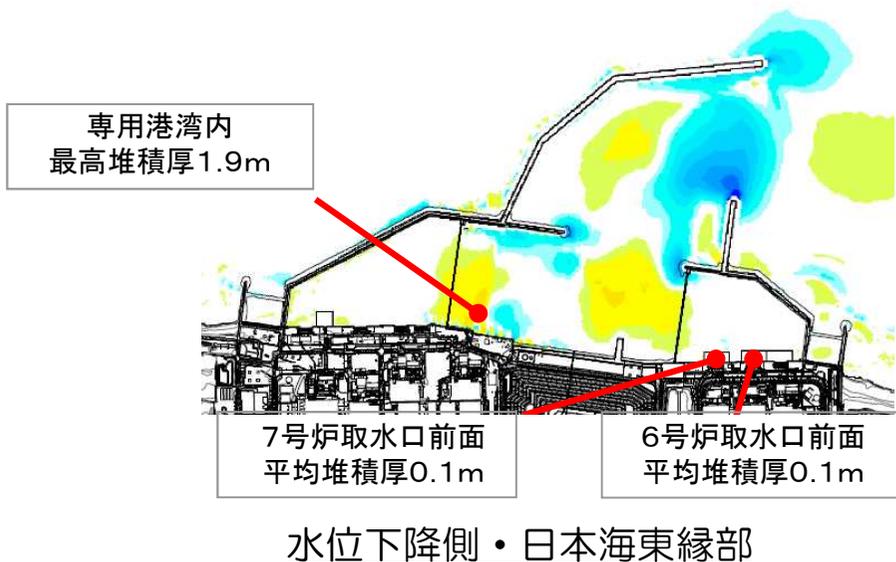
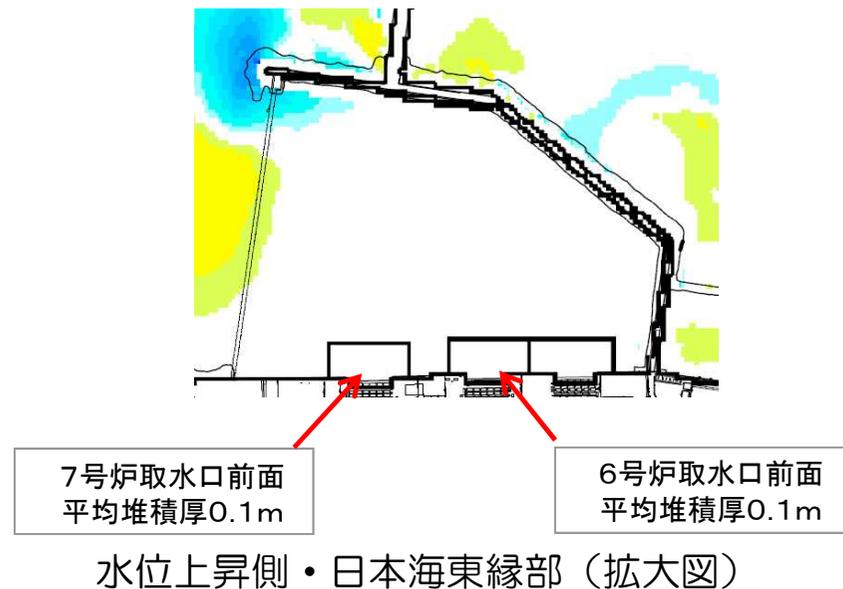
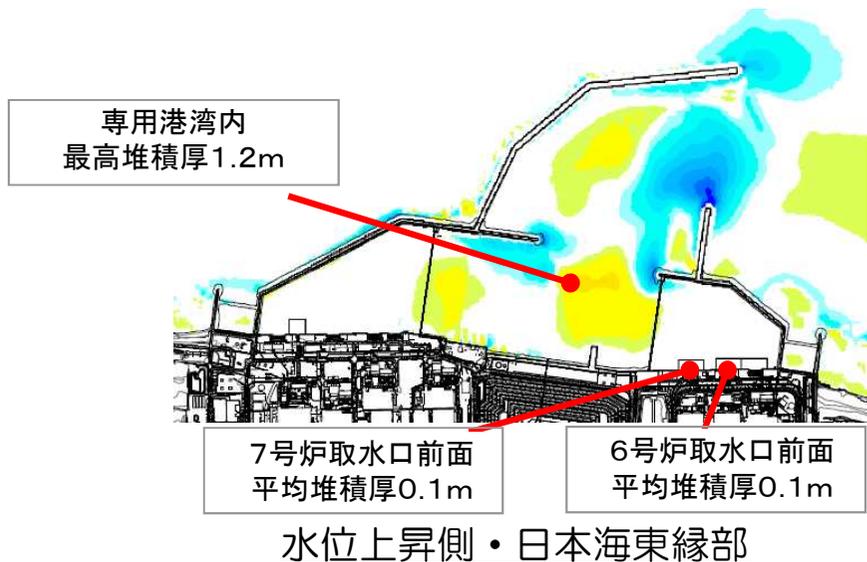
A-A' 断面における堆積量変化

9. 3 堆積侵食分布図（資料集）

9. 3 堆積侵食分布図

■ 藤井ほか（1998）の手法による堆積侵食分布（最終地形）

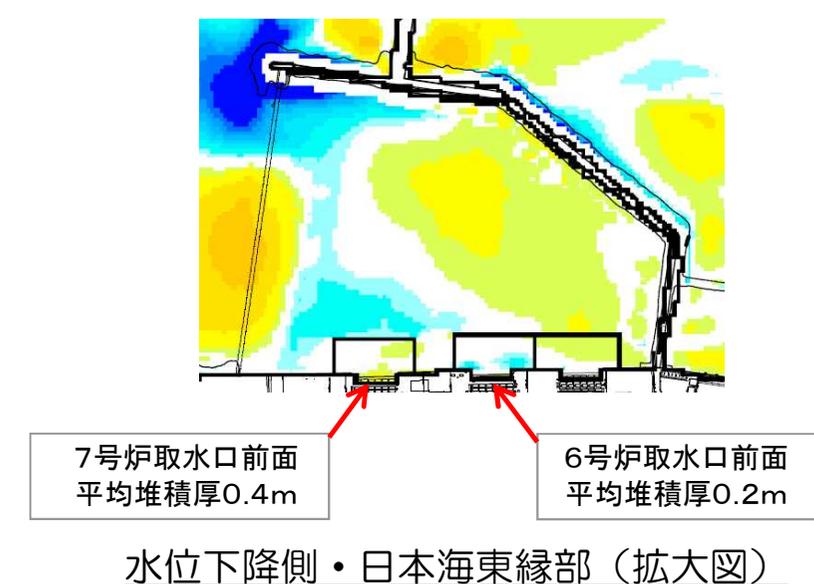
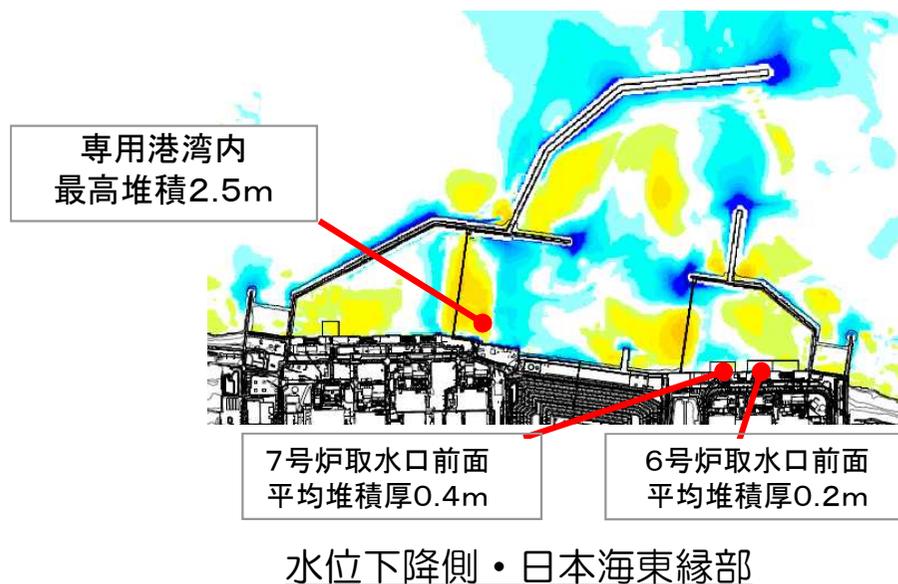
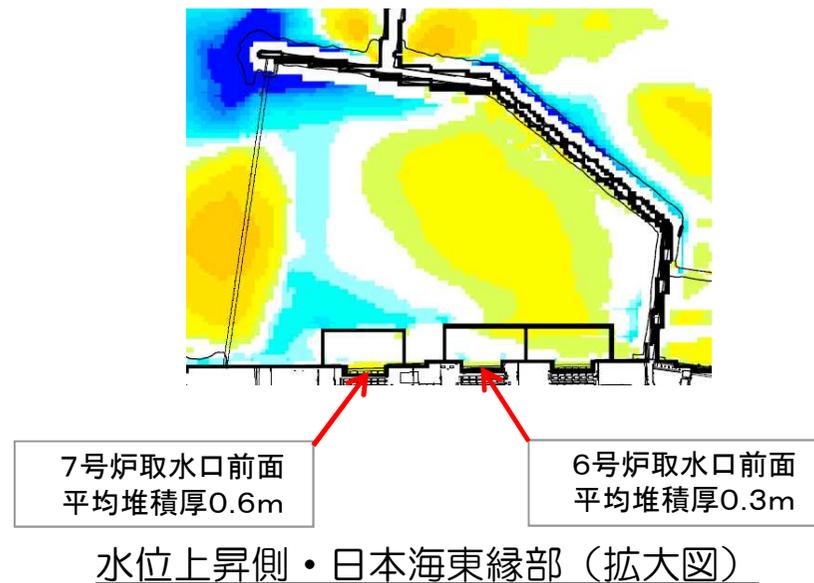
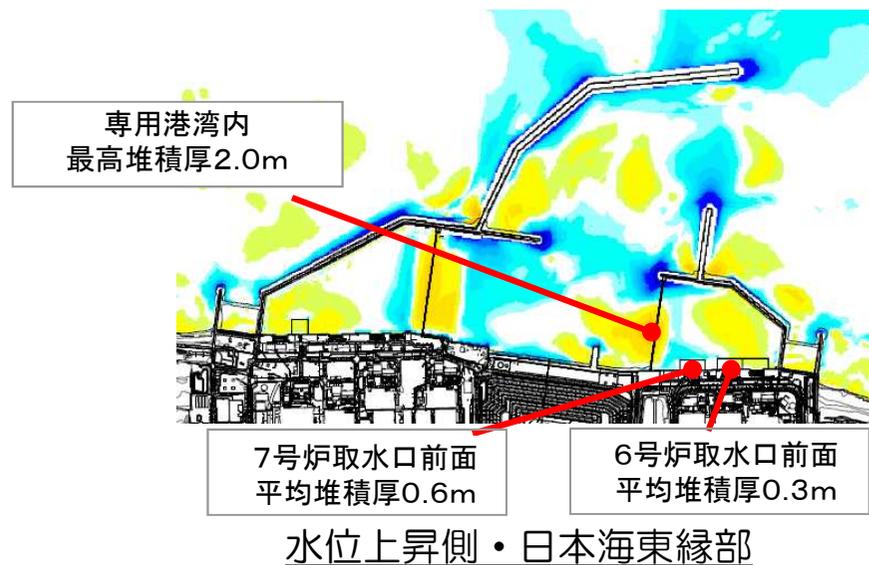
- 6, 7号炉取水口前面の堆積厚さは最大でも約0.1mであり、取水口が閉塞するおそれはないことを確認



9. 3 堆積侵食分布図

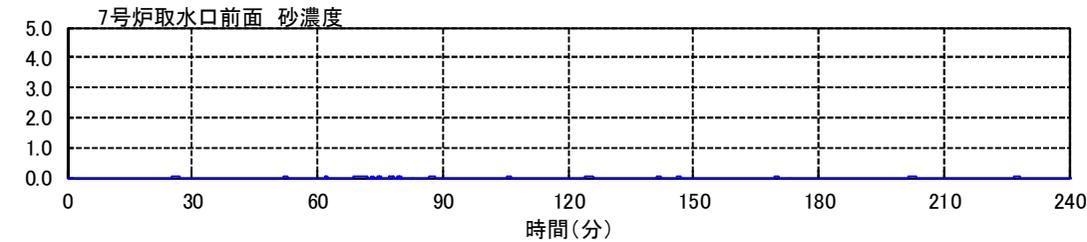
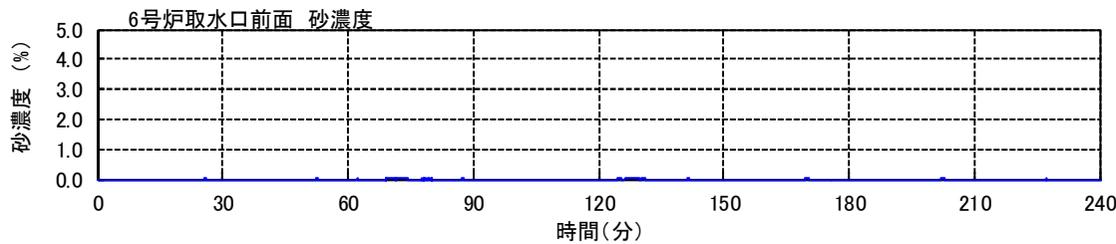
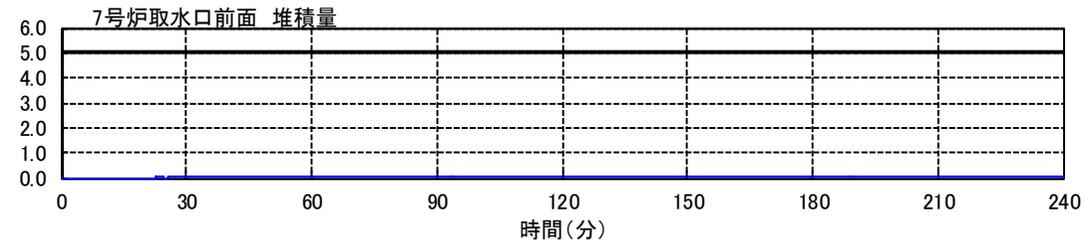
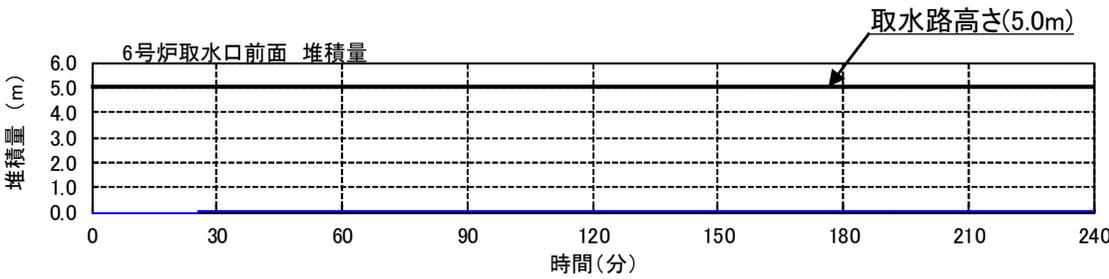
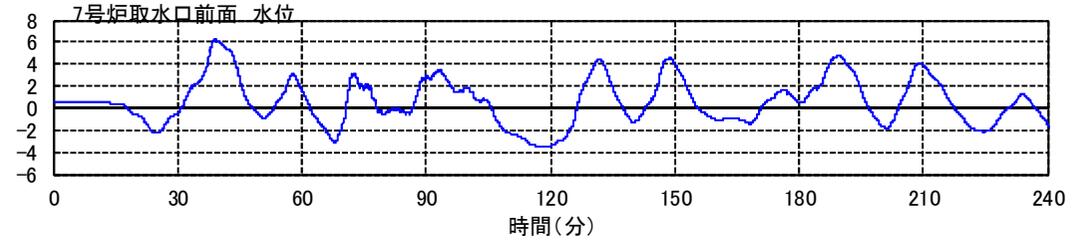
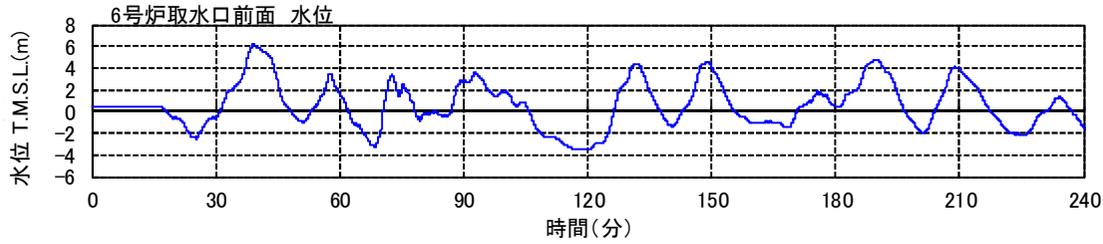
■ 高橋ほか（1999）の手法による堆積侵食分布（最終地形）

- 6, 7号炉取水口前面の堆積厚さは最大でも約0.6mであり、取水口が閉塞するおそれはないことを確認



9. 4 砂移動評価に伴う資料集 (水位, 堆積量, 浮遊砂濃度)

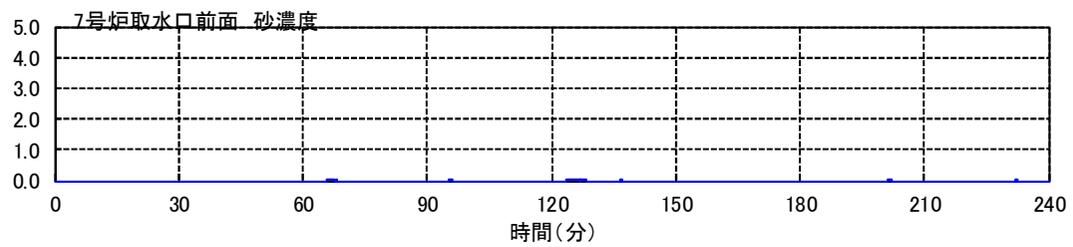
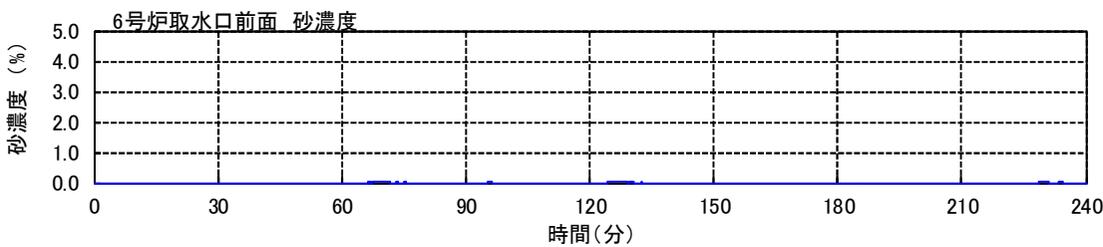
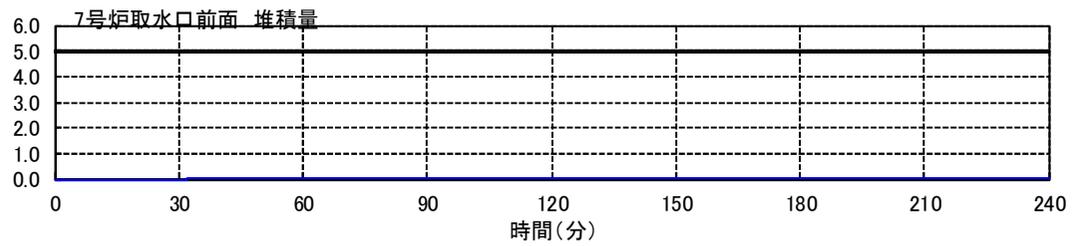
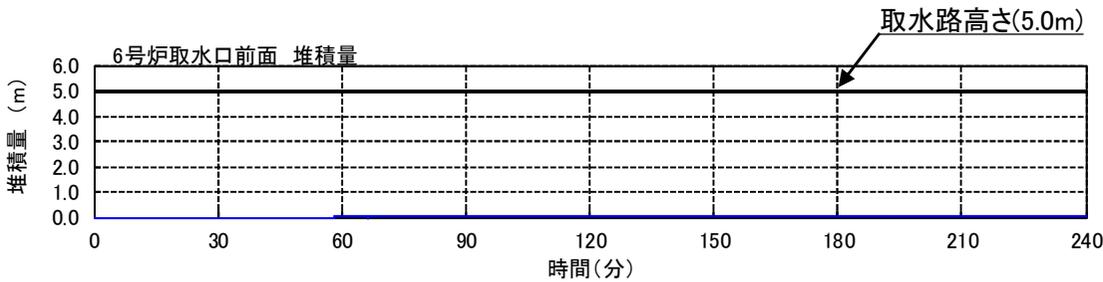
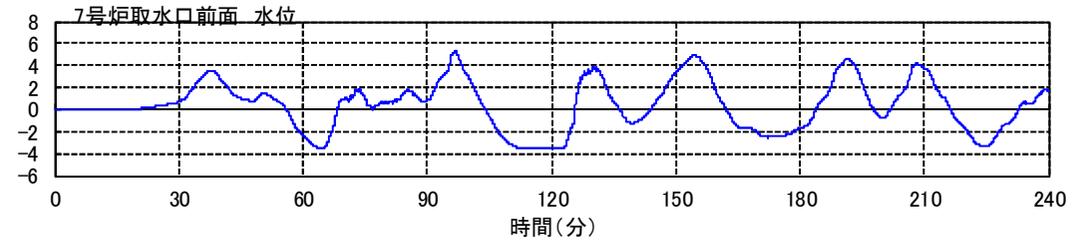
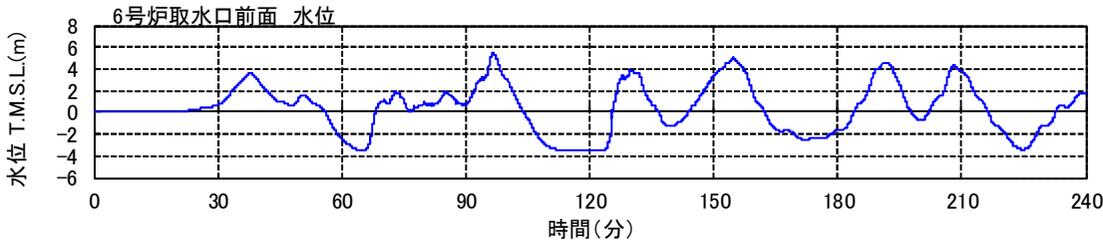
9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）



6号炉 藤井5% 日本海東縁部上昇側
(水位，堆積量，濃度)

7号炉 藤井5% 日本海東縁部上昇側
(水位，堆積量，濃度)

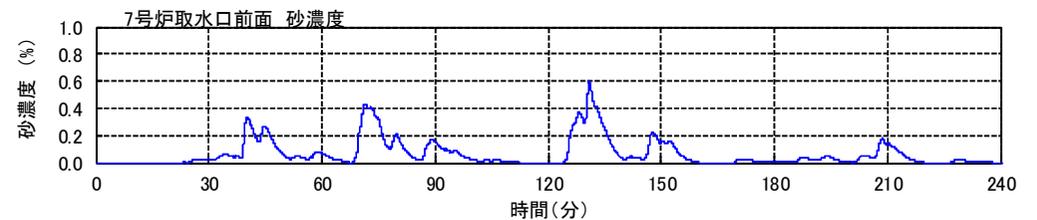
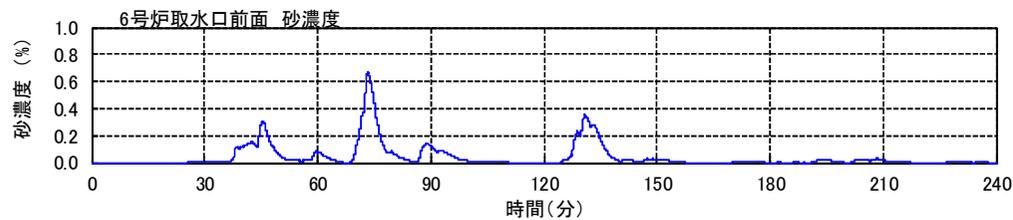
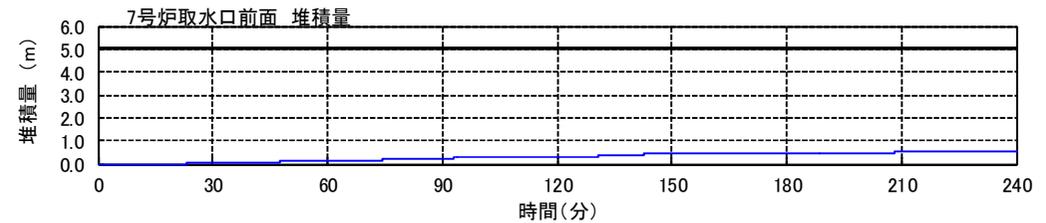
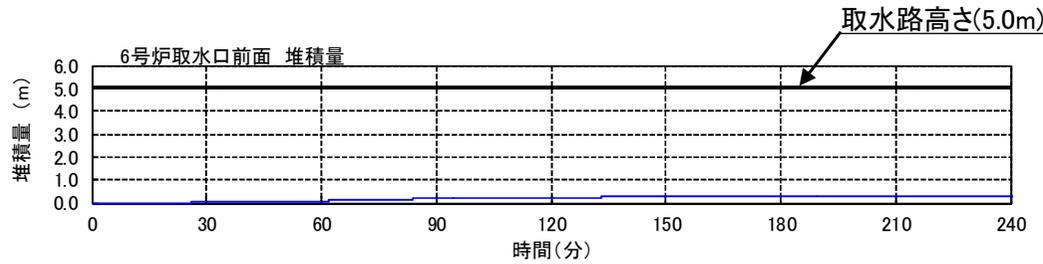
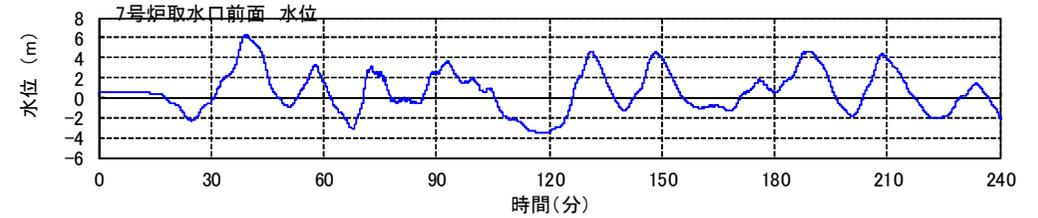
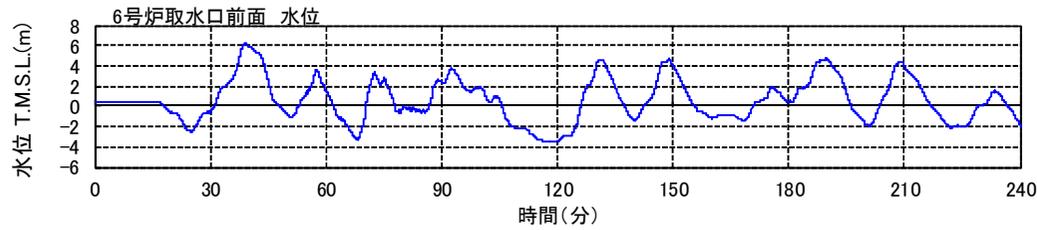
9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）



6号炉 藤井5% 日本海東縁部下降側
(水位, 堆積量, 濃度)

7号炉 藤井5% 日本海東縁部下降側
(水位, 堆積量, 濃度)

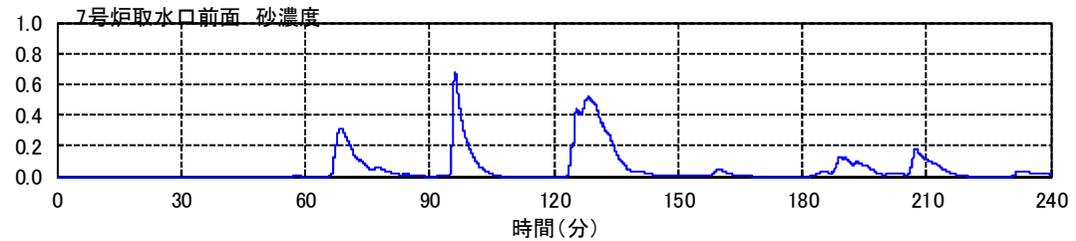
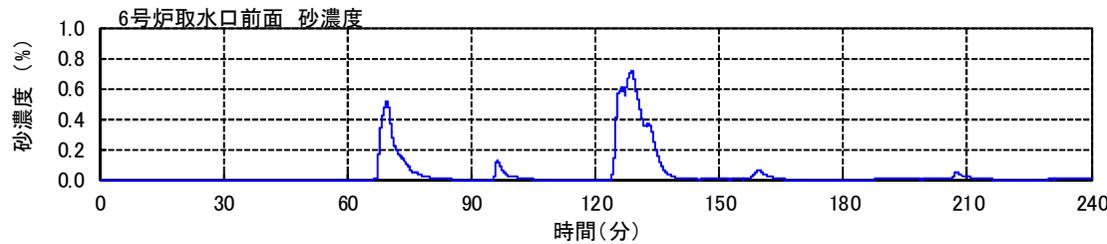
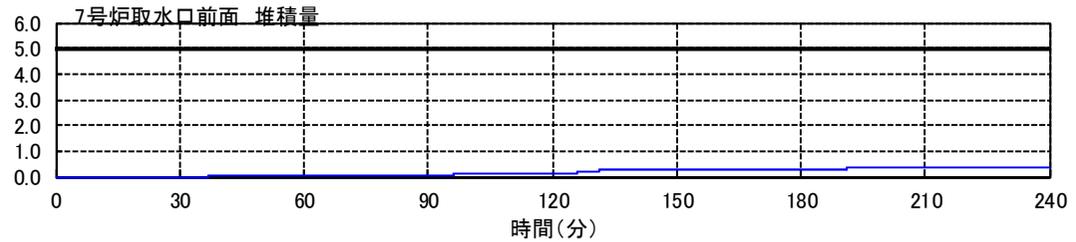
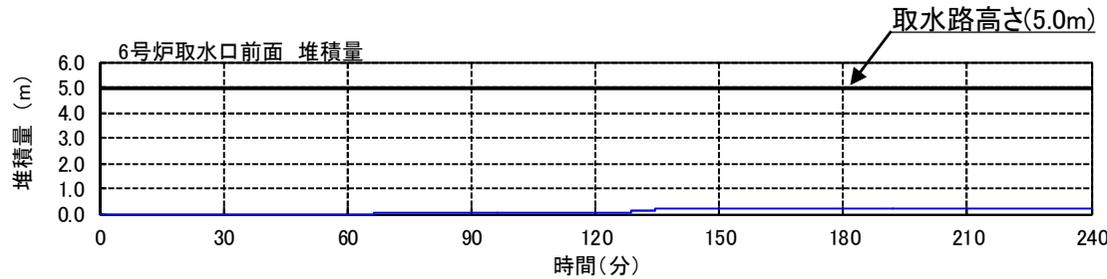
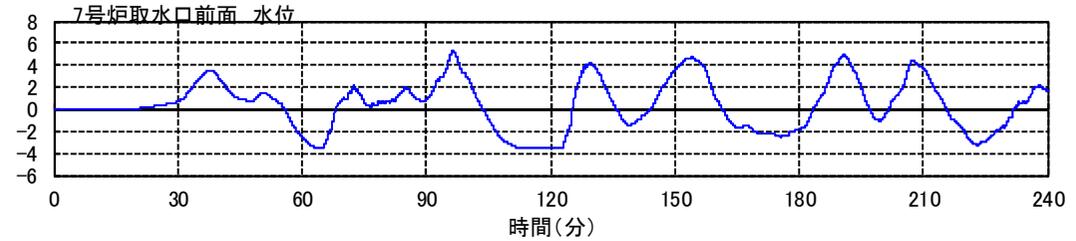
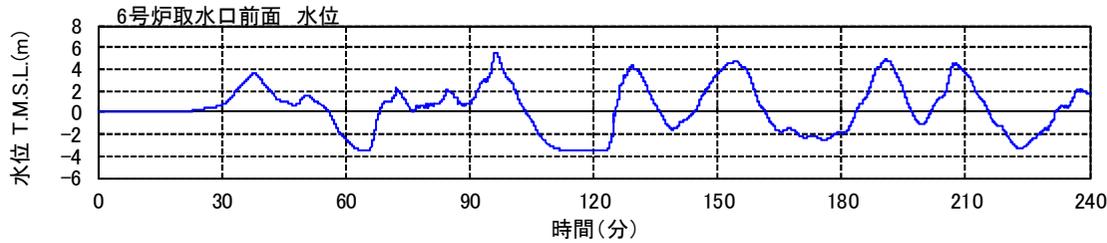
9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）



6号炉 高橋1% 日本海東縁部上昇側
(水位, 堆積量, 濃度)

7号炉 高橋1% 日本海東縁部上昇側
(水位, 堆積量, 濃度)

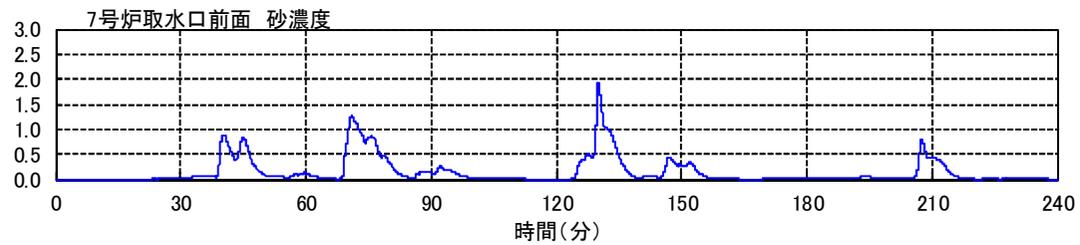
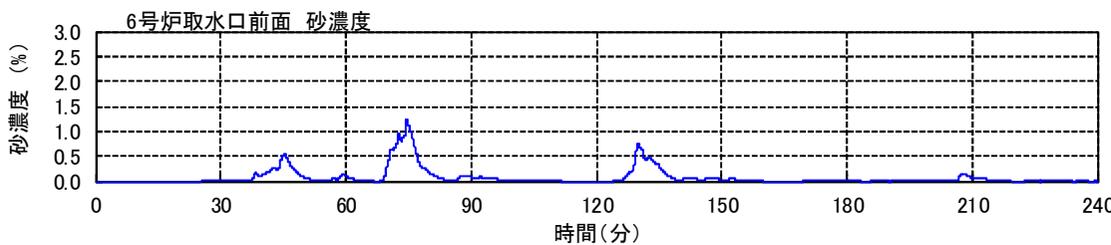
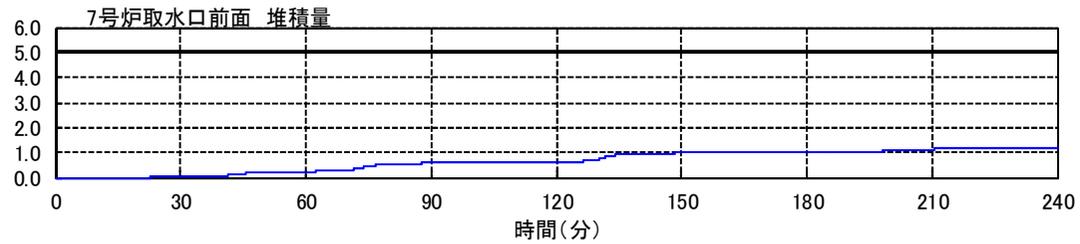
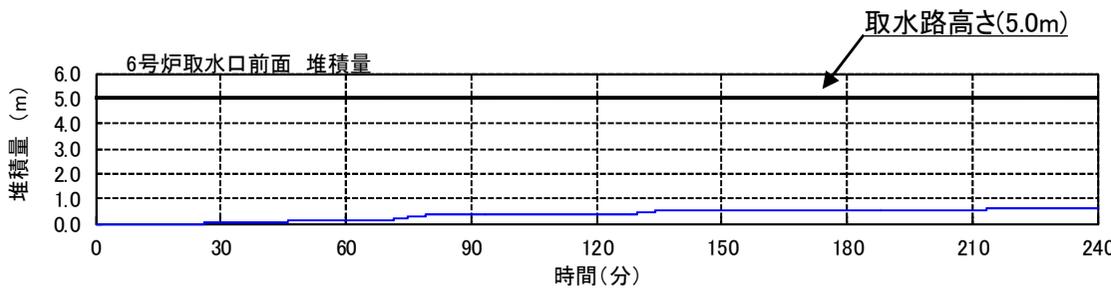
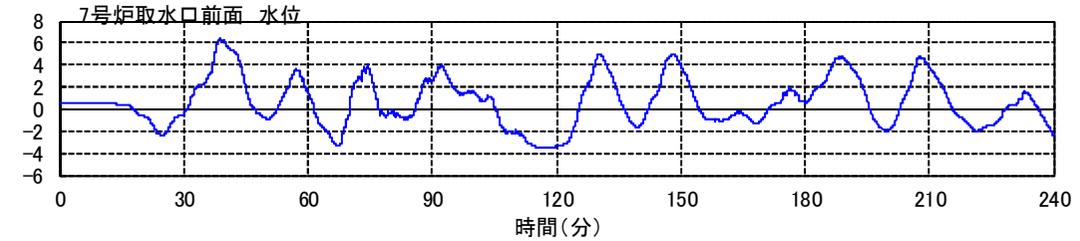
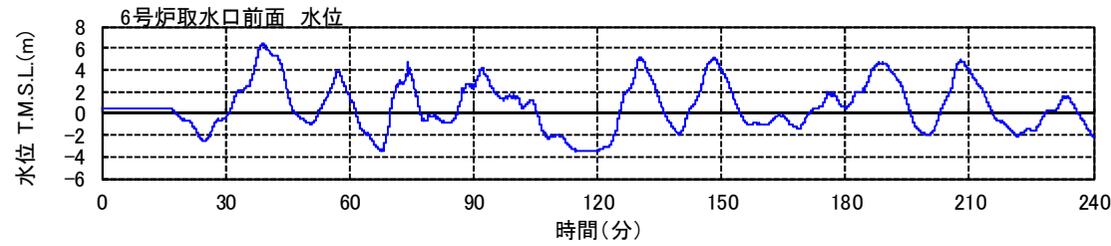
9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）



6号炉 高橋1% 日本海東縁部下降側
(水位, 堆積量, 濃度)

7号炉 高橋1% 日本海東縁部下降側
(水位, 堆積量, 濃度)

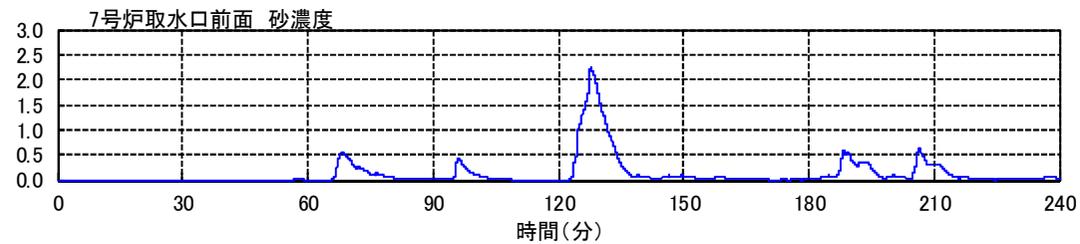
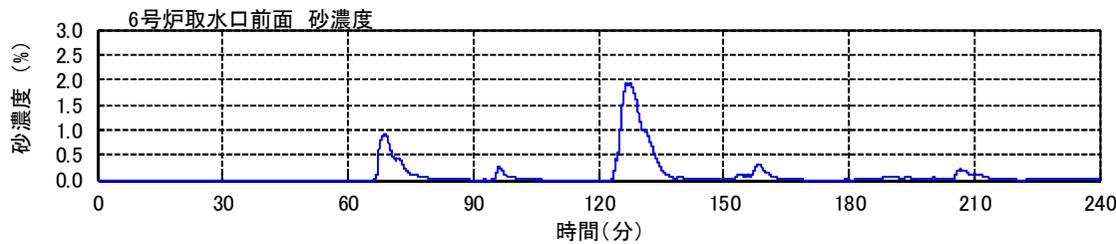
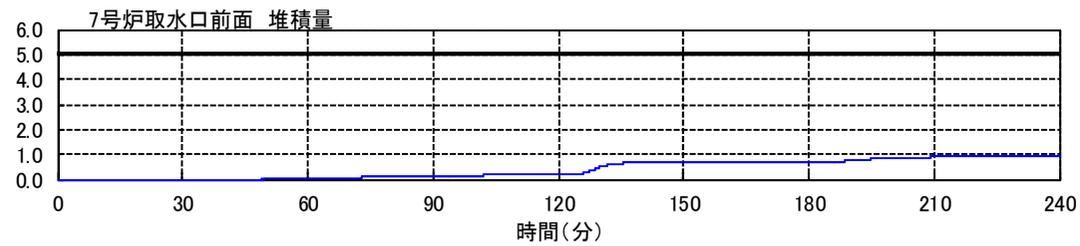
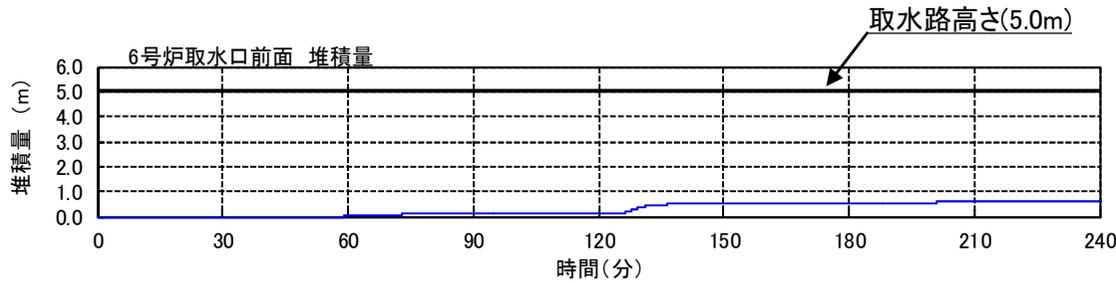
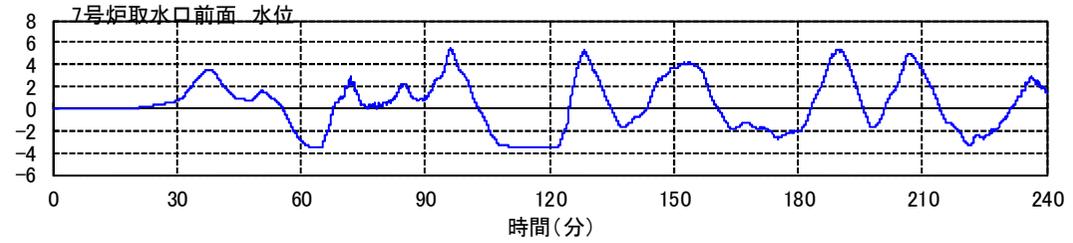
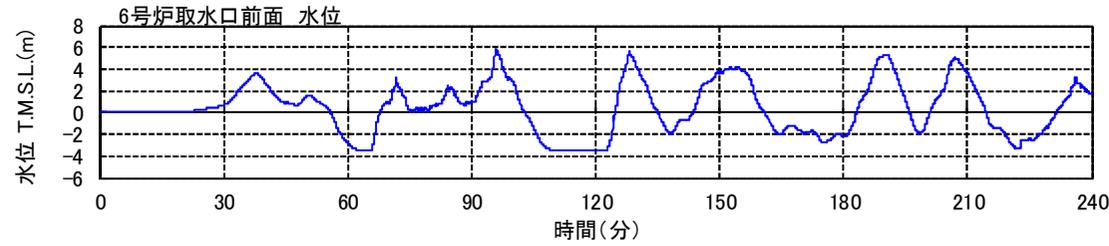
9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）



6号炉 高橋3% 日本海東縁部上昇側
(水位, 堆積量, 濃度)

7号炉 高橋3% 日本海東縁部上昇側
(水位, 堆積量, 濃度)

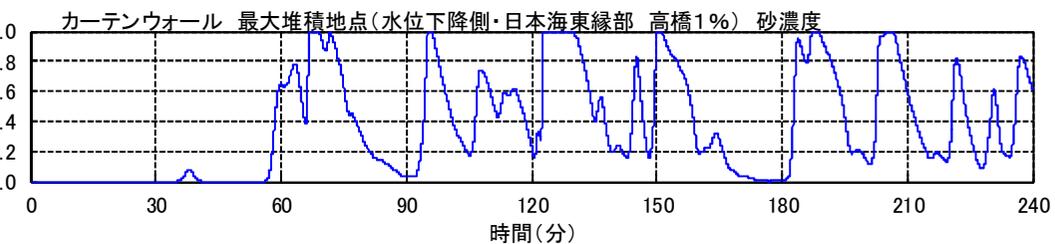
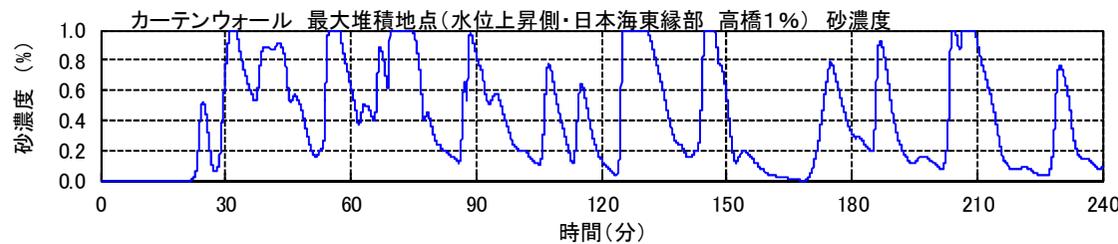
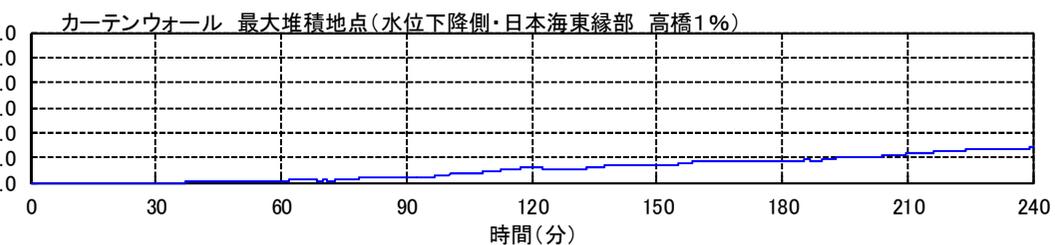
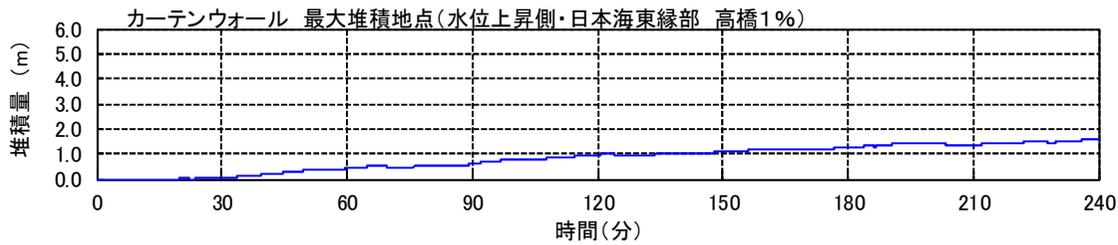
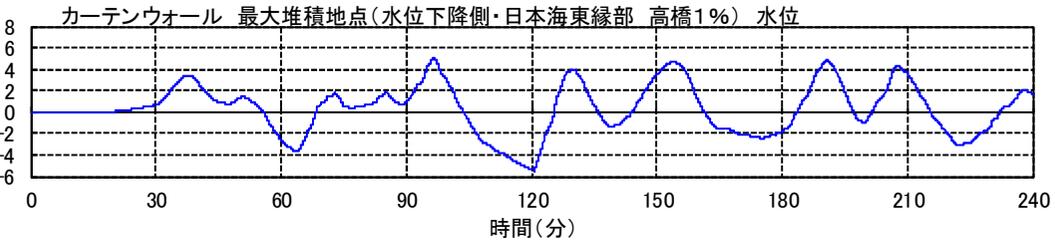
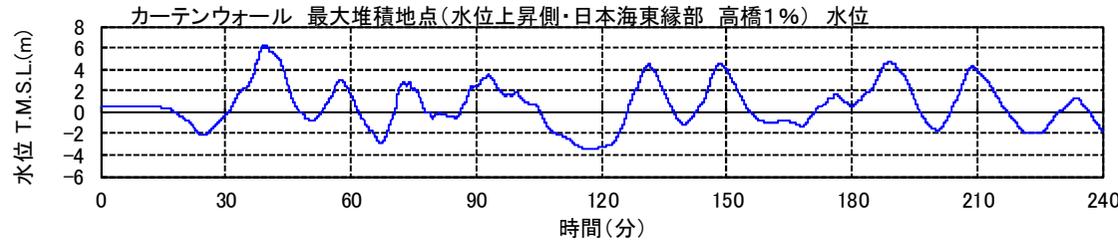
9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）



6号炉 高橋3% 日本海東縁部下降側
（水位，堆積量，濃度）

7号炉 高橋3% 日本海東縁部下降側
（水位，堆積量，濃度）

9. 4 砂移動評価に伴う資料集（水位，堆積量，浮遊砂濃度）



カーテンウォール位置
高橋1% 日本海東縁部上昇側
(水位，堆積量，濃度)

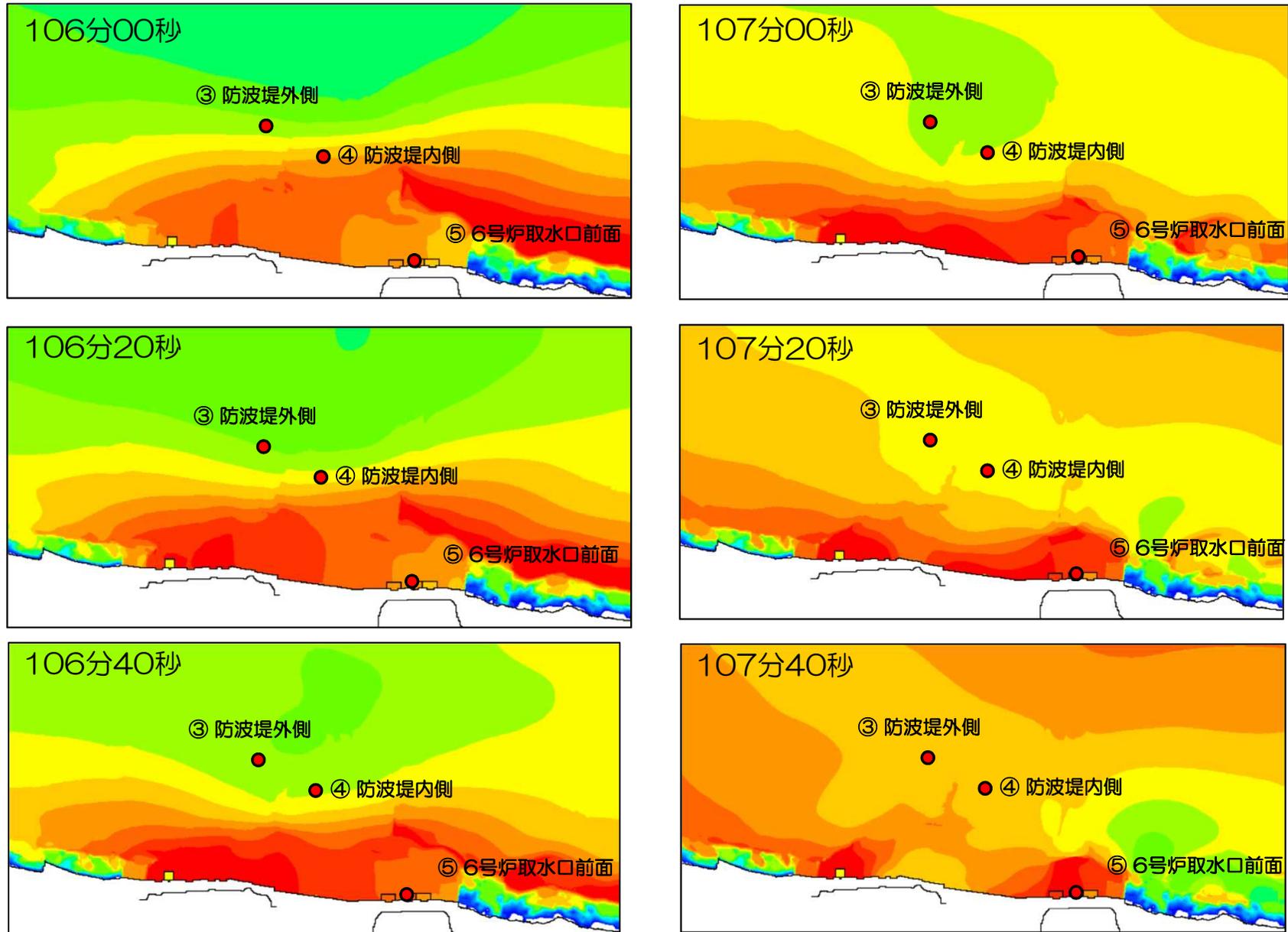
カーテンウォール位置
高橋1% 日本海東縁部下降側
(水位，堆積量，濃度)

9. 5 砂移動評価における最大堆積分布図

10.1 取水路水位変動評価に関する補足

10.1 取水路水位変動評価に関する補足【スナップショット】

● スナップショット (防波堤なし)



11.1 想定D断層について

11.1 想定D断層について

- 日本海東縁部の地震空白域での地震発生について、海岸事業を所管する4省庁共同で調査を実施
(農林水産省, 水産庁, 運輸省, 建設省)
- 平成6年11月に「日本海東縁部地震津波防災施設整備計画調査委員会」を設置
- 平成6, 7年度の2年間にわたり, 青森県津軽沿岸から石川県能登内浦沿岸までを調査



12. 荒浜側防潮堤の損傷を考慮した場合の津波評価

12.1 検討概要

12. 荒浜側防潮堤の損傷を考慮した場合の津波評価

12.2 荒浜側防潮堤の損傷を考慮したことによる 基準津波への影響について

12. 荒浜側防潮堤の損傷を考慮した場合の津波評価

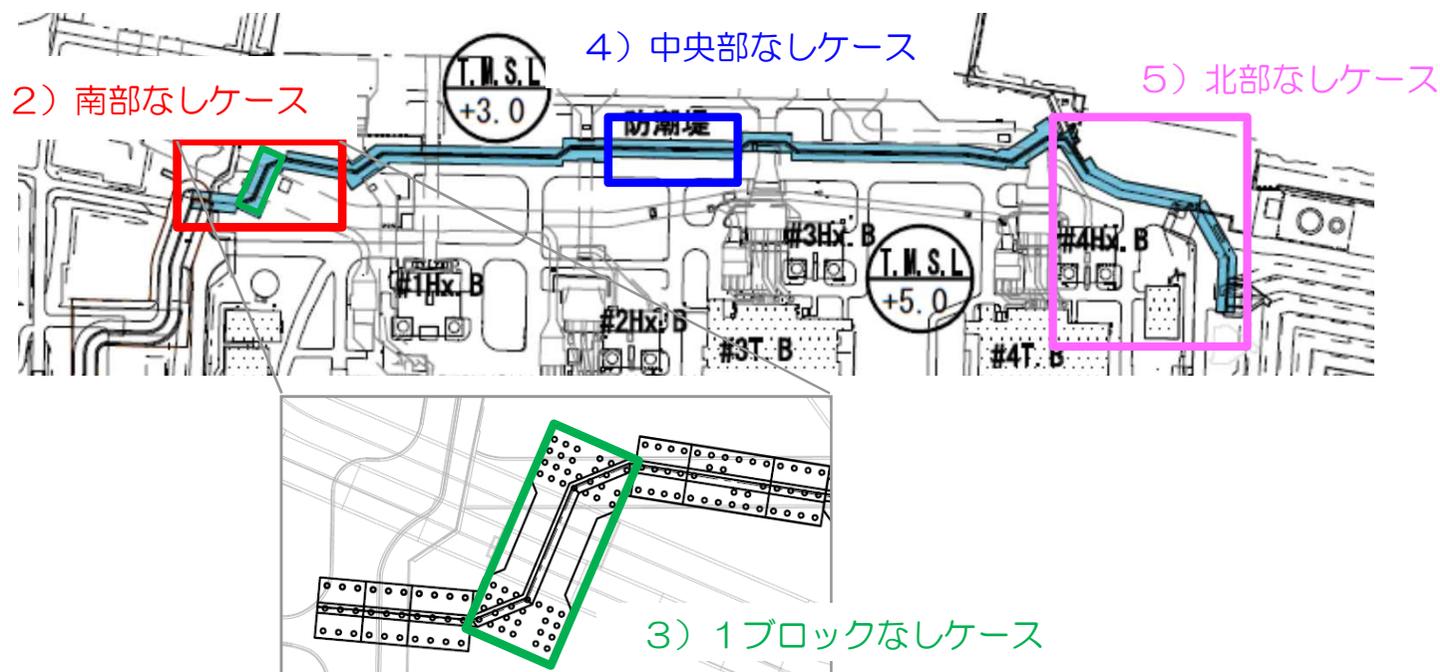
12.2.1 基準津波1

12.2.1 基準津波1

防潮堤損傷状態による荒浜側敷地遡上への影響について

(1) 検討目的及び概要

- 荒浜側防潮堤の損傷が荒浜側敷地への遡上へ与える影響について、複数の損傷状態を設定して検討した。
 - 防潮堤が損傷した場合として、以下の6ケースを設定した。
 - 1) 防潮堤なし
 - 2) 南部なしケース
 - 3) 1ブロックなしケース
 - 4) 中央部なしケース
 - 5) 北部なしケース
 - 6) 南北なしケース
 - 検討には、地震による津波の最大ケースである、日本海東縁部（2領域モデル）および海域の活断層（5断層連動モデル）の波源を用いた。



12.2 荒浜側防潮堤の損傷を考慮したことによる基準津波評価への影響について

12.2.1 基準津波1

防潮堤損傷状態による荒浜側敷地遡上への影響について

(2) 地形モデル

- 防潮堤なしの状態の地形モデルを下図に示す。荒浜側防潮堤内の敷地（T.M.S.L.+5m）については、主要な構造物として、1～4号炉原子炉建屋及びタービン建屋を考慮した。



防潮堤なしの状態の地形モデル

12.2.1 基準津波1

防潮堤損傷状態による荒浜側敷地遡上への影響について

(4) まとめ

- 荒浜側防潮堤の損傷状態を複数設定し、荒浜側敷地への遡上への影響を検討した。
- 検討の結果、「荒浜側防潮堤なし」の状態が荒浜側敷地の遡上への影響が大きく、保守的な評価となることを確認した。
- 以降の検討では、荒浜側防潮堤の損傷状態として「防潮堤なし」の状態を地形モデルに反映して津波評価を実施する。

12.2 荒浜側防潮堤の損傷を考慮したことによる基準津波評価への影響について

12.2.1 基準津波1

検討概要

- 荒浜側防潮堤なし及び評価地点を大湊側港湾内（5～7号炉取水口前面）とした場合に、既往の基準津波1の波源に変更の必要性があるか検討する。

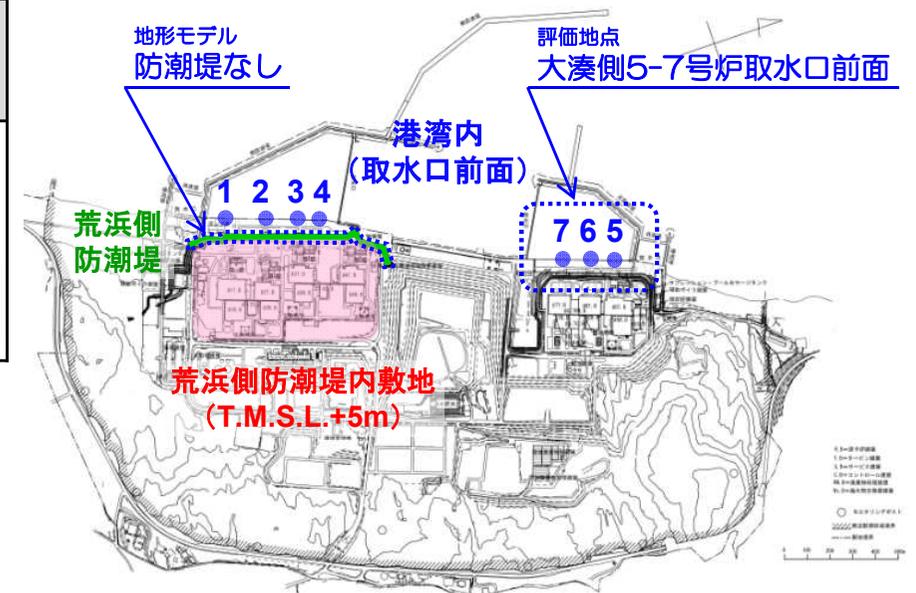
■ 既往の基準津波

変更の必要性を検討

基準津波	評価目的	対象水位	地形モデル	水位評価地点	津波波源	
					地震（断層モデル）	地すべり
基準津波1	施設や敷地への影響を評価	水位上昇側	防潮堤あり（現状地形）	敷地前面の港湾内 1-7号炉取水口前面	日本海東縁部 （2領域モデル）	LS-2

■ 追加の検討項目（青字記載）

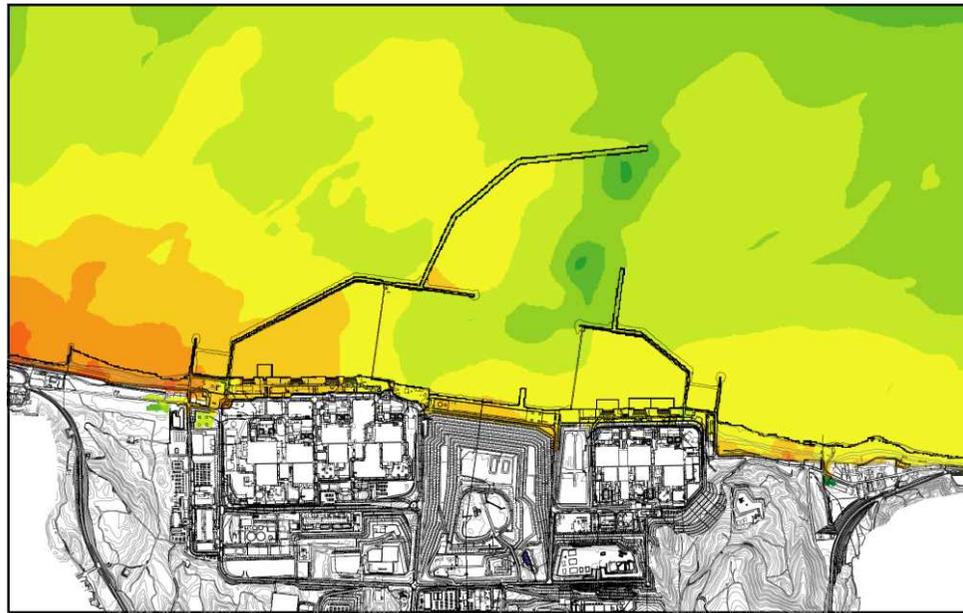
基準津波	評価目的	対象水位	地形モデル	水位評価地点
基準津波1	施設や敷地への影響を評価	水位上昇側	防潮堤なし (荒浜側防潮堤の損傷を考慮)	敷地前面の港湾内 1-7号炉取水口前面 大湊側港湾内 (5-7号炉取水口前面)



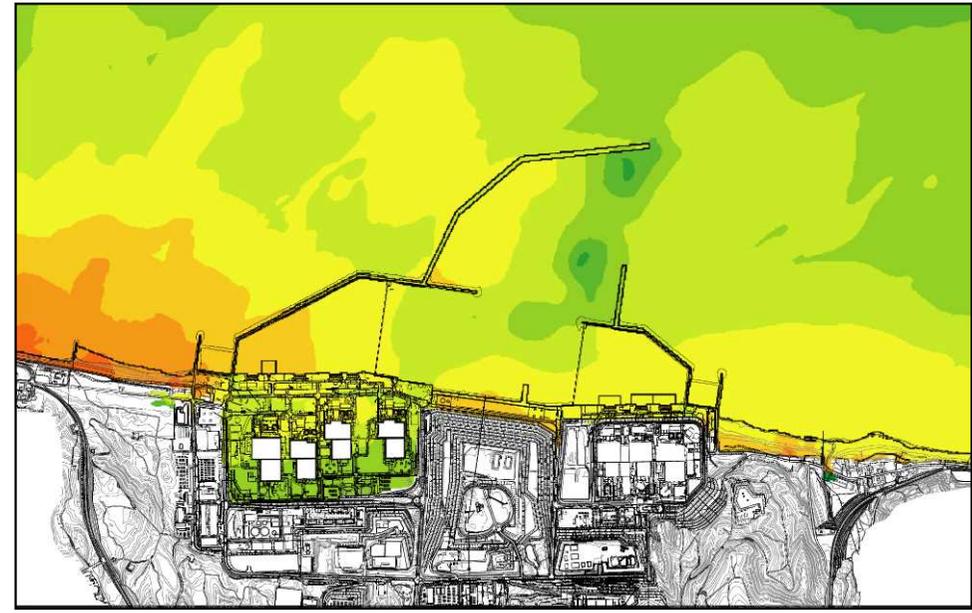
12.2.1 基準津波1

評価結果

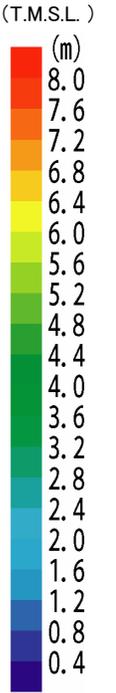
〔最高水位分布：（基準津波1）日本海東縁部（2領域モデル）＋海底地すべり〕



防潮堤ありケース



防潮堤なしケース



12. 荒浜側防潮堤の損傷を考慮した場合の津波評価

12.2.2 基準津波2

12. 荒浜側防潮堤の損傷を考慮した場合の津波評価

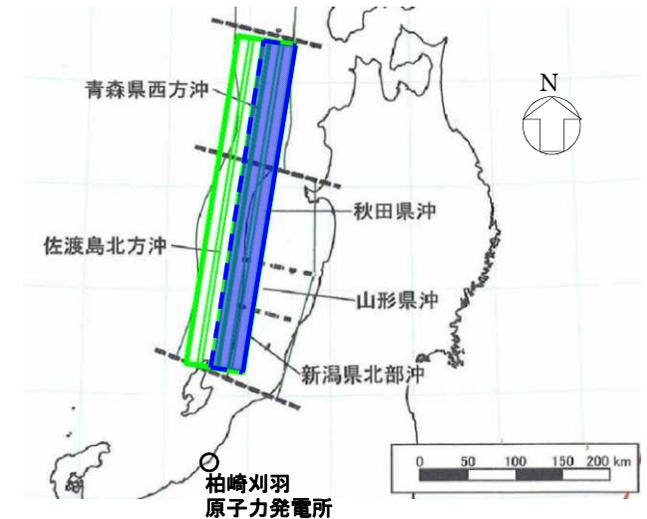
12.2.3 基準津波3

【12.2 補足】基準津波2 概略パラメータスタディ（日本海東縁部）

概略パラメータスタディ結果（日本海東縁部，2領域モデル）

2領域モデル（断層長さ350km）

断層	スケーリング則	断層位置	走向 θ	傾斜角 δ	評価地点	最大水位下降量 (m) ()内は貯留堰を下回る時間	
2領域モデル	土木学会	2 ケース	8° 188°	30°	港湾内	-3.66	
					大湊側港湾内	-3.02 (0秒)	
		4 ケース		2 ケース	60°	港湾内	-4.03
						大湊側港湾内	-3.49 (0秒)
2領域モデル	強震動予測レシピ	2 ケース	8° 188°	30°	港湾内	<u>-5.07</u>	
					大湊側港湾内	<u>-4.63 (430秒)</u>	
		4 ケース		2 ケース	60°	港湾内	-3.59
						大湊側港湾内	-2.99 (0秒)



※港湾内：1～7号炉取水口前面

※大湊側港湾内：5～7号炉貯留堰前面

赤字（下線あり）は，全ケースの最大値

【12.2 補足】基準津波3 概略パラメータスタディ（海域の活断層）

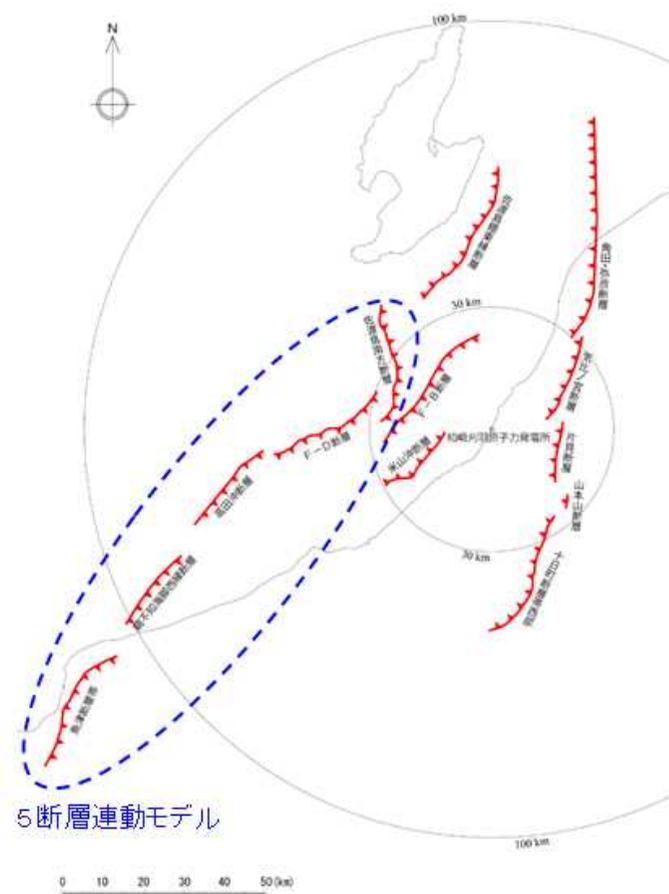
概略パラメータスタディ結果（海域の活断層，連動を考慮したモデル）

連動を考慮したモデル

断層名	波源のモデル化 (スケーリング則)	評価地点	最大水位上昇量(m)
佐渡島南方断層	土木学会 手法	荒浜側 防潮堤内 敷地	<u>+5.19</u>
F-D断層～ 高田沖断層			
親不知海脚西縁断層 ～魚津断層帯			
佐渡島南方断層	強震動 予測 レシピ	荒浜側 防潮堤内 敷地	+5.02
F-D断層～ 高田沖断層			
親不知海脚西縁断層 ～魚津断層帯			
長岡平野西縁断層帯 ～山本山断層 ($\delta = 35^\circ$)	土木学会 手法	荒浜側 防潮堤内 敷地	-
十日町断層帯西部 ($\delta = 35^\circ$)			
長岡平野西縁断層帯 ～山本山断層 ($\delta = 50^\circ$)			
十日町断層帯西部 ($\delta = 50^\circ$)	強震動 予測 レシピ	荒浜側 防潮堤内 敷地	-
長岡平野西縁断層帯 ～山本山断層 ($\delta = 35^\circ$)			
十日町断層帯西部 ($\delta = 35^\circ$)			
長岡平野西縁断層帯 ～山本山断層 ($\delta = 50^\circ$)			
十日町断層帯西部 ($\delta = 50^\circ$)			

※ - : 朔望平均満潮位を考慮しても荒浜側防潮堤内敷地へ遡上しない

赤字（下線あり）は，全ケースの最大値



敷地周辺海域の活断層分布図

12. 荒浜側防潮堤の損傷を考慮した場合の津波評価

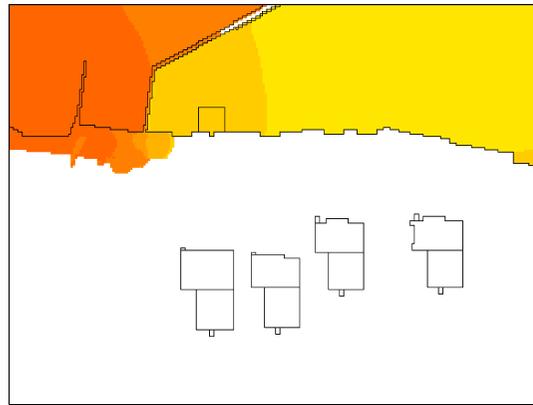
参考資料

(参考1)

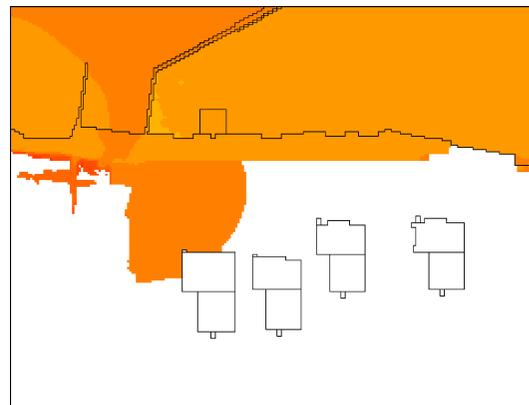
地震時の護岸，敷地沈下及び斜面崩壊を考慮した場合の影響について

(参考1) 地震時の護岸，敷地沈下及び斜面崩壊を考慮した場合の影響について

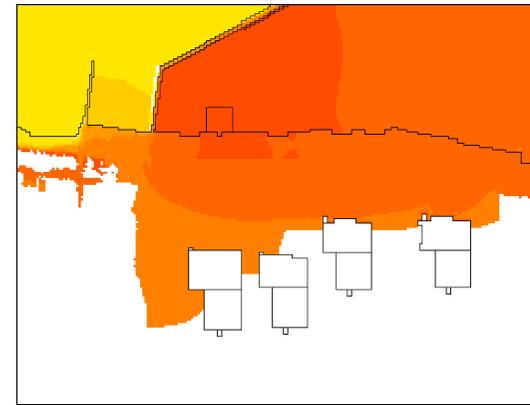
〔最高水位分布（35～50分）：（基準津波3）日本海東縁部（2領域モデル）＋海底地すべり〕
沈下や斜面崩壊を考慮しないケース



35分



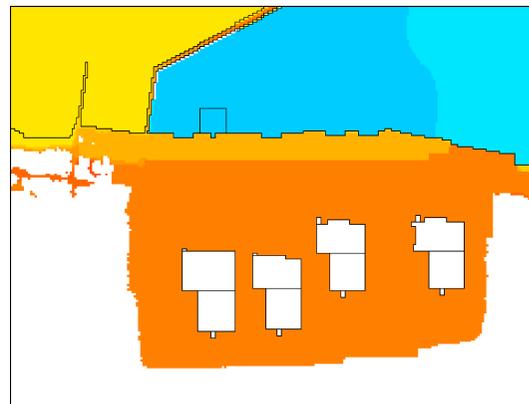
38分



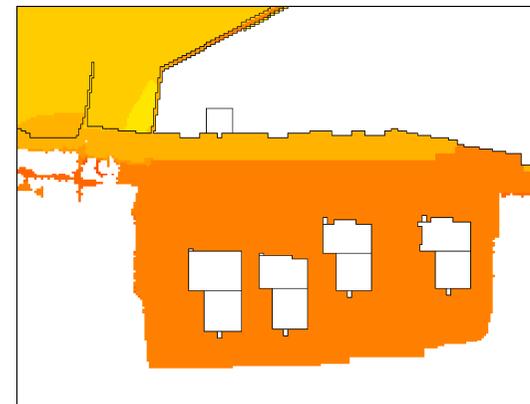
41分



44分



47分



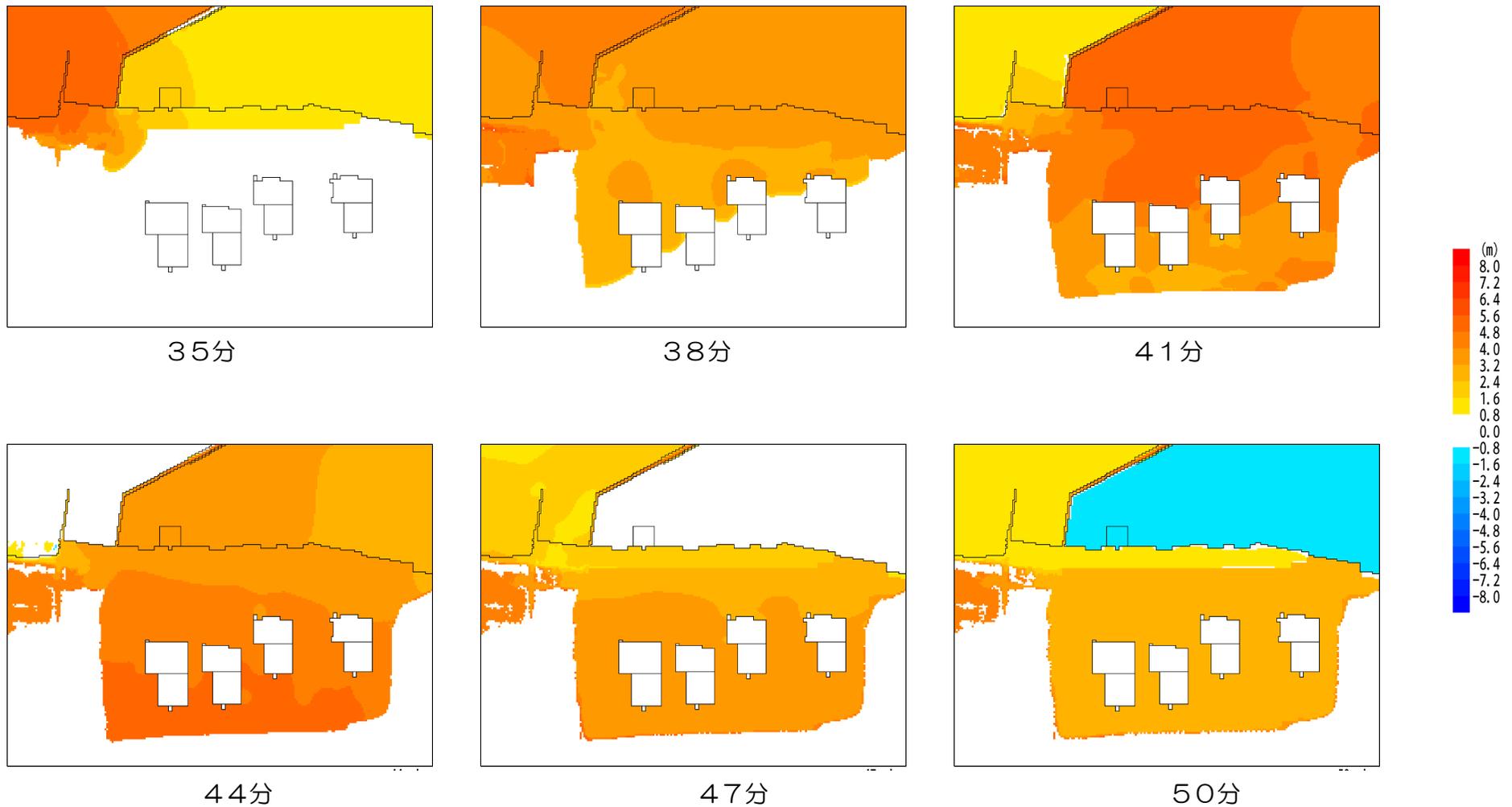
50分



沈下や斜面崩壊を考慮しないケース

(参考1) 地震時の護岸，敷地沈下及び斜面崩壊を考慮した場合の影響について

〔最高水位分布（35～50分）：（基準津波3）日本海東縁部（2領域モデル）＋海底地すべり〕
沈下や斜面崩壊を考慮したケース



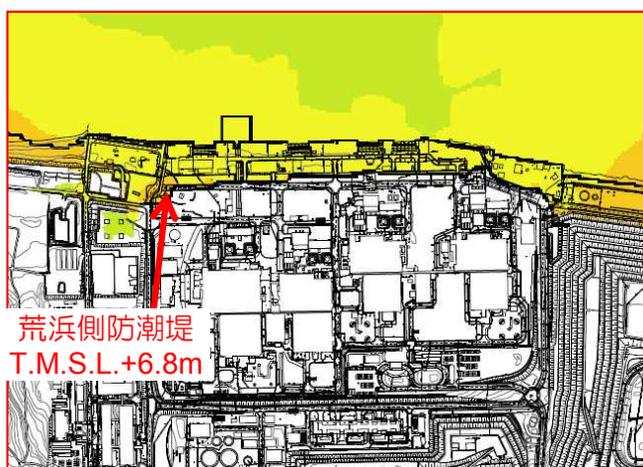
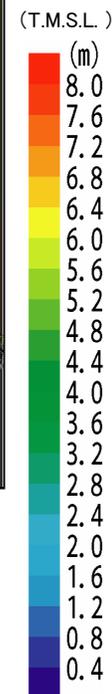
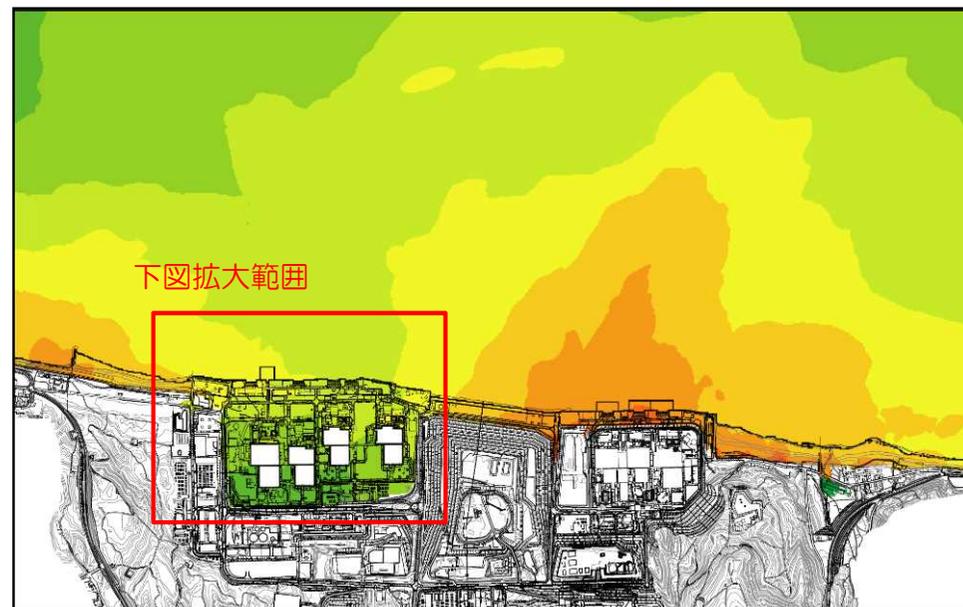
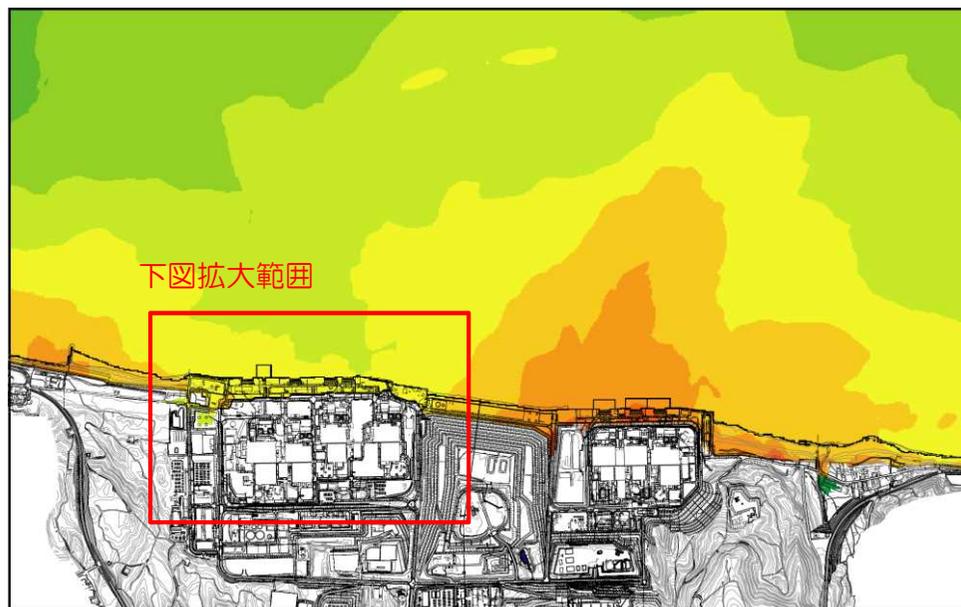
沈下や斜面崩壊を考慮したケース（沈下量2m）

(参考2)

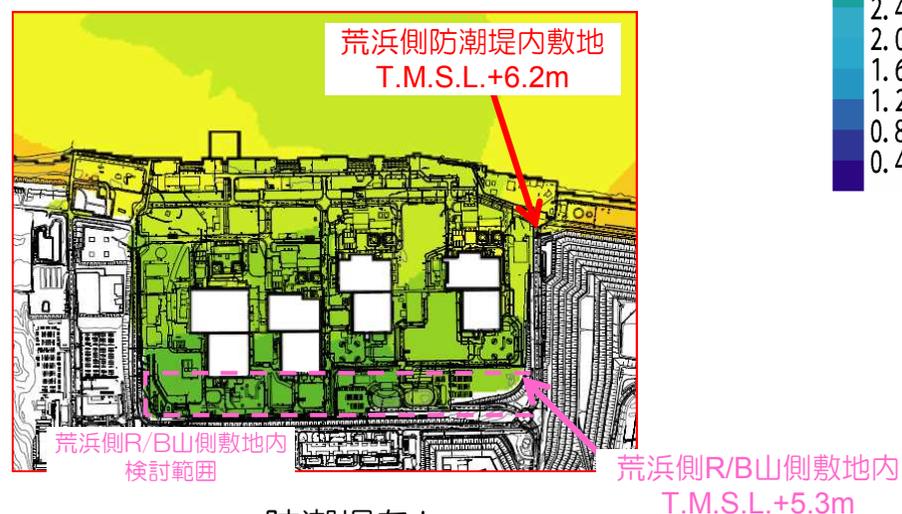
防波堤の損傷を考慮した場合の影響について

(参考2) 防波堤の損傷を考慮した場合の影響について

評価結果〔最高水位分布：日本海東縁部（2領域モデル）＋海底地すべり〕



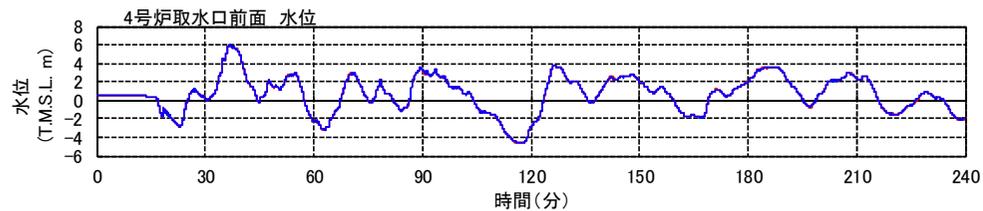
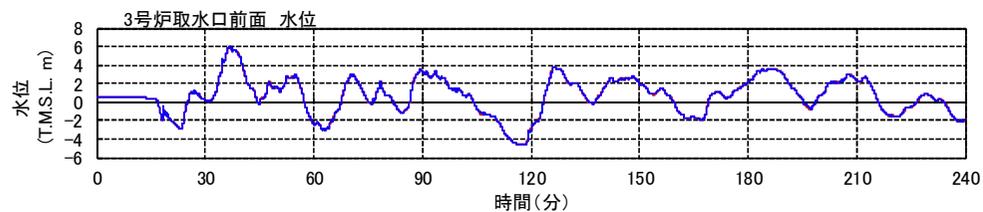
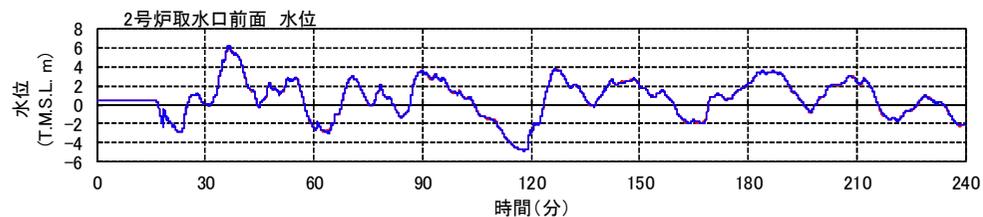
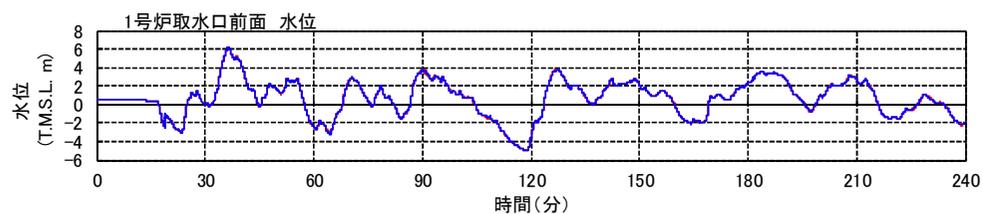
防潮堤あり



防潮堤なし

(参考2) 防波堤の損傷を考慮した場合の影響について

評価結果〔水位時刻歴波形：日本海東縁部（2領域モデル）＋海底地すべり〕



— 防潮堤なし
— 防潮堤あり

